# 全学共通教養科目Ⅰ

（授業科目名五十音順）

| 科目名 | 衣・食・住 Ⅰ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 世界の食文化 | | | |
| 担当者 | 松本　衣代 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
多様な食文化の学習を通じて、異文化の生活習慣を理解し、柔軟に受けとめる姿勢を養うことを目標とする。自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し，多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢

[ 授業概要 ]
【メディア授業】
食文化は基本的な生活文化であり、あまりにも身近で日常的であるがために、自らの食習慣や食に対する捉え方が当然のことであり普遍的なものであると思いこみがちである。この授業では、具体的な事例を通して異なる食文化の諸相を学びながら、自らの食文化を改めて内省し、比較対照によって自文化を相対化することを試みる。また、食文化の変容や受容の事例を通して、食文化が、実際には固定的なものでも不変のものでもないということ、生活文化としての食文化とは何かを学ぶ。授業はオムニバス形式とし、各分野の専門家を特別学外講師として招いて実施する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎回の授業の予習や復習や日頃から，世界の食部関するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習合わせて4時間程度

[ 授業計画 ]
Ⅰ. アジア太平洋地域の食文化
①東アジアの食文化――
1. 日本の米食・肉食・魚食文化　(特別学外講師)
2. 韓国の食文化　(特別学外講師)
②東南アジアの食文化――フィリピン・ラオスを中心に
1. フィリピンの食文化　(特別学外講師)
2. ラオスの食文化　(特別学外講師)
3. ブータンの食文化　(特別学外講師)
③太平洋地域の食文化――ニューギニア島，ミクロネシア地域の食文化:
1. 根菜を主とする食文化
2. ニューギニア島の食文化
Ⅱ. アフリカの食文化:
1. アフリカの食の特質　(特別学外講師)
2. 雑穀、バナナ、キャッサバ～作物の起源と伝播～　(特別学外講師)
3. アフリカ狩猟採集民の食　(特別学外講師)
Ⅲ. 欧米の食文化:
1. アメリカの食文化(特別学外講師)
2. 欧州の食文化(特別学外講師)
Ⅳ. まとめ
1. 世界から見た日本食

| 科目名 | 衣・食・住 Ⅰ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 世界の食文化 | | | |
| 担当者 | 松本　衣代 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート(70%), 授業中の課題(30%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートは後日添削後, 返却します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
パワーポイントとDVDを使用します。

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 衣・食・住 Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 21世紀の暮らしを考える | | | |
| 担当者 | 砂本　文彦、十一　玲子、中西　正恵、梶木　典子、大森　正子、来海　素存、田中　陽子、ガンガ　伸子、大淵　裕美 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
衣・住・マネジメント等の生活科学分野について学び、21世紀の生活のあり方ーサスティナブルで質の高い生活を考える上で基本的な事項を説明できる。

[ 授業概要 ]
この授業は、家政学科教員がオムニバス形式で実施するもので、地球環境問題や防災・減災、少子超高齢社会の中で、質の高い生活を実現していかねばならない21世紀のくらしのあり方を科学的に考え、実践できる知識を学ぶものである。くらしを衣・住・マネジメント等の生活科学分野から多方面に科学的に見ることによって、くらしの科学のおもしろさを認識することになろう。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各授業において4時間程度の自習を行うこと。

[ 授業計画 ]
＊順番は変更することがあります
1　授業のガイダンス、住まいと上履き（砂本）
2　生活者に求められる力（田中）
3　生活者を育てる家庭科（田中）
4　神戸の住文化(古代～近代)（来海）
5　都市居住の将来展望（来海）
6　私たちのくらしと住空間の演出（梶木）
7　メディアにみる現代の家族（大淵）
8　アパレルの生産工程―その選択と購入方法―（十一）
9　ユニバーサルデザインとユーザビリティ評価（大森）
10　布の成り立ちとデザイン（中西）
11　食料消費の変化と特徴（ガンガ）
12　韓国の生活文化と住空間（砂本）
13　地域における子どもの遊び環境（梶木）

| 科目名 | 衣・食・住 Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 21世紀の暮らしを考える | | | |
| 担当者 | 砂本　文彦、十一　玲子、中西　正恵、梶木　典子、大森　正子、来海　素存、田中　陽子、ガンガ　伸子、大淵　裕美 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
マナバ上でフィードバックを行う

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:レポート

[ 教科書(ISBN) ]
なし （該当しない）

[ 参考書(ISBN) ]
授業時に指示する。（該当しない）

| 科目名 | イタリア語Ⅰ（速習） | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子、C. チコーニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | 会話練習 |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語の基本的なしくみを理解し、読む、書く、聞く、話すための基礎的な能力を身につけることを目指す。

[ 授業概要 ]
ローマ字になじんでいる私たち日本人にとって、イタリア語は決して難解な言葉ではありません。この授業では、日常のコミュニケーションで使う簡単な会話を楽しむために、必要な文法を理解し、実践していきます。単語や文は、繰り返し声に出して覚えるようにしてください。週1回は日本人講師担当の文法の授業、もう1回はイタリア人講師が担当する会話や応用です。両方の授業で合格しなければ単位が取得できませんので、注意してください。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
文法の授業では動詞の活用など暗記する事項があるので毎回しっかり復習しておくこと。会話・応用の授業に際しては、日頃からイタリア文化について関心を持っておくことが望ましい。各回の授業について予習復習合わせて2時間程度とする。

[ 授業計画 ]
1. つづりと発音の関係。あいさつ。
2. より幅広いあいさつ表現。
3. 名詞。不定冠詞。名詞の複数形。
4. さまざまな名詞と冠詞。
5. 形容詞その1。
6. 形容詞その2。
7. 形容詞とともに使う動詞essere。「私は日本人だ。」などの文。
8. 形容詞やessereなどを使ったさまざまな表現と会話。
9. 「これは何？」とその答え。「～がある。」の文。前置詞。所有形容詞。
10. これまでの復習。応用会話。
11. 動詞の導入。規則動詞第１型動詞。「神戸に住んでいる。」などの文。
12. おもに第1型動詞を使った文の応用。会話。
13. 第2型動詞「～を注文する。」第3型動詞「眠る。」「理解する。」など。
14. 3種類の動詞を使いこなす。
15. これまでの復習とまとめ。
16. 動詞を使った文のさらに幅広い表現その1。
17. 動詞、形容詞、各種の副詞を含めた総合練習。
18. 動詞を使った文のさらに幅広い表現その2。
19. 基本的な不規則動詞。
20. 不規則動詞を使った文の応用。会話その1。
21. 時を表す単語のまとめ。
22. 不規則動詞を使った文の応用。会話その2。
23. 規則動詞、不規則動詞を交えた総合練習。
24. 規則動詞、不規則動詞を交えた応用会話。
25. これまでの復習とまとめその1。
26. これまでの復習とまとめその2。

| 科目名 | イタリア語Ⅰ（速習） | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子、C. チコーニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
週2回の授業の平均点がこの授業の評価の対象となります。
小テスト40%、授業中課題60%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『イタリア語文法徹底マスター』 著者名：堂浦律子　出版社：（駿河台出版社）2010年 （978-4-411-01744-4）

[ 参考書（ISBN） ]
なし　出版社：なし
（なし
）

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 吉冨　文 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語を読む、書く、聞く、話すための基礎的な能力を身につけることを目指す。

[ 授業概要 ]
いつかイタリアに行ってみたい。そう思っている人は多いのではないでしょうか。歴史、文学、建築、アート、音楽、映画、ファッション、料理……。どの側面から見てもイタリアは興味深い国です。そしてイタリアで話されているイタリア語は、音の響きが美しく、日本人にとって発音しやすい言語と言われています。そんなイタリア語を、いつか、近い将来に旅行するときのために勉強してみませんか？
授業では、イタリアへ行ったときに、あるいはイタリア人と知り合ったときに、簡単なコミュニケーションが取れるように、基本的な文法事項を学習し、得た文法知識を応用させて会話へと発展させていきます。
英語が苦手な人も大丈夫です。みんなゼロからのスタートです。
授業ではイタリアの文化についても紹介していきます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度です。
授業で学習した内容をふり返り、本当に理解できているか確認しましょう。
教科書に出てきた単語や表現の意味や使い方をノートにまとめ、暗記しましょう。
授業で指示された練習問題に取り組みましょう。

[ 授業計画 ]
1. イタリアについて
2. イタリア語の挨拶とアルファベート
3. カフェで注文する(名詞と冠詞)
4. 居場所や出身地を言う(文の語順、動詞essere)1
5. 居場所や出身地を言う(文の語順、動詞essere)2
6. 食べ物の味を言う(形容詞1)
7. 身に付けている物の色を説明する(形容詞2)
8. 自分の持ち物や年齢を言う(動詞avere、0～20の数)
9. 何を買うか言う・住んでいる所、働いている所を言う(-are動詞規則活用)1
10. 何を買うか言う・住んでいる所、働いている所を言う(-are動詞規則活用)2
11. 行き先を言う・今夜の予定について話す・職業を言う(-are動詞不規則活用)1
12. 行き先を言う・今夜の予定について話す・職業を言う(-are動詞不規則活用)2
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 吉冨　文 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（60%）、受講態度（40%）で評価します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
答案を回収後、解答の解説を行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：試験、授業態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：試験、授業態度

[ 教科書（ISBN） ]
Italiano Italiano　イタリア語はじめの一歩　著者名：マッテオ・カスターニャ、吉冨　文著　出版社：朝日出版社
（9784255553146）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語を話す、聞く、読む、書くための基礎的な能力を身につけることを目指す。
イタリアとその文化(芸術、食べ物、音楽など)をよりよく知るようになる。

[ 授業概要 ]
お店に入る時、出る時、このタイミングで挨拶するかしないかでイタリアで得られるものは変わります。
イタリアではカフェなどでも「ボンジョルノ！」の一言で店員さんは気持ちよく対応してくれます。さらにもう一言話せるとさらに楽しいコミュニケーションが広がることでしょう。ファッションや美しい街並み、美味しい食事だけではなく、人とも関わり、より深くイタリアを知って頂きたいと考えています。
授業前半は会話練習や文法を学び、後半ではファッションや音楽情報など、イタリア人がその時々で注目していること、それにまつわる歴史や土壌などからイタリア文化をより深く理解することを目指します。
文法も会話もイタリア旅行などで実際に活かせるシチュエーションが思い浮かべられたり、イタリアに興味が湧くからこそ、より学びもはかどると考えています。
言葉はコミュニケーションツールであり、使ってこその道具だということを大事にしている授業です。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. イタリアとイタリア語について
2. イタリア語の発音
3. 自己紹介1と挨拶
4. カフェでの簡単な注文の仕方
5. イタリアと日本を比べる
6. 食べ物の味や服の色を言う
7. 好みを伝える
8. 自分の気分を伝える
9. イタリアの季節とイタリアの習慣について
10. カフェでの会話
11. 自己紹介2住んでいる場所、働いている場所
12. 暇な時の話、趣味の話
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度（40%）、小テスト（20%）、授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
プリント配布

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語を話す、聞く、読む、書くための基礎的な能力を身につけることを目指す。
イタリアとその文化(芸術、食べ物、音楽など)をよりよく知るようになる。

[ 授業概要 ]
お店に入る時、出る時、このタイミングで挨拶するかしないかでイタリアで得られるものは変わります。
イタリアではカフェなどでも「ボンジョルノ！」の一言で店員さんは気持ちよく対応してくれます。さらにもう一言話せるとさらに楽しいコミュニケーションが広がることでしょう。ファッションや美しい街並み、美味しい食事だけではなく、人とも関わり、より深くイタリアを知って頂きたいと考えています。
授業前半は会話練習や文法を学び、後半ではファッションや音楽情報など、イタリア人がその時々で注目していること、それにまつわる歴史や土壌などからイタリア文化をより深く理解することを目指します。
文法も会話もイタリア旅行などで実際に活かせるシチュエーションが思い浮かべられたり、イタリアに興味が湧くからこそ、より学びもはかどると考えています。
言葉はコミュニケーションツールであり、使ってこその道具だということを大事にしている授業です。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. イタリアとイタリア語について
2. イタリア語の発音
3. 自己紹介1と挨拶
4. カフェでの簡単な注文の仕方
5. イタリアと日本を比べる
6. 食べ物の味や服の色を言う
7. 好みを伝える
8. 自分の気分を伝える
9. イタリアの季節とイタリアの習慣について
10. カフェでの会話
11. 自己紹介2住んでいる場所、働いている場所
12. 暇な時の話、趣味の話
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度（40%）、小テスト（20%）、授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
プリント配布

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語を話す、聞く、読む、書くための基礎的な能力を身につけることを目指す。
イタリアとその文化(芸術、食べ物、音楽など)をよりよく知るようになる。

[ 授業概要 ]
お店に入る時、出る時、このタイミングで挨拶するかしないかでイタリアで得られるものは変わります。
イタリアではカフェなどでも「ボンジョルノ！」の一言で店員さんは気持ちよく対応してくれます。さらにもう一言話せるとさらに楽しいコミュニケーションが広がることでしょう。ファッションや美しい街並み、美味しい食事だけではなく、人とも関わり、より深くイタリアを知って頂きたいと考えています。
授業前半は会話練習や文法を学び、後半ではファッションや音楽情報など、イタリア人がその時々で注目していること、それにまつわる歴史や土壌などからイタリア文化をより深く理解することを目指します。
文法も会話もイタリア旅行などで実際に活かせるシチュエーションが思い浮かべられたり、イタリアに興味が湧くからこそ、より学びもはかどると考えています。
言葉はコミュニケーションツールであり、使ってこその道具だということを大事にしている授業です。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. イタリアとイタリア語について
2. イタリア語の発音
3. 自己紹介1と挨拶
4. カフェでの簡単な注文の仕方
5. イタリアと日本を比べる
6. 食べ物の味や服の色を言う
7. 好みを伝える
8. 自分の気分を伝える
9. イタリアの季節とイタリアの習慣について
10. カフェでの会話
11. 自己紹介2住んでいる場所、働いている場所
12. 暇な時の話、趣味の話
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度（40%）、小テスト（20%）、授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
プリント配布

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語を読む、書く、聞く、話すための基礎的な能力を身につけることを目指す。

[ 授業概要 ]
ローマ字になじんでいる私たち日本人にとって、イタリア語は決して難解な言葉ではありません。この授業では、簡単な文を使ってコミュニケーションをするために必要な、初歩的な文法を学びます。スムーズなコミュニケーションをめざすには、その基礎作りとして一見退屈な暗記や反復の作業も必要ですが、いったん覚えてしまえば幅広く応用できます。単語や動詞変化、基礎的な文は、繰り返し声に出して覚えるようにしてください。旅行で使える会話表現も学んでいきます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
前の授業の内容を理解しておくこと。とくに動詞の活用は完全に覚えておくことが必要なので、授業中での暗記を補うためにしっかり復習すること。各回の授業について予習復習合わせて2時間程度とする。

[ 授業計画 ]
1. つづりと発音の関係。あいさつ。
2. 名詞に男女があること。不定冠詞。
3. 名詞の複数形。「～をください」を使った表現。
4. 形容詞。
5. 形容詞とともに使う動詞essere。
6. 「私は日本人です。」「彼はイタリア人だ。」などの文。
7. 「これは何？」とその答え。「～がある。」の文。
8. 前置詞。これまでの復習とまとめ。
9. 所有形容詞「私の、君の」など。親族の名詞の規則。
10. 規則動詞 第1型。「神戸に住んでいる。」
11. 第1型動詞のバリエーション。疑問文や否定文。
12. 第2型動詞と第3型動詞。
13. これまでの復習とまとめ。

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト40%、授業中課題60%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『イタリア語文法徹底マスター』2010年　著者名:堂浦律子　出版社:駿河台出版社 (978-4-411-01744-4 )

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －1 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | C. チコーニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語を読む、書く、聞く、話すための基礎的な能力を身につけることを目指す。

[ 授業概要 ]
イタリア語の音に耳を慣らし、日常的に良く使うやさしい会話表現を習得する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度

[ 授業計画 ]
1. コースの説明、簡単な自己紹介
2. Ciao! Come ti chiami?(動詞の現在形、不定冠詞、定冠詞の復習)
3. Di che colore e`? (形容詞)
4. Che ore sono?(時間の言い方)
5. Cosa fai di solito?(動詞の現在形、前置詞)
6. Questa e` la mia borsa(所有形容詞、代名詞)
7. Abito vicino alla stazione(前置詞＋定冠詞)
8. Quando vai in Italia?(不規則動詞の現在形)
9. Devo studiare tanto!(助動詞 volere potere dovere)
10. In albergo (ホテルの予約など)
11. Mi alzo sempre alle 8(再帰動詞)
12. Scusi, dov'e`...?(街で迷子になったら)
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －1 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | C. チコーニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
受講態度に加え、簡単なテスト。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
プリント配布。
毎週宿題あり。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
プリント配布

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －2 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | C. チコーニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
よく使われる文や表現が理解でき、現地での買い物など簡単なやり取りができるレベルを目指す。

[ 授業概要 ]
取り上げる文法項目を、会話モデルを通じてどのような場面で使うか理解し、その後グループで練習します。
積極的な参加が求められます。授業中飲食、仮眠、携帯電話使用禁止。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度

[ 授業計画 ]
1. コースの説明、簡単な自己紹介
2. Ciao! Come stai? (リスニング)
3. Io sono giapponese (essere動詞の現在形、不定冠詞、定冠詞の復習)
4. La famiglia(所有形容詞、代名詞)
5. La posta(不規則動詞の現在形、前置詞)
6. Al telefono(疑問詞)
7. Quando vai in Italia?(不規則動詞の現在形)
8. Mi piace uscire(私は出かけるのが好きだよ)
9. La mattina mi alzo alle 7(再帰動詞)
10. Il lavoro(未来形)
11. I miei hobby. (趣味について)
12. Al ristorante (レストランでの注文)
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －2 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | C. チコーニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
受講態度に加え、簡単なテスト。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
プリント配布。
毎週宿題あり。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
プリント配布

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 吉冨　文 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
よく使われる文や表現が理解でき、現地での買い物など簡単なやり取りができるレベルを目指す。

[ 授業概要 ]
前期に引き続き、教科書に沿って文法事項を学習しながら会話によるコミュニケーションへとつなげていきます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度です。
授業で学習した内容をふり返り、本当に理解できているか確認しましょう。
授業で出てきた単語や表現をノートにまとめ、暗記しましょう。
授業で指示された練習問題に取り組みましょう。

[ 授業計画 ]
1. 前期のおさらい
2. 食べたい物、飲みたい物を言う(-ere動詞規則活用1)
3. 余暇について話す(-ere動詞規則活用2)
4. 何を飲むか言う(-ere動詞不規則活用1)
5. 情報を尋ねる(-ere動詞不規則活用2)
6. 好みを言う(-ire動詞規則活用1)
7. バカンスの予定を話す(-ire動詞規則活用2)
8. いつ、何をするか言う(-ire動詞不規則活用1)
9. 今夜の予定を言う(-ire動詞不規則活用2)
10. カフェで注文する(名詞・定冠詞・形容詞の複数形)
11. 時刻を言う(20～100までの数)
12. しなければならないことを言う(補助動詞)
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 吉冨　文 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（60%）、受講態度（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
答案を回収後に、解答を解説します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：試験、受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：試験、受講態度

[ 教科書（ISBN） ]
『Italiano Italianoーイタリア語はじめの一歩ー』 著者名：マッテオ・カスターニャ、吉冨　文著　出版社：朝日出版社（978-4-255-55314-6）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語を話す、聞く、読む、書くための基礎的な能力を身につけることを目指す。
イタリアとその文化(芸術、食べ物、音楽など)をよりよく知るようになる。

[ 授業概要 ]
お店に入る時、出る時、このタイミングで挨拶するかしないかでイタリアで得られるものは変わります。
イタリアではカフェなどでも「ボンジョルノ！」の一言で店員さんは気持ちよく対応してくれます。さらにもう一言話せるとさらに楽しいコミュニケーションが広がることでしょう。ファッションや美しい街並み、美味しい食事だけではなく、人とも関わり、より深くイタリアを知って頂きたいと考えています。
授業前半は会話練習や文法を学び、後半ではファッションや音楽情報など、イタリア人がその時々で注目していること、それにまつわる歴史や土壌などからイタリア文化をより深く理解することを目指します。
文法も会話もイタリア旅行などで実際に活かせるシチュエーションが思い浮かべられたり、イタリアに興味が湧くからこそ、より学びもはかどると考えています。
言葉はコミュニケーションツールであり、使ってこその道具だということを大事にしている授業です。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 前期の復習
2. 複数形について
3. 数えられるもの、数えられないもの
4. 今週の自分の予定を話す
5. イタリア料理について
6. レストランでの注文の仕方
7. レストランでの会話
8. 旅行について話す
9. 好みを伝える
10. 何時に
11. イタリアのクリスマスとお正月
12. 誘い方、人を誘う
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度（40%）、小テスト（20%）、授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
プリント配布

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語を話す、聞く、読む、書くための基礎的な能力を身につけることを目指す。
イタリアとその文化(芸術、食べ物、音楽など)をよりよく知るようになる。

[ 授業概要 ]
お店に入る時、出る時、このタイミングで挨拶するかしないかでイタリアで得られるものは変わります。
イタリアではカフェなどでも「ボンジョルノ！」の一言で店員さんは気持ちよく対応してくれます。さらにもう一言話せるとさらに楽しいコミュニケーションが広がることでしょう。ファッションや美しい街並み、美味しい食事だけではなく、人とも関わり、より深くイタリアを知って頂きたいと考えています。
授業前半は会話練習や文法を学び、後半ではファッションや音楽情報など、イタリア人がその時々で注目していること、それにまつわる歴史や土壌などからイタリア文化をより深く理解することを目指します。
文法も会話もイタリア旅行などで実際に活かせるシチュエーションが思い浮かべられたり、イタリアに興味が湧くからこそ、より学びもはかどると考えています。
言葉はコミュニケーションツールであり、使ってこその道具だということを大事にしている授業です。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 前期の復習
2. 複数形について
3. 数えられるもの、数えられないもの
4. 今週の自分の予定を話す
5. イタリア料理について
6. レストランでの注文の仕方
7. レストランでの会話
8. 旅行について話す
9. 好みを伝える
10. 何時に
11. イタリアのクリスマスとお正月
12. 誘い方、人を誘う
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度（40%）、小テスト（20%）、授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
プリント配布

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語を話す、聞く、読む、書くための基礎的な能力を身につけることを目指す。
イタリアとその文化(芸術、食べ物、音楽など)をよりよく知るようになる。

[ 授業概要 ]
お店に入る時、出る時、このタイミングで挨拶するかしないかでイタリアで得られるものは変わります。
イタリアではカフェなどでも「ボンジョルノ！」の一言で店員さんは気持ちよく対応してくれます。さらにもう一言話せるとさらに楽しいコミュニケーションが広がることでしょう。ファッションや美しい街並み、美味しい食事だけではなく、人とも関わり、より深くイタリアを知って頂きたいと考えています。
授業前半は会話練習や文法を学び、後半ではファッションや音楽情報など、イタリア人がその時々で注目していること、それにまつわる歴史や土壌などからイタリア文化をより深く理解することを目指します。
文法も会話もイタリア旅行などで実際に活かせるシチュエーションが思い浮かべられたり、イタリアに興味が湧くからこそ、より学びもはかどると考えています。
言葉はコミュニケーションツールであり、使ってこその道具だということを大事にしている授業です。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 前期の復習
2. 複数形について
3. 数えられるもの、数えられないもの
4. 今週の自分の予定を話す
5. イタリア料理について
6. レストランでの注文の仕方
7. レストランでの会話
8. 旅行について話す
9. 好みを伝える
10. 何時に
11. イタリアのクリスマスとお正月
12. 誘い方、人を誘う
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. カスターニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度（40%）、小テスト（20%）、授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
プリント配布

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | 会話練習 |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
よく使われる文や表現が理解でき、現地での買い物など簡単なやり取りができるレベルを目指す。

[ 授業概要 ]
　この授業では、使えるイタリア語の表現をさらに増やしていきます。少し難しい文法事項も出てきますが、日常会話でよく使うものばかりです。文法の規則は一度覚えてしまえばいろいろな単語を当てはめて応用できます。イタリア語学習で欠かせないのが動詞の活用の習得です。後期は、不規則な活用をするやや複雑な動詞が多く出てきますので、繰り返し発音し、確実に覚えましょう。また、自分自身のことを話したり、相手のことを聞いたりするような、コミュニケーションの基本となる事項も多く出てきます。イタリア人と話す場面を想像しながら、幅広い表現を学んでいきましょう。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
前の授業の内容を理解しておくこと。とくに動詞の活用は完全に覚えておくことが必要なので、授業中での暗記を補うためにしっかり復習すること。各回の授業について予習復習合わせて2時間程度とする。

[ 授業計画 ]
1. 前期の復習。とくに動詞の復習。
2. 不規則動詞その1「持つ」とさまざまな熟語。
3. 不規則動詞その2「する」「行く」とその応用。
4. その他のさまざまな不規則動詞。
5. さまざまな動詞の応用。
6. 補助動詞その1「～したい」「～できる」
7. 補助動詞その2「～しないといけない」
8. これまでの復習とまとめ。
9. いろいろな疑問詞を使った表現。
10. 疑問詞と答えのやりとり。その応用と発展。
11. 「～が好きだ」という特殊な動詞を使って。
12. 時間の表現を使ったさまざまな文。
13. これまでの復習とまとめ。

| 科目名 | イタリア語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト40%、授業中課題60%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『イタリア語文法徹底マスター』2010年　著者名:堂浦律子　出版社:駿河台出版社 (978-4-411-01744-4 )

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | イタリア語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子、C. チコーニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | 会話練習 |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語の基礎を固めて文のしくみを理解し、さまざまな日常会話の場面においてより的確なコミュニケーションができるレベルを目指す。

[ 授業概要 ]
　この授業では、使えるイタリア語の表現をさらに増やしていきます。少し難しい文法事項も出てきますが、日常生活でよく使うものばかりです。文法の規則は一度覚えてしまえばいろいろな単語を当てはめて応用できます。既製の文や会話を覚えるだけでなく、学んだ文法事項を使って自分自身のことを表現したり、自分たちで会話をつくったりもしてみましょう。コミュニケーションにおける積極的な態度もぜひ身につけてください。基本的に、週1回は文法の授業、もう1回は会話や応用です。両方の授業で合格しなければ単位が取得できませんので、注意してください。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
文法の授業では、動詞の活用など暗記する事項があるので、毎回しっかり復習しておくこと。会話・応用の授業に際しては、日頃からイタリア文化について関心を持っておくことが望ましい。各回の授業について予習復習合わせて2時間程度とする。

[ 授業計画 ]
1. 動詞の復習と発展その1。
2. 動詞の復習と発展その2。
3. いろいろな疑問詞を使った質問と答え。
4.疑問詞を使った幅広い表現と会話。
5.「～が好きだ」という特殊な動詞と応用。
6.自分や相手の好みについての会話。
7.補助動詞など。
8. 補助動詞を含むさまざまな表現。
9. 各種の接続詞。
10. いろいろな接続詞を使った文。
11. 起きる」などの特殊な動詞（再帰動詞）の基本。
12. 再帰動詞を含むさまざまな表現。
13. これまでの復習とまとめその1。
14. これまでの復習とまとめその2。
15. 再帰動詞の応用。
16. 再帰動詞を含むさまざまな応用表現。
17. 過去形（近過去）の基本。
18. 過去形（近過去）を使った基本的な表現。
19. 過去形（近過去）を使った表現、応用会話その1。
20. 過去形（近過去）を使った表現、応用会話その2。
21. その他の過去時制（半過去）。
22. 半過去を使った基本的な表現。
23. 命令法。
24. 命令法を使った応用会話。
25. これまでの復習とまとめその1。
26. これまでの復習とまとめその2。

| 科目名 | イタリア語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子、C. チコーニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
週2回の授業の平均点がこの授業の評価の対象となります。
小テスト40%、授業中課題60%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『イタリア語文法徹底マスター』 著者名：堂浦律子　出版社：（駿河台出版社）2010年 （978-4-411-01744-4 ）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | イタリア語会話 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | C. チコーニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
基本的なフレーズの運用能力を身につけ、自分の考えをある程度表現できることを目指す。

[ 授業概要 ]
取り上げる文法項目を、会話モデルを通じてどのような場面で使うか理解し、その後グループで練習します。
積極的な参加が求められます。授業中飲食、仮眠、携帯電話使用禁止。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度

[ 授業計画 ]
1. コースの説明、簡単な自己紹介
2. Ciao! Come stai? (リスニング)
3. Io sono giapponese (essere動詞の現在形、不定冠詞、定冠詞)
4. La famiglia(所有形容詞、代名詞)
5. La posta(不規則動詞の現在形、前置詞)
6. Quando vai in Italia?(不規則動詞の現在形)
7. Permesso?(助動詞 : volere, potere, dovere)
8. La mattina mi alzo alle 7(再帰動詞)
9. Mi piace uscire(私は出かけるのが好きだよ)
10. Il lavoro(未来形)
11. In albergo (ホテルの予約など)
12. Ho conosciuto Veronica(近過去形)
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語会話 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | C. チコーニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
受講態度に加え、簡単なテスト。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
プリント配布。
毎週宿題あり。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
プリント配布

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | イタリア語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | C. チコーニャ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
さまざまな日常会話の場面において自分の考えをより的確に表現できることを目指す。

[ 授業概要 ]
イタリア語の音に耳を慣らし、日常的に良く使うやさしい会話表現を習得する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度

[ 授業計画 ]
1. コースの説明、簡単な自己紹介
2. Che tipo sei?(動詞の現在形、不定冠詞、定冠詞の復習)
3. Le terme di Montecatini(リスニング)
4. Che ore sono?(時間の言い方)
5. Cosa fai nel tempo libero?(動詞の現在形、前置詞)
6. Cosa ti metti stasera?(再帰動詞)
7. Cosa hai fatto ieri? (近過去形)
8. Vieni alla festa?(不規則動詞の現在形)
9. Devo studiare tanto!(助動詞: volere potere dovere)
10. Al ristorante(レストランのマナー)
11. In quel ristorante si mangia bene(非人称)(リスニング)
12. Scusi, per andare..?(道案内)
13. まとめ

| 科目名 | イタリア語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | C. チコーニャ | | | |

[ 成績評価方法 ]
受講態度に加え、簡単なテスト。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
プリント配布。
毎週宿題あり。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | イタリア語講読 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | 会話練習 |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
イタリア語の基礎を固めつつ、文の仕組みを把握し、まとまった文章を理解できるようになる。

[ 授業概要 ]
前年度に習得した文法事項を確認しつつ、それが使われているような文を読んでいきます。会話文などの短い文から始めて、だんだんと複雑な文へと進んでいきます。より幅広い内容のものを読むために、新しい文法事項も学習します。前年度に使用した教科書やノート、および辞書が必要ですので、毎回必ず持参してください。履修者の人数や習熟度により多少内容に変更がある可能性があります。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
新しい文法事項はきちんと理解し、暗記を必要とする動詞の活用などはしっかり覚えておく。前に学習した事項を思い出して応用することがよくあるので、日頃から文法教科書やノートを復習しておくこと。各回の授業について予習復習合わせて2時間程度とする。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション。前年度学習事項の確認、全体復習。
2. 短文、会話の文を読む。(現在形の動詞の復習)
3. 短文、会話の文を読む。(現在形の動詞の復習)
4. 文法(過去時制)。
5. 文法(過去時制)。
6. 短文、会話の文を読む。(過去時制の復習)
7. 文法(再帰動詞など)
8. これまでの復習。まとめ。
9. 文法(補語人称代名詞など)
10. 文法(未来形など)
11. 文法(命令形など)
12. 習った文法を使った自由作文を互いに読み合う。
13. これまでの復習。まとめ。

| 科目名 | イタリア語講読 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト40%、授業中課題60%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『イタリア語文法徹底マスター』 著者名:堂浦律子　出版社:(駿河台出版社)2010年 (978-4-411-01744-4 )

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | イタリア語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | 訳の練習 |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
文法事項を確認し、辞書も使いつつ易しい内容の長文(料理レシピやメール、ネットの記事や情報、絵本など)が読めるレベルをめざす。

[ 授業概要 ]
文法事項を確認しつつ、それが使われている文を読んでいきます。いろいろな文法事項が盛り込まれているやや難しい文も読んでみましょう。辞書の使い方に慣れることも必要です。教材には、できるだけ幅広いジャンルや内容のものを使っていきます。詳細まできちんと理解する読み方のほかに、全体の概略をおおまかに把握するという読み方を習得することも大切です。前年度に使用した教科書やノート、および辞書が必要ですので、毎回必ず持参してください。履修者の習熟度により教材のレベルや内容に多少変更がある可能性があります。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前に学習した事項を応用することがよくあるので、文法教科書やノートを復習しておくこと。また、イタリアに関するトピックを読んで理解するために、日頃からイタリアの社会や文化に関心を持っておくのが望ましい。各回の授業について予習復習合わせて2時間程度とする。

[ 授業計画 ]
1. 既習事項の復習(文法を中心に)
2. やや長い文を読む(いろいろな時制を含む文)。①
3. やや長い文を読む(いろいろな時制を含む文)。②
4. やや長い文を読む(いろいろな時制を含む文)。③
5. 物語性のある長文を読む(検定5級程度)。①
6. 物語性のある長文を読む(検定5級程度)。②
7. 物語性のある長文を読む(検定5級程度)。③
8. これまでの復習。まとめ。
9. メールなどを読む。①
10. メールなどを読む。②
11. 絵本の文などを読む。①
12. 絵本の文などを読む。②
13. これまでの復習。まとめ。

| 科目名 | イタリア語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 堂浦　律子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト40%、授業中課題60%。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『イタリア語文法徹底マスター』 著者名:堂浦律子　出版社:(駿河台出版社)2010年 (978-4-411-01744-4 )

[ 参考書(ISBN) ]
なし

S03960 [ CH2-031 ]

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 奥西　豊子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. Classroom activities (based on textbook chapter 1)
4. Classroom activities (based on textbook chapter 2)
5. Classroom activities (based on textbook chapter 2)
6. Classroom activities (based on textbook chapter 3)
7. Classroom activities (based on textbook chapter 3)
8. Classroom activities (based on textbook chapter 4)
9. Classroom activities (based on textbook chapter 4)
10. Classroom activities (based on textbook chapter 5)
11. Classroom activities (based on textbook chapter 5)
12. Classroom activities (based on textbook chapter 6)
13. Classroom activities (based on textbook chapter 6)

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 奥西　豊子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎週の課題（小テスト）70％、授業参加 30%により評価する

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題（小テスト）については解説を行ないます。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：小テスト・ディスカッションにより評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：ディスカッションの様子により評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業参加態度・ディスカッションにより評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：小テスト・ディスカッションにより評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：小テスト・ディスカッションにより評価する。

[ 教科書（ISBN） ]
身近な世界を英語で発信 Global Issues: An Introduction to Discussion Skills　著者名：Garry Pearson, Graham Skerritt, Adrian Francis, 吉塚　弘　出版社：成美堂　(9784791972258)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 前田　葵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook lesson 1)
3. classroom activities ("You and Your classmates")
4. classroom activities (based on textbook lesson 2)
5. classroom activities ("You, Going Out to Eat")
6. classroom activities (based on textbook lesson 3)
7. classroom activities ("You, Shopping")
8. classroom activities (based on textbook lesson 4)
9. classroom activities ("You, Out on the Town")
10. classroom activities (based on textbook lesson 5)
11. classroom activities ("You, Planning a Trip")
12. classroom activities (You, Making Your Own Role Play)
13. Review

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 前田　葵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Assignments 30%, Mini-Quiz 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manaba を通じて講評をフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:Assignments and Mini-Quiz

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:Assignments and Mini-Quiz

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:Assignments and Mini-Quiz

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:Assignments and Mini-Quiz

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:Assignments and Mini-Quiz

[ 教科書(ISBN) ]
Enjoy English with Charlie Brown and Friends　著者名:外山　晴子　出版社:南雲堂 (978-4-523-17932)

[ 参考書(ISBN) ]
Starting Off with Role Play and Discussion　著者名:Eric Bray　出版社:南雲堂 (978-4-523-17878-1)

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1.Introductions, Essential English
2 Nice to meet you! (part 1)
3.Nice to meet you! (part 2)
4.What do you do? (part 1)
5 What do you do? (part 2)
6. Do you like noodles? (part 1)
7. Do you like noodles? (part 2)
8. Review of material covered so far
9. How often do you exercise? (part 1)
10.How often do you exercise? (part 2)
11.I`m listening to music.
12.Where were you yesterday?
13. Overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[ 成績評価方法 ]
2 video presentations (35% each),attendance (15%), class participation (15%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Individual feedback concerning tests or assignments will be given via private chat message during class or sent to students` personal e-mail address. General feedback may be be given via Manaba.

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 1 (4th edition) Student Book with Online Practice 著者名:Wilson, Ken 出版社:Oxford University Press. (9780194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | M. アントニウ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
Week1:Grammar:The verb 'to be' (1st and 2nd person singular)
Vocabulary:Numbers 0-10; days of the week
Active learning:Self-introductions

Week2:Grammar:The verb 'to be' (3rd person singular)
Vocabulary:Countries
Active learning:Practical English: "How do you spell it?"

Week3:Grammar:The verb 'to be' (plural)
Vocabulary:nationalities
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week4:Grammar:Wh- question words
Vocabulary:Numbers 11-100; personal information
Active learning:Review & check: units 1, 2

Week5:Grammar:Articles; singular and plural nouns
Vocabulary:Small things 1
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week6:Grammar:demonstrative pronouns
Vocabulary:Small things 2
Active learning:Practical English: "How much is it?"

Week7:Grammar:Midterm test

Week8:Grammar:Possessive adjectives; possessive pronouns
Vocabulary:People and family
Active learning:Midterm test check; group and pair work

Week9:Grammar:Adjectives
Vocabulary:Colors; common adjectives
Active learning:Review & check: units 3, 4

Week10:Grammar:Simple present (singular); Wh- questions
Vocabulary:Common verbs 1; food and drink
Active learning:Practical English: "What time is it?"

Week11:Grammar:Simple present (third person singular)
Vocabulary:Jobs and places of work
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week12:Grammar:Adverbs of frequency
Vocabulary:A typical day
Active learning:Review & check: units 5, 6

Week13 Final test

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | M. アントニウ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment (Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
American English File / Starter (second edition) with online practice　著者名:Christina LATHAM-KOENIG, Clive OXENDEN, Mike BOYLE　出版社:Oxford University Press　(9780194776141)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.
Advanced class: TOEIC score (400～600)
Standard class: TOEIC score (300～400)

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (based on textbook chapter 2)
4. classroom activities (based on textbook chapter 3)
5. classroom activities (based on textbook chapter 4)
6. classroom activities (based on textbook chapter 5)
7. classroom activities (based on textbook chapter 6)/ mid-term review
8. classroom activities (based on textbook chapter 7)
9. classroom activities (based on textbook chapter 8)
10. classroom activities (based on textbook chapter 9)
11. classroom activities (based on textbook chapter 10)
12. classroom activities (based on textbook chapter 11)
13. classroom activities (based on textbook chapter 12)/ overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 1 (4th edition) Student Book & Online Practice　著者名:Wilson, Ken　出版社:Oxford University Press　(9780194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし　(none)

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Classroom activities (based on Textbook Chapter 1)
2. Classroom activities (based on Textbook Chapter 2)
3. Classroom activities (based on Textbook Chapter 2)
4. Classroom activities (based on Textbook Chapter 3)
5. Classroom activities (based on Textbook Chapter 3)
6. Classroom activities (based on Textbook Chapter 4)
7. Classroom activities (based on Textbook Chapter 4)
8. Classroom activities (based on Textbook Chapter 5)
9. Classroom activities (based on Textbook Chapter 5)
10. Classroom activities (based on Textbook Chapter 6)
11. Classroom activities (based on Textbook Chapter 6)
12. Classroom activities (based on Textbook Chapter 7)
13. Classroom activities (based on Textbook Chapter 7)

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Mini exams: 30%, participation: 70%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論でのアイデアやそれをまとめ上げる能力、および授業参加度などから評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論での協調性などから評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論とプレゼンテーションテーマ・内容で評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論とプレゼンテーションテーマ・内容で評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:プレゼンや議論の質から評価。

[ 教科書(ISBN) ]
Changing Times, Changing Worlds　著者名:Joan McConnell
Kiyoshi Yamauchi
出版社:成美堂 (9784791972074)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 奥西　豊子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. Classroom activities (based on textbook chapter 1)
4. Classroom activities (based on textbook chapter 2)
5. Classroom activities (based on textbook chapter 2)
6. Classroom activities (based on textbook chapter 3)
7. Classroom activities (based on textbook chapter 3)
8. Classroom activities (based on textbook chapter 4)
9. Classroom activities (based on textbook chapter 4)
10. Classroom activities (based on textbook chapter 5)
11. Classroom activities (based on textbook chapter 5)
12. Classroom activities (based on textbook chapter 6)
13. Classroom activities (based on textbook chapter 6)

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 奥西　豊子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎週の課題（小テスト）70％、授業参加 30%により評価する

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題（小テスト）については解説を行ないます。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：小テスト・ディスカッションにより評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：ディスカッションの様子により評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業参加態度・ディスカッションにより評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：小テスト・ディスカッションにより評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：小テスト・ディスカッションにより評価する。

[ 教科書（ISBN） ]
身近な世界を英語で発信 Global Issues: An Introduction to Discussion Skills　著者名：Garry Pearson, Graham Skerritt, Adrian Francis, 吉塚　弘　出版社：成美堂　(9784791972258)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
A weekly homework assignment will be given based on the weeks activities.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. activities, hobbies etc
3. fashion, clothing, chapter #2
4. chapter #2 continued
5. happiness chapter 3
6. chapter #3 continued
7. information review
8. mid-term
9. location words, directions chapter #4
10. directions continued chapter #4
11. materials-objects chapter #5
12. chapter #5 continued
13. Final Exam

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[ 成績評価方法 ]
Midterm exam 25%,  Final exam 35%, Class attendance/participation 20%, homework 20%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
English Firsthand (5th edhition) Success Student Book　出版社:Pearson Japan　(9789813130210　)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | M. アントニウ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
Week1:Grammar:The verb 'to be' (1st and 2nd person singular)
Vocabulary:Numbers 0-10; days of the week
Active learning:Self-introductions

Week2:Grammar:The verb 'to be' (3rd person singular)
Vocabulary:Countries
Active learning:Practical English: "How do you spell it?"

Week3:Grammar:The verb 'to be' (plural)
Vocabulary:nationalities
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week4:Grammar:Wh- question words
Vocabulary:Numbers 11-100; personal information
Active learning:Review & check: units 1, 2

Week5:Grammar:Articles; singular and plural nouns
Vocabulary:Small things 1
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week6:Grammar:demonstrative pronouns
Vocabulary:Small things 2
Active learning:Practical English: "How much is it?"

Week7:Grammar:Midterm test

Week8:Grammar:Possessive adjectives; possessive pronouns
Vocabulary:People and family
Active learning:Midterm test check; group and pair work

Week9:Grammar:Adjectives
Vocabulary:Colors; common adjectives
Active learning:Review & check: units 3, 4

Week10:Grammar:Simple present (singular); Wh- questions
Vocabulary:Common verbs 1; food and drink
Active learning:Practical English: "What time is it?"

Week11:Grammar:Simple present (third person singular)
Vocabulary:Jobs and places of work
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week12:Grammar:Adverbs of frequency
Vocabulary:A typical day
Active learning:Review & check: units 5, 6

Week13 Final test

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | M. アントニウ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment (Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
American English File / Starter (second edition) with online practice

NB: In the event of remote instruction, the publishers make the textbook available online at www.oxfordlearnersbookshelf.com 著者名: Christina LATHAM-KOENIG, Clive OXENDEN, Mike BOYLE 出版社:Oxford University Press (978-0-19-477614-1)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English
Advanced class: TOEIC score (400～600)
Standard class: TOEIC score (300～400)

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1.Introductions, Essential English
2 Nice to meet you! (part 1)
3.Nice to meet you! (part 2)
4.What do you do? (part 1)
5 What do you do? (part 2)
6. Do you like noodles? (part 1)
7. Do you like noodles? (part 2)
8. Review of material covered so far
9. How often do you exercise? (part 1)
10.How often do you exercise? (part 2)
11.I`m listening to music.
12.Where were you yesterday?
13. Overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[ 成績評価方法 ]
2 video presentations (35% each), attendance (15%), class participation (15%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 1 (4th edition) Student Book with Online Practice　著者名:Wilson, Ken　出版社:Oxford University Press.　(9780194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.
Advanced class: TOEIC score (400～600)
Standard class: TOEIC score (300～400)

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (based on textbook chapter 2)
4. classroom activities (based on textbook chapter 3)
5. classroom activities (based on textbook chapter 4)
6. classroom activities (based on textbook chapter 5)
7. classroom activities (based on textbook chapter 6)/ mid-term review
8. classroom activities (based on textbook chapter 7)
9. classroom activities (based on textbook chapter 8)
10. classroom activities (based on textbook chapter 9)
11. classroom activities (based on textbook chapter 10)
12. classroom activities (based on textbook chapter 11)
13. classroom activities (based on textbook chapter 12)/ overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 1 (4th edition) Student Book & Online Practice　著者名:Wilson, Ken　出版社:Oxford University Press　(9780194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし　(none)

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Classroom activities (based on Textbook Chapter 1)
2. Classroom activities (based on Textbook Chapter 2)
3. Classroom activities (based on Textbook Chapter 2)
4. Classroom activities (based on Textbook Chapter 3)
5. Classroom activities (based on Textbook Chapter 3)
6. Classroom activities (based on Textbook Chapter 4)
7. Classroom activities (based on Textbook Chapter 4)
8. Classroom activities (based on Textbook Chapter 5)
9. Classroom activities (based on Textbook Chapter 5)
10. Classroom activities (based on Textbook Chapter 6)
11. Classroom activities (based on Textbook Chapter 6)
12. Classroom activities (based on Textbook Chapter 7)
13. Classroom activities (based on Textbook Chapter 7)

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Mini exams: 30%, participation: 70%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論でのアイデアやそれをまとめ上げる能力、および授業参加度などから評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論での協調性などから評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論とプレゼンテーションテーマ・内容で評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論とプレゼンテーションテーマ・内容で評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:プレゼンや議論の質から評価。

[ 教科書(ISBN) ]
Changing Times, Changing Worlds　著者名:Joan McConnell
Kiyoshi Yamauchi
出版社:成美堂 (9784791972074)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語実践力の基礎作り | | | |
| 担当者 | 野田　ゆり子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Unit1: Cloud Atlas
2. Unit2 The Dark Knight Rises
3. Unit3: Another Earth
4. Unit4: The Amazing Spider-Man
5. Unit5: Harry Potter and the Deathly Hallows: Part2
6. Unit6: The Social Network
7. Unit7: Skyfall
8. Unit8: Lincoln
9. Unit9: Ruby Sparks
10. Unit10: The Hobbit: An Unexpected Journey
11. Unit11: Argo
12. Presentation
13. Presentation

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語実践力の基礎作り | | | |
| 担当者 | 野田　ゆり子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
出席（小テスト）40%、レポート30%、プレゼン30%により評価する

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manaba を通じて講評をフィードバックする。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Hollywood English
－Movie Reviews from VOA－　著者名：John S. Lander　出版社：朝日出版社　（978-4-255-15544-9）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English
Advanced class: TOEIC score (400～600)
Standard class: TOEIC score (300～400)

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]

1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (based on textbook chapter 2)
4. classroom activities (based on textbook chapter 3)
5. classroom activities (based on textbook chapter 4)
6. classroom activities (based on textbook chapter 5)
7. classroom activities (based on textbook chapter 6)
8. mid-term review
9. classroom activities (based on textbook chapter 7)
10. classroom activities (based on textbook chapter 8)
11. classroom activities (based on textbook chapter 9)
12. classroom activities (based on textbook chapter 10)
13. overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
English in Tune　著者名:Robert Hickling 他　出版社:National Geographic　(ISBN 978-4-86312-393-9)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1.Introductions, Essential English
2 Nice to meet you! (part 1)
3.Nice to meet you! (part 2)
4.What do you do? (part 1)
5 What do you do? (part 2)
6. Do you like noodles? (part 1)
7. Do you like noodles? (part 2)
8. Review of material covered so far
9. How often do you exercise? (part 1)
10.How often do you exercise? (part 2)
11.I`m listening to music.
12.Where were you yesterday?
13. Overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[ 成績評価方法 ]
2 video presentations (35% each), attendance (15%), class participation (15%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Individual feedback concerning tests or assignments will be given via private chat message during class or sent to students` personal e-mail address. General feedback may be be given via Manaba.

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 1 (4th edition) Student Book with Online Practice 著者名:Wilson, Ken 出版社:Oxford University Press. (9780194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 玉井　美香、教員未登録 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Classroom Activities (based on textbook chapter 1)
3. Classroom Activities (based on textbook chapter 1)
4. Classroom Activities (based on textbook chapter 2)
5. Classroom Activities (based on textbook chapter 2)
6. Classroom Activities (based on textbook chapter 3)
7. Classroom Activities (based on textbook chapter 3)
8. Classroom Activities (based on textbook chapter 4)
9. Classroom Activities (based on textbook chapter 4)
10. Classroom Activities (based on textbook chapter 5)
11. Classroom Activities (based on textbook chapter 5)
12. Classroom Activities (based on textbook chapter 6)
13. Classroom Activities (based on textbook chapter 6)

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 玉井　美香、教員未登録 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎週の課題（小テスト）70%、積極的授業参加30%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題（小テスト）は授業内で解説を行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Changing Times, Changing Worlds　著者名：Joan McConnell / 山内　圭　出版社：成美堂　(9784791972074)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English
Advanced class: TOEIC score (400～600)
Standard class: TOEIC score (300～400)

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (based on textbook chapter 2)
4. classroom activities (based on textbook chapter 3)
5. classroom activities (based on textbook chapter 4)
6. classroom activities (based on textbook chapter 5)
7. classroom activities (based on textbook chapter 6)/ mid-term review
8. classroom activities (based on textbook chapter 7)
9. classroom activities (based on textbook chapter 8)
10. classroom activities (based on textbook chapter 9)
11. classroom activities (based on textbook chapter 10)
12. classroom activities (based on textbook chapter 11)
13. classroom activities (based on textbook chapter 12)/ overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 1 (4th edition) Student Book & Online Practice　著者名:Wilson, Ken　出版社:Oxford University Press　(9780194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし　(none)

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.
Advanced class: TOEIC score (400～600)
Standard class: TOEIC score (300～400)

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation (class assignments etc.) is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (based on textbook chapter 1)
4. classroom activities (based on textbook chapter 2)
5. classroom activities (based on textbook chapter 2)
6. classroom activities (based on textbook chapter 3)
7. classroom activities (based on textbook chapter 3)
8. mid-term review
9. classroom activities (based on textbook chapter 4)
10. classroom activities (based on textbook chapter 4)
11. classroom activities (based on textbook chapter 5)
12. classroom activities (based on textbook chapter 5)
13. classroom activities (based on textbook chapter 6)
14. classroom activities (based on textbook chapter 6)
15. Overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業参加（毎回の宿題提出）60%
期末レポート40%（manabaまたは直接メールで提出、詳細はmanabaでご確認ください）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
World Link 1 with My World Link Online Practice and Student's eBook　著者名：Nancy Douglas; James R. Morgan　出版社：Cengage Learning.　(9780357502143)

[ 参考書（ISBN） ]
なし　(none)

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English ! | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and understand the course materials well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction + classroom activities (based on textbook chapter 1)
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (based on textbook chapter 2)
4. classroom activities (based on textbook chapter 2)
5. classroom activities (based on textbook chapter 3)
6. classroom activities (based on textbook chapter 3) + bonus review material
7. classroom activities (based on textbook chapter 4)
8. classroom activities (based on textbook chapter 4)
9. classroom activities (based on textbook chapter 5)
10. classroom activities (based on textbook chapter 5)
11. classroom activities (based on textbook chapter 6)
12. classroom activities (based on textbook chapter 6) + bonus review material
13. listening test + vocabulary & grammar test

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English ! | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[ 成績評価方法 ]
listening test (35%)　vocabulary & grammar test (30%)　speaking participation (35%)
リスニングテスト(35%)　ボキャブラリー＆文法テスト(30%)　話すことによる参加(35%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Answers and explanations on each unit will be given in class,
with notes posted to Manaba afterwards if necessary.
各単元の解答と解説は、授業で行い、
その後、必要に応じてマナバにノートを掲示します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 1 (4th edition) Student Book with Online Practice　著者名:Wilson, Ken　出版社:Oxford University Press.　(9780194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Foundation English | | | |
| 担当者 | 花崎　知子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook Unit 1)
3. classroom activities (based on textbook Unit 1)
4. classroom activities (based on textbook Unit 1)
5. classroom activities (based on textbook Unit 2)
6. classroom activities (based on textbook Unit 2)
7. classroom activities (based on textbook Unit 2)
8. Review 1
9. classroom activities (based on textbook Unit 3)
10. classroom activities (based on textbook Unit 3)
11. classroom activities (based on textbook Unit 3)
12. classroom activities (based on textbook Unit 3)
13. Review 2

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Foundation English | | | |
| 担当者 | 花崎　知子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
平常点（coursework）（60%）、review tests（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
全体に対し（また必要に応じ、個別に）講評を入れます。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
New Headway (4th Edition) Pre-Intermediate Student's Book A　著者名：Soars, John and Liz　出版社：Oxford University Press.　(978-0-19-476956-3)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 田中　章愛 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]

1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (based on textbook chapter 2)
4. classroom activities (based on textbook chapter 3)
5. classroom activities (based on textbook chapter 4)
6. classroom activities (based on textbook chapter 5)
7. classroom activities (based on textbook chapter 6)
8. mid-term review
9. classroom activities (based on textbook chapter 7)
10. classroom activities (based on textbook chapter 8)
11. classroom activities (based on textbook chapter 9)
12. classroom activities (based on textbook chapter 10)
13. overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 田中　章愛 | | | |

[ 成績評価方法 ]
平常点（小テスト・口頭発表）（60%）、試験（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
詳細は授業で周知する

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：小テスト、口頭発表、試験、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：小テスト、口頭発表、試験、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：小テスト、口頭発表、試験、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：小テスト、口頭発表、試験、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：小テスト、口頭発表、試験、課題

[ 教科書（ISBN） ]
English Listening and Speaking Basics for the New TOEIC-style Listening Test
（共通） 著者名：Sugino/Lauer

出版社：Asahi Press.　（978-4-255-15600-2）
TOEIC L&R テスト 完全模試 600
（田中クラス）

＊テキストはプレイスメントテストによるクラス編成が発表されてから、それぞれ指定のテキストを購入すること。 著者名：
柴山かつの/Paul Dorey/松本恵美子/成重寿

出版社：J リサーチ出版 （978-4-86392-380-5）
Best Practice for the TOEIC L&R Test
（田中クラス）

＊テキストはプレイスメントテストによるクラス編成が発表されてから、それぞれ指定のテキストを購入すること。

著者名：Yoshizuka Hiroshi/ Michael Schauerte 出版社：Seibido （978-4-7919-6030-9

）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 吉岡　志津世 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (based on textbook chapter 2)
4. classroom activities (based on textbook chapter 3)
5. classroom activities (based on textbook chapter 4)
6. classroom activities (based on textbook chapter 5)
7. classroom activities (based on textbook chapter 6)
8. mid-term review
9. classroom activities (based on textbook chapter 7)
10. classroom activities (based on textbook chapter 8)
11. classroom activities (based on textbook chapter 9)
12. classroom activities (based on textbook chapter 10)
13. overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 吉岡　志津世 | | | |

[ 成績評価方法 ]
平常点（小テスト・口頭発表）（60%）、試験（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
・Unit 課題、小/テストはmanaba 提出、manaba にてフィードバック。
・プレゼン、グループワークは授業中に講評。

注）レポート、テスト、授業の伝達など、manaba を多用するので、必ず受信設定・登録をしておくこと。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：グループワーク、プレゼンテーション、Unit 課題、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：グループワーク、プレゼンテーション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：グループワーク、プレゼンテーション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：グループワーク、プレゼンテーション、Unit 課題、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：グループワーク、プレゼンテーション、Unit 課題、テスト

[ 教科書（ISBN） ]
English Listening and Speaking Basics for the New TOEIC-style Listening Test（国際共通）　著者名：Sugino/Lauer

出版社：Asahi Press.　（9784255156002）
Perfect Practice for the TOEIC L&R Test（Wed. 3rd. 水曜日3時限クラス）
＊テキストは4/1プレイスメントテストによるクラス編成が発表されてから、それぞれ指定のテキストを購入すること。 著者名：Ishii/ Yamaguchi/ Ueda/ Kajiyama/ Ciunci

出版社：Seibido （9784791934195）

（

）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Effective Communication in English | | | |
| 担当者 | 奥西　豊子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Classroom activities (based on textbook chapter 7)
3. Classroom activities (based on textbook chapter 7)
4. Classroom activities (based on textbook chapter 8)
5. Classroom activities (based on textbook chapter 8)
6. Presentation 1
7. Classroom activities (based on textbook chapter 9)
8. Classroom activities (based on textbook chapter 9)
9. Classroom activities (based on textbook chapter 10)
10. Classroom activities (based on textbook chapter 10)
11. Presentation 2
12. Final assessment (Test)
13. Overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Effective Communication in English | | | |
| 担当者 | 奥西　豊子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manaba を通じて講評をフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッションの様子・プレゼンテーションにより評価する

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:授業参加態度・ディスカッションの様子により評価する

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッション・プレゼンテーションにより評価する

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッション・プレゼンテーションにより評価する

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:プレゼンテーション・期末試験により評価する

[ 教科書(ISBN) ]
身近な世界を英語で発信 Global Issues: An Introduction to Discussion Skills　著者名:Garry Pearson / Graham Skerritt / Adrian Francis / 吉塚　弘　出版社:成美堂　(9784791972258 )

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 前田　葵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook lesson 6)
3. classroom activities ("You, World Traveler")
4. classroom activities (based on textbook lesson 7)
5. classroom activities ("You, Job Hunting")
6. classroom activities (based on textbook lesson 8)
7. classroom activities ("You, Giving Good Advice")
8. classroom activities (based on textbook lesson 9)
9. classroom activities ("You, Solving World Problems")
10. classroom activities (based on textbook lesson 10)
11. classroom activities ("You and Older People in Your Life")
12. classroom activities (based on textbook lesson 11)
13. classroom activities ("You, Inventor for the future")

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 前田　葵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment (Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manaba を通じて講評をフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:Assignments and Mini-Quiz

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:Assignments and Mini-Quiz

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:Assignments and Mini-Quiz

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:Assignments and Mini-Quiz

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:Assignments and Mini-Quiz

[ 教科書(ISBN) ]
Enjoy English with Charlie Brown and Friends　著者名:外山　晴子　出版社:南雲堂 (978-4-523-17932)

[ 参考書(ISBN) ]
Starting Off with Role Play and Discussion　著者名:Eric Bray　出版社:南雲堂 (978-4-523-17878-1)

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Effective Communication in English | | | |
| 担当者 | 奥西　豊子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Classroom activities (based on textbook chapter 7)
3. Classroom activities (based on textbook chapter 7)
4. Classroom activities (based on textbook chapter 8)
5. Classroom activities (based on textbook chapter 8)
6. Presentation 1
7. Classroom activities (based on textbook chapter 9)
8. Classroom activities (based on textbook chapter 9)
9. Classroom activities (based on textbook chapter 10)
10. Classroom activities (based on textbook chapter 10)
11. Presentation 2
12. Final assessment (Test)
13. Overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Effective Communication in English | | | |
| 担当者 | 奥西　豊子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manaba を通じて講評をフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッションの様子・プレゼンテーションにより評価する

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:授業参加態度・ディスカッションの様子により評価する

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッション・プレゼンテーションにより評価する

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッション・プレゼンテーションにより評価する

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:プレゼンテーション・期末試験により評価する

[ 教科書(ISBN) ]
身近な世界を英語で発信 Global Issues: An Introduction to Discussion Skills　著者名:Garry Pearson / Graham Skerritt / Adrian Francis / 吉塚　弘　出版社:成美堂　(9784791972258 )

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Chapter 6;  dreams
2. Chapter 6: continued
3. Chapter 7; past tense activities
4. Chapter 7: past tense activities
5. Chapter 8: nature and knowledge
6. Chapter 8: continued
7. midterm
8. Chapter 9: skills
9. Chapter 9: continued
10. Chapter 10: activities and hobbies
11. Chapter 10: continued
12. final exam
13. exam review

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[ 成績評価方法 ]
Exams 60%, Class attendance/participation 20%, homework 20%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
English Firsthand (5E) Success Student Book　出版社:Pearson Japan　(9.78981E+12)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction/ classroom activities (based on textbook chapter 1)
2. classroom activities (based on textbook chapter 2)
3. classroom activities (based on textbook chapter 3)
4. classroom activities (based on textbook chapter 4)
5. classroom activities (based on textbook chapter 5)
6. classroom activities (based on textbook chapter 6)/ mid-term review
7. classroom activities (based on textbook chapter 7)
8. classroom activities (based on textbook chapter 8)
9. classroom activities (based on textbook chapter 9)
10. classroom activities (based on textbook chapter 10)
11. classroom activities (based on textbook chapter 11)
12. classroom activities (based on textbook chapter 12)
13. overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice (4th edition), Student Book 1　著者名:Wilson, Ken　出版社:Oxford University Press　(9780194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし　(none)

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Class activity #1
2. Class activity #2
3. Class activity #3
4. Class activity #4
5. Class activity #5
6. Presentation
7. Class activity #6
8. Class activity #7
9. Class activity #8
10. Class activity #9
11. Class activity #10
12. Class activity #11
13. Presentation

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 50%, Presentation 50%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:プレゼンテーションについてのテーマ選択・準備・選択した英語表現などから総合的に評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論での協調性などから評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論とプレゼンテーションテーマ・内容で評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:プレゼンテーションの準備や、日々の議論やプレゼンテーションにおいてその場に応じた適切な英語表現を用いられているかどうかで評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:議論やプレゼンテーションの説得力から評価。

[ 教科書(ISBN) ]
英語プレゼンハンドブック　著者名:味園真紀　出版社:ベレ出版　(4860642538)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Effective Communication in English | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Semester 1 review, Catching up
2. Which one is cheaper? (part 1)
3. Which one is cheaper? (part 2)
4. They`re very friendly. (part 1)
5. They`re very friendly, (part 2)
6. You can visit the zoo. (part 1)
7. You can visit the zoo, (part 2)
8. Review of material covered so far.
9. Is there a coffee shop? (part 1)
10. Is there a coffee shop? (part 2)
11. I had a good time.
12. I`m going to go by car.
13. Overall review.

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Effective Communication in English | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[ 成績評価方法 ]
2 video presentations (35% each), attendance (15%), class participation (15%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Individual feedback concerning tests or assignments will be given via private chat message during class or sent to students` personal e-mail address. General feedback may be be given via Manaba.

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 1 (4th edition), Student Book with Online Practice　著者名:Wilson, Ken　出版社:Oxford University Press. (978-0194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. アントニウ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
Week1:Grammar:Word order in questions
Vocabulary:Common verbs 2
Active learning:Class activities re: summer vacation

Week2:Grammar:Modal verb 'can'
Vocabulary:Common verbs 2
Active learning:Practical English: "What's the date today?"

Week3:Grammar:Present continuous
Vocabulary:Verb phrases
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week4:Grammar:Present continuous (versus simple present)
Vocabulary:The weather
Active learning:Review & check: units 7, 8

Week5:Grammar:There is / There are
Vocabulary:Prepositions of place 1; hotels
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week6:Grammar:Simple past with 'to be'
Vocabulary:Prepositions of place 2
Active learning:Practical English: "Is there a bank near here?"

Week7:Grammar:Midterm test:

Week8:Grammar:Simple past (regular verbs)
Vocabulary:Common verbs 3
Active learning:Midterm test check; group and pair work

Week9:Grammar:Simple past (irregular verbs 1)
Vocabulary:Daily routine verbs; irregular verbs
Active learning:Review & check: units 9, 10

Week10:Grammar:Object pronouns
Vocabulary:Opinion words
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week11:Grammar:Simple past (irregular verbs 2)
Vocabulary:Common verbs 4 (irregular verbs)
Active learning:Practical English: "Would you like a coffee?"

Week12:Grammar:The future tense; review of present, past, and future
Vocabulary:Future time expressions; review of collocations
Active learning:Review & check: units 11, 12

Week13 Final Examination

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. アントニウ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment (Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
American English File / Starter (second edition) with online practice

NB: In the event of remote instruction, the publishers make the textbook available online at www.oxfordlearnersbookshelf.com 著者名:Christina LATHAM-KOENIG, Clive OXENDEN, Mike BOYLE 出版社:Oxford University Press (978-0-19-477614-1)

[ 参考書(ISBN) ]
なし (none)

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. アントニウ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
Week1:Grammar:Word order in questions
Vocabulary:Common verbs 2
Active learning:Class activities re: summer vacation

Week2:Grammar:Modal verb 'can'
Vocabulary:Common verbs 2
Active learning:Practical English: "What's the date today?"

Week3:Grammar:Present continuous
Vocabulary:Verb phrases
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week4:Grammar:Present continuous (versus simple present)
Vocabulary:The weather
Active learning:Review & check: units 7, 8

Week5:Grammar:There is / There are
Vocabulary:Prepositions of place 1; hotels
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week6:Grammar:Simple past with 'to be'
Vocabulary:Prepositions of place 2
Active learning:Practical English: "Is there a bank near here?"

Week7:Grammar:Midterm test:

Week8:Grammar:Simple past (regular verbs)
Vocabulary:Common verbs 3
Active learning:Midterm test check; group and pair work

Week9:Grammar:Simple past (irregular verbs 1)
Vocabulary:Daily routine verbs; irregular verbs
Active learning:Review & check: units 9, 10

Week10:Grammar:Object pronouns
Vocabulary:Opinion words
Active learning:Class homework check; group and pair work

Week11:Grammar:Simple past (irregular verbs 2)
Vocabulary:Common verbs 4 (irregular verbs)
Active learning:Practical English: "Would you like a coffee?"

Week12:Grammar:The future tense; review of present, past, and future
Vocabulary:Future time expressions; review of collocations
Active learning:Review & check: units 11, 12

Week13 Final Examination

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. アントニウ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment (Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
American English File / Starter (second edition) with online practice

NB: In the event of remote instruction, the publishers make the textbook available online at www.oxfordlearnersbookshelf.com

著者名:Christina LATHAM-KOENIG, Clive OXENDEN, Mike BOYLE 出版社:Oxford University Press (ISBN: 978-0-19-477614-1)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Semester 1 review, Catching up
2. Which one is cheaper? (part 1)
3. Which one is cheaper? (part 2)
4. They`re very friendly. (part 1)
5. They`re very friendly, (part 2)
6. You can visit the zoo. (part 1)
7. You can visit the zoo, (part 2)
8. Review of material covered so far.
9. Is there a coffee shop? (part 1)
10. Is there a coffee shop? (part 2)
11. I had a good time.
12. I`m going to go by car.
13. Overall review.

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[ 成績評価方法 ]
2 video presentations (35% each), Attendance (15%), Class Participation (15%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 1(4th edition), Student Book with Online Practice 著者名:Wilson, Ken 出版社:Oxford University Press. (978-0-19-4060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction/ classroom activities (based on textbook chapter 1)
2. classroom activities (based on textbook chapter 2)
3. classroom activities (based on textbook chapter 3)
4. classroom activities (based on textbook chapter 4)
5. classroom activities (based on textbook chapter 5)
6. classroom activities (based on textbook chapter 6)/ mid-term review
7. classroom activities (based on textbook chapter 7)
8. classroom activities (based on textbook chapter 8)
9. classroom activities (based on textbook chapter 9)
10. classroom activities (based on textbook chapter 10)
11. classroom activities (based on textbook chapter 11)
12. classroom activities (based on textbook chapter 12)
13. overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice (4th edition), Student Book 1　著者名:Wilson, Ken　出版社:Oxford University Press　(9780194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし　(none)

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Class activity #1
2. Class activity #2
3. Class activity #3
4. Class activity #4
5. Class activity #5
6. Presentation
7. Class activity #6
8. Class activity #7
9. Class activity #8
10. Class activity #9
11. Class activity #10
12. Class activity #11
13. Presentation

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 50%, Presentation 50%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:プレゼンテーションについてのテーマ選択・準備・選択した英語表現などから総合的に評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論での協調性などから評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:毎度の授業における議論とプレゼンテーションテーマ・内容で評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:プレゼンテーションの準備や、日々の議論やプレゼンテーションにおいてその場に応じた適切な英語表現を用いられているかどうかで評価。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:議論やプレゼンテーションの説得力から評価。

[ 教科書(ISBN) ]
英語プレゼンハンドブック　著者名:味園真紀　出版社:ベレ出版　(4860642538)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語実践力の基礎作り | | | |
| 担当者 | 高橋　綾子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Unit 1: Life Experience 1-3 & Workbook
2. Unit 1: Life Experience 4-6& Workbook
3. Unit 2: Events 1-3 & Workbook
4. Unit 2: Events 4-6 & Workbook
5. Unit 3: Opinions 1-3 Workbook
6. Unit 3: Opinions 4-6 Workbook　(Mid-term Examination)
7. Unit 4: Customs 1-3 & Workbook
8. Unit 4: Customs 4-6 & Workbook
9. Unit 5: Professions and Skills 1-3 & Workbook
10. Unit 5: Professions and Skills 4-6 & Workbook
11. Unit 6: Recent Activities 1-3 & Workbook
12. Unit 6: Recent Activities 4-6 & Workbook
13. Final Examination

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語実践力の基礎作り | | | |
| 担当者 | 高橋　綾子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト15%、英作文・発表15%、課題　10%（中間)期末試験50%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manaba を通じて講評をフィードバックする。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：プレゼンテーション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：ペアワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：英語圏文化に関する理解

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：英作文

[ 教科書（ISBN） ]
Stretch Level 3 Student's Book & Workbook Multi-Pack A with Online Practice　著者名：Susan Stempleski　出版社：Oxford University Press　(ISBN: 978-0-19-460330-0)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English
Advanced class: TOEIC score (400～600)
Standard class: TOEIC score (300～400)

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (based on textbook chapter 2)
4. classroom activities (based on textbook chapter 3)
5. classroom activities (based on textbook chapter 4)
6. classroom activities (based on textbook chapter 5)
7. classroom activities (based on textbook chapter 6)
8. mid-term review
9. classroom activities (based on textbook chapter 7)
10. classroom activities (based on textbook chapter 8)
11. classroom activities (based on textbook chapter 9)
12. classroom activities (based on textbook chapter 10)
13.overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
English in Tune
　著者名:
Robert Hickling 他
　出版社:
National Geographic
　(978-4-86312-393-9)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Semester 1 review, Catching up
2. Which one is cheaper? (part 1)
3. Which one is cheaper? (part 2)
4. They`re very friendly. (part 1)
5. They`re very friendly, (part 2)
6. You can visit the zoo. (part 1)
7. You can visit the zoo, (part 2)
8. Review of material covered so far.
9. Is there a coffee shop? (part 1)
10. Is there a coffee shop? (part 2)
11. I had a good time.
12. I`m going to go by car.
13. Overall review.

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[ 成績評価方法 ]
2 video presentations (35% each), attendance (15%), class participation (15%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Individual feedback concerning tests or assignments will be given via private chat message during class or sent to students` personal e-mail address. General feedback may be be given via Manaba.

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 1(4th edition), Student Book with Online Practice　著者名:Wilson, Ken　出版社:Oxford University Press. (978-0194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 玉井　美香 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Classroom Activities (based on textbook chapter 7)
3. Classroom Activities (based on textbook chapter 7)
4. Classroom Activities (based on textbook chapter 8)
5. Classroom Activities (based on textbook chapter 8)
6. Classroom Activities (based on textbook chapter 9)
7. Classroom Activities (based on textbook chapter 9)
8. Classroom Activities (based on textbook chapter 10)
9. Classroom Activities (based on textbook chapter 10)
10. Classroom Activities (based on textbook chapter 11)
11. Classroom Activities (based on textbook chapter 11)
12. Classroom Activities (based on textbook chapter 12)
13. Classroom Activities (based on textbook chapter 12)

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 玉井　美香 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎週の課題（小テスト）70%、積極的授業参加30%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題（小テスト）は授業内で解説を行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Changing Times, Changing Worlds　著者名：Joan McConnell / 山内　圭　出版社：成美堂　(9784791972074)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction/ classroom activities (based on textbook chapter 1)
2. classroom activities (based on textbook chapter 2)
3. classroom activities (based on textbook chapter 3)
4. classroom activities (based on textbook chapter 4)
5. classroom activities (based on textbook chapter 5)
6. classroom activities (based on textbook chapter 6)/ mid-term review
7. classroom activities (based on textbook chapter 7)
8. classroom activities (based on textbook chapter 8)
9. classroom activities (based on textbook chapter 9)
10. classroom activities (based on textbook chapter 10)
11. classroom activities (based on textbook chapter 11)
12. classroom activities (based on textbook chapter 12)
13. overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation 30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice (4th edition), Student Book 1　著者名:Wilson, Ken　出版社:Oxford University Press
(9780194060998)

[ 参考書(ISBN) ]
なし (none)

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.
Advanced class: TOEIC score (400～600)
Standard class: TOEIC score (300～400)

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation (class assignments etc.) is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 7)
3. classroom activities (based on textbook chapter 7)
4. classroom activities (based on textbook chapter 8)
5. classroom activities (based on textbook chapter 8)
6. classroom activities (based on textbook chapter 9)
7. classroom activities (based on textbook chapter 9)
8. mid-term review
9. classroom activities (based on textbook chapter 10)
10. classroom activities (based on textbook chapter 10)
11. classroom activities (based on textbook chapter 11)
12. classroom activities (based on textbook chapter 11)
13. classroom activities (based on textbook chapter 12)
14. classroom activities (based on textbook chapter 12)
15. Overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業参加（毎回の宿題提出）60%
期末レポート40%（manabaまたは直接メールで提出、詳細はkissシステムでご確認ください）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
World Link 1 with My World Link Online Practice and Student's eBook　著者名：Nancy Douglas; James R. Morgan　出版社：Cengage Learning.（9780357502143）

[ 参考書（ISBN） ]
なし（none）

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English ! | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and understand the course materials well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction + classroom activities (based on textbook chapter 7)
2. classroom activities (based on textbook chapter 7)
3. classroom activities (based on textbook chapter 8)
4. classroom activities (based on textbook chapter 8)
5. classroom activities (based on textbook chapter 9)
6. classroom activities (based on textbook chapter 9) + bonus review material
7. classroom activities (based on textbook chapter 10)
8. classroom activities (based on textbook chapter 10)
9. classroom activities (based on textbook chapter 11)
10. classroom activities (based on textbook chapter 11)
11. classroom activities (based on textbook chapter 12)
12. classroom activities (based on textbook chapter 12) + bonus review material
13. listening test + vocabulary & grammar test

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English ! | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[ 成績評価方法 ]

listening test (35%)　vocabulary & grammar test (30%)　speaking participation (35%)
リスニングテスト (35%)　ボキャブラリー＆文法テスト (30%)　話すことによる参加 (35%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Answers and explanations on each unit will be given in class,
with notes posted to Manaba afterwards if necessary.
各単元の解答と解説は、授業で行い、
その後、必要に応じてマナバにノートを掲示します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice, Level 1 Student Book
with Online Practice, 4th edition　著者名:Wilson, Ken　出版社:Oxford University Press. (978-0-19-406099-8 )

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 花崎　知子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook Unit 4)
3. classroom activities (based on textbook Unit 4)
4. classroom activities (based on textbook Unit 4)
5. classroom activities (based on textbook Unit 5)
6. classroom activities (based on textbook Unit 5)
7. classroom activities (based on textbook Unit 5)
8. Review 1
9. classroom activities (based on textbook Unit 6)
10. classroom activities (based on textbook Unit 6)
11. classroom activities (based on textbook Unit 6)
12. classroom activities (based on textbook Unit 6)
13. Review 2

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 花崎　知子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
平常点（coursework）（60%）、review tests（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
全体に対し（また必要に応じ、個別に）講評を入れます。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
New Headway Pre-Intermediate Fourth Edition Student's Book A （前期と同じ） 著者名：Soars, John and Liz 出版社：Oxford University Press. (978-019476956-3)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　章愛 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]

1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (based on textbook chapter 2)
4. classroom activities (based on textbook chapter 3)
5. classroom activities (based on textbook chapter 4)
6. classroom activities (based on textbook chapter 5)
7. classroom activities (based on textbook chapter 6)
8. mid-term review
9. classroom activities (based on textbook chapter 7)
10. classroom activities (based on textbook chapter 8)
11. classroom activities (based on textbook chapter 9)
12. classroom activities (based on textbook chapter 10)
13. overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　章愛 | | | |

[ 成績評価方法 ]
平常点（小テスト・口頭発表）（60%）、試験（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
詳細は授業で周知する

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：小テスト、口頭発表、試験、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：小テスト、口頭発表、試験、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：小テスト、口頭発表、試験、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：小テスト、口頭発表、試験、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：小テスト、口頭発表、試験、課題

[ 教科書（ISBN） ]
English Listening and Speaking Basics for the New TOEIC-style Listening Test
（共通）

＊前期に引き続き使用。 著者名：Sugino/Lauer　出版社：Asahi Press （978-4-255-15600-2）
TOEIC L&R テスト完全模試600
（田中クラス）

＊前期に引き続き使用。 著者名：柴山かつの/Paul Dorey/松本恵美子/成重寿　出版社：J リサーチ出版 （978-4-86392-380-5）
Best Practice for the TOEIC L&R Test
（田中クラス）

＊前期に引き続き使用。 著者名：Yoshizuka Hiroshi/Michael Schauerte　出版社：Seibido （978-4-7919-6030-9）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 吉岡　志津世 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (based on textbook chapter 2)
4. classroom activities (based on textbook chapter 3)
5. classroom activities (based on textbook chapter 4)
6. classroom activities (based on textbook chapter 5)
7. mid-term review
8. classroom activities (based on textbook chapter 6)
9. classroom activities (based on textbook chapter 7)
10. classroom activities (based on textbook chapter 8)
11. classroom activities (based on textbook chapter 9)
12. classroom activities (based on textbook chapter 10)
13. overall review

| 科目名 | 英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's enjoy speaking English! | | | |
| 担当者 | 吉岡　志津世 | | | |

[ 成績評価方法 ]
平常点（小テスト・口頭発表）（60%）、試験（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
・Unit 課題、小/テストはmanaba 提出、manaba にてフィードバック。
・プレゼン、グループワークは授業中に講評。

注）レポート、テスト、授業の伝達など、manaba を多用するので、必ず受信設定・登録をしておくこと。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：グループワーク、プレゼンテーション、Unit 課題、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：グループワーク、プレゼンテーション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：グループワーク、プレゼンテーション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：グループワーク、プレゼンテーション、Unit 課題、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：グループワーク、プレゼンテーション、Unit 課題、テスト

[ 教科書（ISBN） ]
前期に引き続き、English Listening and Speaking Basics for the New TOEIC-style Listening Test を使用する。
前期に引き続き、Perfect Practice for the TOEIC L&R Test を使用する。

（

）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 実践的な英語の習得 | | | |
| 担当者 | M. メリネ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
This course has been designed to help students develop their reading, listening and discussion skills. During class, students will participate in pair or group work sharing their opinions about general topics of the world. Through these activities, they also learn related vocabulary to each unit's topic category.

[ 授業概要 ]
Title: English II
Course Level: Elementary-Intermediate (初級～中級)
Course Content: General

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Class preparation tasks will be announced in class

[ 授業計画 ]
1.Class Introduction
2.Unit 1: Food
3.Unit 2: Festivals
4.Unit 1&2 Quiz / Assignment 1
5.Free topic
6.Unit 3: Cities
7.Unit 4: Jobs
8.Unit 3&4 Quiz / The Big Picture 1&2
9.Free topic
10.Unit 5: Music
11.Group presentations
12.Unit 6: Journeys
13.Unit 5&6 Quiz / Assignment 2
*This schedule is tentative and subject to change.

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 実践的な英語の習得 | | | |
| 担当者 | M. メリネ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Class Participation / In-class Activities ? 30%
Assignments / Presentation / Unit Quizzes ? 30%
Mid-term test? 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Manaba will be used for communication and feedback

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:pair or group work

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:discussion

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:presentation

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:discussion and presentation

[ 教科書(ISBN) ]
Inspire 2　著者名:Pamela Hartmann
Nancy Douglas
Andrew Boon　出版社:センゲージラーニング　(9781133963684)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
To build upon the English communication skills learned
in English 1 via English culture through English songs
学んだ英語のコミュニケーションスキルに基づいて構築する
英語の歌を通して英語の文化を介して英語1で

[ 授業概要 ]
英語の歌、スライド、ビデオ、音声、テキストによる解説など、多彩な内容でお届けします。
を学び、生徒と生徒のディスカッションを行います。

1 英語の詩や歌の歌詞のリズムと構造
2 英語の歌の伝記的・社会的背景
3 日本と違う英語の世界
4 英語の歌の意味
5 英語の歌の歌詞を学ぶことで、自分探しをする。

受講生は自分の好きな英語の歌を提案することができます。
受講生が選んだ曲と講師が選んだ曲が組み合わされます。

このコースで、文化としての英語の世界を旅することを楽しんでください。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and understand the course materials well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. はじめに; 歌1
2. 歌2
3. 歌3
4. 歌 4
5. 歌 5
6. 歌 6 + 曲の復習
7. テスト
8. 歌7
9. 歌8
10. 歌 9
11. 歌 10
12. 歌 11 + 曲の復習
13.テスト

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[ 成績評価方法 ]
中間テスト(45%)、最終試験(45%)、参加(10%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Lyrics and explanations of each song will be given in class.
Notes will be posted to Manaba afterwards.
各曲の歌詞と解説を授業中に行う。
ノートはその後、まなばに掲載します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
No textbook.
Handouts.
Internet resources.
教科書はありません。
配布資料。
インターネット上の資料

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
The aim of this course is to provide intermediate level students with the fundamental four skills required at college level English. This will be achieved through the use of activities containing realistic and stimulating situations found in everyday English conversations.

[ 授業概要 ]
Although a four skills textbook, great emphasis will be placed on listening exercises and encouraging speaking. As such, assessment will be strongly based on attendance and classroom participation. There will also be an expectation that students complete written exercises at home.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook for the lesson.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction, course outline and student requirements.
2. Unit One. How was your vacation?
3. Unit One
4. Unit Two. I think it's exciting!
5. Unit Two.
6. Unit Three. Do it before you're 30!
7. Unit Three
8. Midterm Assessment.
9. Unit Four. The best place in the world!
10. Unit Five. Where's the party?
11. Unit Five/ Begin Six
12. Unit Six. You should try it!
13. Term Assessment.

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Attendance 40%  Participation/homework 40%
Final assessment 20%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 2 (4th Edition) Student Book & Online Practice　著者名:Ken Wilson　出版社:Oxford University Press　(978-0-19-406114-8)

[ 参考書(ISBN) ]
none　(none)

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | グローバリゼーション、異文化、環境問題、 | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
現代のグローバリゼーションがもたらした諸問題について英語で読み解き、また発信できることを目指す。

[ 授業概要 ]
全世界の課題である環境問題、またそれを理解するうえで必要なグローバリゼーション、異文化などを英語で考え、英語で自分の考えを表現できることを目指す。必ず、各自予習復習を通し、英語のフレーズなどを増やすよう、努力すること。学生の積極的な授業参加を期待する。また、サブマテリアルとして映画などDVD教材を使う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
　各ユニットのトピックについて、事前にインターネットなどで調べておくこと。その際、疑問に思うことを必ず見つける。授業内でその疑問点の解明に努めることで、より深い知識を身につけることになるだろう。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。

[ 授業計画 ]
1. Chapter1 Global Perspectives
2. Chapter2 Climate Change1
3. Chapter2 Climate Change2
4. Chapter3 Water1
5. Chapter3 Water2
6. Chapter4 Clean Energy1
7. Review
8. Chapter5 Poverty1
9. Chapter5 Poverty2
10. Chapter6 Hunger1
11. Chapter6 Hunger2
12. Chapter7 Children1
13. Review

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | グローバリゼーション、異文化、環境問題、 | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート課題＋テスト60%、授業態度40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業内で解説をします。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Living as Global Citizens-An Introduction to the Sustainable Development Goals　著者名:Kazuya Oseki他　出版社:南雲堂　(978-4-523-17931-3)

[ 参考書(ISBN) ]
授業内で指示

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 花崎　知子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
簡単な英文を理解し、日英の言語文化に関心を持つ。

[ 授業概要 ]
This course aims to help you improve your basic language skills, in particular reading.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業日前日までに与えられる課題に指示通り、取り組む。また、講評は必ず目を通し、復習に活用すること。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Grammar 1
3. Vocabulary 1
4. Application 1
5. Review 1
6. Grammar 2
7. Vocabulary 2
8. Application 2
9. Grammar 3
10. Vocabulary 3
11. Application 3
12. Application 4
13. Review 2

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 花崎　知子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
平常点 (coursework)(60%)、Review tests(40%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Macmillan English Grammar in Context Intermediate Student Book Pack without key　著者名:Michael Vince　出版社:Macmillan　(9781405071444)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | SDGs: Sustainable Development Goals | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (presentation/textbook chapter 2)
4. classroom activities (presentation/ textbook chapter 2)
5. classroom activities (presentation/ textbook chapter 3)
6. classroom activities (presentation/ textbook chapter 3)
7. classroom activities (presentation/ textbook chapter 4)
8. classroom activities (presentation/ textbook chapter 4)
9. classroom activities (presentation/ textbook chapter 5)
10. classroom activities (presentation/ textbook chapter 5)
11. classroom activities (presentation/ textbook chapter 6)
12. classroom activities (presentation/ textbook chapter 6)
13. classroom activities (presentation/ textbook chapter 7)
14. classroom activities (presentation/ textbook chapter 7)
15. Overall review

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | SDGs: Sustainable Development Goals | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内アクティビティ 60%（プレゼンテーション課題ほか）
期末レポート 40%（manabaまたは直接メールで提出、詳細はkissシステムでご確認ください）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
SDGs and Global Issues/映像メディアで学ぶSDGs　著者名：（編著） 山本五郎　Jonathan Brown
　出版社：松柏社 （978-4-88198-773-5）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中村　英江 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
基礎的な表現を学習し、専門分野への応用を試みる。

[ 授業概要 ]
基礎的な英語力を養うために、毎時間、小テストをします。
本講義で扱う教材は、栄養学や食物化学に関連する内容です。
これまでに学習してきた基礎的な語彙や表現から始まり、やや難しいもの、さらに専門分野にも対応した英語が幅広く学習できることを目的とします。
これまでに培ってきた文法事項の復習をしながら、またそれらを活用できるように言語活動を積極的に行っていきましょう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
小テストの対策は必ず行う。プレゼンテーションの準備をする。
授業の予習復習を欠かさず行い、授業に取り組むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction(授業の進め方、授業内容、評価方法等の説明)
2. Conversation practice (Speaking and Writing)
3. Conversation practice Unit 2
4. Classroom activities Unit 3
5. Conversation practice Unit 4
6. Presentation (1)-1
7. Presentation (1)-2
8. Classroom activities Unit 5
9. Conversation practice Unit 6
10. Conversation practice Unit 7
11. Presentation (2)-1
12. Presentation (2)-2
13. overall review

| 科目名 | 英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中村　英江 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト （15%）
プレゼンテーション（35%）
期末試験（35%）
授業への取り組み（15%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Speaking of Nutrition　著者名：Peter Vincent, Alan Meadows, and Naoko Nakazawa　出版社：Nan'un-do（南雲堂）（978-4-523-17827-9）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 実践的な英語の習得 | | | |
| 担当者 | M. メリネ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
This course has been designed to help students develop their reading, listening and discussion skills. During class, students will participate in pair or group work sharing their opinions about general topics of the world. Through these activities, they also learn related vocabulary to each unit's topic category.

[ 授業概要 ]
Title: English II
Course Level: Elementary-Intermediate (初級～中級)
Course Content: General

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Class preparation tasks will be announced in class

[ 授業計画 ]
1. Free conversation
2. Unit 7: Family
3. Unit 8: Nature
4. Unit 7&8 Quiz / The Big Picture 3&4
5. Unit 9: Happiness
6. Presentations
7. Unit 10: Conversation
8. Unit 9&10 Quiz
9. Free topic
10. Free topic
11. Animation or movie / discussion
12. Letters / emails
13. Final test

*This schedule is tentative and subject to change.

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 実践的な英語の習得 | | | |
| 担当者 | M. メリネ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Class Participation / In-class Activities ? 30%
Assignments / Presentation / Unit Quizzes ? 30%
Mid-term test? 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Manaba will be used for communication and feedback

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:pair or group work

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:discussion

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:presentation

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:discussion and presentation

[ 教科書(ISBN) ]
inspire 2　著者名:Pamela Hartmann
Nancy Douglas
Andrew Boon　出版社:センゲージラーニング　(ISBN 978-1-133-96368-4)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
To build upon the English communication skills learned
in English 1 via English culture through English songs
学んだ英語のコミュニケーションスキルに基づいて構築する
英語の歌を通して英語の文化を介して英語1で

[ 授業概要 ]
英語の歌、スライド、ビデオ、音声、テキストによる解説など、多彩な内容でお届けします。
を学び、生徒と生徒のディスカッションを行います。

1 英語の詩や歌の歌詞のリズムと構造
2 英語の歌の伝記的・社会的背景
3 日本と違う英語の世界
4 英語の歌の意味
5 英語の歌の歌詞を学ぶことで、自分探しをする。

受講生は自分の好きな英語の歌を提案することができます。
生徒が選んだ曲と先生が選んだ曲の両方が取り上げられる予定です。

このコースで、文化としての英語の世界を旅することを楽しんでください。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and understand the course materials well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. はじめに; 歌1
2. 歌2
3. 歌3
4. 歌 4
5. 歌 5
6. 歌 6 + 曲の復習
7. テスト
8. 歌7
9. 歌8
10. 歌 9
11. 歌 10
12. 歌 11 + 曲の復習
13.テスト

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[ 成績評価方法 ]
中間テスト(45%)、最終試験(45%)、参加(10%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Lyrics and explanations of each song will be given in class.
Notes will be posted to Manaba afterwards.
各曲の歌詞と解説を授業中に行う。
ノートはその後、まなばに掲載します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
No textbook. Handouts.
教科書はありません。配布資料

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
The aim of this course is to provide intermediate level students with the fundamental four skills required at college level English. This will be achieved through the use of activities containing realistic and stimulating situations found in everyday English conversations.

[ 授業概要 ]
Although a four skills textbook, great emphasis will be placed on listening exercises and encouraging speaking. As such, assessment will be strongly based on attendance and classroom participation. There will also be an expectation that students complete written exercises at home.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook for the lesson.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction, course outline and student requirements.
2. Unit Seven. There are too many stores!
3. Unit Seven.
4. Unit Eight. I like people who are smart.
5. Unit Eight.
6. Unit Nine. What were you doing?
7. Midterm Assessment.
8. Unit Ten. It must be an earthquake!
9. Unit Ten.
10. Unit Eleven. I use to sing.
11. Unit Eleven.
12. Unit Twelve. If you live downtown...
13. Term Assessment.

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Attendance 40% Participation/Homework 40% Term Test 20%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 2, 4th Edition Student Book　著者名:Ken Wilson　出版社:Oxford University Press　(978-0-19-406114-8)

[ 参考書(ISBN) ]
none　(none)

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | グローバリゼーション、異文化、環境問題 | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
現代のグローバリゼーションがもたらした諸問題について英語で読み解き、また発信できることを目指す。

[ 授業概要 ]
全世界の課題である環境問題、またそれを理解するうえで必要なグローバリゼーション、異文化などを英語で考え、英語で自分の考えを表現できることを目指す。必ず、各自予習復習を通し、英語のフレーズなどを増やすよう、努力すること。学生の積極的な授業参加を期待する。また、サブマテリアルとして映画などDVD教材を使う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
　各ユニットのトピックについて、事前にインターネットなどで調べておくこと。その際、疑問に思うことを必ず見つける。授業内でその疑問点の解明に努めることで、より深い知識を身につけることになるだろう。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。

[ 授業計画 ]
1. Chapter8 Gender1
2. Chapter8 Gender2
3. Chapter9 Refugees1
4. Chapter9 Refugees2
6. Extra Culture and religions1
7. Extra Culture and religions2
8. Review
9. Chapter12 Plastic Waste1
10. Chapter12 Plastic Waste2
11. Partnership1
12. Partnership2
13. Review

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | グローバリゼーション、異文化、環境問題 | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート課題＋テスト（60%）、授業態度（40%）
テストは実施後返却し、各自が自分の答案を見直す機会を設ける。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
返却後、授業内で解説します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Living as Global Citizens-An Introduction to the Sustainable Development Goals　著者名：Kazuya Oseki他　出版社：南雲堂 （978-4-523-17931-3 ）

[ 参考書（ISBN） ]
授業内で指示

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 花崎　知子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
簡単な英文を理解し、日英の言語文化について理解を深める。

[ 授業概要 ]
This course aims to help you improve your basic language skills, in particular reading.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内で指定された箇所(練習問題や作文)、または与えられた課題を必ず仕上げてきて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. grammar 1
3. vocabulary 1
4. application 1
5. Review 1
6. grammar 2
7. vocabulary 2
8. application 2
9. Review 2
10. grammar 3
11. vocabulary 3
12. application 3
13. Review 3

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 花崎　知子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
平常点（coursework）（60%）、review tests（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Grammar in Context Intermediate （前期と同じ） 著者名：Michael Vince 出版社：Macmillan （978-1-4050-7144-4）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | SDGs: Sustainable Development Goals | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 8)
3. classroom activities (presentation/textbook chapter 9)
4. classroom activities (presentation/ textbook chapter 9)
5. classroom activities (presentation/ textbook chapter 10)
6. classroom activities (presentation/ textbook chapter 10)
7. classroom activities (presentation/ textbook chapter 11)
8. classroom activities (presentation/ textbook chapter 11)
9. classroom activities (presentation/ textbook chapter 12)
10. classroom activities (presentation/ textbook chapter 12)
11. classroom activities (presentation/ textbook chapter 13)
12. classroom activities (presentation/ textbook chapter 13)
13. classroom activities (presentation/ textbook chapter 14)
14. classroom activities (textbook chapters 14)
15. Overall review

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | SDGs: Sustainable Development Goals | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内アクティビティ 60%（プレゼンテーション課題ほか）
期末レポート 40%（manabaまたは直接メールで提出、詳細はkissシステムでご確認ください）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
SDGs and Global Issues/映像メディアで学ぶSDGs　著者名：（編著） 山本五郎　Jonathan Brown
　出版社：松柏社 （978-4-88198-773-5 ）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

S02157 [ CH2-002 ]

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中村　英江 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
基礎的な表現を学習し、専門分野への応用を試みる。

[ 授業概要 ]
後期においても、継続的に基礎的な英語力を養うために、毎時間、小テストをします。
本講義で扱う教材は、栄養学や食物化学に関連する内容です。
これまでに学習してきた基礎的な語彙や表現から始まり、やや難しいもの、さらに専門分野にも対応した英語が幅広く学習できることを目的とします。
これまでに培ってきた文法事項の復習をしながら、またそれらを活用できるように言語活動を積極的に行っていきましょう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
小テストの対策は必ず行う。プレゼンテーションの準備をする。
授業の予習復習を欠かさず行い、授業に取り組むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction(前期の復習)
2. Classroom activities Unit 8 (Planning a recap)
3. Classroom activities Unit 9 (writing)
4. Conversation practice Unit 10
5. Classroom activities Unit 11 and 12
6. Presentation (1)-1
7. Presentation (1)-2
8. Classroom activities Unit 13
9. Conversation practice Unit 14
10. Classroom activities Unit 15
11. Presentation (2)-1
12. Presentation (2)-2
13. overall review

| 科目名 | 英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中村　英江 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト （15%）
プレゼンテーション（35%）
期末試験（35%）
授業への取り組み（15%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Speaking of Nutrition　著者名：Peter Vincent, Alan Meadows, and Naoko Nakazawa　出版社：Nan'un-do（南雲堂）（978-4-523-17827-9）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 海外日本語教育事情 | 前期 | 実習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 海外での日本語教育研修 | | | |
| 担当者 | 安原　順子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
海外の日本語教育の現場を実際に体験することを目標とする。

[ 授業概要 ]
海外日本語教育事情では、大学で学んだ日本語や日本語の教授法に関する知識が、実際の日本語授業ではどのように生かせるかを、海外で実体験として学ぶ。2週間の短期日本語教育研修で、実習や授業補助を通して、現場の日本語教育を経験し、教授法や異文化間のコミュニケーションを実際に体験する。研修後は、日本語教師という仕事がより身近に感じられるようになる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
渡航までに、オークランド工科大学からの課題に対する準備を済ませること。

[ 授業計画 ]
1および15は神戸女子大学での授業、2～14はAUTでの日本語教育研修の授業計画である。
1. 神戸女子大学での事前指導
(1)授業の課題準備
(2)NZ事情
(3)ホームステイについての説明
2. オリエンテーション 授業内容の紹介、教員紹介とキャンパス・ツアーによるキャンパス案内。
3. 日本語授業の見学①
4. 日本語授業の見学②
3・4ではプログラム前半に行われる日本語会話(初級～中級)、日本語文法(初級～中級)などの授業に参加し、英語を使用した日本語の授業がどのように行われるかを見学する。
5. 英語授業(JSL)の見学
外国人学生のための英語授業を見学する。
6. 英語による講義①
7. 英語による講義②
6・7では教えるために必要な教授法理論を英語による講義で学習する。
8. 文化　マオリ語・マオリ文化を学ぶ
9. 演習①
10. 演習②
11. 9～12では主としてプログラムの後半に行われる日本語会話(初級～中級)、日本語文法(初級～中級)、漢字などの授業に参加、授業の補助や日本語教授を体験する。
12. AUT学生との交流
日本語学科の学生、またはその他の学科の学生と日本語および英語を使用した交流会を行う。
13. ミーティング
研修についての意見交換と反省、および今後の予定を確認する。

| 科目名 | 海外日本語教育事情 | 前期 | 実習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 海外での日本語教育研修 | | | |
| 担当者 | 安原　順子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
以下の3点により、担当教員が評価する。
(1)AUT実習担当者からの成績表
(2)AUT実習担当者からのコメント
(3)研修後に提出するレポート

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
帰国後、教育実習内容について詳細にコメントする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:実習の評価、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:実習の評価、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:実習の評価、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:実習の評価、レポート

[ 教科書(ISBN) ]
事前指導中に指示する。

[ 参考書(ISBN) ]
事前指導中に指示する。

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. conversation skills(1): opening
3. conversation skills(2): exchanges
4. conversation skills(3): politeness
5. speech skills(1): choosing topics
6. speech skills(2): organization
7. speech skills(3): students' speeches/ Mid-term review
8. presentation skills(1): choosing topics
9. presentation skills(2): organization
10. presentation skills(3): material preparation
11. presentation skills(4): physical message
12. presentation skills(5): audience engagement
13. presentation skills(6): students' presentations/ Overall review

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%
積極的授業参加30%、プレゼンテーション30%、期末テスト 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
What A World Reading 1 Student Book Amazing Stories from Around The Globe 著者名:Milada Broukal 出版社:Longman (9780132472678)

[ 参考書(ISBN) ]
none (none)

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. スチュアート | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills.
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと

[ 授業計画 ]
1. Course Introduction
Focus1: Are you Thomas? &(or) Focus2: What kind of bike do you have?
2. Conversation1: Your City & Conversation2: Your Neighborhood
3. Foucs3: Do you like to collect things?
4. Fous4: Do you usually drive to work?
5. Conversation4: Evenings
6. Focus5: How was the weather? & Conversation5: Holidays
7. Focus6: What's your sister's name? & Focus7: What does your brother do?
8. Foucs8: Where is he? & Situation1: Looking for Something
9. Focus9: Where's the Northside Immigration Office?
10. Situation2: Asking for and Giving Directions
11. Focus10: What can you do in Odaiba?
12. Focus11: Where should I go sightseeing in New York?
13. Review & Final Test

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. スチュアート | | | |

[ 成績評価方法 ]
Participation: 40%, Speaking: 30%, Final Test: 30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業内でフィードバック実施

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

[ 教科書(ISBN) ]
Challenger $\beta$ 1　著者名:ECC　出版社:ECC

[ 参考書(ISBN) ]
無し　著者名:none　出版社:none　(none)

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中村　英江 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Unit 1 (1) : grammar, listening
3. Unit 1 (2) : conversation practice
4. Unit 2 (1) : grammar, listening
5. Unit 2 (2) : conversation practice
6. Unit 3 (1) : grammar, listening
7. Unit 3 (2) : conversation practice
8. Unit 4 (1) : grammar, listening
9. Unit 4 (2) : conversation practice
10. Unit 5 : grammar and conversation activities
11. Unit 6 : grammar and conversation activities
12. Presentation
13. Overall review

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中村　英江 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業参加度（発言等） 40%、口頭発表 30%、小テスト 30%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Communicate in English with The Devil Wears Prada ／『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語　著者名：Aline Brosh McKenna　出版社：松柏社　(978-4-88198-712-4)

[ 参考書（ISBN） ]
To be advised in class　著者名：none　出版社：none　(none)

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 玉井　美香 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Classroom Activities (based on textbook unit 1)
3. Classroom Activities (based on textbook unit 1)
4. Classroom Activities (based on textbook unit 2)
5. Classroom Activities (based on textbook unit 2)
6. Classroom Activities (based on textbook unit 3)
7. Classroom Activities (based on textbook unit 3)
8. Classroom Activities (based on textbook unit 4)
9. Classroom Activities (based on textbook unit 4)
10. Classroom Activities (based on textbook unit 5)
11. Classroom Activities (based on textbook unit 5)
12. Presentation
13. Overall Review

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 玉井　美香 | | | |

[ 成績評価方法 ]
積極的授業参加30%、プレゼンテーション30%、期末テスト 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Starting Off with Role Play and Discussion　著者名:Eric Bray　出版社:南雲堂 (9784523178781)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. メリネ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills.
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと

[ 授業計画 ]
1. L1 How are you? L2 Nice to meet you.
2.L3 Can you say that again? L4 Nice to meet you.
3.English in action
4.L5 I love pop! L6 My favorite movie is…
5.L7 What time is it? L8 Would you try kayaking?
6.English in action
7.L9 Do you have any brothers? L10 She's pretty smart.
8.L11 I love your shirt. L12 What's she wearing?
9.English in action
10.L13 When do you get up? L14 When do you do there?
11.L15 What do you do first? L16 What are you doing?
12.English in action
13.Presentations

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. メリネ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Class participation 70%,　presentation 30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Manaba will be used for communication and feedback

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:group work

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:group work

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:presentation

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:discussion

[ 教科書(ISBN) ]
Speak Now 1　著者名:Jack C. Richards
David Bohlke
　出版社:Oxford　(978-0-19-403015-1)

[ 参考書(ISBN) ]
なし　著者名:none　出版社:none　(none)

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. conversation skills(1): opening
3. conversation skills(2): exchanges
4. conversation skills(3): politeness
5. speech skills(1): choosing topics
6. speech skills(2): organization
7. speech skills(3): students' speeches/ Mid-term review
8. presentation skills(1): choosing topics
9. presentation skills(2): organization
10. presentation skills(3): material preparation
11. presentation skills(4): physical message
12. presentation skills(5): audience engagement
13. presentation skills(6): students' presentations/ Overall review

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%
積極的授業参加30%、プレゼンテーション30%、期末テスト 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
What A World Reading 1 Student Book Amazing Stories from Around The Globe　著者名:Milada Broukal　出版社:Longman　(9780132472678)

[ 参考書(ISBN) ]
なし　(none)

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. シンクレア | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Course Introduction
Focus1: Are you Thomas? &(or) Focus2: What kind of bike do you have?
2. Conversation1: Your City & Conversation2: Your Neighborhood
3. Foucs3: Do you like to collect things?
4. Fous4: Do you usually drive to work?
5. Conversation4: Evenings
6. Focus5: How was the weather? & Conversation5: Holidays
7. Focus6: What's your sister's name? & Focus7: What does your brother do?
8. Foucs8: Where is he? & Situation1: Looking for Something
9. Focus9: Where's the Northside Immigration Office?
10. Situation2: Asking for and Giving Directions
11. Focus10: What can you do in Odaiba?
12. Focus11: Where should I go sightseeing in New York?
13. Review & Final Test

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. シンクレア | | | |

[ 成績評価方法 ]
Participation: 40%, Speaking: 30%, Final Test: 30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業内でフィードバック実施

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

[ 教科書(ISBN) ]
Challenger $\beta$1　著者名:ECC　出版社:ECC

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class. There will be a weekly listening homework assignment
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Chapter #1 relationships
3. Chapter #1: continued
4. Chapter #2: emotions
5. Chapter #2 continued
6. Chapter #3 vacation/ trips
7. vacation- continued.. review
8. Mid-term quiz
9. Chapter #4 likes/dislikes
10. lChapter #4 continued
11. Chapter #5: excuses
12. Chapter #5 continued
13. FInal exam

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[ 成績評価方法 ]
Exams 60%, Class attendance/participation 20%, homework 20%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
English Firsthand #2　出版社:Oxford　(978-9880030604)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 前田　葵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. chapter 1: It's A Genuine Pleasure To Do Business With You
3. chapter 1: It's A Genuine Pleasure To Do Business With You
4. chapter 2: I've Never Heard Of Anything So Intelligent In My Life
5. chapter 2: I've Never Heard Of Anything So Intelligent In My Life
6. chapter 3: I'll Pick You Up Along About 8:30, If That's All Right
7. chapter 3: I'll Pick You Up Along About 8:30, If That's All Right
8. Mid-term review
9. chapter 4: Have You A Table For Two?
10. chapter 4: Have You A Table For Two?
11. chapter 5: Men With That Much Dough Are Never A Little Old
12. chapter 5: Men With That Much Dough Are Never A Little Old
13. chapter 6: I Got An Aunt I Want To Get A Doctor Right Away

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 前田　葵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Participation 30%, Short assessments 30%, Final assessment 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manaba を通じて講評をフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

[ 教科書(ISBN) ]
How To Marry A Millionaire　著者名:曽根田憲三(ほか)　出版社:開文社　(978-4875713746)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | English: Passport to the World | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introductions, Essential English
2. I`ve been running (part 1)
3. I`ve been running (part 2)
4. I wonder what it`s about? (part 1)
5. I wonder what it`s about? (part 2)
6. It was painted by a street artist (part 1)
7. It was painted by a street artist (part 2)
8. Review of material covered so far.
9. Who`s your best friend? (part 1)
10. Who`s your best friend? (part 2)
11. Gotta have it!
12. He`d never seen the desert.
13. Overall review

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | English: Passport to the World | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[ 成績評価方法 ]
2 video presentations (35% each),attendance (15%), class participation (15%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Individual feedback concerning tests or assignments will be given via private chat message during class or sent to students` personal e-mail address. General feedback may be be given via Manaba.

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 3 (4th edition) Student Book with Online Practice 著者名:Ken Wilson, Alice Savage 出版社:Oxford University Press (9780194061292)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Discussing global issues in English | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills.
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 1)
3. classroom activities (presentation/textbook chapter 2)
4. classroom activities (presentation/ textbook chapter 2)
5. classroom activities (presentation/ textbook chapter 3)
6. classroom activities (presentation/ textbook chapter 3)
7. classroom activities (presentation/ textbook chapter 4)
8. classroom activities (presentation/ textbook chapter 4)
9. classroom activities (presentation/ textbook chapter 5)
10. classroom activities (presentation/ textbook chapter 5)
11. classroom activities (presentation/ textbook chapter 6)
12. classroom activities (presentation/ textbook chapter 6)
13. classroom activities (presentation/ textbook chapter 7)
14. classroom activities (presentation/ textbook chapter 7)
15. Overall review

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Discussing global issues in English | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内アクティビティ（プレゼンテーション等）60%
期末レポート 40%（ manabaまたは直接メールで提出、詳細はmanabaでご確認ください）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
CLIL 英語で学ぶ国際問題[改訂版]　著者名：笹島 茂 著/ 池田 真 著/ 山崎 勝 著/ 千田 享 著/ 藤澤さとみ 著/ 福島純子 著/ 仲谷 都 著/ 油木田美由紀 著　出版社：三修社　(978-4-384-33513-2 C1082)

[ 参考書（ISBN） ]
To be advised in class　著者名：none　出版社：none　(none)

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of relevant English knowledge and skills.
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on developing an understanding of vocabulary related to food and nutrition issues. The course is designed to help students understand the English necessary for working in society, especially as it relates to health and nutrition.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。
授業では主に食物や栄養に関連した英単語を理解できるようにし、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.

[ 授業計画 ]
1. Course introduction + Unit 1. The major nutrients
2. Unit 2. Dietary Supplements
3. Unit 3. Food Allergies
4. Unit 4. The Obesity Time Bomb
5. Unit 5. Crash Diets + Review
6. Mid-term test
7. Unit 6. Diabetes
8. Unit 7. Food: A Miracle Cure?
9. Unit 8. Food Preservation
10. Unit 9. Food Safety
11. Unit 10. Vegetarianism
12. Unit 11. Eating Disorders + Review
13. Final test

| 科目名 | 外国語コミュニケーション Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[ 成績評価方法 ]
Mid-term test 45%
Final test 45%
Participation 10%
中間テスト 45%
期末テスト 45%
参加率10%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Answers and explanations on each unit will be given in class,
with notes posted to Manaba afterwards.
各単元の解答・解説は授業で行います。
その後、Manabaにノートをアップロード。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
A Matter of Taste 著者名:Akiko Tsuda, Chris Valvona, Masayo Obe
出版社:Nan'un-do (9784523177067)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement for practical daily usage of English
日常生活をこなせる英語コミュニケーション能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内で指定された箇所(練習問題や作文)、または与えられた課題を必ず仕上げてきて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. background(1): register/style/genre
3. background(2): register/style/genre(continued)
4. background(3): politeness
5. advanced speech skills(1): persuasive speeches
6. advanced speech skills(2): longer speeches
7. advanced speech skills(3): students' speeches/ Mid-term review
8. advanced presentation skills(1): longer, more detailed presentations
9. advanced presentation skills(2): questions and answers
10. advanced presentation skills(3): students' presentations
11. discussion skills(1): basics of argument
12. discussion skills(2): supporting your ideas
13. discussion skills(3): counterargument/ Overall review

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%
積極的授業参加30%、プレゼンテーション30%、期末テスト 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
What A World Reading 1: Amazing Stories from Around The Globe　著者名:Milada Broukal　出版社:Longman　(978-0-13-247267-8)

[ 参考書(ISBN) ]
none　(none)

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. スチュアート | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement for practical daily usage of English
日常生活をこなせる英語コミュニケーション能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと

[ 授業計画 ]
1. Course Introduction
Situation1: Making Introduction
2. Focus2: Where do you buy antiques?
3. Focus3: How often do you brush your teeth?
4. Conversation3: Exercise & Conversation4: Doing Exercise
5. Focus4: Who did you play squash with?
6. Focus5: What temple do you want to visit?
7. Focus9: Where are you going to play pool?
8. Focus8: What do you have to do tomorrow?
9. Conversation1: TV Shows & Conversation2: Movies
10. Foucs10: What does your boyfriend do in his free time?
Focus11: What's your brother's favorite novel?
11. Situation2: Shopping for Clothes
12. Focus6: How was Alaska? & Focus7: When did you go to Malaysia?
13. Review & Final Test

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. スチュアート | | | |

[ 成績評価方法 ]
Participation: 40%, Speaking: 30%, Final Test: 30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業内でフィードバック実施

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

[ 教科書(ISBN) ]
Challenger $\beta$ 2　著者名:ECC　出版社:ECC

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中村　英江 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement for practical daily usage of English
日常生活をこなせる英語コミュニケーション能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内で指定された箇所(練習問題や作文)、または与えられた課題を必ず仕上げてきて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Unit 7 (1) : grammar, listening
3. Unit 7 (2) : conversation practice
4. Unit 8 (1) : grammar, listening
5. Unit 8 (2) : conversation practice
6. Unit 9 : listening and conversation activities
7. Unit 10 : listening and conversation activities
8. Unit 11 (1) : grammar, listening
9. Unit 11 (2) : conversation practice
10. Unit 12 (1) : conversation activities
11. Unit 12 (2) : discussion
12. Presentation
13. Overall review

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中村　英江 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業参加度（発言等） 40%、口頭発表 30%、小テスト 30%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Communicate in English with The Devil Wears Prada／『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語　著者名：Aline Brosh McKenna　出版社：松柏社　(978-4-88198-712-4)

[ 参考書（ISBN） ]
To be advised in class　著者名：none　出版社：none　(none)

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 玉井　美香 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills.
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Classroom Activities (based on textbook unit 6)
3. Classroom Activities (based on textbook unit 6)
4. Classroom Activities (based on textbook unit 7)
5. Classroom Activities (based on textbook unit 7)
6. Classroom Activities (based on textbook unit 8)
7. Classroom Activities (based on textbook unit 8)
8. Classroom Activities (based on textbook unit 9)
9. Classroom Activities (based on textbook unit 9)
10. Classroom Activities (based on textbook unit 10)
11. Classroom Activities (based on textbook unit 10)
12. Presentation
13. Overall Review

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 玉井　美香 | | | |

[ 成績評価方法 ]
積極的授業参加30%、プレゼンテーション30%、期末テスト 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Starting Off with Role Play and Discussion　著者名:Eric Bray　出版社:南雲堂 (9784523178781)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. メリネ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement for practical daily usage of English
日常生活をこなせる英語コミュニケーション能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内で指定された箇所(練習問題や作文)、または与えられた課題を必ず仕上げてきて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1.□17 What's your place like? L18 Where can I get a lamp?
2.□19 Where's the mall? L20 Take a left.
3.English in practice
4.□21 How much is coffee? L22 Will you take $20?
5.□23 Do you ever buy books? L24 Your phone is cool!
6.English in practice
7.□25 Do you eat much fruit? L26 We need onions.
8.□27 Do you eat a big lunch? L28 How does it taste?
9.English in Action
10.□29 I had a great weekend. L30 What time did you call?
11.□31 You won't believe this! L32 What are your plans?
12.English in action
13.Conversation practice (all lessons)

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | M. メリネ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Class participation 70%,　presentation 30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Manaba will be used for communication and feedback

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記成績評価方法による。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:group work

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:group work

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:presentation

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:discussion

[ 教科書(ISBN) ]
Speak Now 1　著者名:Jack C. Richards
David Bohlke　出版社:Oxford　(978-0-19-403015-1)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement for practical daily usage of English
日常生活をこなせる英語コミュニケーション能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内で指定された箇所(練習問題や作文)、または与えられた課題を必ず仕上げてきて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. background(1): register/style/genre
3. background(2): register/style/genre(continued)
4. background(3): politeness
5. advanced speech skills(1): persuasive speeches
6. advanced speech skills(2): longer speeches
7. advanced speech skills(3): students' speeches/ Mid-term review
8. advanced presentation skills(1): longer, more detailed presentations
9. advanced presentation skills(2): questions and answers
10. advanced presentation skills(3): students' presentations
11. discussion skills(1): basics of argument
12. discussion skills(2): supporting your ideas
13. discussion skills(3): counterargument/ Overall review

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Active participation30%, Presentation 30%, Final assessment(Test) 40%
積極的授業参加30%、プレゼンテーション30%、期末テスト 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
What A World Reading 1: Amazing Stories from Around The Globe　著者名:Milada Broukal　出版社:Longman　(978-0-13-247267-8)

[ 参考書(ISBN) ]
なし　(none)

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. シンクレア | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement for practical daily usage of English
日常生活をこなせる英語コミュニケーション能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと

[ 授業計画 ]
1. Course Introduction
Situation1: Making Introduction
2. Focus2: Where do you buy antiques?
3. Focus3: How often do you brush your teeth?
4. Conversation3: Exercise & Conversation4: Doing Exercise
5. Focus4: Who did you play squash with?
6. Focus5: What temple do you want to visit?
7. Focus9: Where are you going to play pool?
8. Focus8: What do you have to do tomorrow?
9. Conversation1: TV Shows & Conversation2: Movies
10. Foucs10: What does your boyfriend do in his free time?
Focus11: What's your brother's favorite novel?
11. Situation2: Shopping for Clothes
12. Focus6: How was Alaska? & Focus7: When did you go to Malaysia?
13. Review & Final Test

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. シンクレア | | | |

[ 成績評価方法 ]
Participation: 40%, Speaking: 30%, Final Test: 30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業内でフィードバック実施

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

[ 教科書(ISBN) ]
Challenger $\beta$2　著者名:ECC　出版社:ECC

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement for practical daily usage of English
日常生活をこなせる英語コミュニケーション能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内で指定された箇所(練習問題や作文)、または与えられた課題を必ず仕上げてきて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Summer review: semester introduction
2. Chapter 6: Traditions
3. Chapter 6: continued
4. Chapter 7: past events/ memories
5. Chapter 7: continued
6. Chapter review
7. Mid-term quiz
8. Quiz review; chapter 8-events
9. chapter 8-continued
10. Chapter 9- advice
11. Chapter 9- continued
12. FInal quiz
13. Review

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[ 成績評価方法 ]
Exams 70%, Class attendance/participation, homework 30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
English Firsthand #2 (978-9880030604)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 前田　葵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement for practical daily usage of English
日常生活をこなせる英語コミュニケーション能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内で指定された箇所(練習問題や作文)、または与えられた課題を必ず仕上げてきて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. chapter 7: We've Got To Get A Doctor Right Away
3. chapter 8: I'm Afraid We Must Say Goodbye
4. chapter 9: I Think It's The Most Beautiful Sight In The Whole World
5. chapter 9: I Think It's The Most Beautiful Sight In The Whole World
6. chapter 10: Haven't We Met Before?
7. chapter 11: I'm Crazy About You, But…
8. Mid-term review
9. chapter 12: You Know As Well As I Do That Money Isn't Everything
10. chapter 12: You Know As Well As I Do That Money Isn't Everything
11. chapter 13: Mr. Hanley Would Like To Know If There's To Be A Maid Of Honor
12. chapter 13: Mr. Hanley Would Like To Know If There's To Be A Maid Of Honor
13. chapter 14: Who Said I Was In Love With A Young Man?

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 前田　葵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
Participation 30%, Short assessments 30%, Final assessment　40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manaba を通じて講評をフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:Short Assessments and Final Assessment

[ 教科書(ISBN) ]
How To Marry A Millionaire　著者名:曽根田憲三(ほか)　出版社:開文社　(978-4875713746)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Refine your English Skills | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement for practical daily usage of English
日常生活をこなせる英語コミュニケーション能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内で指定された箇所(練習問題や作文)、または与えられた課題を必ず仕上げてきて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introductions, Essential English
2. I`ve been running (part 1)
3. I`ve been running (part 2)
4. I wonder what it`s about? (part 1)
5. I wonder what it`s about? (part 2)
6. It was painted by a street artist (part 1)
7. It was painted by a street artist (part 2)
8. Review of material covered so far.
9. Who`s your best friend? (part 1)
10. Who`s your best friend? (part 2)
11. Gotta have it!
12. He`d never seen the desert.
13. Overall review

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Refine your English Skills | | | |
| 担当者 | D. ギルピン | | | |

[ 成績評価方法 ]
2 video presentations (35% each), attendance (15%), class participation (15%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Individual feedback concerning tests or assignments will be given via private chat message during class or sent to students` personal e-mail address. General feedback may be be given via Manaba.

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Smart Choice 3(4th edition), Student Book with Online Practice 著者名:Ken Wilson, Alice Savage 出版社:Oxford University Press (978-0194061292)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Discussing global issues in English | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of practical English skills.
実践的英語運用能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on oral communication and learning strategies to help students develop their speaking ability. They will be encouraged to speak as much as possible using pair and group work. The course is designed to help students practice the English necessary for working in society.
本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、様々な場面を想定した教材を用い、グループやペアーでの英語学習を通して英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。授業ではオーラルコミュニケーションを重視し、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Students will be expected to do assignments from the previous class.
前回の授業で与えられた課題等を必ず仕上げて、次の授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. classroom activities (based on textbook chapter 8)
3. classroom activities (presentation/textbook chapter 9)
4. classroom activities (presentation/ textbook chapter 9)
5. classroom activities (presentation/ textbook chapter 10)
6. classroom activities (presentation/ textbook chapter 10)
7. classroom activities (presentation/ textbook chapter 11)
8. classroom activities (presentation/ textbook chapter 11)
9. classroom activities (presentation/ textbook chapter 12)
10. classroom activities (presentation/ textbook chapter 12)
11. classroom activities (presentation/ textbook chapter 13)
12. classroom activities (presentation/ textbook chapter 13)
13. classroom activities (presentation/ textbook chapter 14)
14. classroom activities (presentation/ textbook chapter 14)
15. Overall review

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Discussing global issues in English | | | |
| 担当者 | 守家　輝 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内アクティビティ（プレゼンテーション等）60%
期末レポート 40%（ manabaまたは直接メールで提出、詳細はmanabaでご確認ください）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
CLIL 英語で学ぶ国際問題[改訂版]　著者名：笹島 茂 著/ 池田 真 著/ 山崎 勝 著/ 千田 享 著/ 藤澤さとみ 著/ 福島純子 著/ 仲谷 都 著/ 油木田美由紀 著　出版社：三修社（978-4-384-33513-2 C1082 ）

[ 参考書（ISBN） ]
To be advised in class　著者名：none　出版社：none（none）

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Remedial study toward the enhancement of relevant English knowledge and skills
日常生活をこなせる英語コミュニケーション能力の獲得

[ 授業概要 ]
The course aims to consolidate and develop the work that the students have done in their previous English studies. Emphasis will be put on developing an understanding of vocabulary related to food and nutrition issues. The course is designed to help students understand the English necessary for working in society, especially as it relates to health and nutrition.
Material related to other elements of English culture will also be presented.

本コースは将来、卒業後、学校や会社で直面するかもしれない外国人との英語によるコミュニケーションを受講生がスムーズに行うことができるようにするために、英語の実践力を養うことを目的としたクラスです。
授業では主に食物や栄養に関連した英単語を理解できるようにし、これまでの英語学習で身に付けた英語能力を更に伸ばし、堅実なものとする英語学習戦略を教授します。
その他、英語文化に関連する資料も紹介します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook or handouts well for the lesson of the day.

[ 授業計画 ]
1. Semester Introduction + Unit 12. Food Preservation
2. Unit 13. Diet and Pregnancy
3. Unit 14. Jamie Oliver's "Feed Me Better" Campaign
4. Unit 15. Becoming a Dietician: Why and How?
5. Review
6. Mid-term test
7. Song #1
8. Song #2
9. Song #3
10. Song #4
11. Song #5
12. Song #6 + Review
13. Final test

| 科目名 | 外国語コミュニケーションⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[ 成績評価方法 ]
Mid-term test 36% Final test 54% Participation 10%
中間テスト 36% 期末テスト 54% 参加率 10%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
Answers and explanations on each unit will be given in class,
with notes posted to Manaba afterwards.
各単元の解答・解説は授業で行います。
その後、Manabaにノートをアップロード。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
A Matter of Taste 著者名:Akiko Tsuda, Chris Valvona, Masayo Obe. 出版社:南雲堂 (9784523177067)

[ 参考書(ISBN) ]
Text file study notes.
テキストファイルの学習メモ。 著者名:Vanden

| 科目名 | 基礎Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅠ | | | |
| 担当者 | 西村　恭子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
「大学生としての学び」「キャリアマインド」の素地をつくる
1. 自立した大学生活の基本的なリズムをつくる
2. 自分の良さを知り、自信が持てるようになる
3. 4年間で頑張りたいと思うことを明確にする
4. 大学を卒業し、就職するには、日々の基礎力鍛錬が重要であることを認識し実践する

[ 授業概要 ]
充実した大学生活を送るために、4年間で何をどのように学ぶのかを考え、行動するきっかけを作るための授業です。ワークやグループディスカッションなどを通して、「自分」を見つめ直し、将来なりたい自分を描き、そのためにどのように大学生活を過ごしたらよいのかを自分で考え、行動する支援をします。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業ごとに与えられる課題に関する資料等をよく読み、授業内容を復習しておくこと。次回授業の課題について1週間の間に充分に考え、自分なりの考えをまとめて授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　神戸女子大学での学び
2. 大学生活の過ごし方　目標実現スキル　自己管理とタイムマネジメント
3. 行吉学園・神戸女子大学の歴史を学ぶ　行吉学園理事長をむかえて
4. 自己理解(1)「これまでの自分」「大学生の自分」「これからの自分」について考える
5. 自己理解(2) 「学生」としての力
6. 自己理解(3) 社会人基礎力
7. アセスメント検査解説　問題解決力を身につける
8. 新聞から生活・社会を読み解く　新聞記者を迎えて (学外特別講師)
9. コミュニケーショントレーニング(1) 合意形成・コンセンサス
10. 活躍する先輩に学ぶ　学科卒業生が語る「私の神女時代」
11. コミュニケーショントレーニング(2)アサーティブコミュニケーション
12. 大学生活の目標と行動計画の立案
13. ふりかえりとまとめ
＊授業計画の内容・順序は、進度・講師等の都合によって入替・変更することがあります。

| 科目名 | 基礎Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅠ | | | |
| 担当者 | 西村　恭子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
提出課題（30%）、毎週の小レポート（40%）、最終レポート（30%）により評価

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業中の課題、提出課題については個別に採点し返却 、フィードバックを実施
manabaでの提出課題、最終レポートについてはmanabaで個別に採点、フィードバックを実施

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：提出課題と小レポート、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：提出課題と小レポート、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：提出課題と小レポート、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：提出課題と小レポート、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：提出課題と小レポート、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
「MY LIFE MY CAREER」
著作・発行　神戸女子大学全学共通教育部

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅠ | | | |
| 担当者 | 田和　真希 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
「大学生としての学び」「キャリアマインド」の素地をつくる
1. 自立した大学生活の基本的なリズムをつくる
2. 自分の良さを知り、自信が持てるようになる
3. 4年間で頑張りたいと思うことを明確にする
4. 大学大学を卒業し、就職するには、日々の基礎力鍛錬が重要であることを認識し実施する

[ 授業概要 ]
充実した大学生活を送るために、4年間で何をどのように学ぶのかを考え、行動するきっかけを作るための授業です。「自分」を見つめ直し、将来なりたい自分を描き、そのためにどのように大学生活を過ごしたらよいのかを自分で考え、歩み出すあなたを応援します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
授業ごとに与えられる課題に関する資料をよく読み、授業内容を復習しておくこと。次回授業の課題について1週間の間に充分に考え、自分なりの考えをまとめて授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
第1回 イントロダクション 神戸女子大学での学び
第2回 行吉学園・神戸女子大学の歴史を学ぶ　行吉学園理事長をむかえて
第3回 目標実現スキル　自己管理とタイムマネージメント
第4回 自己理解(1)　「大学生の自分」「これまでの自分」について考える
第5回 自己理解(2)　「これからの自分」「学生としての力」について考える
第6回 自己理解(3)　社会人基礎力　第7回 アセスメント検査解説　問題解決力を身に付ける
第8回 ライフプランニングとは？
第9回 キャリアデザインとは？
第10回 コミュニケーショントレーニング(1)
第11回 コミュニケーショントレーニング(2)
第12回 新聞から生活・社会を読み解く　新聞記者による講義
第13回 活 躍する先輩に学ぶ　学科卒業生が語る「私の神女時代」
(授業計画の内容・順序は社会状況・進度の状況により入替・変更することがあります。)

| 科目名 | 基礎Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅠ | | | |
| 担当者 | 田和　真希 | | | |

[ 成績評価方法 ]
提出課題（75%）、最終レポート(25%)

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出課題は2回は評価・コメントを付けて返却する。（何回目の授業の提出課題かは未定）
まとめレポートは評価・コメントを付けて返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

[ 教科書（ISBN） ]
「MY LIFE MY CAREER」
著作・発行　神戸女子大学全学共通教育部

[ 参考書（ISBN） ]
なし　出版社:なし

| 科目名 | 基礎Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅠ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
「大学生としての学び」「キャリアマインド」の素地をつくる
1. 自立した大学生活の基本的なリズムをつくる
2. 自分の良さを知り、自信が持てるようになる
3. 4年間で頑張りたいと思うことを明確にする
4. 大学を卒業し、就職するには、日々の基礎力鍛錬が重要であることを認識し実践する

[ 授業概要 ]
充実した大学生活を送るために、4年間で何をどのように学ぶのかを考え、行動するきっかけを作るための授業です。キャリアコンサルタントの国家資格を持つ教員が、キャリア理論に基づいた講義を行い、ワークやグループディスカッションの指導を行います。これまでの自分を見つめ直して将来像を描き、そのためにどのように大学生活を過ごせばよいのかを、考え行動する支援をします。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
次回授業については、提示された資料などをよく読み、十分な予習をして臨むこと。また課題が授業内容の復習となるので、熟慮して取り組み、期限を守って提出すること。
各回、予習復習合わせて4時間程度

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　　神戸女子大学での学び
2. 行吉学園・神戸女子大学の歴史を学ぶ
　　行吉学園理事長を迎えて
3. 自己理解(1)　　大学生の自分について考える　時間の管理
4. 自己理解(2)　　これまでの、これからの自分について考える
5. 自己理解(3)　　学生としての力
6. 自己理解(4)　　社会人基礎力
7. 新聞から生活・社会を読み解く
　　新聞記者を迎えて(学外特別講師)
8. コミュニケーショントレーニング(1)
　　合意形成・コンセンサス
9. コミュニケーショントレーニング(2)
　　アサーティブコミュニケーション
10. 活躍する先輩に学ぶ　　学科卒業生が語る「私の神女時代」
11. アセスメント検査解説　　問題解決力を身に着ける
12. 行動計画の立案　　大学生活のプランを立てる
13. ふりかえりとまとめ

＊授業計画の内容と順序は、進度や都合によって変更したり入れ替えたりすることがあります。

| 科目名 | 基礎Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅠ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中に行う個人・グループワークの提出物、小テスト、レスポン(30%)、
毎授業後の課題(40%)、まとめの課題(30%)
Google、manabaで提出

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
提出物は個別に採点し、必要に応じてフィードバックを行う

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:提出課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:小テスト、レスポン

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:グループワークの態度、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワークの態度、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:提出課題

[ 教科書(ISBN) ]
「MY LIFE MY CAREER」
著作・発行　神戸女子大学全学共通教育部

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 基礎Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅠ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
「大学生としての学び」「キャリアマインド」の素地をつくる
1. 自立した大学生活の基本的なリズムをつくる
2. 自分の良さを知り、自信が持てるようになる
3. 4年間で頑張りたいと思うことを明確にする
4. 大学を卒業し、就職するには、日々の基礎力鍛錬が重要であることを認識し実践する

[ 授業概要 ]
充実した大学生活を送るために、4年間で何をどのように学ぶのかを考え、行動するきっかけを作るための授業です。キャリアコンサルタントの国家資格を持つ教員が、キャリア理論に基づいた講義を行い、ワークやグループディスカッションの指導を行います。これまでの自分を見つめ直して将来像を描き、そのためにどのように大学生活を過ごせばよいのかを、考え行動する支援をします。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
次回授業については、提示された資料などをよく読み、十分な予習をして臨むこと。また課題が授業内容の復習となるので、熟慮して取り組み、期限を守って提出すること。
各回、予習復習合わせて4時間程度

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　　神戸女子大学での学び
2. 行吉学園・神戸女子大学の歴史を学ぶ
　　行吉学園理事長を迎えて
3. 自己理解(1)　　大学生の自分について考える　時間の管理
4. 自己理解(2)　　これまでの、これからの自分について考える
5. 自己理解(3)　　学生としての力
6. 自己理解(4)　　社会人基礎力
7. 新聞から生活・社会を読み解く
　　新聞記者を迎えて(学外特別講師)
8. コミュニケーショントレーニング(1)
　　合意形成・コンセンサス
9. コミュニケーショントレーニング(2)
　　アサーティブコミュニケーション
10. 活躍する先輩に学ぶ　　学科卒業生が語る「私の神女時代」
11. アセスメント検査解説　　問題解決力を身に着ける
12. 行動計画の立案　　大学生活のプランを立てる
13. ふりかえりとまとめ

＊授業計画の内容と順序は、進度や都合によって変更したり入れ替えたりすることがあります。

| 科目名 | 基礎Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅠ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中に行う個人・グループワークの提出物、小テスト、レスポン(30%)、
毎授業後の課題(40%)、まとめの課題(30%)
Google、manabaで提出

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
提出物は個別に採点し、必要に応じてフィードバックを行う

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:提出課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:小テスト、レスポン

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:グループワークの態度、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワークの態度、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:提出課題

[ 教科書(ISBN) ]
「MY LIFE MY CAREER」
著作・発行　神戸女子大学全学共通教育部

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 基礎Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅠ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
「大学生としての学び」「キャリアマインド」の素地をつくる
1. 自立した大学生活の基本的なリズムをつくる
2. 自分の良さを知り、自信が持てるようになる
3. 4年間で頑張りたいと思うことを明確にする
4. 大学を卒業し、就職するには、日々の基礎力鍛錬が重要であることを認識し実践する

[ 授業概要 ]
充実した大学生活を送るために、4年間で何をどのように学ぶのかを考え、行動するきっかけを作るための授業です。キャリアコンサルタントの国家資格を持つ教員が、キャリア理論に基づいた講義を行い、ワークやグループディスカッションの指導を行います。これまでの自分を見つめ直して将来像を描き、そのためにどのように大学生活を過ごせばよいのかを、考え行動する支援をします。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
次回授業については、提示された資料などをよく読み、十分な予習をして臨むこと。また課題が授業内容の復習となるので、熟慮して取り組み、期限を守って提出すること。
各回、予習復習合わせて4時間程度

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　　神戸女子大学での学び
2. 行吉学園・神戸女子大学の歴史を学ぶ
　　行吉学園理事長を迎えて
3. 自己理解(1)　　大学生の自分について考える　時間の管理
4. 自己理解(2)　　これまでの、これからの自分について考える
5. 自己理解(3)　　学生としての力
6. 自己理解(4)　　社会人基礎力
7. 新聞から生活・社会を読み解く
　　新聞記者を迎えて(学外特別講師)
8. コミュニケーショントレーニング(1)
　　合意形成・コンセンサス
9. コミュニケーショントレーニング(2)
　　アサーティブコミュニケーション
10. 活躍する先輩に学ぶ　　学科卒業生が語る「私の神女時代」
11. アセスメント検査解説　　問題解決力を身に着ける
12. 行動計画の立案　　大学生活のプランを立てる
13. ふりかえりとまとめ

＊授業計画の内容と順序は、進度や都合によって変更したり入れ替えたりすることがあります。

| 科目名 | 基礎 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリア I | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中に行う個人・グループワークの提出物、小テスト、レスポン(30%)、
毎授業後の課題(40%)、まとめの課題(30%)
Google、manabaで提出

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
提出物は個別に採点し、必要に応じてフィードバックを行う

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:提出課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:小テスト、レスポン

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:グループワークの態度、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワークの態度、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:提出課題

[ 教科書(ISBN) ]
「MY LIFE MY CAREER」
著作・発行　神戸女子大学全学共通教育部

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 基礎Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅡ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
1. 女性を取り巻く社会環境や、働くこと、仕事についての基礎的な知識を得る
2. 世の中の職業を理解し、自分の適性をイメージできる
3. なりたい自分のキャリア像を明確にし、実現するための行動計画を立てる
4. 自分のキャリアデザインを他者にわかりやすく伝えることができる

[ 授業概要 ]
卒業後の進路選択に備えて、「女性の働き方」について学び、考える授業です。キャリアコンサルタントの国家資格を持った教員が、キャリア理論に基づいた講義を行い、ワークやグループディスカッションの指導を行います。女性を取り巻く社会状況全般について学ぶことに加えて、身近な女性へのキャリアインタビューなども行い、自身の将来像をより具体的にイメージできるよう支援します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
次回授業については、提示された資料などをよく読み、十分な予習をして臨むこと。また課題が授業内容の復習となるので、熟慮して取り組み、期限を守って提出すること。
各回、予習復習を合わせて4時間程度

[ 授業計画 ]
1.　イントロダクション　　ライフキャリアデザインとは何か
2.　女性のライフデザイン(1)　　社会との関わりと人生における役割
3.　女性のライフデザイン(2)　　働くとは仕事とは　様々な雇用形態と法律
4.　女性のライフデザイン(3)　　女性のライフコースと経済的自立
5.　就職にむけて(1)　　ウェブテストから自身の強みを知る
6.　就職にむけて(2)　　低学年時にやっておくべきこと
7.　シングルマザーの現状と問題　　支援者を迎えて(学外特別講師)
8.　女性の働く現場を知る　　企業の方を迎えて(学外特別講師)
9.　活躍する先輩に学ぶ　　内定を得た4年生に聞く就職活動
10.　コミュニケーショントレーニング　　ファシリテーション・プレゼンテーション
11.　自己表現と就職活動　　正しい文章表現と自己理解・社会理解
12.　女性のキャリアデザイン(1)　　キャリアインタビューの計画立案と準備
13.　女性のキャリアデザイン(2)　　キャリアインタビューの発表・共有　まとめ

※授業計画の内容と順序は、進度や都合によって変更したり入れ替えたりすることがあります。

| 科目名 | 基礎Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅡ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中に行う個人・グループワークの提出物、小テスト、レスポン(30%)、
毎授業後の課題(40%)、まとめの課題(30%)
Google、manabaで提出

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
提出物は個別に採点し、必要に応じてフィードバックを行う

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:提出課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:グループワークの態度、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:授業での発表態度
提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:提出課題

[ 教科書(ISBN) ]
「MY LIFE MY CAREER」
著作・発行　神戸女子大学全学共通教育部

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 基礎Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅡ | | | |
| 担当者 | 西村　恭子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
1. 女性を取り巻く社会環境や、働くこと、仕事についての基礎的な知識を得る
2. 世の中の職業を理解し、自分の適性をイメージできる
3. なりたい自分のキャリア像を明確にし、実現するための行動計画を立てる
4. 自分のキャリアデザインを他者にわかりやすく伝えることができる

[ 授業概要 ]
卒業後の進路選択に備えて、「働く意義」「女性の働き方」「社会で必要とされる力」についてワークやグループディスカッションを通して考えていきます。また、世の中の職業についての理解を深め、なりたい自分を具体的にイメージし、それを実現していくための行動計画を自分で考え、実行することを目指します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回予習復習合わせて4時間程度。
授業ごとに与えられる課題に各自取り組み、自分の考えを十分にまとめて授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　　ライフ・キャリアデザインとは何か
2. 女性のライフデザイン(1)　　社会とのかかわりと人生における役割
3. 女性のライフデザイン(2)　　女性のライフコース
4. 女性のキャリアデザイン(1)　経済的自立とファイナンシャルプラン
5. 女性のキャリアデザイン(2)　働くとは　仕事とは　　様々な雇用形態と法律
6. シングルマザーの現状と課題　　支援者を迎えて(学外特別講師)
7. 活躍する先輩に学ぶ　　4年生に聞く就職活動
8. 就職にむけて(1)　　ウェブテストによる性格と心の回復力診断
9. 就職にむけて(2)　　診断結果を活かして学生生活の充実を図る
10. 女性の働く現場を知る　　企業の方を迎えて(学外特別講師)
11. 自己表現力をつける　話し合いのスキル・ファシリテーション
12. 女性のライフ・キャリアデザイン(1) キャリアインタビューの計画立案と準備
13. 女性のライフ・キャリアデザイン(2) キャリアインタビューの発表・共有とふりかえり

＊授業計画の内容・順序は、進度・講師等の都合によって入替・変更することがあります。

| 科目名 | 基礎Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅡ | | | |
| 担当者 | 西村　恭子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
提出課題（30%）、毎週の小レポート（40%）、最終レポート（30%）により評価

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業中の課題、提出課題については個別に採点し返却 、フィードバックを実施
manabaでの提出課題、最終レポートについてはmanabaで個別に採点、フィードバックを実施

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：提出課題と小レポート、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：提出課題と小レポート、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：提出課題と小レポート、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：提出課題と小レポート、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
「MY LIFE MY CAREER」
著作・発行　神戸女子大学全学共通教育部

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅡ | | | |
| 担当者 | 田和　真希 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
1. 女性を取り巻く社会環境や、働くこと、仕事についての基礎的な知識を得る
2. 世の中の職業を理解し、自分の適性をイメージできる
3. なりたい自分のキャリア像を描き、実現するための行動計画を立てる
4. 自分のキャリアデザインを他者にわかりやすく伝えることができる

[ 授業概要 ]
卒業後の進路選択に備えて、「働く意義」「女性の働き方」「社会で必要とされる力」について
ワークやグループディスカッションを通して考えていきます。また、世の中の職業についての理
解を深め、なりたい自分を具体的にイメージし、それを実現していくための行動計画を自分で考
え、実行することを目指します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回予習復習合わせて4時間程度。
授業ごとに与えられる課題に各自取り組み、自分の考えを十分にまとめて授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　　ライフ・キャリアデザインとは何か
2. 女性のライフデザイン(1)　　社会とのかかわりと人生における役割
3. 女性のライフデザイン(2)　　女性のライフコース
4. 女性のキャリアデザイン(1)　　経済的自立とファイナンシャルプラン
5. 女性のキャリアデザイン(2)　　働くとは　仕事とは
6. 女性のキャリアデザイン(3)　　様々な雇用形態と法律
7. シングルマザーの現状と課題　支援者を迎えて(学外特別講師)
8. 活躍する先輩に学ぶ　　4年生に聞く就職活動
9. 就職にむけて(1)　　ウェブテストによる筆記試験対策
10. 就職にむけて(2)　　ウェブテストによる適性診断
11. 自己表現力をつける(1)　　正しい日本語表現　敬語
12. 自己表現力をつける(2)　　自分らしさを表現する・自己プレゼンテーション
13. 女性の働く現場を知る　　企業の方を迎えて (学外特別講師)

＊授業計画の内容・順序は、社会状況や進度状況等によって入替・変更することがありま

| 科目名 | 基礎Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅡ | | | |
| 担当者 | 田和　真希 | | | |

[ 成績評価方法 ]
提出課題 75%、まとめレポート 25%により評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
提出課題の2回は評価をしてコメントを付けて返却する。(何度目の授業の提出課題かは未定)
最終レポートは評価・コメントを付けて返却をする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

[ 教科書(ISBN) ]
「MY LIFE MY CAREER」
著作・発行　神戸女子大学全学共通教育部

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 基礎Ⅲ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅢ | | | |
| 担当者 | 田和　真希 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
1. 自身と社会に対する理解を深め、生涯を通じたキャリア形成、ライフプランをより明確にする
2. 他者の視点を尊重しつつ、自分の考え方や意見を整理し、論理的に正しい日本語で伝えることができる
3. 就業の場や活動の場に関する情報に触れ、今後の就職活動に必要な知識を得る
4. 社会のできごとに対し、多角的・公正に理解・判断する際の礎となる時事力を高める

[ 授業概要 ]
グループワークや課題への取り組みなどを通して、自己理解を深め、社会・業界への理解・判断を高めていくと共に、自分はどのような生き方、どのような働き方を目指すのか、各々のキャリアプラン・ライフプランを一段と具体化、明確化していく。対話力・自己表現の力といった社会人基礎力を高めることで、社会人になる準備をする。時事問題の解説を聞き、世界の動きを知る。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
経済・政治・社会現象など世の中の流れに関心をもつこと。そして自分のやりたいことを見つめ直し、かつ健康を考慮して、自分にとって「理想の人生」を具体的に考えてみる。

[ 授業計画 ]
第1回　イントロダクション　ライフプランニングとは？キャリアプランとは？
第2回　自己理解(1)　　社会人基礎力 社会人基礎力診断
第3回　自己理解(2)
第4回　自己理解(3)
第5回　コミュニケーション(1)アサーティブコミュニケーション
第6回　コミュニケ―ション(2)正しい日本語
第7回　就活(1)WEBテストによる筆記試験対策
第8回　就活(2)WEBテストによる適性診断
第9回　就活(3)自分を知り社会を知ることからはじめよう
第10回　社会理解(1)　時事問題
第11回　社会理解(2)　時事問題
第12回　社会理解(3)　時事問題
第13回　ふりかえり

＊＊授業計画の形式・内容・順序は、社会状況・進度状況によって入替・変更することがあります。

| 科目名 | 基礎Ⅲ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅢ | | | |
| 担当者 | 田和　真希 | | | |

[ 成績評価方法 ]
提出課題 75%、まとめレポート 25%により評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
提出課題の2回は評価をしてコメントを付けて返却する。(何度目の授業の提出課題かは未定)
最終レポートは評価・コメントを付けて返却をする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

[ 教科書(ISBN) ]
なし
資料はmanabaで公開する

[ 参考書(ISBN) ]
『女性のためのライフプランニング』 著者名:田和真希　出版社:大学教育出版　(978-4-86429-392-1)

| 科目名 | 基礎Ⅲ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅢ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
1.自身と社会に対する理解を深め、生涯を通じたキャリア形成、ライフプランをより明確にする
2.他者の視点を尊重しつつ、自分の考え方や意見を整理し、論理的に正しい日本語で伝えることができる
3.就職の場や活動の場に関する情報に触れ、今後の就職活動に必要な知識を得る
4.社会の出来事に対し、多角的・公正に理解・判断する際の礎となる時事力を高める

[ 授業概要 ]
就職活動に備えて、職業選択のための情報収集やその整理方法を学ぶと共に、ES作成や面接対策にもつながる、論理的で個性的なアウトプットの方法を身に着けます。キャリアコンサルタントの国家資格を持つ教員が、キャリア理論に基づいたワークやグループディスカッションの指導を行い、興味関心のある社会問題を通して自己理解を深められるよう支援を行います。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
次回授業については、提示された資料などをよく読み、十分な予習をして臨むこと。また課題が授業内容の復習となるので、熟慮して取り組み、期限を守って提出すること。
各回、予習復習合わせて4時間程度

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　　自己理解とは 社会理解とは　内的キャリアについて
2. コミュニケーション力(1)　論理パズルによる思考、行動パターン
3. コミュニケーション力(2)　ナラティブアプローチ　金の糸すごろく
4. 社会理解(1)　　複眼的な視点で時事問題を考える　記事集め
5. 社会理解(2)　ジェンダー問題とは何か
6. 自己理解(1)　ウェブテストから自身の強みを知る
7. 就職に向けて(1)　ウェブテストによる筆記試験対策
8. 就職に向けて(2)　　業界研究と職業調べ
9. 就職に向けて(3)　　就活に役立つビジネスマナー
10. 自己理解(2)　アセスメント検査を使った自己探索
11. 社会理解(3)　企業理念と採用ワーク
12. 自己理解(3)　収集した記事のシェア　ペアで考えるES
13. ふりかえりとまとめ

＊授業計画の内容と順序は、進度や都合によって変更したり入れ替えたりすることがあります。

| 科目名 | 基礎Ⅲ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅢ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中に行う個人・グループワークの提出物、小テスト、レスポン（30%）、
毎授業後の課題(40%)、まとめの課題（30%）
Google、manabaで提出

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出物は個別に採点し、必要に応じてフィードバックを行う

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:グループワークの態度、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:小テスト、レスポン
提出課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワークの態度、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:授業での発表態度
提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:授業での発表態度、提出物
小テスト、レスポン

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:提出課題

[ 教科書（ISBN） ]
なし（プリント配布）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅢ | | | |
| 担当者 | 田和　真希 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
1. 自身と社会に対する理解を深め、生涯を通じたキャリア形成、ライフプランをより明確にする
2. 他者の視点を尊重しつつ、自分の考え方や意見を整理し、論理的に正しい日本語で伝えることができる
3. 就業の場や活動の場に関する情報に触れ、今後の就職活動に必要な知識を得る
4. 社会のできごとに対し、多角的・公正に理解・判断する際の礎となる時事力を高める

[ 授業概要 ]
グループワークや課題への取り組みを通して、自己理解を深め、社会・業界への理解・判断を高めていくと共に、自分はどのような生き方、どのような働き方を目指すのか、各々のキャリアプラン・ライフプランを一段と具体化、明確化していく。対話力・自己表現の力といった社会人基礎力を高めることで、社会人になる準備をする。時事問題の解説を聞き、世界の動きを知る。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
経済・政治・社会現象など世の中の流れに関心をもつこと。そして自分のやりたいことを見つめ直し、かつ健康を考慮して、自分にとって「理想の人生」を具体的に考えてみる。
各授業の提出課題をmanabaで期限内に提出すること。

[ 授業計画 ]
第1回　イントロダクション　ライフプランニングとは？キャリアプランとは？
第2回　自己理解(1)　　社会人基礎力 社会人基礎力診断
第3回　自己理解(2)
第4回　自己理解(3)
第5回　コミュニケーション(1)アサーティブコミュニケーション
第6回　コミュニケ―ション(2)正しい日本語
第7回　就活(1)WEBテストによる筆記試験対策
第8回　就活(2)WEBテストによる適性診断
第9回　就活(3)自分を知り社会を知ることからはじめよう
第10回　社会理解(1)　時事問題
第11回　社会理解(2)　時事問題
第12回　社会理解(3)　時事問題
第13回　ふりかえり

＊＊授業計画の形式・内容・順序は、社会状況・進度状況によって入替・変更することがあります。

| 科目名 | 基礎Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅢ | | | |
| 担当者 | 田和　真希 | | | |

[ 成績評価方法 ]
提出課題75%・最終レポート25%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
提出課題の2回は評価をしてコメントを付けて返却する。(何度目の授業の提出課題かは未定)
まとめレポートは評価・コメントを付けて返却をする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:グループワーク、提出課題、まとめレポート

[ 教科書(ISBN) ]
なし
manabaで資料を公開する。

[ 参考書(ISBN) ]
『女性のためのライフプランニング』 著者名:田和真希　出版社:大学教育出版　(978-4-86429-392-1)

| 科目名 | 基礎Ⅲ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅢ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
1.自身と社会に対する理解を深め、生涯を通じたキャリア形成、ライフプランをより明確にする
2.他者の視点を尊重しつつ、自分の考え方や意見を整理し、論理的に正しい日本語で伝えることができる
3.就職の場や活動の場に関する情報に触れ、今後の就職活動に必要な知識を得る
4.社会の出来事に対し、多角的・公正に理解・判断する際の礎となる時事力を高める

[ 授業概要 ]
就職活動に備えて、職業選択のための情報収集やその整理方法を学ぶと共に、ES作成や面接対策にもつながる、論理的で個性的なアウトプットの方法を身に着けます。キャリアコンサルタントの国家資格を持つ教員が、キャリア理論に基づいたワークやグループディスカッションの指導を行い、興味関心のある社会問題を通して自己理解を深められるよう支援を行います。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
次回授業については、提示された資料などをよく読み、十分な予習をして臨むこと。また課題が授業内容の復習となるので、熟慮して取り組み、期限を守って提出すること。
各回、予習復習合わせて4時間程度

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　　自己理解とは 社会理解とは　内的キャリアについて
2. コミュニケーション力(1)　論理パズルによる思考、行動パターン
3. コミュニケーション力(2)　ナラティブアプローチ　金の糸すごろく
4. 社会理解(1)　　複眼的な視点で時事問題を考える　記事集め
5. 社会理解(2)　ジェンダー問題とは何か
6. 自己理解(1)　ウェブテストから自身の強みを知る
7. 就職に向けて(1)　ウェブテストによる筆記試験対策
8. 就職に向けて(2)　　業界研究と職業調べ
9. 就職に向けて(3)　　就活に役立つビジネスマナー
10. 自己理解(2)　アセスメント検査を使った自己探索
11. 社会理解(3)　企業理念と採用ワーク
12. 自己理解(3)　収集した記事のシェア　ペアで考えるES
13. ふりかえりとまとめ

＊授業計画の内容と順序は、進度や都合によって変更したり入れ替えたりすることがあります。

| 科目名 | 基礎Ⅲ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | マイライフ・マイキャリアⅢ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中に行う個人・グループワークの提出物、小テスト、レスポン（30%）、
毎授業後の課題(40%)、まとめの課題（30%）
Google、manabaで提出

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出物は個別に採点し、必要に応じてフィードバックを行う

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:グループワークの態度、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:小テスト、レスポン
提出課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワークの態度、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:授業での発表態度
提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:授業での発表態度、提出物
小テスト、レスポン

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:提出課題

[ 教科書（ISBN） ]
なし（プリント配布）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎Ⅳ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | アカデミックスキルと日本語演習 | | | |
| 担当者 | 水川　布美子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
大学生に必要不可欠な学習スキルや日本語力(理解力、論理的思考力、正確で豊かな表現力)を学ぶ。

[ 授業概要 ]
①聞く・読む技術、②調べる・整理する技術、③まとめる・書く技術、④表現する・伝える技術を、講義や課題の作成・提出、発表などを通して学習する。
①では、ノートテイキングの方法や要約の方法を学ぶ。②では、図書館に行ったり、インターネットを使っての情報収集の方法を学んだりする。③では、アカデミック・ライティングとしてのレポートや論文の作成方法、パソコンを使った書き方を学ぶ。④では、プレゼンテーションの準備をして、実際に発表する。
授業は教科書を使用して進める。課題や発表を通して、大学生に必要な学習の方法を身に付けることを目指す。また、会話・手紙・メールなど、コミュニケーションを高める日本語能力を養うための課題プリントを毎回配布し、添削の上返却する。(提出は自由)
なお受講生が多数の場合、発表はグループ発表となる場合がある。上級生の受講に対しては、復習及びさらなるスキルアップと、論文執筆の基礎を学べるよう、学年に応じて配慮する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
学んだ内容を他の授業や日常生活で実際に活かすこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス・アカデミックスキルズとは
2. ノートの取り方
3. 情報収集(図書館情報検索ツアー)
4. テーマの選び方・情報収集
5. 本の読み方・クリティカル・リーディング
6. インターネット・情報の整理
7. レポート・プレゼンテーション作成の準備
8. 発表の方法
9. 研究成果のアウトプット・レポートや論文を書く(1)レポートとは・文章の構成　発表①
10. レポートや論文を書く(2)参考文献の挙げ方・引用と剽窃・推敲　発表②
11. クリティカル・シンキング　発表③
12. プレゼンテーション・データの分析と文章化　発表④
13. まとめ

| 科目名 | 基礎Ⅳ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | アカデミックスキルと日本語演習 | | | |
| 担当者 | 水川　布美子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題提出を含む受講態度（20%）、発表（40%）、レポート（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
毎回の課題、及び最終レポートは、添削あるいはコメントを付して次週に返却(またはmanabaにコメント)する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:提出物・最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:提出物・最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:提出物・最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:提出物・最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:提出物・最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:提出物・最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:提出物・最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:提出物・最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:提出物・最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門　第3版　著者名:佐藤望他編著　出版社:慶應義塾大学出版会　(978-4-7664-26564)
『レポート執筆の基礎―大学で必要な「読み・書き」の技術を磨く』 著者名:神戸女子大学全学共通教育部

[ 参考書（ISBN） ]
プリント配布

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートは、後日添削して返却します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 関　和俊 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 関　和俊 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートは、後日添削して返却します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内でお知らせします

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートに関してはmanabaに入れてください。
欠席や遅刻連絡もmanabaに入れてください。
mailでは受け付けませんので注意してください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 金谷　和幸 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 金谷　和幸 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートは、後日添削して返却します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題、レポート等はmanabaに入れてもらいます。
mailではうけつけませんので注意してください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、マシンを利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
受講態度（授業参加度など）60%、課題内容40%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題、レポート等はmanabaに入れてもらいます。
mailではうけつけませんので注意してください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内でお知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 住本　純 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 住本　純 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートは、後日授業時にフィードバックします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：受講態度、実技

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：受講態度、実技

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：受講態度、実技

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートは、後日添削して返却します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートは、後日添削して返却します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートは、後日添削して返却します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 三浦　敬太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 三浦　敬太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートは、後日添削して返却します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートは、後日添削して返却します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートは、後日添削して返却します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題、レポート等はmanabaに入れてもらいます。
mailではうけつけませんので注意してください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
個人の能力に応じた活動力を生み出す適応能力の向上を目指し、健康づくり・体力づくりを生涯に渡って楽しみながら行うための基礎づくりを行う。また、実習を通して各種トレーニング方法の特徴、実施上の注意点、および指導法を理解する。

[ 授業概要 ]
個人の健康志向や体力に見合った活動を基準に置きながら、目的に応じた運動や体力テストを実施する。ストレッチングの意義とその効果および各部位のストレッチング方法について実習を通して習得する。さらに、目的に応じたトレーニングの重要性と各種のトレーニング方法の特徴、効果および指導法について実習を通して理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃からの健康状態を良好に保ち、授業に関係するニュース等を関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション（施設・設備の使い方等）
2. ストレッチングの意義とその効果について
3. 各部位のストレッチング方法を習得する
4. ウォームアップとクールダウンの目的とその効果について／体力テスト
5. レジスタンスエクササイズの特徴や違いについて／体力テスト
6. 各種のトレーニング方法の特徴について／体力テスト
7. 自体重、手具を利用したそれぞれの方法による肢位別の種目の習得／体力テスト
8. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり①
9. 目的に応じたトレーニングの負荷強度、反復回数、休息時間、テスト法について／基礎体力づくり②
10. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり①
11. トレーニングの理解と指導法について／基礎体力づくり②
12. 基礎体力づくり
13. まとめ

| 科目名 | 基礎トレーニング | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 健康づくり、体力づくり、指導法 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実技（50%）、受講態度・課題レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内でお知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語史を通して学ぶ英語 | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
英語という言語の歴史を知ることで、英語についての理解を深め、自身の英語力を涵養する。

[ 授業概要 ]
それぞれの言語にはそれぞれの歴史がある。日本語で言えば、遥か昔に中国語からの多大な影響を受け、漢字という文字体系を使用するようになったし、その後も様々な歴史的変化を辿った結果、現在我々が話すような日本語が形作られた。この授業では、David Crystal著『The History of English』(金星堂)の精読を通して、英語という言語がどのような歴史を辿ったのかを学ぶ。また、本授業は、そのような精読を通して英語の読解力・語彙力を深めるとともに、英語についてだけではなく、イギリスとその周辺各国の辿った歴史についての教養も深めることを目的としている。評価方法は、毎回の出席と小テスト、および期末レポートによって行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
教科書の該当部分の予習および復習。

[ 授業計画 ]
1. Chapter 1前半
2. Chapter 1後半
3. Chapter 2前半
4. Chapter 2後半
5. Chapter 3前半
6. Chapter 3中盤
7. Chapter 3後半
8. Chapter 4前半
9. Chapter 4中盤
10. Chapter 4後半
11. Chapter 5前半
12. Chapter 5中盤
13. Chapter 5後半

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語史を通して学ぶ英語 | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
出席30%、小テストの成績30%、期末レポート40%により評価する

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
The History of English　著者名:David Crystal　出版社:金星堂　(4764705869)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 身近なテーマのアカデミック・イングリッシュを読み解く | | | |
| 担当者 | 野田　ゆり子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
身近なテーマの英文を読んで理解し、テーマに基づいたディスカッションを通して、自分で考えて発信する力を養う。

[ 授業概要 ]
本授業では、ニュースなどでよく取り上げられているテーマ（環境、健康、技術など）で書かれた英文を読み、内容を理解した上で、こうしたテーマについて自分で考え、発信する力を養うことを目標としています。リーディングだけではなく、ディスカッションなどのアクティビティも行うことで、自分自身がどう思うか、なぜそう思うかを英語で説明できるようにします。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
前回の授業の復習（ライティング課題と小テスト勉強）、および次回の授業で扱うUnitの予習

[ 授業計画 ]
1. Unit1: The Most Livable Cities in the World
2. Unit2: Which is the Happiest Country in the World?
3. Unit3: Zero Waste
4. Unit4: How Do Fashion Choices Affect the Environment?
5. Unit 5：Bottled water
6. Unit 6：A life coach can help you to reach your goals.
7. Unit 7：How to boost your wellbeing
8. Unit 8：Pets can help people to recover from long-term illness.
9. Unit 9：Being lonely can be bad for your health
10. Unit 10：Who needs a robot?
11. Unit 11：Solar power
12. Unit 12：Do you suffer from hay fever?
13. Unit 13：Overtourism

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 身近なテーマのアカデミック・イングリッシュを読み解く | | | |
| 担当者 | 野田　ゆり子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
出席30%、小テスト30%、レポ―ト40%により評価する

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manaba を通じて講評をフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Steps to Academic English -Basic-　著者名:Clive Langham　出版社:朝日出版社　(978-4-255-15673-6)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Environmetal issues, Foods and cultures, Globalization | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
To understand food and environmental issues by reading articles in English

[ 授業概要 ]
What do you know about food which we eat? Have you ever thought how our foods are grown?What kinds of problems about foods do we have?  In this course we will learn the history of food and the problems related to global issues. You should read the textbook before the class.
我々の生活の基本となる「食べ物」の歴史、文化、それに関する様々な問題を取り上げる。またDVD教材も使用し、より深い理解を目指す。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
　各ユニットのトピックについて、事前にインターネットなどで調べておくこと。その際、疑問に思うことを必ず見つける。授業内でその疑問点の解明に努めることで、より深い知識を身につけることになるだろう。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。

[ 授業計画 ]

1. Understanding the True Cost of Food
2. Animal Domestication
3. The Pig or the Pork
4. Sweet as Sugar
5. Our Daily Bread
6. The Modern vs. The Stone Aged Diet
7. Kodomo Shokudo
8. Do you like Caviar?
9. Food from te Sea
10. Apples
11. The White Gold:  Salt
12. Say Cheese
13.  Review

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Environmetal issues, Foods and cultures, Globalization | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート課題＋テスト60%、授業内コメントおよび授業態度40%
テストは実施後返却し、各自が自分の答案を見直す機会を設ける。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
返却後、授業内で解説をします。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Food in History-英語で学ぶ食の歴史　著者名:Elena Taralunga Tamura　他　出版社:英宝社　(978-4-269-41022-0)

[ 参考書(ISBN) ]
授業内で指示

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | World of Wonders 知の探索 | | | |
| 担当者 | 玉井　美香 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
現代を取り巻く諸問題を英語で読み、理解し、話し合う力を身につける。

[ 授業概要 ]
前期はテキストの“The World of Culture and Society”より、ジェンダーやインターネット等の文化を題材としたエッセイを読み、現代社会で問題／話題となっているトピックについて英語で自分の考えを伝えることを目的とする。毎週、出席を兼ねた小テストを実施する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
課題となっているページの予習

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Chapter 1: Building Blocks, Building Minds
3. Chapter 1: Building Blocks, Building Minds
4. Chapter 2: Faster, Higher, Stronger
5. Chapter 2: Faster, Higher, Stronger
6. Chapter 3: Do you Hulu?
7. Chapter 3: Do you Hulu?
8. Chapter 4: A Woman's Place in the Kitchen Wherever She Wants
9. Chapter 4: A Woman's Place in the Kitchen Wherever She Wants
10. Chapter 5: The Internet of Things
11. Chapter 5: The Internet of Things
12. Presentation
13. Overall Review

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | World of Wonders 知の探索 | | | |
| 担当者 | 玉井　美香 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎週の課題（小テスト） 40%、積極的授業参加　30%、プレゼンテーション 30%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題（小テスト）は授業内で解説を行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
World of Wonders: A Brave New World　著者名：Anthony Sellick / John Barton / 小笠原　亜衣　出版社：成美堂　（9784791971916）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Reading short English texts　英語短文読解 | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
The purpose of this class is to improve basic reading comprehension skills.
このクラスの目的は、基本的な読解力を向上させることです。

[ 授業概要 ]
A reading textbook will be used to practice reading about real situations and real events happening in the world.
Tips and techniques to promote effective and accurate reading based on the use and understanding of dictionaries, thesauruses, and grammar will be covered.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
オンライントピックのクイズは、答えが出る前にやって、クラスで議論する。
前回の授業の小テストの答えが出るので、小テストを終える期限は翌週の授業開始までとする。期限を過ぎると小テストはできません。
各クイズは最終的な成績の5%に相当しますので、クイズの締切に注意してください。

[ 授業計画 ]
1. Course introduction + The Incredible Dolphin
2. Master of Disguise
3. The Trip of a Lifetime
4. Adventure Islands
5. Move to the Music
6. A Musical Boost
7. Life Beyond Earth?
8. Living in Space
9. Global Cities
10. A Taste of Two Cities
11. In One Cubic Foot
12. What's in Your Neighborhood? + Vocabulary test preparation
13. Vocabulary test

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Reading short English texts　英語短文読解 | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[ 成績評価方法 ]
The scores for this class will be based on twelve topic quizzes (60%), Participation (10%), and a final vocabulary test (30%).
このクラスの得点は、12回のトピッククイズ（60%）に基づいています。
参加(10%)、最終単語テスト(30%)を行う。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
Answers and explanations on each unit will be given in class, with notes posted to Manaba afterwards if necessary.
各単元の解答と解説は、授業で行い、
その後、必要に応じてマナバにノートを掲示します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Reading Explorer 1 (3rd Edition) Student Book with Online Workbook Access Code　著者名：Nancy Douglas and David Bohlke　出版社：Cengage Learning　(9780357123515)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語ニュースで日本を知り、学び、発信する | | | |
| 担当者 | 西出　良郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
以下のNHKの国際ニュースを手本に、身近なニュースを発信する練習を行う。
1.Unit 1 The Challenges of Teaching English amid Coronavirus
2. Unit 1　後半と演習
3. Unit 2 Students Keeping Memory of Shuri Castle Alive
4. Unit 2に基づく演習
5. Unit 3 A Bitter Taste for Healthy Fish
6. Unit 3に基づく演習
7. Unit 4 Robots Luring Diners Back
8. Unit 4に基づく演習
9. Unit 5 Toilet Designs Aim to Flush Away Issues
10. Unit 5に基づく演習
11. Unit 6 Teleworking Encourages Tokyo Exodus
12. Unit 6に基づく演習
13 .Unit 7 Learning to Love Rural Japan

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－1 | 前期 | | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語ニュースで日本を知り、学び、発信する | | | |
| 担当者 | 西出　良郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
期末試験 70%、プレゼン 30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
マナバを通じで行う

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
映像で学ぶ
NHK英語ニュースが伝える日本5　著者名:山﨑達朗 / Stella M. Yamazaki　出版社:金星堂　(978-4-7647-4144-7)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語言語学を通して学ぶ英語 | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
英語言語学を学ぶことで、英語という言語の根底にあるシステムを知り、読解力や文章力を研鑽する。

[ 授業概要 ]
我々は日常さまざまな場面で言語を使用する。他者とコミュニケーションを取るときはもちろん、一人で思考する際にも言語を使う。寝ている間だって、夢の中で言語を使っている。このように我々の日常に深く、そして広く溶け込んでいる「言語」の背景にはどのようなシステム・特性があるのだろうか。この授業では、これらの問いに答えようとする学問分野「言語学」で扱われるトピックを英語で広く学ぶことで、英語能力の向上を図るのみでなく、英語や日本語といった全ての言語の根底にある特性を知り、今後の言語学習の支えとなるような知識を身につけることも目的とする。成績は、授業参加30%、小テスト30%、および期末レポート40%で評価する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
指定された教科書で予習・復習を行うこと。

[ 授業計画 ]
1. Chapter 1
2. Chapter 2
3. Chapter 3
4. Chapter 4
5. Chapter 5
6. Chapter 6
7. Chapter 7
8. Chapter 8
9. Chapter 9
10. Chapter 10
11. Chapter 11
12. Chapter 12
13. Chapter 13

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語言語学を通して学ぶ英語 | | | |
| 担当者 | 松本　大貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業参加30%、小テスト30%、および期末レポート40%により評価する

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩　著者名:影山太郎他　出版社:くろしお出版
(4874242774)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | English – Window to the World | | | |
| 担当者 | 高橋　綾子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
The purpose of this class is to improve listening, writing, and reading comprehension skills and to understand global cultures.

[ 授業概要 ]
The course aims to get more practice communicating, and to develop important social media skills. Students will be required to engage in pair and group work  activities to discuss reading passages. Three writing assignments will be given.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Prepare vocabulary tests and unit tests for every lesson and review the day's lesson with online practice.

[ 授業計画 ]
1. Unit 9 How well do you eat? A–C
2. Unit 9 How well do you eat? D–F
3. Unit 10 How's work? A–D
4. Unit 10 How's work? E F
5. Unit 11 Everything is breaking!  A–C
6. Unit 11 Everything is breaking!  D–F
7. Unit 12 What's this icon for? A–C
8. Unit 12 What's this icon for? D–F
9. Unit 13 Let's play! A–C
10. Unit 13 Let's play! D–F
11. Unit 14 I have so much to do! A–D
12. Unit 15 Listen up! A–D
13. Unit 16 What happened? A–D

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | English – Window to the World | | | |
| 担当者 | 高橋　綾子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
English words test and unit test 25%, Essay　20%, Participation and worksheet 5%, Final examination 50%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manaba を通じて講評をフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:Writing

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:Pair work and group work

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:Understanding global cultures

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:Writing

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Network 4 Multi-Pack B: Student Book/Workbook Split Edition　著者名:Tom Hutchinson Kristin Sherman　出版社:Oxford University Press　(978-0-19-467171-2)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Globalization, Environmetal issues, Foods and cultures | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
To understand food and environmental issues by reading articles in English

[ 授業概要 ]
What do you know about food which we eat? Have you ever thought how our foods are grown?What kinds of problems about foods do we have?  In this course we will learn the history of food and the problems related to global issues. You should read the textbook before the class.
我々の生活の基本となる「食べ物」の歴史、文化、それに関する様々な問題を取り上げる。またDVD教材も使用し、より深い理解を目指す。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
　各ユニットのトピックについて、事前にインターネットなどで調べておくこと。その際、疑問に思うことを必ず見つける。授業内でその疑問点の解明に努めることで、より深い知識を身につけることになるだろう。各回、予習復習合わせて2時間程度すること。

[ 授業計画 ]
1. GM Food 1
2. GM Food 2
3. Plant Domestication
4. Beans
5. Foie Gras
6. Rice:  An Important Cereal
7. Review
8. Pasta
9. Chocolate
10. A Taste of Honey
11. Eating Oil
12. Meat's Impact on
13. Review

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Globalization, Environmetal issues, Foods and cultures | | | |
| 担当者 | 深井　美智子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート課題＋テスト60%、授業内コメントおよび態度（40%）
テストは実施後返却し、各自が自分の答案を見直す機会を設ける。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
返却後、授業内で解説します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Food in History-英語で学ぶ食の歴史
　著者名：
Elena Taralunga Tamura　他
　出版社：
英宝社
　（
978-4-269-41022-0　）

[ 参考書（ISBN） ]
授業内で指示

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | World of Wonders 知の探索 | | | |
| 担当者 | 玉井　美香 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
現代を取り巻く諸問題を英語で読み、理解し、話し合う力を身につける。

[ 授業概要 ]
後期はテキストの“The World of Politics and International Relations”より、プライバシーや報道の自由等を題材としたエッセイを読み、現代社会で問題／話題となっているトピックについて英語で自分の考えを伝えることを目的とする。毎週、出席を兼ねた小テストを実施する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
課題となっているページの予習。

[ 授業計画 ]
1. Introduction
2. Chapter 16: It’s None of Your Business!
3. Chapter 16: It’s None of Your Business!
4. Chapter 17: I’ll See You in Court!
5. Chapter 17: I’ll See You in Court!
6. Chapter 18: Just a Face in the Crowd?
7. Chapter 18: Just a Face in the Crowd?
8. Chapter 19: Freedom of the Press Means Freedom of the People
9. Chapter 19: Freedom of the Press Means Freedom of the People
10. Chapter 20: One in a Million
11. Chapter 20: One in a Million
12. Presentation
13. Overall Review

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | World of Wonders 知の探索 | | | |
| 担当者 | 玉井　美香 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎週の課題（小テスト） 40%、積極的授業参加　30%、プレゼンテーション 30%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題（小テスト）は授業内で解説を行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
World of Wonders: A Brave New World　著者名：Anthony Sellick / John Barton / 小笠原　亜衣　出版社：成美堂　（9784791971916）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
The purpose of this class is to improve basic reading comprehension skills.
このクラスの目的は、基本的な読解力を向上させることです。

[ 授業概要 ]
A reading textbook will be used to practice reading about real situations and real events happening in the world.
Tips and techniques to promote effective and accurate reading based on the use and understanding of dictionaries, thesauruses, and grammar will be covered.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
オンライントピックのクイズは、答えが出る前にやって、クラスで議論する。
前回の授業の小テストの答えが出るので、小テストを終える期限は翌週の授業開始までとする。期限を過ぎると小テストはできません。
各クイズは最終的な成績の5%に相当しますので、クイズの締切に注意してください。

[ 授業計画 ]
1. Introduction + The Truth about Dinosaurs
2. Mystery of the Terrible Hand
3. The Brothers Grimm
4. The Seven Ravens
5. Meet the Meteorite Hunter
6. Smokejumpers
7. The Army's True Colors
8. Wonders of Egypt
9. The Problem with Plastic
10. Five Tips for Using Less Plastic
11. Mystery on the Mountain
12. The Missing Pilot + Vocabulary test preparation
13. Vocabulary test

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | R. バンデン | | | |

[ 成績評価方法 ]
The scores for this class will be based on twelve topic quizzes (60%),
Participation (10%), and a final vocabulary test (30%).
このクラスの得点は、12回のトピッククイズ（60%）に基づいています。
参加(10%)、最終単語テスト(30%)を行う。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
Answers and explanations on each unit will be given in class,
with notes posted to Manaba afterwards if necessary.
各単元の解答と解説は、授業で行い、
その後、必要に応じてマナバにノートを掲示します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
Reading Explorer, Book 1, 3rd Edition By Nancy Douglas and David Bohlke Cengage Learning 著者名：Nancy Douglas and David Bohlke 出版社：Cengage Learning （9780357123515）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語ニュースで日本を知り、学び、発信する | | | |
| 担当者 | 西出　良郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Acquisition of the fundamental language skills necessary for effective communication in English.

[ 授業概要 ]
This course aims to provide students with the fundamental language skills necessary for effective speaking and listening with an emphasis on building confidence in various conversational settings. Classroom activities are designed to give students ample opportunity to improve their overall communication skills with a focus on vocabulary, accuracy, speaking, pronunciation and active listening. The course will cover topics relevant to university students to ensure successful interaction in a variety of social situations. Homework assignments, quizzes and tests may be given at the discretion of the instructor.

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
Review the previous lesson, and read the textbook well for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
以下のNHKの国際ニュースを手本に、身近なニュースを発信する練習を行う。
1. Unit 9 Clay Artist in Touch with Tradition
2. Unit 9に基づく演習
3. Unit 10 Space Development Board Game
4. Unit 10に基づく演習
5. Unit 11 Tatami Takes on New Shapes and Sizes
6. Unit 11に基づく演習
7. Unit 12 A Runway to a New Start
8. Unit 12 に基づく演習
9. Unit 13 Teaching About Black Lives Matter
10.Unit 13に基づく演習
11.Unit 14 Tochigi Gourd Magic
12.Unit 14に基づく演習
13.Unit 15 Lifesaver for Type 1 Diabetes Patients

| 科目名 | 教養英語Ⅰ－2 | 後期 | | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語ニュースで日本を知り、学び、発信する | | | |
| 担当者 | 西出　良郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
期末試験 70%、プレゼン 30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
マナバを通じで行う

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
映像で学ぶ
NHK英語ニュースが伝える日本5
　著者名:山﨑達朗 / Stella M. Yamazaki (978-4-7647-4144-7)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's Learn about different cultures through film! | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Learning about different cultures from around the world

[ 授業概要 ]
This course aims to teach the students about different cultures in English. By using English to study and discuss, we can improve the language skills of the students in more subtle ways. Hopefully having the students enjoy the journey.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook thoroughly for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction to the class and book
2. Unit 1William's Notting Hill & 'She'
3. Unit 2 Surreal, but Nice
4. Unit 3 A Goddess Is A Movie Star
5. Unit 4 Birthday Party
6. Unit 5 A Date With Anna
7. Mid-term assessment
8. Unit 6 She's Gone
9. Unit 7 She's Back
10. Unit 8 Rude Awakening
11. Unit 9 Like Me Again
12. Unit 10 The Right Decision
13. Full Viewing/ Final assessment

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's Learn about different cultures through film! | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Participation 30%h Homework 20%
Assessments 50%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Notting Hill (New Format Edition) 映画総合教材『ノッティング・ヒルの恋人』新装版　著者名:Richard Curtis　出版社:Shohakusha　(9784881985908)

[ 参考書(ISBN) ]
None　著者名:none　出版社:none　(none)

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 水口　志乃扶 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
① 英語の音の構造を理解する
② 英語の音声の正確な産出ができるように」なる

[ 授業概要 ]
英語の音声学入門
1 英語はどういう音を使うのかを理論的に学習する
2 英語の音素の調音方法を学ぶ
3 英語のプロソディの諸特徴を学習する
4 英語のアクセント、音調、卓立が正確に産出できるようにする

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎回出る課題を提出日時までにmanabaに提出してください.

[ 授業計画 ]
1 はじめに：英語はどんな音を使うのか
2 「日本人の英語」
3 調音音声学1：調音点
4 調音音声学2：調音法
5 調音音声学3：母音
6 調音音声学4： 産出と聴覚
7 音素配列規則
8 音の構造
9 英語のプロソディ1： アクセント
10 英語のプロソディ2： 音調
11 英語のプロソディ： 卓立
12 まとめ
13 クラス発表

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 水口　志乃扶 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題　30%，　レポート　40%，クラスでの発表　30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manabaでのコメント

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
ファイルをmanabaで配布します

[ 参考書(ISBN) ]
日本語音声学入門　著者名:斎藤純男　出版社:大修館書店

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－1 | 前期 | | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 長岡　明 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
基本的な語彙を使って、4技能の基本的なコミュニケーションが取れるようになることを到達目的とする。

[ 授業概要 ]
演習形式を中心とする。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
次回の授業や課題の準備、単語や表現の意味を事前に調べておく事。授業後、再度授業内容を復習しておく事。
予復習各1時間程度。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション、レッスン1
2. ユニット1(College Life)、課題1 (UCLA interview)
3. ユニット1、課題1-2
4.ユニット2 (Mobile Phone)、課題2提出
5. ユニット2
6. ユニット3(Movies)
7. ユニット3、小テスト
8ユニット3、課題2
9. ユニット4(dating)、課題(英字新聞読解1)
10.ユニット4、課題(英字新聞読解1-2)
11.ユニット5(food)、小テスト
12.ユニット6(English)
13. まとめ。

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－1 | 前期 | | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 長岡　明 | | | |

[ 成績評価方法 ]
テキストに関する応答が50%、小テストを含む課題に関する評価が50%。コミュニケーションの情報量と表現方法の分かりやすさが評価基準となる。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業時間中に対応。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Global Activator
金星堂
ISBN978-4-7647-4003-7　著者名:塩崎正
Gregory A. King　出版社:金星堂 (SBN978-4-7647-4003-7 )

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's Learn about different cultures through film! | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
Learning about different cultures from around the world

[ 授業概要 ]
This course aims to teach the students about different cultures in English. By using English to study and discuss, we can improve the language skills of the students in more subtle ways. Hopefully having the students enjoy the journey.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Review the previous lesson, and read the textbook thoroughly for the lesson of the day.
Not only attending the class, but also active participation is necessary.

[ 授業計画 ]
1. Introduction to the class and book
2. Unit 1 Larry Finds a Job
3. Unit 2 Larry's First Night at the Museum
4. Unit 3 Magic of Teddy
5. Unit 4 History Lesson
6. Unit 5 Gives It Another Try
7. Mid-term assessment
8. Unit 6 Chaos
9. Unit 7 The Truth
10. Unit 8 Hero
11. Unit 9United We Stand
12. Unit 10 Everything ends up Great!
13. Final assessment

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Let's Learn about different cultures through film! | | | |
| 担当者 | R. コナーズ | | | |

[ 成績評価方法 ]
Participation 30%h Homework 20%
Assessments 50%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Night at the Museum　著者名:Garant/Lennon/Kanel　出版社:Shohakusha　(978-4-88198-655-4)

[ 参考書(ISBN) ]
None　著者名:none　出版社:none　(none)

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 水口　志乃扶 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
音声は聞いても必ずしも正確に聞こえるとは限らず、また自分で正確に産出しているつもりでもそうではない場合がある。本授業では音声を「目で見て」可視化することによって、聴覚だけではわからない音声の特徴がわかることを目標とする

[ 授業概要 ]
日本語を母語とする英語学習者が話す英語は「日本人の英語」と呼ばれる。本授業ではどうやったら「脱日本人の英語」が習得できるかを、音を可視化することによって考える

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎回課題を出すので、期限までにmanabaで提出をして下さい

[ 授業計画 ]
1　音を目で見る
2　音の構造と可視化の可能性
3　Praat入門
4　母音の分析1：単母音
5　母音の分析2：二重母音
6　子音の分析1：阻害音
7　子音の分析2：共鳴音
8　スペクトログラム
9　英語のプロソディ1：アクセント
10　英語のプロソディ2：　音調
11　英語のプロソディ3：イントネーション
12　英語のプロソディ4：卓立
13　クラス発表

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 水口　志乃扶 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題　30%, レポート　40%, クラスでの発表　30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
ファイルをmanabaで配布します

[ 参考書(ISBN) ]
English Intonation: An Introduction　著者名:J.C.Wells　出版社:Cambridge University Press

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－2 | 後期 | | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 長岡　明 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
基本的な語彙を使って、4技能の基本的なコミュニケーションが取れるようになることと、専攻科目の基本的な文献が読めることを到達目的とする。

[ 授業概要 ]
演習形式を中心とする。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
次回の授業や課題の準備、単語や表現の意味を事前に調べておく事。授業後、再度授業内容を復習しておく事。予復習各1時間程度。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション、ユニット7(Vacation)
2. ユニット8(Music))、課題1
3. ユニット8、課題1-2
4.ユニット9（Sports)、課題2提出
5. ユニット9
6. ユニット10(Shopping)
7. ユニット10、小テスト
8. ユニット11(Travel)
9. ユニット12(Parties)、課題（英字新聞読解1)
10. ユニット12、13(Part-time job)、課題（英字新聞読解1-2）
11.ユニット13、小テスト
12.ユニット14、15(Help,Japan)
13. まとめ。

| 科目名 | 教養英語Ⅱ－2 | 後期 | | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 長岡　明 | | | |

[ 成績評価方法 ]
テキストに関する応答が50%、小テストを含む課題に関する評価が50%。コミュニケーションの情報量と表現方法の分かりやすさが評価基準となる。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業時間中に対応。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Global Activator
金星堂　著者名:塩崎正
Gregory A, King　出版社:金星堂　(978-4-7647-4003-7)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教養英語Ⅲ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
This course is to improve students overall communicative ability in English. The class will cover every day situations in speaking English and should prepare students for basic speaking and interactional situations. The class will challenge students in beginning to intermediate vocabulary, speaking, and listening.

[ 授業概要 ]
The class will focus on different areas of English including: jobs, prices and shopping, instructions, and future plans. Each class will cover a different English topic with a warm-up activity, listening exercises, and discussions.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
No study in advance is necessary for class but they will be a weekly homework assignment during the course. Students should have a basic comprehension of English and be able to read English without difficulty.

[ 授業計画 ]
1. chapter #1, hobbies and interests; foreign countries
2. chapter #1 cont.
3. chapter #2, individuals description
4. chapter #2 cont.
5. chapter #3, daily schedules
6. schedules continued
7. midterm exam
8. Chapter #4 directions
9. chapter #4 continued
10. Chapter #5: materials
11. chapter #5: continued
12. final test
13. test review

| 科目名 | 教養英語Ⅲ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[ 成績評価方法 ]
class attendance, participation, and homework 30%,  mid-term exam 30%, and final exam 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
English Firsthand 1 (5th edition) Student Book　出版社:Pearson　(9789813130227)

[ 参考書(ISBN) ]
n/a　(n/a)

| 科目名 | 教養英語Ⅲ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]

This course is to improve students overall communicative ability in English. The class will cover every day situations in speaking English and should prepare students for basic speaking and interactional situations. The class will challenge students in beginning to intermediate vocabulary, speaking, and listening.

[ 授業概要 ]

The class will focus on different areas of English including: jobs, prices and shopping, instructions, and future plans. Each class will cover a different English topic with a warm-up activity, listening exercises, and discussions.

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
Student will receive a weekly homework assignment.

[ 授業計画 ]
1. activities, chapter 6
2. activities continued
3. chapter 7: jobs
4. jobs #7: continued
5. Chapter #8: activities
6. Chapter #8: continued
7. mid-term exam
8. Chapter #9: future plans
9. i Chapter #9: future plans continued
10. Chapter #10: shopping
11. Chapter #10: continued
12 Final exam
13. exam review

| 科目名 | 教養英語Ⅲ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | E. ロー | | | |

[ 成績評価方法 ]
lass attendance, participation, and homework 30%,  mid-term exam 30%, and final exam 40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
English Firsthand #1　出版社:Pearson Japan (2018/1/31) (978-9813130227)

[ 参考書(ISBN) ]
to be determined

| 科目名 | 教養演習 I | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | グローカルなニュース・時事問題　入門 | | | |
| 担当者 | 野口　和美 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
地図やキーワードを参考にし、国内外の話題になっている時事問題について理解を深める。

[ 授業概要 ]
国内外のニュースになっている時事問題を取り上げる。政治、行政、経済、国際関係等の時事問題を取り上げ、内容やその事象の発生の背景を理解する。 SDGs(持続可能な開発目標2030)に関する国内ニュースも学習範囲とする。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業前の予習・授業後の復習を必ず行うこと。
ニュースや新聞を授業前に必ず読んでくること。
予習復習2時間程度。

[ 授業計画 ]
1)授業内容の説明
2)国際情勢に関するニュース
3)産業・資源に関するニュース
4)新聞社の方の講義(学外講師)
5)社会に関するニュース
6)旅行に関するニュース
7)歴史、文化に関するニュース
8)環境問題に関するニュース
9)世界遺産に関するニュース
10)学生発表(1)
11)学生発表(2)
12)ニュースキーワード (国際)
13)ニュースキーワード (政治・社会)

| 科目名 | 教養演習 I | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | グローカルなニュース・時事問題　入門 | | | |
| 担当者 | 野口　和美 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業への参加度（30%）、ディスカッションへの参加度（30%）、期末レポート試験（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
マナバ上にコメントを載せます。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
毎日の新聞記事が教科書となる。

[ 参考書（ISBN） ]
新聞力　できる人はこう読んでいる　　著者名：齋藤孝　出版社：ちくまプリマ―新書　（978-4-480-68968-9）

| 科目名 | 教養演習 I | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育の「不易」と「流行」を探究する | | | |
| 担当者 | 金岩　俊明 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
人間の生きる方向性を決める教育について、文献や資料を検討することを通して、多面的な「問い」に対しての自分なりの解釈や方向性がもてることを目標とする。

[ 授業概要 ]
現代の日本では、物質的には誰もがある程度の豊かさを享受している。しかし、心の豊かさは物の豊かさと引き換えに衰退しているとの指摘がある。本授業では、教育の諸問題を根本から見つめ直すことを通して、心の豊かさを取り戻す教育の姿を探究する。教育においては、いつの時代にも変わらない「不易」と、時代の状況に応じて変化すべき「流行」が存在している。具体的な諸問題を整理する際に、この視点は重要である。そこで、教育についての提案に基づき積極的な議論を行い、論理的に物事を考える力を高めたいと考える。学校現場の経験に基づく講義を随所で行う。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
普段から、教育についてのニュースに関心をもっておくこと。また、配布した文献を通読し、根拠を示して自分の考えが表現できるようにしておくこと。（各回、予習復習合わせて4時間程度）

[ 授業計画 ]
1. 日本の教育はどう変化したか
2. 教育はなぜ必要か
3. 古代からのわが国の教育の道筋は
4. 社会における教育の機能は
5. 教師の仕事とは
6. 現代の学校課題「いじめ」
7. 現代の学校課題「不登校」
8. 現代の学校課題「指導力不足教員」
9. 現代の学校課題「保護者対応」
10. 学校を変える試み・改革が進む教室
11. 変わる世界の学校（欧米）
12. 変わる世界の学校（アジア）
13. まとめ
※6-12回目は、受講生による発表を取り入れて進める予定です。

| 科目名 | 教養演習 I | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育の「不易」と「流行」を探究する | | | |
| 担当者 | 金岩　俊明 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業への参加態度（50%） 発表・レポート等の提出物（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題のフィードバックは、授業内で行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：観察、課題発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：観察、課題発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：観察、課題発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法：観察、課題発表

[ 教科書（ISBN） ]
必要に応じてプリントを配布

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 教養演習Ⅰ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | アナウンス入門Ⅰ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
1.正確な発声、発音方法で音声表現ができる
2.適切に情報を伝えるための準備や配慮、工夫をすることができる
3.正しい立ち居振る舞いができる
4.初対面の人、大勢の人の前でも、自分の思いや考えを述べることができる

[ 授業概要 ]
人前で話すための基本的なアナウンススキルを身に着ける授業です。民間放送局のアナウンサーであった教員が、理論と実践の両面から指導し、音声による自己表現能力の向上を支援します。アナウンサーを目指す際の基礎演習となる内容で、就職活動では自身の伝えたい強みを相手にしっかりと伝えられるよう、また社会人となった後のプレゼンの場面では効果的なアウトプットができるよう、履修者同士でも能動的に学び合い、評価し合います。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
発声、活舌などの基本練習を毎日行ってください。授業の最初には1分間スピーチを行いますので準備が必要です。基本練習とは別に、音読の練習課題を出します。授業の成果を確認するため、初回と最終回に1分間の自己PR動画を制作、提出します。グループでラジオCMも作ります。各回、予習復習合わせて2時間程度

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　　授業概要の説明と目標設定　自己紹介
2. 緊張しない体づくり　　腹式呼吸と正しい口の開き方=母音
3. アナウンス理論①　　基本の発声　滑舌練習
4. アナウンス理論②　　鼻濁音と長母音
5. アナウンス理論③　　子音と無声音
6. アナウンス理論④　　言葉のつながり　間の取り方と句読点　アナウンスの知識
7. アナウンス理論⑤　　心地よいスピード アクセントとイントネーション
8. 正しい立ち居振る舞い①　　メラビアンの法則と第一印象
9. 正しい立ち居振る舞い?　　表情筋と分離礼
10. アナウンス実践①　　文学作品の朗読
11. アナウンス実践?　　ニュース原稿、CM、ナレーションを読む
12. アナウンス実践③　　自己紹介アドバイスと神女CM制作
13. ふりかえりとまとめ　　自己紹介とCMの講評　今後の課題

※授業計画の内容と順序は、進度や都合によって変更したり入れ替えたりすることがあります。

※演習内容の特性により、受講人数を15人に制限します。1回目に授業概要を説明した上で受講希望を再確認し、定員を超えた場合は抽選を行います。就職活動支援の観点から、その際には上級生を優先します。

| 科目名 | 教養演習Ⅰ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | アナウンス入門Ⅰ | | | |
| 担当者 | 阿部　まゆみ | | | |

[ 成績評価方法 ]
自己PR動画の提出2回（40%） 神女のラジオCM提出（20%）=グループ制作
小テストとレスポン（10%） 演習への積極的な取り組み（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出物は個別に採点し、必要に応じてフィードバックを行う

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：授業での発表態度
制作動画

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：グループ制作課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業での発表態度
制作動画

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法：授業での発表態度
小テスト、レスポン

[ 教科書（ISBN） ]
なし
（プリント配布）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 教養演習Ⅱ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 基礎英語で学ぶ国際社会 | | | |
| 担当者 | 野口　和美 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
英語の新聞や雑誌の短文の政治、社会、国際関係、映画、料理、ファッションなどに国際的にホットな話題に関する記事や動画等を通して、基礎的な英語を習得するとともに国際社会について学ぶことを目標とする。Voice of America等のネットによる英語時事問題サイトを通して、時事問題に馴染めるようにし、リスニングやリーディング力を向上させる。

[ 授業概要 ]
Voice of Americaなどの英語の動画を観ることや英語の短文の政治、社会、映画、料理、ファッションなどの国際的に話題性の高い事柄やSDGs（持続可能の開発目標2030）に関する短い記事について参加学生皆で解読することともにグループ・ディスカッションを行う。演習は、皆が参加できるようにし、教員の興味のある記事に限定せず、参加学生がファッションや映画などの記事や動画や映画を授業に持参し、教員も含め参加者がその記事や動画の社会的背景などを学ぶ。授業の前半は、教員が記事や動画を用意するが、後半は、学生が国際的に注目を受けている事項に関する記事や動画を用意し、それらについて、参加学生全員でディスカッションをする。
日英語で授業を行うが、分かりやすいように教員の方でレジュメを作成することもある。
国内や海外の交流のある大学の学生とオンラインで協働演習を行う予定である。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
後半は、事前に参加学生本人が国際的に注目されている事項に関して興味のある記事や動画を用意する必要がある。。授業で習得した基礎英語や国際社会に関する事項を復習し、学生自身が国際社会について学ぶ意欲を高める必要がある。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 英語の記事を読むことと動画を観ることについて
2. 記事や動画の歴史的、社会的、政治的背景について
3. 政治に関する記事や動画に関する解読
4. 社会に関する記事や動画に関する解読
5. 女性に関する記事や動画に関する解読
6. 災害や危機に関する記事や動画に関する解読
7. 中間まとめ
8. 環境に関する記事や動画に関する解読
9. ITに関する記事や動画に関する解読
10. ファッションに関する記事や動画に関する解読
11. 料理に関する記事や動画に関する解読
12. 映画に関する記事や動画に関する解読
13. 健康に関する記事や動画に関する解読

| 科目名 | 教養演習Ⅱ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 基礎英語で学ぶ国際社会 | | | |
| 担当者 | 野口　和美 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業への参加姿勢（20%）、ディスカッションへの参加度（20%）、リアクションペーパー(30%)、期末レポート試験（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
マナバ上でコメントを載せます。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
記事や動画が教科書となる。

[ 参考書（ISBN） ]
授業時に紹介
国際情勢に強くなる英語キーワード　著者名：明石和康　出版社：岩波ジュニア新書　（9784005008254）

| 科目名 | 教養総合 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 橋本　礼子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
ことばのさまざまな表現や自分の書いた文章などについて深く考え、客観的に分析する方法を知る。

[ 授業概要 ]
大学生として活動範囲が広がると、接したり産出したりすることばのバリエーションも広がる。日本語でも、誰が誰に、何をするために使うのかで、さまざまに使い分ける必要がある。この講義では身近な日本語の実例を観察しながら、ことばを客観的に分析する方法を学ぶ。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
日頃から日本語の表現に関する話題に関心を持ち、例を収集する。

[ 授業計画 ]
1.導入　この授業の進め方
2.どう伝わるか1　語が伝えるもの・文体が伝えるもの
3.どう伝わるか2 「やさしい日本語」
4.どう伝わるか3　情報の順番・公用文の「わかりやすさ」
5.どう伝わるか4　あいまい文・伝わりにくい文
6.何をインプットしているか1　さまざまな情報源の特性
7.何をインプットしているか2　読書と教養
8.何をインプットしているか3　読解ストラテジー
9.何をインプットしているか4　語彙
10.実例を観察して考えよう1　公共サインを分析する
11.実例を観察して考えよう2　言語景観
12.実例を観察して考えよう3　レトリック
13.実例を観察して考えよう4　防災の情報

| 科目名 | 教養総合 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 橋本　礼子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
・レポート3回（60%）
・授業中に指示する課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業中に課題の解説を行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：課題・レポート

[ 教科書（ISBN） ]
使用しない。資料を配付する。

[ 参考書（ISBN） ]
授業中に適宜紹介する。

| 科目名 | 教養総合 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語と日本語で学ぶ国際協力/ International Cooperation to learn in English and Japanese | | | |
| 担当者 | 貝増 匡俊 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
・様々な国の暮らしについて理解できるようになる。
・国際協力全般について理解が深まる。
・国際社会の中で日本が振る舞うべきことについて多面的に分析し、自らの意見を簡潔に述べることができる。

[ 授業概要 ]
前半部は、国際協力に対する全般的な説明を行った上で、その目的は何なのかを検討します。例えば戦後、行吉学園の開学した当時の考えと主にアメリカやヨーロッパが支援してきた援助アプローチの違いなどを考えていきます。その後、基本的な国際協力の歴史や仕組みについて説明していきます。4回目以降は、主にテキストを使って国際協力の仕組みとその効果あるいは、また問題点などを考察する。

Through the first to the third sessions, students learn some notions of international aid/assistance after its general explanation. Students have some chances to consider two approaches between KWU's and aid philosophy after WWII. Then, the basic framework and mechanism of international aid/assistance are explained. After the 4th session onward, students will learn international aid/assistance in detail through a textbook and hand-outs.

なお、本授業は英語と日本語で行います。英語で説明した後、日本語で解説して理解を深めるようにします。
(理解度などを確認しながら、適宜その比率を変えるようにします。)

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
事前に教科書を読んで予習を行って下さい。授業後は振り返り、復習を行って下さい。
各回、予習復習合わせて 4 時間程度

[ 授業計画 ]
1.ガイダンス/ Introduction
2.神戸女子大学の歴史と援助の歴を比較する/ Comparative Approach between histories of KWU and aid history
3.被援助国として日本/ Japan as a recipient country
4.教育セクター/ Education sector
5.保健セクター/ Health sector
6.労働移動/ Labour migration
7.経済成長/ Economic growth and trickle-down theory
8. 特別講義/ Special session
9. 開発金融/ Development finance
10.環境/ Environment
11.持続可能な開発/ Sustainable development
12.開発援助/ International assistance
13.まとめ/ Summary

| 科目名 | 教養総合 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語と日本語で学ぶ国際協力/ International Cooperation to learn in English and Japanese | | | |
| 担当者 | 貝増 匡俊 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、ミニッツペーパー40%、manabaや教室内でのディスカッションへの貢献度(10%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
試験後に試験に関する解説を行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、ミニッツペーパー、manabaや教室内でのディスカッションへの貢献度

[ 教科書(ISBN) ]
ストーリーで学ぶ開発経済学 -- 途上国の暮らしを考える 著者名:黒崎 卓 (著), 栗田 匡相 (著) 出版社:有斐閣 (978-4641150348)
配布物(hand-outs)

[ 参考書(ISBN) ]
ODA白書

| 科目名 | 教養総合Ⅱ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日英語で学ぶグローカル社会 | | | |
| 担当者 | 野口　和美 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
様々なグローカルな課題に関する英語での講義

[ 授業概要 ]
グローカルな課題を理解を深め、日本との違いや異文化への理解を深めることを目的とする。講義とともに、映像や写真を中心に現状を紹介することもある。日英語で授業を実施する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から、様々な国や地域に興味をもち、学生自身で国際関係等に関するシンポジュームに参加すること。予習復習2時間程度。

[ 授業計画 ]
1.Introduction (Noguchi)
2.What is Civil Society? (市民社会とは何か)(Noguchi)
3. NPO and Politics (NPOと政治) (Noguchi)
4.Local Governance and NPO (ローカル・ガバナンスとNPO) (Noguchi)
5.Mid-Term wrap-up (Noguchi)
6.Women's leadership and NPO (NPOと女性のリーダーシップ) (Guest speaker: 学外講師と担当教員の協働授業)
7.Foreign Policy and NPO (外交政策とNPO) (Noguchi)
8.NPOs in the World Part 1 (海外のNPO 1)(Noguchi)
9.NPOs in the World Part 2 (海外のNPO 2) (Noguchi)
10. Philanthropic thoughts (慈善・フィランソロピーの思想) (Noguchi)
11. Private Foundations and International Relations (民間財団と国際関係) (Noguchi)
12.Private Foundations and Pandemic (民間財団とパンデミック)(Noguchi)
13.Final wrap-up (Noguchi)

| 科目名 | 教養総合Ⅱ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日英語で学ぶグローカル社会 | | | |
| 担当者 | 野口　和美 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業への参加度（30%）、ディスカッションへの参加度（30%）、期末レポート試験（40%）
国際関係等に関するシンポジュームに参加しレポートを提出した際は、加点をする場合がある。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
指定しません。

[ 参考書（ISBN） ]
適宜指示します。

| 科目名 | 教養総合Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Reading for Pleasure | | | |
| 担当者 | 水野　邦太郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1. 一人ひとりが自分の希望やニーズに役立つよう賢い本の選択ができ、好きな時に好きな場所で自分のペースで洋書の読書をすすめていけるようになる。
2. 簡単でやさしい英語をたくさん読んで、Reading for Pleasure を経験する。
3. 読んだ本の「感想」を、3分で教室の仲間に伝えられる（使用言語は、英語と日本語）
4. 自分の読みを多くの仲間との相互作用のなかで深化させながら解釈力を高める。

[ 授業概要 ]
オンライン・ライブラリーにある1600冊の洋書から読みたい洋書を選び、授業の時間外に読む。「1冊以上(5000語以上)/週」のペースで読む。本のジャンルは以下から好きに選べる: 絵本、児童文学、日本文学、自伝・伝記、動物、スポーツ、音楽、食・健康・精神・身体、教育・子育て、自然・環境問題、映画、科学・社会・政治、外国事情。
毎週、読了後、自分のお気に入りの本について魅力を語ったReaction Report（RR）を書く（使用言語は主に日本語）。RRは、ブクログ(https://booklog.jp/)に投稿する。
教室では4人グループやペアを組み、今週読んできた本を、英語や日本語で紹介し語り合う。教室で一人ひとりが自分の読書体験を表現し仲間と共有することを通して「仲間と読み合う」面白さを経験していく。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎週、予習復習合わせて4時間程度。
オンライン・ライブラリーにアクセスして、「1冊以上(5000語以上)/週」のペースで、授業時間外に洋書を読む。読了後、自分のお気に入りの本について魅力を語ったReaction Report（RR）を書く（使用言語は主に日本語）。RRは「ブクログ (https://booklog.jp/)」に投稿する。

[ 授業計画 ]
第1回目のオリエンテーションで、オンライン・ライブラリーの使い方について説明する。
第2回～第13回は、毎回、105分の構成は、次の①～③の3部構成からなる。
①ディクテーション (30分)
② ４人グループやペアをつくり、今週、各自が読んできた本を、日本語や英語で紹介し語り合う (45分)。
③洋書の読み方や速読の方法をプリントを通じて学ぶ(30分)。

| 科目名 | 教養総合Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Reading for Pleasure | | | |
| 担当者 | 水野　邦太郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
単位を取得するには、学期末までに以下の条件を満たすこと: 欠席は4回まで、「10冊以上かつ50000語以上」の読書量、クイズの総正解数が 70% 以上。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

[ 教科書(ISBN) ]
オンライン・ライブラリーを利用するための利用料金(1500円前後)を支払う。正確な料金と支払い方法については、第1回の授業で説明する。

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教養総合Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡墻　裕剛 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
・漢字について興味関心をもち、日本の表記文化の現状を報告できる
・特定の漢字について調査報告を行える

[ 授業概要 ]
日本語と漢字の関係は深く長いものではあるが、通常、表層的かつ短絡的な理解しか行われていないことが多い。この授業では、教員による個々の漢字とそれに関連する別の漢字や漢字文化についての概説を通して、漢字と日本文化の関係性について理解を深めることを目指す。また、適宜日常的な気づきについて学生からの報告を促す。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
日常的に、漢字に関する知識を模索する。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス 「一」の話
2.「口」の話
3.「台」の話
4.「春」の話
5.「正」の話
6.「大」の話
7.「木」の話
8.「玉」の話
9.「有」の話
10.「世」の話
11.「新」の話
12.「龍」の話
13.新年の漢字の話

| 科目名 | 教養総合Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡墻　裕剛 | | | |

[ 成績評価方法 ]
リアクションペーパー(5%×13回)、期末レポート(35%)。
※欠席が3回を超えた場合、単位の修得が困難になるため十分注意すること。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
・各回の冒頭で質問・疑問に対してコメントと解説を行う。
・また、manabaを用いて随時フィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:リアクションペーパー、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:リアクションペーパー、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:リアクションペーパー、提出物

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教養総合Ⅴ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 橋本　礼子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
ことばのさまざまな表現や自分の書いた文章などについて深く考え、客観的に分析する方法を知る。

[ 授業概要 ]
大学生として活動範囲が広がると、接したり産出したりすることばのバリエーションも広がる。日本語でも、誰が誰に、何をするために使うのかで、さまざまに使い分ける必要がある。この講義では身近な日本語の実例を観察しながら、ことばを客観的に分析する方法を学ぶ。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
日頃から日本語の表現に関する話題に関心を持ち、例を収集する。

[ 授業計画 ]
1.導入　この授業の進め方
2.どう伝わるか1　語が伝えるもの・文体が伝えるもの
3.どう伝わるか2 「やさしい日本語」
4.どう伝わるか3　情報の順番・公用文の「わかりやすさ」
5.どう伝わるか4　あいまい文・伝わりにくい文
6.何をインプットしているか1　さまざまな情報源の特性
7.何をインプットしているか2　読書と教養
8.何をインプットしているか3　読解ストラテジー
9.何をインプットしているか4　語彙
10.実例を観察して考えよう1　公共サインを分析する
11.実例を観察して考えよう2　言語景観
12.実例を観察して考えよう3　レトリック
13.実例を観察して考えよう4　防災の情報

| 科目名 | 教養総合Ⅴ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 橋本　礼子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
・レポート3回（60%）
・授業中に指示する課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業中に課題の解説を行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：課題・レポート

[ 教科書（ISBN） ]
使用しない。資料を配付する。

[ 参考書（ISBN） ]
授業中に適宜紹介する。

| 科目名 | 教養総合Ⅴ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語と日本語で学ぶ国際協力/ International Cooperation to learn in English and Japanese | | | |
| 担当者 | 貝増 匡俊 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
・様々な国の暮らしについて理解できるようになる。
・国際協力全般について理解が深まる。
・国際社会の中で日本が振る舞うべきことについて多面的に分析し、自らの意見を簡潔に述べることができる。

[ 授業概要 ]
前半部は、国際協力に対する全般的な説明を行った上で、その目的は何なのかを検討します。例えば戦後、行吉学園の開学した当時の考えと主にアメリカやヨーロッパが支援してきた援助アプローチの違いなどを考えていきます。その後、基本的な国際協力の歴史や仕組みについて説明していきます。4回目以降は、主にテキストを使って国際協力の仕組みとその効果あるいは、また問題点などを考察する。

Through the first to the third sessions, students learn some notions of international aid/assistance after its general explanation. Students have some chances to consider two approaches between KWU's and aid philosophy after WWII. Then, the basic framework and mechanism of international aid/assistance are explained. After the 4th session onward, students will learn international aid/assistance in detail through a textbook and hand-outs.

なお、本授業は英語と日本語で行います。英語で説明した後、日本語で解説して理解を深めるようにします。
(理解度などを確認しながら、適宜その比率を変えるようにします。)

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
事前に教科書を読んで予習を行って下さい。授業後は振り返り、復習を行って下さい。
各回、予習復習合わせて 4 時間程度

[ 授業計画 ]
1.ガイダンス/ Introduction
2.神戸女子大学の歴史と援助の歴を比較する/ Comparative Approach between histories of KWU and aid history
3.被援助国として日本/ Japan as a recipient country
4.教育セクター/ Education sector
5.保健セクター/ Health sector
6.労働移動/ Labour migration
7.経済成長/ Economic growth and trickle-down theory
8. 特別講義/ Special session
9. 開発金融/ Development finance
10.環境/ Environment
11.持続可能な開発/ Sustainable development
12.開発援助/ International assistance
13.まとめ/ Summary

| 科目名 | 教養総合Ⅴ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語と日本語で学ぶ国際協力/ International Cooperation to learn in English and Japanese | | | |
| 担当者 | 貝増　匡俊 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、ミニッツペーパー40%、manabaや教室内でのディスカッションへの貢献度(10%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
試験後に試験に関する解説を行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、ミニッツペーパー、manabaや教室内でのディスカッションへの貢献度

[ 教科書(ISBN) ]
ストーリーで学ぶ開発経済学 -- 途上国の暮らしを考える　著者名:黒崎 卓 (著), 栗田 匡相 (著)　出版社:有斐閣　(978-4641150348)
配布物(hand-outs)

[ 参考書(ISBN) ]
ODA白書

| 科目名 | 教養総合Ⅴ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ホスピタリティ・マネジメント | | | |
| 担当者 | 白川　和美 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
ホスピタリティやサービス関連産業に関する知識を身につけ理解を深めることにより、幅広い視野を養い、今後のキャリア形成に役立てる。

[ 授業概要 ]
この授業では、エアラインやテーマパーク、ホテルなどのホスピタリティ戦略や実践例を通じてホスピタリティについての総合的な理解を深め、テクニックだけではない、ホスピタリティ実践の基盤となる「心」の部分を学ぶことを目的とする。また社会におけるホスピタリティの役割、重要性を理解し、これからの時代のホスピタリティのあり方を考える。日本航空の客室乗務管理職として人財育成経験を有する講師が、現場での経験・最新の情報を織り交ぜながら講義を行う。
なお、受講受け入れ数は70名までとして、71名を超える場合は抽選とする。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎回復習を行い、学んだ内容を日常生活で実際に活かすこと。課題は必ず提出(または授業内で発表)すること。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション
2. ホスピタリティとは何か①　ホスピタリティの概念とサービスの概念との差異
3. ホスピタリティとは何か②　日本のおもてなしの概念
4. ケーススタディ①　エアライン① 航空業界の基礎知識
5. ケーススタディ②　エアライン② JALのホスピタリティ
6. ホスピタリティの実践①　心と形(身だしなみ・表情・挨拶・立ち居振る舞い)
7. ケーススタディ③　テーマパーク　　小テスト
8. ケーススタディ④　ホテル・旅館
9. ホスピタリティの実践②　心と形(話し方)
10. ケーススタディ⑤　ファストフード
11. ホスピタリティの実践③　心と形(コミュニケーション)
12. 将来に向けたホスピタリティ
13. まとめ

| 科目名 | 教養総合Ⅴ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ホスピタリティ・マネジメント | | | |
| 担当者 | 白川　和美 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(40%)、小テスト(30%)、授業内パフォーマンス(30%:毎週の振り返りシートを含む)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業時間内で全般的なフィードバックを実施するとともに、内容に応じ適宜manabaを通じてフィードバックを行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:授業での発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:授業での活動

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業での活動

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:授業での活動

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業での活動、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:授業での活動、発表、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:課題、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:授業での活動、発表、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:授業での活動、課題

[ 教科書(ISBN) ]
授業で指示します。
プリント配布

[ 参考書(ISBN) ]
授業で適宜指示します。

| 科目名 | 教養総合Ⅵ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日英語で学ぶグローカル社会 | | | |
| 担当者 | 野口　和美 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
様々なグローカルな課題に関する英語での講義

[ 授業概要 ]
グローカルな課題を理解を深め、日本との違いや異文化への理解を深めることを目的とする。講義とともに、映像や写真を中心に現状を紹介することもある。日英語で授業を実施する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
　前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から、様々な国や地域に興味をもち、学生自身で国際関係等に関するシンポジュームに参加すること。予習復習2時間程度。

[ 授業計画 ]
1.Introduction (Noguchi)
2.What is Civil Society? (市民社会とは何か)(Noguchi)
3.NPO and Politics (NPOと政治) (Noguchi)
4.Local Governance and NPO (ローカル・ガバナンスとNPO) (Noguchi)
5.Mid-Term wrap-up (Noguchi)
6.Women's leadership and NPO (NPOと女性のリーダーシップ) (Guest speaker: 学外講師と担当教員の協働授業)
7.Foreign Policy and NPO (外交政策とNPO) (Noguchi)
8.NPOs in the World Part 1 (海外のNPO　1)(Noguchi)
9.NPOs in the World Part 2 (海外のNPO　2) (Noguchi)
10.Philanthropic thoughts (慈善・フィランソロピーの思想) (Noguchi)
11.Private Foundations and International Relations (民間財団と国際関係) (Noguchi)
12.Private Foundations and Pandemic (民間財団とパンデミック)(Noguchi)
13.　Final wrap-up (Noguchi)

| 科目名 | 教養総合Ⅵ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日英語で学ぶグローカル社会 | | | |
| 担当者 | 野口　和美 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業への参加度（30%）、ディスカッションへの参加度（30%）、期末レポート試験（40%）
国際関係等に関するシンポジュームに参加しレポートを提出した際は、加点をする場合がある。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
指定しません。

[ 参考書（ISBN） ]
適宜指示します。

| 科目名 | 教養総合Ⅵ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Reading for Pleasure | | | |
| 担当者 | 水野　邦太郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1. 一人ひとりが自分の希望やニーズに役立つよう賢い本の選択ができ、好きな時に好きな場所で自分のペースで洋書の読書をすすめていけるようになる。
2. 簡単でやさしい英語をたくさん読んで、Reading for Pleasure を経験する。
3. 読んだ本の「感想」を、3分で教室の仲間に伝えられる（使用言語は、英語と日本語）
4. 自分の読みを多くの仲間との相互作用のなかで深化させながら解釈力を高める。

[ 授業概要 ]
オンライン・ライブラリーにある1600冊の洋書から読みたい洋書を選び、授業の時間外に読む。「1冊以上(5000語以上)/週」のペースで読む。本のジャンルは以下から好きに選べる: 絵本、児童文学、日本文学、自伝・伝記、動物、スポーツ、音楽、食・健康・精神・身体、教育・子育て、自然・環境問題、映画、科学・社会・政治、外国事情。
毎週、読了後、自分のお気に入りの本について魅力を語ったReaction Report（RR）を書く（使用言語は主に日本語）。RRは、ブクログ(https://booklog.jp/)に投稿する。
教室では4人グループやペアを組み、今週読んできた本を、英語や日本語で紹介し語り合う。教室で一人ひとりが自分の読書体験を表現し仲間と共有することを通して「仲間と読み合う」面白さを経験していく。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎週、予習復習合わせて4時間程度。
オンライン・ライブラリーにアクセスして、「1冊以上(5000語以上)/週」のペースで、授業時間外に洋書を読む。読了後、自分のお気に入りの本について魅力を語ったReaction Report（RR）を書く（使用言語は主に日本語）。RRは「ブクログ (https://booklog.jp/)」に投稿する。

[ 授業計画 ]
第1回目のオリエンテーションで、オンライン・ライブラリーの使い方について説明する。
第2回～第13回は、毎回、105分の構成は、次の①～③の3部構成からなる。
①ディクテーション (30分)
② ４人グループやペアをつくり、今週、各自が読んできた本を、日本語や英語で紹介し語り合う (45分)。
③洋書の読み方や速読の方法をプリントを通じて学ぶ(30分)。

| 科目名 | 教養総合Ⅵ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Reading for Pleasure | | | |
| 担当者 | 水野　邦太郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
単位を取得するには、学期末までに以下の条件を満たすこと: 欠席は4回まで、「10冊以上かつ50000語以上」の読書量、クイズの総正解数が 70% 以上。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

[ 教科書（ISBN） ]
オンライン・ライブラリーを利用するための利用料金(1500円前後)を支払う。正確な料金と支払い方法については、第1回の授業で説明する。

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 教養総合Ⅵ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡墻　裕剛 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
・漢字について興味関心をもち、日本の表記文化の現状を報告できる
・特定の漢字について調査報告を行える

[ 授業概要 ]
日本語と漢字の関係は深く長いものではあるが、通常、表層的かつ短絡的な理解しか行われていないことが多い。この授業では、教員による個々の漢字とそれに関連する別の漢字や漢字文化についての概説を通して、漢字と日本文化の関係性について理解を深めることを目指す。また、適宜日常的な気づきについて学生からの報告を促す。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
日常的に、漢字に関する知識を模索する。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス 「一」の話
2.「口」の話
3.「台」の話
4.「春」の話
5.「正」の話
6.「大」の話
7.「木」の話
8.「玉」の話
9.「有」の話
10.「世」の話
11.「新」の話
12.「龍」の話
13.新年の漢字の話

| 科目名 | 教養総合Ⅵ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡墻　裕剛 | | | |

[ 成績評価方法 ]
リアクションペーパー(5%×13回)、期末レポート(35%)。
※欠席が3回を超えた場合、単位の修得が困難になるため十分注意すること。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
・各回の冒頭で質問・疑問に対してコメントと解説を行う。
・また、manabaを用いて随時フィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:リアクションペーパー、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:リアクションペーパー、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:リアクションペーパー、提出物

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教養総合Ⅶ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 橋本　礼子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
ことばのさまざまな表現や自分の書いた文章などについて深く考え、客観的に分析する方法を知る。

[ 授業概要 ]
大学生として活動範囲が広がると、接したり産出したりすることばのバリエーションも広がる。日本語でも、誰が誰に、何をするために使うのかで、さまざまに使い分ける必要がある。この講義では身近な日本語の実例を観察しながら、ことばを客観的に分析する方法を学ぶ。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
日頃から日本語の表現に関する話題に関心を持ち、例を収集する。

[ 授業計画 ]
1.導入　この授業の進め方
2.どう伝わるか1　語が伝えるもの・文体が伝えるもの
3.どう伝わるか2 「やさしい日本語」
4.どう伝わるか3　情報の順番・公用文の「わかりやすさ」
5.どう伝わるか4　あいまい文・伝わりにくい文
6.何をインプットしているか1　さまざまな情報源の特性
7.何をインプットしているか2　読書と教養
8.何をインプットしているか3　読解ストラテジー
9.何をインプットしているか4　語彙
10.実例を観察して考えよう1　公共サインを分析する
11.実例を観察して考えよう2　言語景観
12.実例を観察して考えよう3　レトリック
13.実例を観察して考えよう4　防災の情報

| 科目名 | 教養総合Ⅶ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 橋本　礼子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
・レポート3回（60%）
・授業中に指示する課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業中に課題の解説を行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：課題・レポート

[ 教科書（ISBN） ]
使用しない。資料を配付する。

[ 参考書（ISBN） ]
授業中に適宜紹介する。

| 科目名 | 教養総合Ⅶ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語と日本語で学ぶ国際協力/ International Cooperation to learn in English and Japanese | | | |
| 担当者 | 貝増 匡俊 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
・様々な国の暮らしについて理解できるようになる。
・国際協力全般について理解が深まる。
・国際社会の中で日本が振る舞うべきことについて多面的に分析し、自らの意見を簡潔に述べることができる。

[ 授業概要 ]
前半部は、国際協力に対する全般的な説明を行った上で、その目的は何なのかを検討します。例えば戦後、行吉学園の開学した当時の考えと主にアメリカやヨーロッパが支援してきた援助アプローチの違いなどを考えていきます。その後、基本的な国際協力の歴史や仕組みについて説明していきます。4回目以降は、主にテキストを使って国際協力の仕組みとその効果あるいは、また問題点などを考察する。

Through the first to the third sessions, students learn some notions of international aid/assistance after its general explanation. Students have some chances to consider two approaches between KWU's and aid philosophy after WWII. Then, the basic framework and mechanism of international aid/assistance are explained. After the 4th session onward, students will learn international aid/assistance in detail through a textbook and hand-outs.

なお、本授業は英語と日本語で行います。英語で説明した後、日本語で解説して理解を深めるようにします。
(理解度などを確認しながら、適宜その比率を変えるようにします。)

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
事前に教科書を読んで予習を行って下さい。授業後は振り返り、復習を行って下さい。
各回、予習復習合わせて 4 時間程度

[ 授業計画 ]
1.ガイダンス/ Introduction
2.神戸女子大学の歴史と援助の歴を比較する/ Comparative Approach between histories of KWU and aid history
3.被援助国として日本/ Japan as a recipient country
4.教育セクター/ Education sector
5.保健セクター/ Health sector
6.労働移動/ Labour migration
7.経済成長/ Economic growth and trickle-down theory
8. 特別講義/ Special session
9. 開発金融/ Development finance
10.環境/ Environment
11.持続可能な開発/ Sustainable development
12.開発援助/ International assistance
13.まとめ/ Summary

| 科目名 | 教養総合Ⅶ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 英語と日本語で学ぶ国際協力/ International Cooperation to learn in English and Japanese | | | |
| 担当者 | 貝増　匡俊 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、ミニッツペーパー40%、manabaや教室内でのディスカッションへの貢献度(10%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
試験後に試験に関する解説を行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、ミニッツペーパー、manabaや教室内でのディスカッションへの貢献度

[ 教科書(ISBN) ]
ストーリーで学ぶ開発経済学 -- 途上国の暮らしを考える　著者名:黒崎 卓 (著), 栗田 匡相 (著)　出版社:有斐閣　(978-4641150348)
配布物(hand-outs)

[ 参考書(ISBN) ]
ODA白書

| 科目名 | 教養総合Ⅶ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ホスピタリティ・マネジメント | | | |
| 担当者 | 白川　和美 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
ホスピタリティやサービス関連産業に関する知識を身につけ理解を深めることにより、幅広い視野を養い、今後のキャリア形成に役立てる。

[ 授業概要 ]
この授業では、エアラインやテーマパーク、ホテルなどのホスピタリティ戦略や実践例を通じてホスピタリティについての総合的な理解を深め、テクニックだけではない、ホスピタリティ実践の基盤となる「心」の部分を学ぶことを目的とする。また社会におけるホスピタリティの役割、重要性を理解し、これからの時代のホスピタリティのあり方を考える。日本航空の客室乗務管理職として人財育成経験を有する講師が、現場での経験・最新の情報を織り交ぜながら講義を行う。
なお、受講受け入れ数は70名までとして、71名を超える場合は抽選とする。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎回復習を行い、学んだ内容を日常生活で実際に活かすこと。課題は必ず提出(または授業内で発表)すること。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション
2. ホスピタリティとは何か①　ホスピタリティの概念とサービスの概念との差異
3. ホスピタリティとは何か②　日本のおもてなしの概念
4. ケーススタディ①　エアライン① 航空業界の基礎知識
5. ケーススタディ②　エアライン② JALのホスピタリティ
6. ホスピタリティの実践①　心と形(身だしなみ・表情・挨拶・立ち居振る舞い)
7. ケーススタディ③　テーマパーク　　小テスト
8. ケーススタディ④　ホテル・旅館
9. ホスピタリティの実践②　心と形(話し方)
10. ケーススタディ⑤　ファストフード
11. ホスピタリティの実践③　心と形(コミュニケーション)
12. 将来に向けたホスピタリティ
13. まとめ

| 科目名 | 教養総合Ⅶ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ホスピタリティ・マネジメント | | | |
| 担当者 | 白川　和美 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(40%)、小テスト(30%)、授業内パフォーマンス(30%:毎週の振り返りシートを含む)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業時間内で全般的なフィードバックを実施するとともに、内容に応じ適宜manabaを通じてフィードバックを行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:授業での発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:授業での活動

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業での活動

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:授業での活動

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業での活動、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:授業での活動、発表、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:課題、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:授業での活動、発表、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:授業での活動、課題

[ 教科書(ISBN) ]
授業で指示します。
プリント配布

[ 参考書(ISBN) ]
授業で適宜指示します。

| 科目名 | 教養総合Ⅷ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日英語で学ぶグローカル社会 | | | |
| 担当者 | 野口　和美 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
様々なグローカルな課題に関する英語での講義

[ 授業概要 ]
グローカルな課題を理解を深め、日本との違いや異文化への理解を深めることを目的とする。講義とともに、映像や写真を中心に現状を紹介することもある。日英語で授業を実施する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
　前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から、様々な国や地域に興味をもち、学生自身で国際関係等に関するシンポジュームに参加すること。予習復習2時間程度。

[ 授業計画 ]
1.Introduction (Noguchi)
2.What is Civil Society? (市民社会とは何か)(Noguchi)
3.NPO and Politics (NPOと政治) (Noguchi)
4.Local Governance and NPO (ローカル・ガバナンスとNPO) (Noguchi)
5.Mid-Term wrap-up (Noguchi)
6.Women's leadership and NPO (NPOと女性のリーダーシップ) (Guest speaker: 学外講師と担当教員の協働授業)
7.Foreign Policy and NPO (外交政策とNPO) (Noguchi)
8.NPOs in the World Part 1 (海外のNPO　1)(Noguchi)
9.NPOs in the World Part 2 (海外のNPO　2) (Noguchi)
10.Philanthropic thoughts (慈善・フィランソロピーの思想) (Noguchi)
11.Private Foundations and International Relations (民間財団と国際関係) (Noguchi)
12.Private Foundations and Pandemic (民間財団とパンデミック)(Noguchi)
13.　Final wrap-up (Noguchi)

| 科目名 | 教養総合Ⅷ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日英語で学ぶグローカル社会 | | | |
| 担当者 | 野口　和美 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業への参加度（30%）、ディスカッションへの参加度（30%）、期末レポート試験（40%）
国際関係等に関するシンポジュームに参加しレポートを提出した際は、加点をする場合がある。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
指定しません。

[ 参考書（ISBN） ]
適宜指示します。

| 科目名 | 教養総合Ⅷ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Reading for Pleasure | | | |
| 担当者 | 水野　邦太郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1. 一人ひとりが自分の希望やニーズに役立つよう賢い本の選択ができ、好きな時に好きな場所で自分のペースで洋書の読書をすすめていけるようになる。
2. 簡単でやさしい英語をたくさん読んで、Reading for Pleasure を経験する。
3. 読んだ本の「感想」を、3分で教室の仲間に伝えられる（使用言語は、英語と日本語）
4. 自分の読みを多くの仲間との相互作用のなかで深化させながら解釈力を高める。

[ 授業概要 ]
オンライン・ライブラリーにある1600冊の洋書から読みたい洋書を選び、授業の時間外に読む。「1冊以上(5000語以上)/週」のペースで読む。本のジャンルは以下から好きに選べる: 絵本、児童文学、日本文学、自伝・伝記、動物、スポーツ、音楽、食・健康・精神・身体、教育・子育て、自然・環境問題、映画、科学・社会・政治、外国事情。
毎週、読了後、自分のお気に入りの本について魅力を語ったReaction Report（RR）を書く（使用言語は主に日本語）。RRは、ブクログ(https://booklog.jp/)に投稿する。
教室では4人グループやペアを組み、今週読んできた本を、英語や日本語で紹介し語り合う。教室で一人ひとりが自分の読書体験を表現し仲間と共有することを通して「仲間と読み合う」面白さを経験していく。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎週、予習復習合わせて4時間程度。
オンライン・ライブラリーにアクセスして、「1冊以上(5000語以上)/週」のペースで、授業時間外に洋書を読む。読了後、自分のお気に入りの本について魅力を語ったReaction Report（RR）を書く（使用言語は主に日本語）。RRは「ブクログ (https://booklog.jp/)」に投稿する。

[ 授業計画 ]
第1回目のオリエンテーションで、オンライン・ライブラリーの使い方について説明する。
第2回～第13回は、毎回、105分の構成は、次の①～③の3部構成からなる。
①ディクテーション (30分)
② ４人グループやペアをつくり、今週、各自が読んできた本を、日本語や英語で紹介し語り合う (45分)。
③洋書の読み方や速読の方法をプリントを通じて学ぶ(30分)。

| 科目名 | 教養総合Ⅷ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | Reading for Pleasure | | | |
| 担当者 | 水野　邦太郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
単位を取得するには、学期末までに以下の条件を満たすこと: 欠席は4回まで、「10冊以上かつ50000語以上」の読書量、クイズの総正解数が 70% 以上。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業中及び、manaba 掲示板を利用して行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

[ 教科書（ISBN） ]
オンライン・ライブラリーを利用するための利用料金(1500円前後)を支払う。正確な料金と支払い方法については、第1回の授業で説明する。

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 教養総合Ⅷ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡墻　裕剛 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
・漢字について興味関心をもち、日本の表記文化の現状を報告できる
・特定の漢字について調査報告を行える

[ 授業概要 ]
日本語と漢字の関係は深く長いものではあるが、通常、表層的かつ短絡的な理解しか行われていないことが多い。この授業では、教員による個々の漢字とそれに関連する別の漢字や漢字文化についての概説を通して、漢字と日本文化の関係性について理解を深めることを目指す。また、適宜日常的な気づきについて学生からの報告を促す。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
日常的に、漢字に関する知識を模索する。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス 「一」の話
2.「口」の話
3.「台」の話
4.「春」の話
5.「正」の話
6.「大」の話
7.「木」の話
8.「玉」の話
9.「有」の話
10.「世」の話
11.「新」の話
12.「龍」の話
13.新年の漢字の話

| 科目名 | 教養総合Ⅷ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡墻　裕剛 | | | |

[ 成績評価方法 ]
リアクションペーパー(5%×13回)、期末レポート(35%)。
※欠席が3回を超えた場合、単位の修得が困難になるため十分注意すること。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
・各回の冒頭で質問・疑問に対してコメントと解説を行う。
・また、manabaを用いて随時フィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:リアクションペーパー、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:リアクションペーパー、提出物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:リアクションペーパー、提出物

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 芸術Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 美の探求 | | | |
| 担当者 | 松本　尚 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
芸術や身近なものたちの美に対する理解を深め、また再認識をし、生活の中での、それらの存在に関心を持つようになる。

[ 授業概要 ]
過去から現在に至る芸術全般の流れを追いながら、美とは何か、どのように表現されてきたのかを学び、実際に表現、形にしていくことを学びます。
芸術を通して日常生活に対する柔軟な視点を持ち、視野を広げ、自身のこれからの生活をより豊かにする、仕事に活かせる思考を身につけます。できるだけ多くの作品、教材を使用します。
視覚的な学びを言葉で語る力、手を動かすことでの経験、発想の広がりを実践的に身に付けていきます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業の終わりに、次回のテーマを告知します。そのことについて各自が予備知識を持つように文献等を調べ、より一層関心を持ち、理解を深めるために授業内で挙げる参考文献等を読んでおいてください。また当日の講義内容について復習をしてください。予習復習合わせて4時間程度です。

[ 授業計画 ]
1. 美とは何か、芸術とは何か
2. ファッションの視点から1ーファッションの歴史、過去から現代まで
3. ファッションの視点から2ー世界のファッションデザイナー
4. デザインの視点から1ーグラフィックデザインの歴史、過去から現代まで
5. デザインの視点から2ー色彩、フォルム、テクスチャー
6. 絵画・彫刻の視点から1ー絵画の歴史、過去から現代まで
7. 絵画・彫刻の視点から2ー東洋の美、西洋の美、現代アートとは
8.プロダクトデザイン・工芸の視点から1ープロダクトデザイン・工芸の歴史、過去から現代まで
9.プロダクトデザイン・工芸の視点から2ー生活の美、日常の美
10.空間芸術・建築の視点から1ー建築の歴史、過去から現代まで
11. 空間芸術・建築の視点から2ー世界の建築、パブリックアート、日常における空間性
12. 映像の視点から1ー写真、映像、アニメーションの歴史、過去から現代まで
13. まとめ、芸術とは何か、美とは何かを各自テーマ設定を行い、レポートとしてまとめる

| 科目名 | 芸術Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 美の探求 | | | |
| 担当者 | 松本　尚 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート課題提出(80%)、授業態度の総合評価(20%)。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
課題提出後の授業の中で、講評を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 芸術Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 世界の音楽 | | | |
| 担当者 | 服部　智行 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
受講生がポピュラー音楽史に関する基本的な知識を身につけ、それに基づいて自らテーマを決めて調べ、レポートとしてまとめる能力を養うことを目標とする授業です。

[ 授業概要 ]
講義を中心に授業を進めます。本年度は第二次世界大戦後(1945年以降)のポピュラー音楽史を概観します。今回の講義ではいわゆる「洋楽」と「邦楽」をなるべく同じくらいの比率で扱い、現在の日本で聴かれているさまざまな音楽のルーツを確認し、それぞれのジャンルがどのような音楽からの影響によって誕生、変容し、他のジャンルにどのような影響を与えてきたのかという流れを、時代を追って見ていきます。さらに各時代の社会状況、テクノロジー、音楽産業、メディアなどが、その時代の音楽に与えた影響などについても考えます。なお、ポピュラー音楽の研究においては実際の楽曲や映像作品にまさる資料はないので、この授業でもできるだけたくさんの音資料、映像資料等を視聴します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業内容と関連する音楽作品、映像作品等を可能な限り視聴し、関連文献に目を通して下さい。レポートのテーマ発表後は、その提出に向けてしっかり準備して下さい。 各回、予習復習合わせて4時間程度を望みます。

[ 授業計画 ]
1.1940年代前半までのポピュラー音楽
2.1940年代後半のポピュラー音楽
3.1950年代前半のポピュラー音楽
4.1950年代後半のポピュラー音楽
5.1960年代前半のポピュラー音楽
6.1960年代後半のポピュラー音楽
7.1970年代前半のポピュラー音楽
8.1970年代後半のポピュラー音楽
9.1980年代前半のポピュラー音楽
10.1980年代後半のポピュラー音楽
11.1990年代前半のポピュラー音楽
12.1990年代後半のポピュラー音楽
13.2000年以降のポピュラー音楽

| 科目名 | 芸術Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 世界の音楽 | | | |
| 担当者 | 服部　智行 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート(100%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの出題意図、書き方、採点のポイント等に関しては授業中に詳しく説明し、提出前の質問、相談等も受け付けます。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート課題

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 芸術Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 世界の音楽 | | | |
| 担当者 | 服部　智行 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
受講生がポピュラー音楽史に関する基本的な知識を身につけ、それに基づいて自らテーマを決めて調べ、レポートとしてまとめる能力を養うことを目標とする授業です。

[ 授業概要 ]
講義を中心に授業を進めます。本年度は第二次世界大戦後(1945年以降)のポピュラー音楽史を概観します。今回の講義ではいわゆる「洋楽」と「邦楽」をなるべく同じくらいの比率で扱い、現在の日本で聴かれているさまざまな音楽のルーツを確認し、それぞれのジャンルがどのような音楽からの影響によって誕生、変容し、他のジャンルにどのような影響を与えてきたのかという流れを、時代を追って見ていきます。さらに各時代の社会状況、テクノロジー、音楽産業、メディアなどが、その時代の音楽に与えた影響などについても考えます。なお、ポピュラー音楽の研究においては実際の楽曲や映像作品にまさる資料はないので、この授業でもできるだけたくさんの音資料、映像資料等を視聴します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業内容と関連する音楽作品、映像作品等を可能な限り視聴し、関連文献に目を通して下さい。レポートのテーマ発表後は、その提出に向けてしっかり準備して下さい。 各回、予習復習合わせて4時間程度を望みます。

[ 授業計画 ]
1.1940年代前半までのポピュラー音楽
2.1940年代後半のポピュラー音楽
3.1950年代前半のポピュラー音楽
4.1950年代後半のポピュラー音楽
5.1960年代前半のポピュラー音楽
6.1960年代後半のポピュラー音楽
7.1970年代前半のポピュラー音楽
8.1970年代後半のポピュラー音楽
9.1980年代前半のポピュラー音楽
10.1980年代後半のポピュラー音楽
11.1990年代前半のポピュラー音楽
12.1990年代後半のポピュラー音楽
13.2000年以降のポピュラー音楽

| 科目名 | 芸術Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 世界の音楽 | | | |
| 担当者 | 服部　智行 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート(100%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの出題意図、書き方、採点のポイント等に関しては授業中に詳しく説明し、提出前の質問、相談等も受け付けます。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート課題

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 芸術Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本の古典芸能 （日本の古典芸能・能楽・人形浄瑠璃・歌舞伎） | | | |
| 担当者 | 大山 範子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
能楽（能と狂言）・人形浄瑠璃・歌舞伎についての知識を深め、その特性を理解できることを目指す。また、これらの芸能が同時代や後世の文化に与えた影響を知り、日本文化について考える際の手がかりの一つを得る。

[ 授業概要 ]
能楽を中心に、人形浄瑠璃・歌舞伎も対象として講義を進める。最初に、それぞれの芸能に関して、鑑賞のための基本的なことがらについて概説する。その上で、いくつかの作品を取り上げて台本を読み、ビデオ等を用いて舞台映像を鑑賞しながら、これらの芸能が先行する文化（特に文学作品）をどのように受容し創作されているのか、また、後世にどのような影響を及ぼしたかなど、幅広く考察する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
取り扱う作品の資料は事前に配付するので、必ず目を通してくること。

[ 授業計画 ]
01. 能楽ってどんなもの？ ―能・狂言入門―
02. 能の諸相 ―能を「見る」・「聞く」・「読む」―
03. 能・狂言の歴史
04. 近世の芸能 ―人形浄瑠璃と歌舞伎―
05. 能《高砂》（1） ―能の基本的構成―
06. 能《高砂》（2） ―能とその本説―
07. 能《高砂》（3） ―能からの展開―
08. 能《隅田川》（1）
09. 能《隅田川》（2）
10. 能《隅田川》と近世芸能
11. 能《船弁慶》（1）
12. 能《船弁慶》（2）
13. 能《船弁慶》と近世芸能

「授業計画」に掲げた作品は、受講者の人数や関心によっては変更する場合があります。

| 科目名 | 芸術Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本の古典芸能 （日本の古典芸能・能楽・人形浄瑠璃・歌舞伎） | | | |
| 担当者 | 大山　範子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
期末レポート（60%）および講義時の小課題（不定期、数回を予定：40%）によって評価する。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
小課題については次回講義時にコメントをする。期末レポートは提出・講評ともmanabaを利用。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし。講義時にプリントを配付する。

[ 参考書（ISBN） ]
開講時及び適宜指示する。

| 科目名 | 現代社会Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 法と社会生活 （社会生活と法） | | | |
| 担当者 | 豊福 一 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
家族法を中心に基礎的な法知識を修得する。

[ 授業概要 ]
民法の家族法や相続法についての解説を行う。離婚や相続といった日常生活に密接に関連する事項を中心にわかりやすく解説する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
前回講義内容の復習が必要。
日頃から、新聞・インターネット等で社会で何が起きているか関心を持つよう心がけたい。

[ 授業計画 ]
1. 親族関係・扶養
2. 婚姻
3. 氏と戸籍・近年の婚姻の問題点
4. 離婚
5. 内縁
6. 実親子
7. 養子制度
8. 後見・保佐・補助
9. 相続の法定原則
10. 共同相続
11. 遺言
12. 遺留分制度
13. まとめ

| 科目名 | 現代社会 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 法と社会生活 （社会生活と法） | | | |
| 担当者 | 豊福 一 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験による評価を基本とする。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
試験終了後に解説することを予定しています。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
適宜レジュメを配布する。

[ 参考書(ISBN) ]
特に指定しない。

| 科目名 | 現代社会Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 法と社会生活 | | | |
| 担当者 | 七野　敏光 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
法を身近なものと考え、政治問題などに関心を示す生活態度を身につける。

[ 授業概要 ]
普段の何げない生活。私たちはおよそ法など意識せずに過ごしている。だが、それは私たちが呼吸するときに空気の存在を意識することなどないことと似ている。意識の有無はどうあれ、私たちは法の存在なしには一時も生活できない、法の世界の住人なのである。少々びっくりするかもしれないが、これは紛れもない事実であり、この事実を皆さんに認識してもらい、法の世界の住人に相応しい知識を伝えることが、この授業の目的である。その昔、法に精通することは紳士(gentleman)の条件だった。今の世の中、当然、法に精通することは紳士ばかりでなく、淑女(lady)の条件ともなろう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
インターネットなどを駆使し、話題となっている法律問題(紛争や事件など)につき、リアルな情報を把握したうえで授業に参加してください。毎授業ごとの授業準備と復習に4時間程度の時間をかけてください。

[ 授業計画 ]
1. はじめに
2. 日常生活と法(売買契約)
3. 日常生活と法(賃貸借・消費貸借契約)
4. 日常生活と法(家族関係一般)
5. 結婚と親子関係
6. 六法とは何か？(憲法)
7. 六法とは何か？(民法・商法と民事・刑事訴訟法)
8. 六法とは何か？(刑法)
9. 親族の基本知識
10. 財産相続(相続人・相続分など)
11. 財産相続(代襲相続・寄与分など)
12. 権利の主体と社会保障
13. まとめ

| 科目名 | 現代社会Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 法と社会生活 | | | |
| 担当者 | 七野　敏光 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験による評価を基本とする。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
試験実施後、解答を提示し説明します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:試験による評価を基本とする。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:試験による評価を基本とする。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:試験による評価を基本とする。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験による評価を基本とする。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:試験による評価を基本とする。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:試験による評価を基本とする。

[ 教科書(ISBN) ]
『新時代の法学・憲法』
著者名:山田勉・笹田哲男編
出版社:建帛社
(ISBN 978-4-7679-4346-6)

[ 参考書(ISBN) ]
なし 出版社:なし

| 科目名 | 現代社会Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 現代社会と経済 | | | |
| 担当者 | 小沢　康英 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
経済の基礎知識を習得しながら、現実の諸問題について経済面からの理解を深める。

[ 授業概要 ]
現代日本が抱える経済的諸問題について、やさしく講義する。戦後の日本経済は大きな発展を遂げた。戦後数十年の経済発展の間に確立した組織や雇用など企業運営の枠組みは、近年の経済の低成長のなかで変化が顕著となってきている。社会の枠組みの変化やそこから生じる課題などについて考えていく。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。

[ 授業計画 ]
1. 社会経済を構成する主な要素
2. 企業経営の目的
3. 職場組織の構造と組織の風土・文化の形成
4. 企業活動と社会的責任
5. 共働の効果を引き出す組織運営 とリーダーシップ
6. 職場でのさまざまな問題やストレス と心理的支援
7. 仕事と生活の調和
8. 職場の多様性＜学外講師:加藤正文＞
9. 職業生活設計とキャリアコンサルティング
10. 職場の安全文化と労働災害への対応
11. 労働者の心の健康の保持
12. 適切な人材管理と職場生活の安定
13. 現代の経済構造の変化

| 科目名 | 現代社会Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 現代社会と経済 | | | |
| 担当者 | 小沢　康英 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業における自立心・対話力（30%）、レポート（70%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポート課題に関する解説を行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
プリントを配布する

[ 参考書（ISBN） ]
適宜指示する

| 科目名 | 現代社会Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 新聞から読み解く現代社会 | | | |
| 担当者 | 佐々木　宏 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
・新聞を読み解き、現代社会の基礎知識、一般常識を身につける。
・国内外の様々なニュースに関心を持ち、自分の意見を持つ力を養う。
・情報を正しく見極めるメディアリテラシーを身につける。

[ 授業概要 ]
実用日本語の宝庫である新聞を題材にするので、毎回、当日の朝刊を提供。新聞がニュースをどのように取り上げ、編集されているか発信側の意図を理解したうえで、新聞の読み方を学ぶ。記事やコラムを読んで、現代社会の問題を把握する。時事問題にも関心を持ち、ESの書き方など就活に生かす学びも行う。
新型コロナウイルス禍による経済と医療の両立、ワクチンは安全か、東京五輪・パラリンピック、高齢化社会が抱える問題、男女格差、LGBT、非正規雇用、SNSの誹謗中傷など我々を取り巻く様々な課題について、自分の意見をまとめ、根拠を示しながら文章で表現する。作文を課し、元朝日新聞記者の講師が添削、授業で講評する。読者投稿欄の掲載も目指す。グループ討論やプレゼンにも挑戦してもらう。一般常識として知っておくべき語彙の訓練もする。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
講義の際に指示をする。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 講義概要(新聞を読もう～実用日本語と社会人基礎力)
2. 新聞の読み方(一面、社説、天声人語、読者投稿欄)
3. 文章の書き方
4. 新聞を読み解く①(コロナ対策)
5. 新聞を読み解く②(ネット社会・言論の自由)
6. 新聞を読み解く③(男女格差・ジェンダー)
7. 新聞を読み解く④(福祉・高齢者社会)
8. 新聞を読み解く⑤(政治と選挙)
9. 新聞を読み解く⑥(スポーツ)
10. グループ討論①
11. グループ討論②
12. ESに挑戦
13. まとめ

| 科目名 | 現代社会Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 新聞から読み解く現代社会 | | | |
| 担当者 | 佐々木　宏 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート提出60点、語彙ミニテスト20点、プレゼン発表など20点

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
各課題に対して添削を行い、原則、次回にフィードバックする。次回の講義の中で講評

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
朝日新聞(朝刊)。毎回、当日の朝刊を配布する。過去記事のコピーも参考資料として提供する　出版社:朝日新聞社

[ 参考書(ISBN) ]
講義で紹介する

| 科目名 | 現代社会Ⅳ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 現代社会と政治 | | | |
| 担当者 | 豊福　一 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
戦後の政治史を順に概観する中で、政党の役割、政治力学、諸制度を学び、さらにそれを基に現在存在する政治制度を理解する。

[ 授業概要 ]
政治に関する歴史、制度、政治と関連する現代社会の諸制度について、わかりやすく解説する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業中指示する事項について、復習と予習を行うこと(概ね30分程度)。日頃から、授業内容に関連するニュース等に注意しておくこと。

[ 授業計画 ]
1. 戦後の政治史(1)
2. 戦後の政治史(2)
3. 戦後の政治史(3)
4. 戦後の政治史(4)
5. 戦後の政治史(5)
6. 日本の選挙制度(選挙運動)
7. 日本の選挙制度(選挙要件等)
8. 日米安全保障条約
9. 日米安全保障条約
10. 日本の議会制度1
11. 日本の議会制度2
12. 現行の放送法の制定・改正の経緯・概要
13. 講義内容の総括

| 科目名 | 現代社会Ⅳ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 現代社会と政治 | | | |
| 担当者 | 豊福　一 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
試験終了後に解説する予定です。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
レジュメ・資料を作成し配付する。 著者名:なし　(なし　)

[ 参考書(ISBN) ]
授業中に指示する。 著者名:なし　(なし　)

| 科目名 | 現代社会Ⅴ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 文化人類学入門 | | | |
| 担当者 | 川森　博司 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
文化人類学の概念を使って、自分なりに身の回りの世界を捉えられるようになることを到達目標とする。

[ 授業概要 ]
人や物が国境を越えて行き来するグローバル化の時代に欠くことのできない視野を文化人類学は与えてくれる。この授業では、文化人類学のものの見方を身につけることを目ざし、「文化」という概念の理解からスタートして、文化人類学が扱う諸分野を概観する。話題は地球規模の広がりをもつが、それぞれが家族・性・権力など身の回りの事柄に直結している。身近で当たり前と思っていた事象を、新鮮な驚きをもって捉え直すことを目ざして、具体的な例を挙げながら授業を進めていく。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
教科書にもとづいて予習・復習をすること。
(各回、予習・復習合わせて4時間程度)

[ 授業計画 ]
1. 人類と文化―人間とは何か
2. 人類学の歴史
3. 人類と言語
4. 生業
5. 文化と経済
6. 性とジェンダー
7. 家族と親族
8. 民族と現代社会
9. アイヌと日本社会
10. 宗教と世界観
11. 人間の一生、境界とケガレ
12. 観光と文化
13. まとめ

| 科目名 | 現代社会Ⅴ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 文化人類学入門 | | | |
| 担当者 | 川森　博司 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(80%)と学習態度(20%)を合わせて評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『よくわかる文化人類学[第2版]』 著者名:綾部恒雄・桑山敬己編　出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-05696-5)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 神戸学 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 大西　雅裕、梶木　典子、来海　素存 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
本授業を通して「神戸」の地域文化、地域特性についての教養を深める。そして大学での主体的学習態度を習得する。

[ 授業概要 ]
本授業の目的は、神戸女子大学のある「神戸」という地域社会について、その地域の特性や文化等の営みを多角的な視点より学びを深めることにあります。
具体的には、それぞれの講師より“神戸”をコンセプトにして、それぞれのご専門領域から講義していただき、翌週の授業において、担当教員及びTAの指導の下で、その講義内容から学生自身の自己の学びを、グループワーク・ディスカッション及びプレゼンテーション等をしながら演習形式で、さらなる学びへと深めていくように進めて行きます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各講師から提示される事前学習課題に取り組み、関連の資料収集や各自が課題意識を持って、講義内容の理解を深めておくこと。

[ 授業計画 ]
1)4/8　神戸学についてのガイダンス（担当大西雅裕）
2)4/15 神戸について（特別講師）①講師 「大西　淳浩」先生
（担当大西雅裕）
3)4/22 学びを深めるディスカッションⅠ（担当大西雅裕）
4)4/29 学びを深めるディスカッションⅡ（担当大西雅裕）
5)5/13 ②特別講師「山下　陽子」先生 『神戸の食について』
（担当大西雅裕）
6)5/20 学びを深めるディスカッション（担当大西雅裕）
7)5/27 ③特別講師「青田　良介」先生 『阪神・淡路大震災からの教訓と市民力』
（担当大西雅裕）
8)6/3　学びを深めるディスカッション（担当大西雅裕）
9)6/10 ④学内講師 「来海　素存」先生 『神戸で育った住文化と芸術』
（担当大西雅裕）
10)6/17 学びを深めるディスカッション（担当大西雅裕）
11)6/24 ⑤学内講師「梶木　典子」先生 「神戸の公園文化と子どもの遊び」
（担当大西雅裕）
12)7/1 学びを深めるディスカッション（担当大西雅裕）
13)7/8 まとめのプレゼンテーション（発表会）（担当大西雅裕）

全ての回数で、授業補助としてのTAを配置し、よりきめ細かな授業展開を行う

| 科目名 | 神戸学 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 大西　雅裕、梶木　典子、来海　素存 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題レポート（50%）と期末レポート（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題レポートについては、先生方からフィードバックしていただきます。
期末レポートは、後日評価コメントをつけて返却します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：課題レポートと期末レポートとで評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：課題レポートと期末レポートとで評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題レポートと期末レポートとで評価する。

[ 教科書（ISBN） ]
必要に応じてプリントを配布する。

[ 参考書（ISBN） ]
講義中に適宜紹介する。

| 科目名 | 心とからだの健康 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 心とからだの健康 | | | |
| 担当者 | 隠岐　厚美、狩野　百合子、松本　衣代、下司　実奈、住本　純、栗山　はるな | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 上記のアクティブラーニングの中から担当者が授業内容に応じて実施します。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
「心」と「からだ」の健康について、心身相関の視点を学びながら幅広い知識を習得することを到達目標とする。

[ 授業概要 ]
近年、いわゆる「健康」への関心が高まっている。一般に「健康」というとき、「からだ」の健康と「心」の健康という二つの面に分けて考えられることが多い。しかし、この二つの側面は互いに密接な関係がある。そこで、本講では、「心身相関」の視点をキーワードに、専門領域を異にする複数の教員によるオムニバス形式の講義を行うことで、「健康」をさまざまな側面から捉え理解を深めていく。
なお、前期は須磨キャンパス、後期はポーアイキャンパスで開講する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
前回の授業内容を復習し理解しておくこと。日頃から「心とからだの健康」ということについて、現代社会で問題となっている事柄について関心をもつこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 本講の目的と構成（隠岐厚美）
2. からだの健康と栄養(1)（狩野百合子）
3. からだの健康と栄養(2)（狩野百合子）
4. からだの健康とスポーツ(1)（松本衣代）
5. からだの健康とスポーツ(2)（松本衣代）
6. 心身の健康と音楽(1)（河村美帆）
7. 心身の健康と音楽(2)（河村美帆）
8. こころと体の関係(1)（栗山はるな）
9. こころと体の関係(2)（栗山はるな）
10. こころと健康(1)（下司実奈）
11. こころと健康(2)（下司実奈）
12. 心身の健康と運動／スポーツ／体育（住本　純）
13. まとめ（隠岐厚美）

| 科目名 | 心とからだの健康 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 心とからだの健康 | | | |
| 担当者 | 隠岐　厚美、狩野　百合子、松本　衣代、下司　実奈、住本　純、栗山　はるな | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート課題・最終レポート課題（85%）、確認試験（15%）を総合的に判断して評価する。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
・授業中の課題は、授業内に適宜フィードバックをする。
・試験は、答案回収後、解答の解説を行い、随時質問を受け付ける。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:確認試験　最終レポート課題

[ 教科書（ISBN） ]
なし。必要に応じて資料を配付する。

[ 参考書（ISBN） ]
なし。授業内で随時紹介する。

| 科目名 | 言葉と文学Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本の文学 | | | |
| 担当者 | 水川　布美子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
日本の文学作品を通して、感受性を磨きながら読解力・理解力を身につける。同時に漢字・ことわざ・慣用句・四字熟語・敬語表現などの日本語能力を養う。

[ 授業概要 ]
時代や社会が異なっても、人間の本質は基本的に変わらない。古代人や平安貴族も恋に悩み、戦乱を生きた武人や市井の民も芸能に心を慰めた。さまざまな時代の流れの中で、人々は何を思い、何を残したのか。日本文学を通して、日本人の心、人生の意味、生きる知恵を学ぶ。
文学史の流れに沿って概論を説明した上で、上代から現代までの名著を選び、実際に作品を読む。そして映像資料を交えながら日本文学を楽しく解説する。同時に、就職試験での一般常識問題(国語分野)や、一般企業のみならず、公務員試験や教員採用試験でも多く活用されるようになった、SPIの言語問題対策として、毎時間、模擬問題等を用いて学習し、言語能力の向上を図る。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
本や新聞など、普段から文章を読み、分からない言葉や漢字を辞書で調べる習慣をつける。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
1.ガイダンス・上代文学(「古事記」「万葉集」など)
2.中古文学①　和歌・物語・随筆(「古今集」「源氏物語」「枕草子」など)
3.中古文学②　日記・歴史物語・説話(「土佐日記」「大鏡」「今昔物語集」など)
4.中世文学①　和歌と随筆(「新古今和歌集」「方丈記」「徒然草」など)
5.中世文学②　軍記物語・歴史物語と能・狂言(「太平記」「平家物語」など)
6.近世文学①　小説(「雨月物語」「南総里見八犬伝」など)
7.近世文学②　俳諧・国学・劇文学(松尾芭蕉・本居宣長・井原西鶴など)
8.近代文学①　明治期の文学(森鴎外・夏目漱石・樋口一葉など)
9.近代文学②　大正期の文学(谷崎潤一郎・芥川龍之介・志賀直哉など)
10.近代文学③　昭和期の文学①(戦前)(川端康成・小林多喜二・太宰治など)
11.近代文学④　昭和期の文学②(戦後)(三島由紀夫・遠藤周作・井上靖など)
12.現代文学　平成・令和の文学
13.まとめ

| 科目名 | 言葉と文学Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本の文学 | | | |
| 担当者 | 水川　布美子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（70%）・授業中の課題（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出物は次の授業で返却し解説する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の課題・試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の課題・試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法：授業中の課題・試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：授業中の課題・試験

[ 教科書（ISBN） ]
『詳説日本文学史』 著者名：濱川勝彦・大槻修共著　出版社：数研出版 （4-410-33812-9 C7037）

[ 参考書（ISBN） ]
プリント配布

| 科目名 | 言葉と文学Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | キーワードで読み解くアメリカの文学と社会 | | | |
| 担当者 | 吉岡　志津世 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
アメリカの社会と文化への理解を深め、アメリカの文学を通じて共感できる感性と想像力を養う。

[ 授業概要 ]
アメリカはある意味で人為的に創られた国であり、広大な大地に様々な人種・民族が生を営んでいる。そして〈国〉としては独立してから250年足らずの若い国でもある。この若い国が今では世界の〈帝国〉として強大な力を有し、その力は境界をものともしない。そんなアメリカはどのような社会・文化的背景を持ち、人々はどのような〈文学〉の世界を育んできたのだろうか。ここでは、その世界を、通常の時系列ではなくいくつかのキーワードで読み解きながら、その多様な姿を見ていくと同時に関連する代表的な作家、作品・映像を鑑賞し、置かれた状況をそれぞれに背負いながら生き抜いている人の姿に、時と空間を超えて、共感できる感性と想像力を養いたい。
また、授業で扱う作品をひとつ選んで読んでおくこと。第12回授業で、Book Share を行います(詳細は授業で案内)。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回授業についての予習・復習4時間程度。
前回の授業内容の復習をするとともに、次回の授業資料 (manaba) を参照し、キーワードにかかわる社会背景および取り上げる作家の人となりを概略押さえておくこと(事項調べ)。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス:キーワードで読み解くアメリカの文学と社会
2. 創られた国:独立革命とアメリカ建国の理念とWalt Whitman
3. アメリカン・ドリーム:アメリカ個人主義と成功への夢／悪夢
4. 夢のかたち :Theodore DreiserとF.Scott Fitzgerald
5-6. 映像鑑賞: The Sun in a Place, The Great Gatsby ＋グループディスカッション
7. 夢の喪失と危機: Ernest Hemingway と John Steinbeck
8. 移民の国アメリカ:「メルティング・ポット」から「サラダ・ボウル」へ
9. 移民の国アメリカ:アフリカ系アメリカ文学とユダヤ系アメリカ文学
10. フロンティア・マインド:Mark TwainとTall Tale
11. アメリカ環境文学:Thoreau, Rachel Carson
12. Book Share(グループディスカッション)
13. まとめ

＊授業の振り返り (Reflection、200字程度) をmanabaに提出、次回授業始めに、Reflection を共有します。

注)レポート提出や授業の伝達など、manaba を多用するので、必ず受信設定・登録をしておくこと。また、授業の進捗によって授業計画を調整することもあります。

| 科目名 | 言葉と文学Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | キーワードで読み解くアメリカの文学と社会 | | | |
| 担当者 | 吉岡　志津世 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート45%＋確認テスト40%＋グループディスカッション15%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
・レポートは manaba 提出、manaba にてフィードバック。
・テストは manaba 自動採点、manaba にてフィードバック。
・グループディスカッションは授業中に講評。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:レポート、ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート、ディスカッション

[ 教科書(ISBN) ]
なし。講義資料はmanabaに事前にアップしています。

[ 参考書(ISBN) ]
なし。授業中に参考文献リスト紹介

| 科目名 | 言葉と文学Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 野田　ゆり子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
C.S.ルイスの『ライオンと魔女』の精読を通して、二十世紀の英国の歴史的・文化的・政治的背景を鑑みた上で、テクストが抱える問題について議論できるようになる。

[ 授業概要 ]
本授業では、C. S. ルイスの児童文学『ナルニア国ものがたり』の『ライオンと魔女』を精読します。『ナルニア国ものがたり』は、J. R. R. トールキンの『指輪物語』と並び、二十世紀に書かれた最も著名な英国ファンタジーとして確固たる地位を確立しています。子ども向けに書かれた作品でありながら、歴史的・宗教的・文化的・政治的文脈をたどると、『ライオンと魔女』の新しい側面が見えてきます。第二次世界大戦、キリスト教の寓意的表象、ナルニアの「英国らしさ」、女性の描写など、様々な側面に目を向けつつ、『ナルニア国ものがたり』の魅力に気付き、同時に問題点について議論できるようになることが、本授業の目標です。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
当該箇所を予習し、単語や分からない部分は和訳などを参照して調べておく。

[ 授業計画 ]
1.Introduction
2.Film “The Lion, the Witch and the Wardrobe”
3.Chapter1 and Chapter2
4.Chapter3 and Chapter4
5.Chapter5 and Chapter6
6.Chapter7 and Chapter8
7.Chapter9 and Chapter10
8.Chapter11 and Chapter12
9.Chapter13 and Chapter14
10.Chapter15 and Chapter16
11.Chapter17, 全体の振り返り
12.Narnia批評史概観
13.Neil GaimanのThe Problem of Susan精読

| 科目名 | 言葉と文学Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 野田　ゆり子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内のディスカッション（40%）、学期内レポート（30%）、期末レポート（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manaba を通じて講評をフィードバックする。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：レポート

[ 教科書（ISBN） ]
The Lion, the Witch and the Wardrobe　著者名：C. S. Lewis　出版社：Harper Collins （978-0064471046）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 言葉と文学Ⅳ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 世界の言語と文化 | | | |
| 担当者 | 川森 博司、平坂 仁志、吉冨 文、出口 優木、M. カスターニャ、C. チコーニャ、廣岡 江梨子、松田 真里、J. 池田リツィウス、荘 千慧、飯倉 江里衣 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
日本以外の諸国の言語と文化を理解し、グローバル現代の諸問題への理解と関心をもつようになる。

[ 授業概要 ]
本学の留学プログラムを利用して近年多くの学生が海外に留学し、異文化を体験するようになってきた。留学の機会がなくてもいろいろな国の文化に親しみ、本学で開講する各言語をより深く、楽しく勉強するために、この授業を企画した。
それぞれの国や地域の言語と文化について、テーマを立てて講義をおこなう。日本人教員だけではなく、ネイティブ・スピーカーの教員も多く登壇し、それぞれの国や地域について生の声を身近で聞くことができる。毎週一回で完結したテーマを提供する。

講義は日本語で行う。コーディネーターは 文学部史学科　川森博司。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業に出る前に、その国や地域についての基本知識を調べておく。特に興味ある国や地域の文化と講義テーマについては、配付されたフリントなどを参考にして、自らもっと深く調べ、自分の理解あるいは見解をレポートとしてまとめる。(各回、予習復習合わせて4時間程度)

[ 授業計画 ]
1. 世界の言語と文化 (川森博司)
2. 中国の言語と文化(平坂仁志)
3. 中国語圏の言語と文化(荘千慧)
4. イタリアの言語と文化(1)(M. カスターニヤ)
5. イタリアの言語と文化(2)(吉冨文)
6. イタリアの言語と文化(3)(C. チコーニヤ)
7. フランスの言語と文化(1)(松田真里)
8. フランスの言語と文化(2)(出口優木)
9. フランスの言語と文化(3)(廣岡江梨子)
10. ドイツの言語と文化(J. 池田リツイウス)
11. 朝鮮の言語と文化(1)(飯倉江里衣)
12. 朝鮮の言語と文化(2)(川森博司)
13. 朝鮮の言語と文化(3)(川森博司)

| 科目名 | 言葉と文学Ⅳ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 世界の言語と文化 | | | |
| 担当者 | 川森　博司、平坂　仁志、吉冨　文、出口　優木、M. カスターニャ、C. チコーニャ、廣岡　江梨子、松田　真里、J. 池田リツィウス、荘　千慧、飯倉　江里衣 | | | |

[ 成績評価方法 ]
担当教員ごとに評価をおこない、その評価を総合する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし(必要に応じてプリントを配布する)

[ 参考書(ISBN) ]
なし(必要に応じて授業中で紹介する)

| 科目名 | 自然と環境 I | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 自然の中の物理 | | | |
| 担当者 | 稲垣　善茂 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
自然の中に潜む物理法則の理解を目指す。一つ一つの物理現象を理解するための基礎的な素養を身につけ、自然現象を科学的視点から分析・探求できる力を習得する。

[ 授業概要 ]
【メディア授業】
自然界における物理法則について、高校の「物理基礎」を中心に、高校の「物理」、大学の基礎的な「物理学」を含めて概説する。基礎的な高校の物理の概略を復習しつつ、教員採用試験や公務員試験合格レベルの知識の習得を目指して講義を行う。これらの物理現象を理解するための基礎的な素養を身につけつつ、実際に物理の問題を解けるようになることを目指す。授業内容には小学校教育コースにおける小学校免許必須科目である「理科概説」「理科教育法」(エネルギー領域)における実験内容・指導案作成内容の原理・説明を含むので、小学校教職免許状取得を目指す学生には履修を勧める。高校での物理の達成度に不安を感じている一方で、大学で物理の履修が必要な学生向けである。本講義は高大連携科目となっており、高校生が参加する可能性があることも申し添えておく。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
高等学校「物理基礎」をよく理解しておくこと。この授業では、積み重ねが大切なので、前回の授業の内容を「manaba」の「小テスト」を利用してよく復習しておくこと。なお、テキストはpdfがmanabaからダウンロードできるので教科書,参考書は必ずしも必須ではない。予習復習の時間数は各回、合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
第1回　運動の表し方(速度、加速度、落体の運動)
第2回　運動の法則1(力とそのはたらき)
第3回　運動の法則2(力のつりあい)
第4回　運動の法則3(運動の法則)
第5回　運動の法則4(摩擦を受ける運動、)
第6回　運動の法則5(液体や気体から受ける力、浮力)
第7回　仕事と力学的エネルギー1(仕事、運動エネルギー)
第8回　仕事と力学的エネルギー2(位置エネルギー、力学的エネルギーの保存)
第9回　熱とエネルギー1(熱と熱量、熱と物質の状態)
第10回　熱とエネルギー2(熱と仕事、不可逆的変化と熱機関)
第11回　物質と電気1(電気の性質、電流と電気抵抗1)
第12回　物質と電気2(電流と電気抵抗2、電気とエネルギー)
第13回　磁場と交流(電流と磁場、交流と電磁波

| 科目名 | 自然と環境 I | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 自然の中の物理 | | | |
| 担当者 | 稲垣　善茂 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(「manaba」小テスト100%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業動画を公開(試験的にオンデマンド型授業にも対応)。manabaの小テストによる課題に対しては、課題締め切り後に、ポートフォリオに採点結果と正答が公開されるようになっています。ポートフォリオを確認して復習に利用してください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:試験(「manaba」小テスト)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:試験(「manaba」小テスト)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:試験(「manaba」小テスト)

[ 教科書(ISBN) ]
プリントなどを各自「manaba」からダウンロードして印刷のこと。
高等学校「物理基礎」 出版社:数研出版

[ 参考書(ISBN) ]
高等学校「物理」 出版社:数研出版

| 科目名 | 自然と環境Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 躍動する地球 | | | |
| 担当者 | 村田　恵子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
今日の地球の姿をプレートの動きや地球の長い歴史の中で理解する。

[ 授業概要 ]
【メディア授業】
　地質学的時間、地球の歴史に伴う生命の誕生と進化、固体地球の構造や動きについて理解する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
　毎回配布される次回のプリントを読み、おおまかな内容を予習し、疑問点を明確にしておく。
授業後は、テキストとノートで十分復習をすること。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
1.太陽・月・地球
2.地質学的時間(相対年代・放射年代・地磁気による編年)
3.生命の誕生と進化①
4.生命の誕生と進化②
5.固体地球の内部
6..プレートテクトニクス①
7..プレートテクトニクス②
8..地層と化石・岩石①
9.地層と化石・岩石②
10.地震活動・火山活動
11..プルームテクトニクス
12.日本列島の形成
13.まとめ

| 科目名 | 自然と環境Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 躍動する地球 | | | |
| 担当者 | 村田　恵子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
試験の答案を回収後、希望者には解答の解説を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:試験

[ 教科書(ISBN) ]
なし
プリント配布

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 自然と環境Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生活の中の化学 | | | |
| 担当者 | 堀田　久子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
身の回り(広義の自然)の物質や現象を「化学の眼」で眺めることができる。

[ 授業概要 ]
基礎的な化学の知識や考え方を紹介し、それを基に身の回りにある物質や現象を化学的に理解できるような内容としたい。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
教科書を基に各回の予習および復習をする。

[ 授業計画 ]
1章　物質の成り立ち
1. 物質は何からできているか
2. 原子は安定な状態を望む
3. 水分子は会合する

2章　物質の変化
4. 都市ガスが燃える―化学変化と化学反応式
5. 　原子や分子の量を測る―化学的な物質量
6. いろいろな化学変化―中和反応
7. いろいろな化学変化―酸化還元反応
8. 酸化されたか還元されたかの目安に―酸化数
9. 化学変化と熱のかかわり―発熱反応と吸熱反応
10. 反応する速さ

3章　物質の状態と性質
11. 物質の状態は変わる
12. 物質が水に溶ける、酸と塩基

13. まとめ

| 科目名 | 自然と環境Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生活の中の化学 | | | |
| 担当者 | 堀田　久子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
各自、授業の翌週に前回のまとめを発表してもらい、その内容を採点する(50%)、定期試験(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
「食を中心とした化学」 著者名:北原　重登・塚本　貞次・野中　靖臣・水崎　幸一　著　出版社:東京教学社
(ISBN4-8082-3037-2 C3043)

[ 参考書(ISBN) ]
未来へひろがるサイエンス3　著者名:吉川弘之　他　出版社:啓林館 (ISBN978-4-402-04637-8)

| 科目名 | 自然と環境Ⅳ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生命の科学 | | | |
| 担当者 | 稲垣　善茂 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業計画にあるように「細胞と分子」から「免疫」までを理解し、生命体の発生・成長・生殖・老化や外部環境からの刺激など一つ一つの生命現象を理解するための基礎的な素養を身につけることを目指します。高校での生物の達成度に不安を感じている一方で、大学で生物の学習が必要な学生向けの授業です。

[ 授業概要 ]
生命現象を分子レベルで解明する現代の生物学について、高校の「生物基礎」「生物」を中心に、大学の「基礎分子生物学」の一部を含みながら概説する。高校「生物基礎」「生物」における「細胞、代謝、光合成、呼吸、生殖、発生」など基礎的な高校「生物」の領域を復習しつつ、大学レベルの基礎分子生物学領域における原核生物や真核生物の遺伝子構造及び発現調節機構などを紹介する。授業内容には小学校教育コースにおける小学校免許必修科目である「理科概説」「理科教育法」（生物領域）における実験内容・指導案作成内容の原理・説明を含む。また、酵素や生物の体内環境など栄養学を理解するために必要な知識も含む。さらに、この授業は教育学科の幼児教育コース選抜のための選択必修科目の1つでもある。なお、本講義は「高大連携科目」であり、高校生が授業に参加する可能性があることを申し添えておく。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
高等学校「生物基礎」をよく理解しておくこと。この授業では、積み重ねが大切なので、前回の授業の内容を「manaba」の「小テスト」を利用してよく復習しておくこと。なお、テキストはpdfがmanabaからダウンロードできるので教科書,参考書は必ずしも必須ではない。予習復習の時間数は各回、合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
第1回　ガイダンス＆生体の構成、タンパク質の構造と性質
第2回　酵素の働き
第3回　細胞の構造と働き
第4回　細胞の活動とタンパク質
第5回　代謝とエネルギー
第6回　呼吸と発酵
第7回　光合成
第8回　遺伝物質DNAの発見
第9回　情報高分子1：DNA、RNA、タンパク質
第10回　RNAの合成：転写, タンパク質の合成：翻訳
第11回　腎臓と肝臓による調節
第12回　神経とホルモンによる調節
第13回　免疫　まとめ

| 科目名 | 自然と環境Ⅳ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生命の科学 | | | |
| 担当者 | 稲垣　善茂 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(「manaba」小テスト100%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manabaの小テストによる課題に対しては、課題締め切り後に、ポートフォリオに採点結果と正答が公開されるようになっています。ポートフォリオを確認して復習に利用してください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:試験(「manaba」小テスト)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:試験(「manaba」小テスト)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:試験(「manaba」小テスト)

[ 教科書(ISBN) ]
プリントなどを各自「manaba」からダウンロードして印刷のこと。
高等学校「生物」 出版社:数研出版 (9784410811487)

[ 参考書(ISBN) ]
高等学校「生物基礎」 出版社:数研出版 (9784410811180)
「基礎分子生物学」　著者名:田村隆明等著　出版社:東京化学同人 (4807905538)

| 科目名 | 思想 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 私たちの生活と思想 | | | |
| 担当者 | 栗山　はるな | | | |

［アクティブラーニング授業］

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | ○ | 実務経験のある教員による授業 | |

［ 到達目標 ］
普段の生活の中で当たり前のように思っているルール、社会的な事件の基盤に様々な思想・哲学があることを知り、またそれを通して、正解のない問題に取り組む際の考え方を身につけることを目指す。

［ 授業概要 ］
【メディア授業】
我々の生きる現実について考えることは本来とても難しいことです。特に多様化の時代と言われる現代社会では、個々の疑問に対して正解があるのかすら見えにくい状況にあります。この講義では世界的なできごとや先人達のアイデア（正しさや自由、平等などについて）を頼りに皆さんと共に我々の生活について向き合うことを目指します。人文知の楽しさを知ってもらうことで、この授業が皆さん自身の生に向き合う一助となればと思います。

［ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ］
授業で配布したプリントをよく読んで、復習と予習合わせて2時間程度で準備しておく。授業のテーマと自分の生活との関わりについてよく考える。

［ 授業計画 ］
1、ガイダンス
2、哲学の生まれる場面　反出生主義
3、デカルトとカント　正しさの追求
4、ニーチェと道徳の崩壊
5、ベンサムと功利主義
6、ミルと自由主義
7、マルクスと資本主義
8、ロールズの正義論
9、格差の思想
10、仏教の思想とわたしの哲学
11、フェミニズム
12、環境思想
13、まとめ

| 科目名 | 思想 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 私たちの生活と思想 | | | |
| 担当者 | 栗山　はるな | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎回の授業内ミニレポート（60%）、最終試験（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし。プリントを授業で配布する。

[ 参考書（ISBN） ]
授業でそのつど紹介する

| 科目名 | 宗教 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 世界の宗教（宗教入門） | | | |
| 担当者 | 栗山　はるな | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | ○ | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
宗教がどのように我々の生活に影響を与えているのか、なぜそれを知る必要があるのかについて理解すること。様々な宗教の特徴について比較を通して理解し、世界的な宗教問題について考える視座を獲得すること。宗教的な文化芸術の背景について知ること。

[ 授業概要 ]
宗教は古代から近代に至るまで世界の社会、文化をリードしてきたいわば我々の社会の親とも言うべき存在です。宗教的な問題は世界中で大きな関心をもって取り上げられますが、一方で日本では比較的関心を持たれない傾向にあります。この授業ではそれぞれの教えに関する基礎知識を確認し、その現代社会に与える影響について考える中で、皆さんが宗教的な問題に向き合う際の姿勢を培うことを目指します。また、様々な宗教芸術作品や建築についても適宜紹介します。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
授業で配布したプリントをよく読んで、復習と予習合わせて2時間程度で準備しておく。授業内容と自身の生活との関わりについて考えたり、授業のテーマと内容的に関係する報道などに関心を持つ。

[ 授業計画 ]

1、ガイダンス
2、世界の宗教と宗教を学ぶ意味
3、ユダヤ教①
4、ユダヤ教②
5、キリスト教①
6、キリスト教②
7、イスラム教①
8、イスラム教②
9、仏教①
10、仏教②
11、神道
12、宗教と日本文化
13、まとめ

遠隔授業となった場合の受講方法はmanabaを見てください。

| 科目名 | 宗教 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 世界の宗教（宗教入門） | | | |
| 担当者 | 栗山　はるな | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内ミニレポート（60%）、最終テスト（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし。プリントを授業で配布

[ 参考書（ISBN） ]
授業でそのつど紹介する

| 科目名 | 情報 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaを通じてレポート等に対して適宜コメントすることがあります。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
30時間アカデミックoffice2019　著者名：杉本くみ子、大澤栄子　出版社：実教出版　（978-4-407-34833-0）

| 科目名 | 情報 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaを通じてレポート等に対して適宜コメントすることがあります。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
30時間アカデミックoffice2019　著者名：杉本くみ子、大澤栄子　出版社：実教出版　（978-4-407-34833-0）

| 科目名 | 情報 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaを通じてレポート等に対して適宜コメントすることがあります。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
30時間アカデミックoffice2019　著者名：杉本くみ子、大澤栄子　出版社：実教出版　（978-4-407-34833-0）

| 科目名 | 情報 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaを通じてレポート等に対して適宜コメントすることがあります。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
30時間アカデミックoffice2019　著者名：杉本くみ子、大澤栄子　出版社：実教出版　（978-4-407-34833-0）

| 科目名 | 情報 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaを通じてレポート等に対して適宜コメントすることがあります。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
30時間アカデミックoffice2019　著者名：杉本くみ子、大澤栄子　出版社：実教出版　（978-4-407-34833-0）

| 科目名 | 情報 I | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 山下　義史 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
　高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎)
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

※コンピュータの台数が限られていますので、受講人数を制限することがあります。

| 科目名 | 情報Ⅰ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 山下　義史 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポート、課題のフィードバックは、授業時間で全体に向けて行うとともに、必要な場合は個別に行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、レポート

[ 教科書（ISBN） ]
30時間アカデミックOffice2019　著者名：実教出版企画開発部【編】　出版社：実教出版 （978-4-407-34833-04）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 情報 I | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 竹田　和恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
　高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 竹田　和恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内で必要に応じて適宜お知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
実教出版　30時間アカデミック

| 科目名 | 情報 I | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaを通じてレポート等に対して適宜コメントすることがあります。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
30時間アカデミックoffice2019　著者名：杉本くみ子、大澤栄子　出版社：実教出版　（978-4-407-34833-0）

| 科目名 | 情報 I | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaを通じてレポート等に対して適宜コメントすることがあります。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
30時間アカデミックoffice2019　著者名：杉本くみ子、大澤栄子　出版社：実教出版　（978-4-407-34833-0）

| 科目名 | 情報 I | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 竹田　和恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
　高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 竹田　和恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内で必要に応じて適宜お知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
実教出版　30時間アカデミック

| 科目名 | 情報 I | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 竹田　和恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
　高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 竹田　和恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内で必要に応じて適宜お知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
実教出版　30時間アカデミック

| 科目名 | 情報 I | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 竹田　和恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
　高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 竹田　和恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内で必要に応じて適宜お知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
実教出版　30時間アカデミック

| 科目名 | 情報 I | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 平田　真弓 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タイプクイックの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 平田　真弓 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題　最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング　課題　最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題　最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題　最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
30時間アカデミックOffice2019

| 科目名 | 情報 I | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaを通じてレポート等に対して適宜コメントすることがあります。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
30時間アカデミックoffice2019　著者名：杉本くみ子、大澤栄子　出版社：実教出版　（978-4-407-34833-0）

| 科目名 | 情報 I | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 竹田　和恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる
②ワードを使って文書処理ができる
③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる
④インターネットを適切に利用できる

[ 授業概要 ]
　高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきている。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切である。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけではなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度も学習する。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につける。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルを理解させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
タッチタイピングの練習　及び　前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得
2. インターネット、タッチタイピング
3. 電子メール、文書作成の基礎
4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷
5. 情報セキュリティ、文書の編集
6. コンピュータのハードウェア、表の作成
7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い
8. データサイエンス入門1:表計算の基礎
9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式
10. データサイエンス入門3 :関数
11. データサイエンス入門4:基本統計
12. データサイエンス入門5:データ集計と可視化
13. まとめ

| 科目名 | 情報Ⅰ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の操作 | | | |
| 担当者 | 竹田　和恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内で必要に応じて適宜お知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：タイピング、課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、最終レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、最終レポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
実教出版　30時間アカデミック

| 科目名 | 情報Ⅱ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の活用 | | | |
| 担当者 | 山下　義史 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①情報Ⅰで身に付けた各種のビジネスソフトを活用するスキルをさらに向上させる
② ICTを使って適切なコミュニケーションをとることができる
③情報社会にふさわしいモラルを身に付け、実践できる

[ 授業概要 ]
現代は様々なメディアから膨大な情報が提供される。この中から必要な情報を取捨選択し、整理・集計していかに効果的で効率よく情報を活用していくのか重要になってくる。「情報Ⅰ」で修得した基礎をもとにし、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等を利用した情報の効率的な活用方法について学習する。さらに、情報通信の活用を通じ、情報伝達の方法を学習する。現代では、インターネット犯罪が増加傾向にある。そこで表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等を利用した情報の活用方法について学習すると共に、情報モラル・ネットワーク利用のエチケットやセキュリティを学ぶ。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 授業ガイダンス
2. 関数と数式の基礎
3. 関数と数式の応用
4. データベースの活用(並べ替え、検索)
5. データベースの活用(クロス集計)
6. グラフの基礎
7. グラフの応用
8. プレゼンテーションソフトウェアの概要と効果的なプレゼンテーション方法
9. プレゼンテーションの作成
10. 操作の自動化
11. インターネットの仕組み
12. 情報モラルと情報セキュリティ
13. まとめと学習成果確認、解説

| 科目名 | 情報Ⅱ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の活用 | | | |
| 担当者 | 山下　義史 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート（30%）、課題作成（70%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポート、課題のフィードバックは、授業時間で全体に向けて行うとともに、必要な場合は個別に行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：課題、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：課題、レポート

[ 教科書（ISBN） ]
情報Ⅰと同様の教科書を使用
30時間でマスター Excel2016 Windows10対応　著者名：実教出版企画開発部【編】 出版社：実教出版 （9784407340211）

[ 参考書（ISBN） ]
30時間アカデミックOffice2019　著者名：実教出版企画開発部【編】 出版社：実教出版 （978-4-407-34833-04）

| 科目名 | 情報Ⅱ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の活用 | | | |
| 担当者 | 平田　真弓 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①情報Ⅰで身に付けた各種のビジネスソフトを活用するスキルをさらに向上させる
② ICTを使って適切なコミュニケーションをとることができる
③情報社会にふさわしいモラルを身に付け、実践できる

[ 授業概要 ]
現代は様々なメディアから膨大な情報が提供される。この中から必要な情報を取捨選択し、整理・集計していかに効果的で効率よく情報を活用していくのか重要になってくる。「情報Ⅰ」で修得した基礎をもとにし、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等を利用した情報の効率的な活用方法について学習する。さらに、情報通信の活用を通じ、情報伝達の方法を学習する。現代では、インターネット犯罪が増加傾向にある。そこで表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等を利用した情報の活用方法について学習すると共に、情報モラル・ネットワーク利用のエチケットやセキュリティを学ぶ。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 授業ガイダンス
2. 関数と数式の基礎
3. 関数と数式の応用
4. データベースの活用(並べ替え、検索)
5. データベースの活用(クロス集計)
6. グラフの基礎
7. グラフの応用
8. プレゼンテーションソフトウェアの概要と効果的なプレゼンテーション方法
9. プレゼンテーションの作成
10. 操作の自動化
11. インターネットの仕組み
12. 情報モラルと情報セキュリティ
13. まとめと学習成果確認、解説

| 科目名 | 情報Ⅱ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の活用 | | | |
| 担当者 | 平田　真弓 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題（70%）、レポート（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
プリント配布

| 科目名 | 情報Ⅱ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の活用 | | | |
| 担当者 | 平田　真弓 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①情報Ⅰで身に付けた各種のビジネスソフトを活用するスキルをさらに向上させる
② ICTを使って適切なコミュニケーションをとることができる
③情報社会にふさわしいモラルを身に付け、実践できる

[ 授業概要 ]
現代は様々なメディアから膨大な情報が提供される。この中から必要な情報を取捨選択し、整理・集計していかに効果的で効率よく情報を活用していくのか重要になってくる。「情報Ⅰ」で修得した基礎をもとにし、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等を利用した情報の効率的な活用方法について学習する。さらに、情報通信の活用を通じ、情報伝達の方法を学習する。現代では、インターネット犯罪が増加傾向にある。そこで表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等を利用した情報の活用方法について学習すると共に、情報モラル・ネットワーク利用のエチケットやセキュリティを学ぶ。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 授業ガイダンス
2. 関数と数式の基礎
3. 関数と数式の応用
4. データベースの活用(並べ替え、検索)
5. データベースの活用(クロス集計)
6. グラフの基礎
7. グラフの応用
8. プレゼンテーションソフトウェアの概要と効果的なプレゼンテーション方法
9. プレゼンテーションの作成
10. 操作の自動化
11. インターネットの仕組み
12. 情報モラルと情報セキュリティ
13. まとめと学習成果確認、解説

| 科目名 | 情報Ⅱ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の活用 | | | |
| 担当者 | 平田　真弓 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題（70%）、レポート（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
プリント配布

| 科目名 | 情報Ⅱ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の活用 | | | |
| 担当者 | 平田　真弓 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
授業を通して、次のことを目標とします。
①情報Ⅰで身に付けた各種のビジネスソフトを活用するスキルをさらに向上させる
② ICTを使って適切なコミュニケーションをとることができる
③情報社会にふさわしいモラルを身に付け、実践できる

[ 授業概要 ]
現代は様々なメディアから膨大な情報が提供される。この中から必要な情報を取捨選択し、整理・集計していかに効果的で効率よく情報を活用していくのか重要になってくる。「情報Ⅰ」で修得した基礎をもとにし、表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等を利用した情報の効率的な活用方法について学習する。さらに、情報通信の活用を通じ、情報伝達の方法を学習する。現代では、インターネット犯罪が増加傾向にある。そこで表計算ソフトやプレゼンテーションソフト等を利用した情報の活用方法について学習すると共に、情報モラル・ネットワーク利用のエチケットやセキュリティを学ぶ。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の講義の復習

[ 授業計画 ]
1. 授業ガイダンス
2. 関数と数式の基礎
3. 関数と数式の応用
4. データベースの活用(並べ替え、検索)
5. データベースの活用(クロス集計)
6. グラフの基礎
7. グラフの応用
8. プレゼンテーションソフトウェアの概要と効果的なプレゼンテーション方法
9. プレゼンテーションの作成
10. 操作の自動化
11. インターネットの仕組み
12. 情報モラルと情報セキュリティ
13. まとめと学習成果確認、解説

| 科目名 | 情報Ⅱ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報機器の活用 | | | |
| 担当者 | 平田　真弓 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題（70%）、レポート（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
プリント配布

| 科目名 | 女性Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 女性学 | | | |
| 担当者 | 南　コニー | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
国際的なジェンダー知識を身につけ、社会に応用できる実践能力を養う。問題が生まれる社会背景を知り、問題解決の方法を考えられるようになる。

[ 授業概要 ]
【メディア授業】
世界経済フォーラムによると、2021年の日本の男女平等ランキングは153カ国中120位で、男女間の賃金格差などさまざまな課題が残されています。この科目は、日本のジェンダーにおける問題点について学び、これから就職を考える上でも、ライフワークバランスを築く上でも大切なことを学んでいく授業です。「ジェンダー」という言葉をよく知らない人も、「LGBT」、「セクハラ」、「男女共同参画」という言葉を聞いたことがあるのではないでしょうか。私たちの将来や社会の在り方を考える上で、女性も男性も「ジェンダー学」を学ぶことは今とても重要になっています。ジェンダー学とは、わたしたちが性別をいかに認識し、慣習や文化として構築しているのか、また性別は社会システムの中でどのように機能しているのか考えるために、性別の社会的・文化的側面を学び調査研究や理論構築を行う学問です。本講義ではジェンダー学入門として、哲学、文学、心理学、政治学、経済学、社会福祉学などさまざまな視点からジェンダーについて学びます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
テキスト及び配布プリントで、前回の講義の復習を4時間程度行うこと

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション
2.文化とジェンダー1　育つ・育てる－性教育、子育て
3.文化とジェンダー2　多様な文化・多様なくらし－婚姻、性別分業
4.文化とジェンダー3　'His story'を超えて－近代家族、農村女性史
5.文化とジェンダー4　想像と創造―エクリチュール、ことばとセクシュアリティー
6. 文化とジェンダー5　想像と創造―エクリチュール、つくられた身体
7.社会とジェンダー1サブカルチャーとジェンダー
8.社会とジェンダー2　ジェンダー・アイデンティティー　(DVD)
9.社会とジェンダー3　女性の貧困問題
10.社会とジェンダー4　法というシステム
11.社会とジェンダー5　ケアする、ケアされる―社会福祉政策とジェンダー
12.最前線1　LGBT、セクシュアル・マイノリティー― 日本と北欧の違い
13.最前線2　犯罪とジェンダー、ハラスメント―世界情勢

| 科目名 | 女性 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 女性学 | | | |
| 担当者 | 南　コニー | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の課題及び出席(50%)
課題レポート(50%)
授業中にレポートを返却し、解説を行う

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『よくわかるジェンダースタティーズ』 著者名:木村涼子他著　出版社:ミネルヴァ書房 (978-4-623-06516-5)

[ 参考書(ISBN) ]
『ジェンダー論をつかむ』 著者名:千田有紀他　出版社:有斐閣 (978-4-641-17716-1)

| 科目名 | 女性Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 女性と仕事 | | | |
| 担当者 | 小河　洋子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
日本の女性雇用労働者が置かれている状況と問題を、個別・具体的に理解する。また、問題の当事者になった場合でも、どうすれば自分なりに納得のいく対処ができるのかについて多角的に考えられるようになる。

[ 授業概要 ]
日本では働く女性の数は年々増加し、企業も女性を積極的に登用していると言われています。
働く女性と言っても、正社員がいれば派遣社員やパートタイムで働く人、初職の職場で働き続ける人がいれば転職する人、一度退職し何年かのブランクを経て再就職する人などその状況は多様化しており一概に語ることはできません。しかし、働いていて良かったと思えることや辞めてしまいたいと思うことなど、いろんなことが起こるという共通点はあります。
また女性が働くことは、結婚や子育てや介護などの家族の問題とも密接に関わってきます。それらの出来事が、なぜ女性に偏って起こるのか、その理由は何なのか、どうすれば状況を変えることができるのかを中心に理解を深めます。
卒業後の進路だけでなく、生涯にわたって働くことをどう位置づけるのかについて、一人ひとりが自分のこととして考え人生を切り拓いていくのに役立つような授業をめざします。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
・授業計画を見て、各回のテーマに関連する新聞記事やニュース等を確認し、関心を持つこと。
・配布資料は授業で説明がない部分も一通り読んでおくこと。
・関心を持ったテーマについては、参考図書を読んで理解を深めること。

[ 授業計画 ]
1. 雇われる働き方と雇われない働き方～働く女性はどう見られ、何を期待されているのか
2. 女性雇用労働者の権利を保障する法律
3. 雇用労働における男女の格差と偏り　賃金・労働時間・キャリア
4. 多様な女性雇用労働者①　正社員・一般職
5. 多様な女性雇用労働者②　正社員・総合職
6. 多様な女性雇用労働者③　パートタイム労働
7. 多様な女性雇用労働者④　派遣社員
8. 働き続けることと妊娠・出産
9. 職場の問題①　セクシュアル・ハラスメント
10. 職場の問題②　セクシュアル・ハラスメントの対処
11. 職場の問題③　パワー・ハラスメントとその対処
12. 事例から考える①　職場の問題を仲間と解決する
13. 事例から考える②　男女賃金差別裁判

| 科目名 | 女性Ⅱ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 女性と仕事 | | | |
| 担当者 | 小河　洋子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(50%)・レポート①(12%)・レポート②(12%)・毎回の授業参加度評価(26%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
なし

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題、授業参加度評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:試験、授業参加度評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:試験、レポート課題、授業参加度評価

[ 教科書(ISBN) ]
配布資料、関連新聞記事資料

[ 参考書(ISBN) ]
講義中に紹介　著者名:講義中に紹介　出版社:講義中に紹介

| 科目名 | 女性Ⅲ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 女性と健康 （女性に関わる健康科学） | | | |
| 担当者 | 吉川　豊、奥野　直、松本　衣代、泉　妙子、斎藤　あつ子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
「女性」という観点から、健康科学の実際について解説を受け、新しい生命を生む性である女性の精神と身体の特徴および疾患との関連について理解することを目標とする。

[ 授業概要 ]
学内外のメディカル・コメディカル（医師免許・薬剤師免許・管理栄養士免許・その他の資格を持つ）分野の専門の講師陣によりオムニバス講義を行う。
女性として、人生の始まりから終わりまでに起こりうる問題について、体系的に学習する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと、日頃から授業に関係するニュース等に関心を持つこと。各回、予習復習合わせて4時間程度必要とする。

[ 授業計画 ]
1. 微量元素と健康　吉川豊（神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科）
2. 産科学・婦人科学からみた女性の健康　山崎峰夫（医療法人社団純心会パルモア病院）（学外特別講師）
3. 乳腺疾患の診断と治療　佐古田洋子（加古川市立加古川中央市民病院乳腺外科）（学外特別講師）
4. 水と健康　奥野直（神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科）
5. 母子感染する感染症　斎藤あつ子（神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科）
6. 女性のメンタルヘルス　江尻真樹（医療法人きょう きょうこころのクリニック精神科）（学外特別講師）
7. 女性と障害　本田貴信（すう整形外科）（学外特別講師）
8. 女性と介護　泉妙子（神戸女子大学健康福祉学部社会福祉学科）
9. 女性の健康-血液サラサラと疾患-　横川晃治（日本ヘモレオロジー学会・よこかわクリニック）（学外特別講師）
10. 女性と健康-サプリメントと健康-　寺尾啓二（株式会社シクロケム）（学外特別講師）
11. 女性の健康-高齢者の栄養と健康-　加藤順一（兵庫県立リハビリテーションセンター西播磨病院）（学外特別講師）
12. 肥満とダイエット　松本衣代（神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科）
13. 骨と関節の健康を保つ為に-女性を中心に-　伊藤宣（倉敷中央病院整形外科）（学外特別講師）
※講師の都合により、順序が入れ替わることがあります。

| 科目名 | 女性Ⅲ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 女性と健康 （女性に関わる健康科学） | | | |
| 担当者 | 吉川　豊、奥野　直、松本　衣代、泉　妙子、斎藤　あつ子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
各回manabaなどでレポートを提出させ成績評価を行う。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
全ての授業終了後確認し、必要に応じ返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
必要に応じて、プリント配布

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 女性Ⅳ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 女性史 | | | |
| 担当者 | 南　コニー | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
世界の「女性史」を学び、現代につながるジェンダー格差の問題を理解する。

[ 授業概要 ]
世界の「女性史」を学ぶことで、現代の男女格差の問題を紐解きます。人間の営みの半分は女性たちによって支えられてきたにも関わらず、歴史の舞台に登場する女性の数が少ないのは、女性が重要な出来事に関わってこなかったからではなく、「歴史」が男性中心で書かれていたからです。本講義では、ヨーロッパの女性たちの主要な実践や思考を紹介することで、現在私たちが抱えているさまざまな女性の問題、ジェンダー格差について学びます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎回の授業内容に即した一般的な歴史の基礎知識を予習して、授業に臨むこと(各講義の予習復習は4時間程度)

[ 授業計画 ]
1. フランス
2. フランス
3. イギリス
4. イギリス
5. 映画
6. アメリカ
7. アメリカ
8. 映画
9. 復習とまとめ
10. ドイツ
11. ドイツ
12. 映画
13. ロシア

| 科目名 | 女性Ⅳ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 女性史 | | | |
| 担当者 | 南　コニー | | | |

[ 成績評価方法 ]
出席・小レポート(50%)、レポート課題(50%)
授業中にレポートを返却し、解説を行う

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『ジェンダーの西洋史』 著者名:井上洋子　他　出版社:法律文化社 (ISBN978-4-589-03404-5-c1022)

[ 参考書(ISBN) ]
授業中に紹介する

| 科目名 | 心理学Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 人間の心理と行動 | | | |
| 担当者 | 久木山　健一 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
人間の心理と行動に関して心理学からの知見や考え方を学びます。

[ 授業概要 ]
「心理学Ⅱ」とあわせて，人間の心理と行動に関する心理学のさまざまな分野での知見や理論を概説します。「心理学Ⅰ」では、日常的で具体的な心の働きについて，その背景にあるメカニズムと共に学ぶことを目指します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎回の授業で学んだことを復習し，自分自身の日常生活で出会う体験と照らし合わせて理解を深めるた上で次回の授業に臨んでください。各回、予習復習合わせて4時間程度の準備を求めます。

[ 授業計画 ]
1 心理学とは
2 心理学の歴史
3 ”感じる”心のメカニズム
4 ”覚える”心のメカニズム
5 ”わかる”心のメカニズム
6 ”決める”心のメカニズム
7 ″やる気が出る”心のメカニズム
8 ”できるようになる″心のメカニズム
9 ″共感する″心のメカニズム
10 ″癒される″心のメカニズム
11 ″仕事をする″心のメカニズム
12 心を「見える化」する方法
13 まとめ

| 科目名 | 心理学Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 人間の心理と行動 | | | |
| 担当者 | 久木山　健一 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎回の小テスト(40&%)，定期試験(60%)で成績評価します。ただし，定期試験が実施できない場合は，毎回の小テスト(60%)，レポート課題(40%)で成績評価を行います。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
ライブラリ　心理学を学ぶ1
「心理学概論」 著者名:山口裕幸・中村奈良江(編)　出版社:サイエンス社 (9784781914800)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 心理学Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 心理学Ⅰ | | | |
| 担当者 | 尾﨑　勝彦 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
人間の心理と行動に関して心理学における基礎的な知見や考え方を学ぶ。

[ 授業概要 ]
　心理学は、人間の行動や心のメカニズムを科学的な手続きを用いて明らかにしようとする分野であり、扱うテーマも多様です。心理学Ⅰでは、心理学という学問の歴史的背景とともに、学習、動機づけ(やる気)、発達といった教育ともつながりが強いテーマを取り上げ、私たちの日常生活を支えている心の働きについての理解を図ります。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
　毎回の授業で学んだことを復習し、自分自身の日常生活で出会う体験と照らし合わせて理解を深めること。各回、予習復習あわせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 学問としての心理学
2. 心理学の展開と成立
3. 脳と心
4. 学習1:学習の基本形
5. 学習2:学習理論とその応用
6. 動機付け1:やる気と認知
7. 動機付け2:外発的動機づけと内発的動機付け
8. 発達における遺伝と環境
9. 発達課題
10. 認知の発達
11. 感情とその発達
12. 他者心理の理解-心の理論-
13. 愛着の形成
14 パーソナリティ
15. まとめ

| 科目名 | 心理学Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 心理学Ⅰ | | | |
| 担当者 | 尾﨑　勝彦 | | | |

[ 成績評価方法 ]
1. リアクション・ペーパー（授業毎に提出）:30%
2. 試験:70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
リアクション・ペーパーに記載してもらったコメントについては授業で取り上げ、議論・解説を行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
レジメ・資料を作成し配布する

[ 参考書（ISBN） ]
授業時に紹介します

| 科目名 | 心理学Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 心理学Ⅰ | | | |
| 担当者 | 横川　滋章 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 毎回の授業内容について、コミュニケーションシートを用いる。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
人間の心理と行動に関して心理学における基礎的な知見や考え方を学ぶ。

[ 授業概要 ]
「心理学Ⅰ」では、心理学における基礎的テーマとして、「感覚・知覚」、「学習」、「記憶」をとりあげ、心理学全般を概観する。「心理学Ⅱ」と連動する内容となっており、あわせて受講するとさらに理解が深まることが期待される。
主に講義形式により行うが、関連する資料(スライド、映像など)や簡単な実習素材を用いて、体験的に理解を深めていく。ほぼ毎回、授業の最後に講義を受けて気づいたこと、感じたこと、考えたこと、疑問に思うこと、講師への質問などを「コメントカード」あるいは「小レポート」に自由にまとめて提出してもらうが、これらの提出は「授業への積極的関与度」をはかる指標とする。受講生には、毎回の授業への主体的な参加を心がけてもらいたい。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内容を資料を読んで復習し、理解しておくこと。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション:心理学の対象と諸領域
2. 心理学の歴史
3. 感覚・知覚の心理①
4. 感覚・知覚の心理②
5. 学習の心理①
6. 学習の心理②
7. 学習の心理③
8. 学習の心理④
9. 記憶の心理①
10. 記憶の心理②
11. 総括テストに向けて
12. まとめ
13. 総括テストの解説

| 科目名 | 心理学Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 心理学Ⅰ | | | |
| 担当者 | 横川　滋章 | | | |

[ 成績評価方法 ]
平常点（小レポート・コメントカードなど40%）、総括テスト（60%）とする。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
総括テスト後、解答の解説を行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：試験、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：試験、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：試験、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法：試験、レポート課題

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 心理学Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 人間の心理と行動 | | | |
| 担当者 | 久木山　健一 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
人間の心理と行動に関して心理学からの知見や考え方を学びます。

[ 授業概要 ]
「心理学Ⅰ」とあわせて，人間の心理と行動に関する心理学のさまざまな分野での知見や理論を概説します。「心理学Ⅱ」では、「心理学Ⅰ」で学んだ日常的かつ具体的な心理学に関する知識を，心理学の各分野の研究と結びつけて理論的に理解できるようになることを目指します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎回の授業で学んだことを復習し，自分自身の日常生活で出会う体験と照らし合わせて理解を深めるた上で次回の授業に臨んでください。各回、予習復習合わせて4時間程度の準備を求めます。

[ 授業計画 ]
1 心理学と関連諸領域
2 心理学史
3 感覚・知覚心理学
4 記憶の心理学
5 認知心理学
6 意思決定の心理学
7 動機づけの心理学
8 発達心理学
9 社会心理学
10 臨床心理学
11 産業心理学
12 心理測定法
13 まとめ

| 科目名 | 心理学Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 人間の心理と行動 | | | |
| 担当者 | 久木山　健一 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎回の小テスト(40&%)，定期試験(60%)で成績評価します。ただし，定期試験が実施できない場合は，毎回の小テスト(60%)，レポート課題(40%)で成績評価を行います。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
ライブラリ　心理学を学ぶ1
「心理学概論」 著者名:山口裕幸・中村奈良江(編)　出版社:サイエンス社 (9784781914800)

[ 参考書(ISBN) ]
講義中に適宜紹介します。

| 科目名 | 心理学Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 心理学Ⅱ | | | |
| 担当者 | 尾﨑　勝彦 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
人間の心理と行動に関して心理学における知見や考え方を学ぶ。

[ 授業概要 ]
心理学Ⅱでは、まず知覚・認知心理学領域の研究を取り合げ、環境に適応するために私たちにはどのような心の仕組みが備わっているのかについて検討します。続いて、態度、社会的影響、集団の心理、リーダーシップといった社会心理学領域の問題を取り上げ、社会で生活する中での心の減少とその背景にある心的な処理について考えます。最後に、産業・組織心理学でも取り上げられるストレスの問題とその対処法について学びます。
これらの学びを通して、心理学が個人内で生じる問題からより広く社会で生じる問題までを扱う多様な学問であることの理解を図ります。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎回の授業で学んだことを復習し、自分自身の日常生活で出会う体験と照らし合わせてみて、理解を深めること。各回、予習復習あわせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 知覚1:視覚のしくみ
2. 知覚2:パターン認知
3. 記憶1:記憶の分類
4. 記憶2:記憶の過程
5. 記憶3:記憶の変容
6. メタ認知
7. 認知のバイアス
8. 態度・態度変容
9. 社会的影響
10. 集団の心理
11. リーダーシップ1:リーダーシップ研究の歴史
12. リーダーシップ2:現代のリーダーシップ理論
13. ストレス
14. ストレスとその対処
15. まとめ

| 科目名 | 心理学Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 心理学Ⅱ | | | |
| 担当者 | 尾﨑　勝彦 | | | |

[ 成績評価方法 ]
リアクション・ペーパー（授業毎）：30%
試験：70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
リアクション・ペーパーに記載してもらったコメントについては適宜、授業で取り上げ、議論・解説を行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
レジメ・資料を作成し配布する

[ 参考書（ISBN） ]
授業時に紹介します

| 科目名 | 心理学Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 心理学Ⅱ | | | |
| 担当者 | 横川　滋章 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 毎回の授業内容について、コミュニケーションシートを用いる。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
人間の心理と行動に関して心理学における知見や考え方を学ぶ。

[ 授業概要 ]
「心理学Ⅱ」では、心理学における基礎的テーマとして、「人格」、「こころ健康」をとりあげるとともに、心理学の諸領域として、人格心理学、臨床心理学、発達心理学における基礎的事項を学ぶ。「心理学Ⅰ」と連動する内容となっており、あわせて受講することが望ましい。
主に講義形式により行うが、関連する資料(スライド、映像など)や簡単な実習素材を用いて体験的に理解を深めていく。ほぼ毎回、授業の最後に講義を受けて気づいたこと、感じたこと、考えたこと、疑問に思うこと、講師への質問などを「コメントカード」あるいは「小レポート」に自由にまとめて提出してもらうが、これらの提出は「授業への積極的関与度」をはかる指標とする。受講生には、毎回の授業への主体的な参加を心がけてもらいたい。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内容を、資料を読んで復習し、理解しておくこと。

[ 授業計画 ]
1. 人格の心理学① 心理学の歴史とフロイト
2. 人格の心理学② フロイトのパーソナリティ論①
3. 人格の心理学③ フロイトのパーソナリティ論②
4. 人格の心理学④ フロイトのパーソナリティ論③
5. 人格の心理学⑤ フロイトのパーソナリティ論④
6. 人格の心理学⑥ 特性論と類型論①
7. 人格の心理学⑦ 特性論と類型論②
8. 人格の心理学⑧ パーソナリティ・知能の発達と測定
9. こころの健康① こころの正常と異常
10. こころの健康② カウンセリングと心理療法
11. 総括テストに向けて
12. まとめ
13. 総括テストのふりかえり

| 科目名 | 心理学Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 心理学Ⅱ | | | |
| 担当者 | 横川　滋章 | | | |

[ 成績評価方法 ]
平常点（コメントカード・小レポートなど）：40%
総括テスト：60%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：試験、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：試験、レポート課題

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 数学Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 数学と数的思考 | | | |
| 担当者 | 穴田　恭輔 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
自然、文化、日常生活の中に潜む数学の不思議さを感得し、数的思考および論理的思考力を培う。

[ 授業概要 ]
近年、数学に対する生徒の興味や関心が低くなっていると言われる。しかし、私たちの身の回りには、多くの数学が潜んでいる。また、日常生活のコミュニケーションは論理の上に成り立っており、筋道を立てて考える・表現する力は、人として社会で生きるための必須の力である。
身近な数学、不思議な数学を学びながら、数的思考および論理的思考力を培う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前時までの復習をする。

[ 授業計画 ]
1. 自然や文化の中の数学
2. 三段論法
3. 命題論理(かつ, または, 否定)
4. 命題論理の応用
5. 数えること～位取り記数法
6. 規則を見つけての数え上げ
7. 集合・関係・類別
8. 合同式
9. 連立合同式
10. ピックの定理
11. 2次方程式の解
12. 3次方程式の解
13. まとめ

| 科目名 | 数学Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 数学と数的思考 | | | |
| 担当者 | 穴田　恭輔 | | | |

[ 成績評価方法 ]
各回の発表（50%）、試験（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
採点が済んだ試験を返却します。希望者はとりにきてください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:発表

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
数学の広場<8> 数楽サロン　著者名:遠山　啓　出版社:日本図書センター（
9784284202572）

S01270 [ CS1-001 ]

| 科目名 | 数学Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 統計学入門 | | | |
| 担当者 | 穴田　恭輔 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
自ら課題を設定し、データを集め、結果を予想し、必要な統計的処理をほどこして、予測や結果を評価できる。表計算ソフトを統計処理に利用できる。

[ 授業概要 ]
講義では、統計学の基本的な概念の「理解」と、基本的な技法が「つかえる」ことをめざす。また、表計算ソフト(Excel)を常時利用する。PC教室で行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前時までの復習に加え、各回の課題を提出してから次の授業に臨む。

[ 授業計画 ]
1. データの整理
2. 代表値
3. 平均値
4. かたよりとばらつき
5. 分散、標準偏差
6. 相関係数
7. 回帰直線
8. 正規分布
9. 標準正規分布
10. 推定と検定
11. 各自の課題の設定と検討
12. 各自の課題の検討と完成
13. まとめ

| 科目名 | 数学Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 統計学入門 | | | |
| 担当者 | 穴田　恭輔 | | | |

[ 成績評価方法 ]
各回の発表（30%）、提出物（30%）、試験（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出ファイルには修正案を付けて返却します。修正が求められたら，再提出してください。
採点が済んだ試験を返却します。希望者はとりにきてください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:発表、レポート、試験

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
文系のための統計学の教室　著者名:涌井良幸,、涌井貞美　出版社:SBクリエイティブ （978-4815601539）

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 関　和俊 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバドミントン基礎的技術（skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニーケション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（バドミントン）
1. オリエンテーション、バドミントンの用具やコートの説明
2. バドミントンの基礎姿勢とリストワーク
3. 基礎運動①オーバーヘッドストローク
4. 基礎運動②サイドステップ
5. 基礎運動③ハイクリアとドロップ
6. 基礎運動④ヘアピンとドライブ
7. 基礎運動⑤スマッシュ
8. シングルス競技の進め方、ルールの説明
9. シングルス試合
10. ダブルス競技の進め方、ルールの説明
11. ダブルス試合①
12. ダブルス試合②
13. まとめ
＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 関　和俊 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内で知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバドミントン基礎的技術（skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニーケション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目

【バドミントン】
担当教員：大崎健太

1. オリエンテーション、バドミントンの用具やコートの説明
2. バドミントンの基礎姿勢とリストワーク
3. 基礎運動①オーバーヘッドストローク
4. 基礎運動②サイドステップ
5. 基礎運動③ハイクリアとドロップ
6. 基礎運動④ヘアピンとドライブ
7. 基礎運動⑤スマッシュ
8. シングルス競技の進め方、ルールの説明
9. シングルス試合
10. ダブルス競技の進め方、ルールの説明
11. ダブルス試合①
12. ダブルス試合②
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

授業内で知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力してパス(ラリー)を連続10回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムとして用意している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目をテレビ観戦や現地に行き観戦する。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が10名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バトミントン）

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術①
3. 基礎技術②
4. 基礎技術③(ドリル練習)+ルールとマナー+基礎的ゲーム
5. 基礎技術④(ドリル練習)+基礎的ゲーム
6. 基礎技術⑤(ドリル練習)+グループづくり+基礎的ゲーム+ルールと審判
7. 基礎技術⑥+コンビ練習・チーム練習+基礎的ゲーム
8. 基礎技術⑦+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦①
9. 基礎技術⑧+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦②
10. 基礎技術⑨+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦③
11. 基礎技術⑩+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦④
12. 基礎技術⑪+コンビ練習・チーム練習+ゲームリーグ戦⑤
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更の可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバドミントン基礎的技術（skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニーケション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目

（バドミントン）

1. オリエンテーション、バドミントンの用具やコートの説明
2. バドミントンの基礎姿勢とリストワーク
3. 基礎運動①オーバーヘッドストローク
4. 基礎運動②サイドステップ
5. 基礎運動③ハイクリアとドロップ
6. 基礎運動④ヘアピンとドライブ
7. 基礎運動⑤スマッシュ
8. シングルス競技の進め方、ルールの説明
9. シングルス試合
10. ダブルス競技の進め方、ルールの説明
11. ダブルス試合①
12. ダブルス試合②
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

授業内で知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 金谷　和幸 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバレーボールの基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（バレーボール）

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動①アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動?オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動?スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動?サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動?ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運動①対人パス、ランニングパス、三角パストス
9. 応用運動?レシーブトス、3人レシーブ
10. 応用運動?サーブレシーブトス、スパイク
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦
13. ゲーム班別対抗戦
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 金谷　和幸 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内でお知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 三浦　敬太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバドミントン基礎的技術（skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニーケション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目

（バドミントン）

1. オリエンテーション、バドミントンの用具やコートの説明
2. バドミントンの基礎姿勢とリストワーク
3. 基礎運動①オーバーヘッドストローク
4. 基礎運動②サイドステップ
5. 基礎運動③ハイクリアとドロップ
6. 基礎運動④ヘアピンとドライブ
7. 基礎運動⑤スマッシュ
8. シングルス競技の進め方、ルールの説明
9. シングルス試合
10. ダブルス競技の進め方、ルールの説明
11. ダブルス試合①
12. ダブルス試合②
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 三浦　敬太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

授業内で知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 野之上　操 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバドミントン基礎的技術（skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニーケション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目

（バドミントン）

1. オリエンテーション、バドミントンの用具やコートの説明
2. バドミントンの基礎姿勢とリストワーク
3. 基礎運動①オーバーヘッドストローク
4. 基礎運動②サイドステップ
5. 基礎運動③ハイクリアとドロップ
6. 基礎運動④ヘアピンとドライブ
7. 基礎運動⑤スマッシュ
8. シングルス競技の進め方、ルールの説明
9. シングルス試合
10. ダブルス競技の進め方、ルールの説明
11. ダブルス試合①
12. ダブルス試合②
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 野之上　操 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

授業内で知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：技能

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：受講態度

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながらパス(ラリー)を連続70回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が10名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バトミントン）

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術①
3. 基礎技術②
4. 基礎技術③(ドリル練習)+ルールとマナー+基礎的ゲーム
5. 基礎技術④(ドリル練習)+基礎的ゲーム
6. 基礎技術⑤(ドリル練習)+グループづくり+基礎的ゲーム+ルールと審判
7. 基礎技術⑥+コンビ練習・チーム練習+基礎的ゲーム
8. 基礎技術⑦+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦①
9. 基礎技術⑧+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦②
10. 基礎技術⑨+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦③
11. 基礎技術⑩+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦④
12. 基礎技術⑪+コンビ練習・チーム練習+ゲームリーグ戦⑤
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更の可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバドミントン基礎的技術（skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニーケション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目

【バドミントン】
担当教員：大崎健太

1．オリエンテーション、バドミントンの用具やコートの説明
2．バドミントンの基礎姿勢とリストワーク
3．基礎運動①オーバーヘッドストローク
4．基礎運動②サイドステップ
5．基礎運動③ハイクリアとドロップ
6．基礎運動④ヘアピンとドライブ
7．基礎運動⑤スマッシュ
8．シングルス競技の進め方、ルールの説明
9．シングルス試合
10．ダブルス競技の進め方、ルールの説明
11．ダブルス試合①
12．ダブルス試合②
13．まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ（バドミントン） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

授業内で知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 三浦　敬太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続20回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎日規則正しい生活を送り、質の高い睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
(受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。)

(バドミントン)

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術の復習
3. 応用技術(ドリル練習)
4. 応用技術(ドリル練習)＋ミニゲーム(作品つくり)①
5. グループづくり＋応用技術＋ミニゲーム②
6. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)②
7. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)③
8. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)④
9. ゲーム(作品つくり)④
10. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)⑤
11. 応用技術＋ゲーム(作品つくり)⑥
12. ゲームリーグ戦(作品発表)①
13. ゲームリーグ戦(作品発表)②

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 三浦　敬太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続20回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎日規則正しい生活を送り、質の高い睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
(受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。)

(バレーボール)

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術の復習
3. 応用技術(ドリル練習)
4. 応用技術(ドリル練習)＋ミニゲーム(作品つくり)①
5. グループづくり＋応用技術＋ミニゲーム②
6. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)②
7. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)③
8. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)④
9. ゲーム(作品つくり)④
10. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)⑤
11. 応用技術＋ゲーム(作品つくり)⑥
12. ゲームリーグ戦(作品発表)①
13. ゲームリーグ戦(作品発表)②

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる卓球の基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎日規則正しい生活を送り、十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べること。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
卓球

1. オリエンテーション
2. 基礎練習(打ち方、姿勢、ラケットの種類、グリップ)＋ゲーム(ルール説明を中心に)
3. 基礎練習(ラリー)
4. 基礎練習(サービス)＋ゲーム形式練習(ダブルス)
5. 基礎練習(フォアハンド打法)＋フォアハンドラリー
6. 基礎練習(バックハンド打法)＋ゲーム形式練習(シングルス)
7. 基礎練習(スマッシュ)＋ゲーム(ダブルス)
8. 基礎練習(ドライブ打法)＋ゲーム(ダブルス)
9. 基礎練習(カット)＋ゲーム(ダブルス)
11. ゲーム
12. ゲーム
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更の可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 野之上　操 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続20回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、質の高い睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バドミントン）

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術の復習
3. 応用技術（ドリル練習）
4. 応用技術（ドリル練習）＋ミニゲーム（作品つくり）①
5. グループづくり＋応用技術＋ミニゲーム②
6. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）②
7. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）③
8. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）④
9. ゲーム（作品つくり）④
10. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）⑤
11. 応用技術＋ゲーム（作品つくり）⑥
12. ゲームリーグ戦（作品発表）①
13. ゲームリーグ戦（作品発表）②

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 野之上　操 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:実技

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:受講態度

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバレーボールの基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
(バレーボール)

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動　アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動　オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動　スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動　サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動　ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運　　対人パス、ランニングパス、三角パストス　ゲーム
9. 応用運動　レシーブトス、3人レシーブ　ゲーム
10. 応用運動　サーブレシーブトス、スパイク　ゲーム
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦まとめ
13. まとめ
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続20回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目

【テニス】
担当教員：大崎健太

1. オリエンテーション、テニスの用具やコートの説明
2. テニスのルールや基礎技術の説明
3. 基礎技術①フォアハンドストローク
4. 基礎技術②バックハンドストローク
5. 基礎技術③ボレー
6. 基礎運動④サーブ
7. 基礎運動⑤ダブルスの戦術理解
8. 基礎運動⑥シングルスの戦術理解
9. 基礎運動⑦ゲーム形式練習
10. 試合の進め方、ルールの説明
11. ダブルスの試合
12. シングルスの試合
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－4 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－5 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながらパス(ラリー)を連続70回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が10名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バトミントン）

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術①
3. 基礎技術②
4. 基礎技術③(ドリル練習)+ルールとマナー+基礎的ゲーム
5. 基礎技術④(ドリル練習)+基礎的ゲーム
6. 基礎技術⑤(ドリル練習)+グループづくり+基礎的ゲーム+ルールと審判
7. 基礎技術⑥+コンビ練習・チーム練習+基礎的ゲーム
8. 基礎技術⑦+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦①
9. 基礎技術⑧+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦②
10. 基礎技術⑨+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦③
11. 基礎技術⑩+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦④
12. 基礎技術⑪+コンビ練習・チーム練習+ゲームリーグ戦⑤
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更の可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－5 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－5 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続30回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、質の高い睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バレーボール）

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術の復習
3. 応用技術（ドリル練習）
4. 応用技術（ドリル練習）＋ミニゲーム（作品つくり）①
5. グループづくり＋応用技術＋ミニゲーム②
6. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）②
7. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）③
8. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）④
9. ゲーム（作品つくり）④
10. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）⑤
11. 応用技術＋ゲーム（作品つくり）⑥
12. ゲームリーグ戦（作品発表）①
13. ゲームリーグ戦（作品発表）②

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－5 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－5 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続30回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目

【バドミントン】
担当教員：大崎健太

1. オリエンテーション、バドミントンの用具やコートの説明
2. バドミントンの基礎姿勢とリストワーク
3. 基礎運動①オーバーヘッドストローク
4. 基礎運動②サイドステップ
5. 基礎運動③ハイクリアとドロップ
6. 基礎運動④ヘアピンとドライブ
7. 基礎運動⑤スマッシュ
8. シングルス競技の進め方、ルールの説明
9. シングルス試合
10. ダブルス競技の進め方、ルールの説明
11. ダブルス試合①
12. ダブルス試合②
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－5 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－5 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながらパス(ラリー)を連続90回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バレーボール）

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動　アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動　オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動　スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動　サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動　ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運　　対人パス、ランニングパス、三角パストス　ゲーム
9. 応用運動　レシーブトス、3人レシーブ　ゲーム
10. 応用運動　サーブレシーブトス、スパイク　ゲーム
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦まとめ
13. まとめ
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－5 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 三浦　敬太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続40回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎日規則正しい生活を送り、質の高い睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
(受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。)

(バドミントン)

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術の復習
3. 応用技術(ドリル練習)
4. 応用技術(ドリル練習)＋ミニゲーム(作品つくり)①
5. グループづくり＋応用技術＋ミニゲーム②
6. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)②
7. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)③
8. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)④
9. ゲーム(作品つくり)④
10. 応用技術(ドリル練習)＋ゲーム(作品つくり)⑤
11. 応用技術＋ゲーム(作品つくり)⑥
12. ゲームリーグ戦(作品発表)①
13. ゲームリーグ戦(作品発表)②

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 三浦　敬太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続40回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、質の高い睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バレーボール）

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術の復習
3. 応用技術（ドリル練習）
4. 応用技術（ドリル練習）＋ミニゲーム（作品つくり）①
5. グループづくり＋応用技術＋ミニゲーム②
6. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）②
7. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）③
8. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）④
9. ゲーム（作品つくり）④
10. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）⑤
11. 応用技術＋ゲーム（作品つくり）⑥
12. ゲームリーグ戦（作品発表）①
13. ゲームリーグ戦（作品発表）②

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる卓球の基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎日規則正しい生活を送り、十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べること。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
卓球

1. オリエンテーション
2. 基礎練習(打ち方、姿勢、ラケットの種類、グリップ)＋ゲーム(ルール説明を中心に)
3. 基礎練習(ラリー)
4. 基礎練習(サービス)＋ゲーム形式練習(ダブルス)
5. 基礎練習(フォアハンド打法)＋フォアハンドラリー
6. 基礎練習(バックハンド打法)＋ゲーム形式練習(シングルス)
7. 基礎練習(スマッシュ)＋ゲーム(ダブルス)
8. 基礎練習(ドライブ打法)＋ゲーム(ダブルス)
9. 基礎練習　ゲーム(ダブルス)
10. 基礎練習(カット)＋ゲーム(ダブルス)
11. 基礎練習(レシーブ)＋バックハンドラリー ＋ゲーム
12. ゲーム
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更の可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 野之上　操 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続40回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、質の高い睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バドミントン）

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術の復習
3. 応用技術（ドリル練習）
4. 応用技術（ドリル練習）＋ミニゲーム（作品つくり）①
5. グループづくり＋応用技術＋ミニゲーム②
6. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）②
7. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）③
8. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）④
9. ゲーム（作品つくり）④
10. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）⑤
11. 応用技術＋ゲーム（作品つくり）⑥
12. ゲームリーグ戦（作品発表）①
13. ゲームリーグ戦（作品発表）②

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 野之上　操 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながらパス(ラリー)を連続100回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
(受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。)
バレーボール
1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動　アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動　オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動　スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動　サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動　ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運　　対人パス、ランニングパス、三角パストス　ゲーム
9. 応用運動　レシーブトス、3人レシーブ　ゲーム
10. 応用運動　サーブレシーブトス、スパイク　ゲーム
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦まとめ
13. まとめ
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
A=＜△技能＞・知識・・・調べ学習力10～20%（教員の裁量）
B=思考・判断力・表現力・・・・レポート作成能力10～20%（教員の裁量）
C=主体的に学習に取り組む態度（態度）・・60点

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続40回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目

【テニス】
担当教員：大崎健太

1. オリエンテーション、テニスの用具やコートの説明
2. テニスのルールや基礎技術の説明
3. 基礎技術①フォアハンドストローク
4. 基礎技術②バックハンドストローク
5. 基礎技術③ボレー
6. 基礎運動④サーブ
7. 基礎運動⑤ダブルスの戦術理解
8. 基礎運動⑥シングルスの戦術理解
9. 基礎運動⑦ゲーム形式練習
10. 試合の進め方、ルールの説明
11. ダブルスの試合
12. シングルスの試合
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－6 | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－7 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながらパス(ラリー)を連続100回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が10名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バトミントン）

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術①
3. 基礎技術②
4. 基礎技術③(ドリル練習)+ルールとマナー+基礎的ゲーム
5. 基礎技術④(ドリル練習)+基礎的ゲーム
6. 基礎技術⑤(ドリル練習)+グループづくり+基礎的ゲーム+ルールと審判
7. 基礎技術⑥+コンビ練習・チーム練習+基礎的ゲーム
8. 基礎技術⑦+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦①
9. 基礎技術⑧+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦②
10. 基礎技術⑨+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦③
11. 基礎技術⑩+コンビ練習・チーム練習(ドリル練習)+ゲームリーグ戦④
12. 基礎技術⑪+コンビ練習・チーム練習+ゲームリーグ戦⑤
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更の可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－7 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－7 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続50回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、質の高い睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バレーボール）

1. オリエンテーション・授業の進め方・ウォーミングアップの仕方
2. 基礎技術の復習
3. 応用技術（ドリル練習）
4. 応用技術（ドリル練習）＋ミニゲーム（作品つくり）①
5. グループづくり＋応用技術＋ミニゲーム②
6. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）②
7. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）③
8. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）④
9. ゲーム（作品つくり）④
10. 応用技術（ドリル練習）＋ゲーム（作品つくり）⑤
11. 応用技術＋ゲーム（作品つくり）⑥
12. ゲームリーグ戦（作品発表）①
13. ゲームリーグ戦（作品発表）②

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－7 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－7 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながら正確なフォームでラリーを連続50回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。基本的に使用する用具は大学のものを活用するが、持参してもよい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目

【バドミントン】
担当教員：大崎健太

1. オリエンテーション、バドミントンの用具やコートの説明
2. バドミントンの基礎姿勢とリストワーク
3. 基礎運動①オーバーヘッドストローク
4. 基礎運動②サイドステップ
5. 基礎運動③ハイクリアとドロップ
6. 基礎運動④ヘアピンとドライブ
7. 基礎運動⑤スマッシュ
8. シングルス競技の進め方、ルールの説明
9. シングルス試合
10. ダブルス競技の進め方、ルールの説明
11. ダブルス試合①
12. ダブルス試合②
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－7 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－7 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながらパス(ラリー)を連続120回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バレーボール）

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動　アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動　オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動　スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動　サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動　ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運　　対人パス、ランニングパス、三角パストス　ゲーム
9. 応用運動　レシーブトス、3人レシーブ　ゲーム
10. 応用運動　サーブレシーブトス、スパイク　ゲーム
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦まとめ
13. まとめ

＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅰ－7 | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバレーボールの基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（バレーボール）

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動①アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動?オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動?スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動?サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動?ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運動①対人パス、ランニングパス、三角パストス
9. 応用運動?レシーブトス、3人レシーブ
10. 応用運動?サーブレシーブトス、スパイク
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦
13. ゲーム班別対抗戦
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内でお知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバレーボールの基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（バレーボール）

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動　アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動　オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動　スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動　サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動　ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運　　対人パス、ランニングパス、三角パストス　ゲーム
9. 応用運動　レシーブトス、3人レシーブ　ゲーム
10. 応用運動　サーブレシーブトス、スパイク　ゲーム
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦まとめ
13. まとめ
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバレーボールの基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（バレーボール）

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動①アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動?オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動?スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動?サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動?ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運動①対人パス、ランニングパス、三角パストス
9. 応用運動?レシーブトス、3人レシーブ
10. 応用運動?サーブレシーブトス、スパイク
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦
13. ゲーム班別対抗戦
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内でお知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバレーボールの基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
　毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目

【バレーボール】
担当教員：大崎健太

1．ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2．ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3．基礎運動①アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4．基礎運動?オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5．基礎運動?スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6．基礎運動?サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7．基礎運動?ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8．応用運動①対人パス、ランニングパス、三角パストス
9．応用運動?レシーブトス、3人レシーブ
10．応用運動?サーブレシーブトス、スパイク
11．ゲーム班別対抗戦
12．ゲーム班別対抗戦
13．ゲーム班別対抗戦
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内でお知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバレーボールの基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（バレーボール）

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動①アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動?オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動?スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動?サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動?ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運動①対人パス、ランニングパス、三角パストス
9. 応用運動?レシーブトス、3人レシーブ
10. 応用運動?サーブレシーブトス、スパイク
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦
13. ゲーム班別対抗戦
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内でお知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバレーボールの基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（バレーボール）

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動①アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動?オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動?スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動?サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動?ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運動①対人パス、ランニングパス、三角パストス
9. 応用運動?レシーブトス、3人レシーブ
10. 応用運動?サーブレシーブトス、スパイク
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦
13. ゲーム班別対抗戦
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内でお知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバレーボールの基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（バレーボール）

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動　アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動　オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動　スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動　サーブ(アンダー、オーバー、フロータ―サーブ)
7. 基礎運動　ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運　　対人パス、ランニングパス、三角パストス　ゲーム
9. 応用運動　レシーブトス、3人レシーブ　ゲーム
10. 応用運動　サーブレシーブトス、スパイク　ゲーム
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦まとめ
13. まとめ
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるバレーボールの基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（バレーボール）

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動①アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動?オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動?スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動?サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動?ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運動①対人パス、ランニングパス、三角パストス
9. 応用運動?レシーブトス、3人レシーブ
10. 応用運動?サーブレシーブトス、スパイク
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦
13. ゲーム班別対抗戦
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 森　祐貴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内でお知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる応用的な技術やルール・マナーなどを身につける。ペアと協力しながらパス(ラリー)を連続90回できるようになる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間づくりにも役立たせたい。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。同種目を期ごとに重複して受講し、技能を高めることができる。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。

[ 授業計画 ]
本年度・開講予定種目
（受講生が15名以上で開講するが、人数により種目を調整する。）

（バレーボール）

1. ガイダンス　講義の進め方と評価方法
2. ルール説明　審判方法　ネット設置方法
3. 基礎運動　アンダーハンドパス(構えの姿勢、腕の組み方、ステップワーク)
4. 基礎運動　オーバーハンドパス(回内動作、上肢下肢の連動)
5. 基礎運動　スパイク(3歩助走、腕の振りあげ、スイング方法)
6. 基礎運動　サーブ(アンダー、オーバー、フローター―サーブ)
7. 基礎運動　ブロック(サイドステップ、クロスステップ)
8. 応用運　　対人パス、ランニングパス、三角パストス　ゲーム
9. 応用運動　レシーブトス、3人レシーブ　ゲーム
10. 応用運動　サーブレシーブトス、スパイク　ゲーム
11. ゲーム班別対抗戦
12. ゲーム班別対抗戦まとめ
13. まとめ
＜＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります。＞

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ（バレーボール） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ－C | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 水泳(背泳ぎ) | | | |
| 担当者 | 住本　純、重福　京子、小島　理永 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
技能に応じて安全にスポーツを楽しむ。
生涯スポーツの一つとして、水泳を習得する。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。

開講種目は水泳を行う。
技能に応じて安全にスポーツを楽しむ。

受講定員15人名の人数に満たない場合は不開講とする。1～4回生の基礎トレーニング修了者で、内科検診に異常の無い人

2022年9月14日、20日、21日
場所:神戸市立ポートアイランドスポーツセンター
　　ポーアイキャンパスD304

下記説明会にて詳細を説明するので、申し込み登録を行った者に限る。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食を摂る。
日常的によく体を動かしたり、意図的に運動を実施しておくことが望ましい。

[ 授業計画 ]
1. 概要説明
2. グループ分け
3. 基礎技術　浮く
4. 基礎技術　姿勢(仰向き)
5. 基礎技術　姿勢とキック①
6. 基礎技術　姿勢とキック②
7. 基礎技術　キックと呼吸方法
8. 基礎技術　腕の動作
9. 基礎技術　腕の動作と呼吸方法
10. 背泳ぎ25m①
11. 背泳ぎ25m②
12. 背泳ぎ50m
13. まとめ

【履修希望者への説明会】
希望者は必ず下記の日時のzoomに参加すること
・5月13日(金)12:20～　説明会

ミーティングID: 839 340 9480
パスコード: 20220513

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ－C | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 水泳(背泳ぎ) | | | |
| 担当者 | 住本　純、重福　京子、小島　理永 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業内等で連絡します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ －D | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 水泳（バタフライ・指導法） | | | |
| 担当者 | 住本　純、重福　京子、小島　理永 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
技能に応じて安全にスポーツを楽しむ。
生涯スポーツの一つとして、水泳を習得する。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。

開講種目は水泳を行う。
技能に応じて安全にスポーツを楽しむ。

受講定員15人名の人数に満たない場合は不開講とする。１～４回生の基礎トレーニング修了者で、内科検診に異常の無い人

2022年9月14日、20日、21日
場所:神戸市立ポートアイランドスポーツセンター
　　ポーアイキャンパスD304

下記説明会にて詳細を説明するので、申し込み登録を行った者に限る。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食を摂る。
日常的によく体を動かしたり、意図的に運動を実施しておくことが望ましい。

[ 授業計画 ]
1. 概要説明
2. グループ分け
3. 基礎技術　浮く
4. 基礎技術　ドルヒィンキックの動作①
5. 基礎技術　ドルヒィンキックの動作②
6. 基礎技術　プルの動作と呼吸法
7. 基礎技術　プルとキック動作①
8. 基礎技術　プルとキック動作②
9. バタフライ25m①
10. クロールの指導の要点説明
11. 平泳ぎの指導の要点説明
12. 背泳ぎ・バタフライの指導の要点説明
13. まとめ

【履修希望者への説明会】
希望者は必ず下記の日時のzoomに参加すること
・5月13日（金）12:20～　説明会

ミーティングID: 839 340 9480
パスコード: 20220513

| 科目名 | スポーツ実技Ⅱ －D | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 水泳（バタフライ・指導法） | | | |
| 担当者 | 住本　純、重福　京子、小島　理永 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内等で連絡します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅲ（卓球） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる卓球の基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べること。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション
2. 基礎練習（打ち方、姿勢、ラケットの種類、グリップ）＋ゲーム（ルール説明を中心に）
3. 基礎練習（ラリー）
4. 基礎練習（サービス）＋ゲーム形式練習（ダブルス）
5. 基礎練習（フォアハンド打法）＋フォアハンドラリー
6. 基礎練習（バックハンド打法）＋ゲーム形式練習（シングルス）
7. 基礎練習（スマッシュ）＋ゲーム（ダブルス）
8. 基礎練習（ドライブ打法）＋ゲーム（ダブルス）
9. 基礎練習（レシーブ）＋バックハンドラリー
10. 基礎練習（3球目攻撃と5球目攻撃）＋ゲーム（ダブルス）
11. ゲーム（個人戦）
12. ゲーム（団体戦）
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更の可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅲ（卓球） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅲ（卓球） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる卓球の基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べること。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション
2. 基礎練習（打ち方、姿勢、ラケットの種類、グリップ）＋ゲーム（ルール説明を中心に）
3. 基礎練習（ラリー）
4. 基礎練習（サービス）＋ゲーム形式練習（ダブルス）
5. 基礎練習（フォアハンド打法）＋フォアハンドラリー
6. 基礎練習（バックハンド打法）＋ゲーム形式練習（シングルス）
7. 基礎練習（スマッシュ）＋ゲーム（ダブルス）
8. 基礎練習（ドライブ打法）＋ゲーム（ダブルス）
9. 基礎練習（レシーブ）＋バックハンドラリー
10. 基礎練習（3球目攻撃と5球目攻撃）＋ゲーム（ダブルス）
11. ゲーム（個人戦）
12. ゲーム（団体戦）
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更の可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅲ（卓球） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 松﨑　淳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅲ（卓球） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 三浦　敬太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる卓球の基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べること。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション
2. 基礎練習（打ち方、姿勢、ラケットの種類、グリップ）＋ゲーム（ルール説明を中心に）
3. 基礎練習（ラリー）
4. 基礎練習（サービス）＋ゲーム形式練習（ダブルス）
5. 基礎練習（フォアハンド打法）＋フォアハンドラリー
6. 基礎練習（バックハンド打法）＋ゲーム形式練習（シングルス）
7. 基礎練習（スマッシュ）＋ゲーム（ダブルス）
8. 基礎練習（ドライブ打法）＋ゲーム（ダブルス）
9. 基礎練習（レシーブ）＋バックハンドラリー
10. 基礎練習（3球目攻撃と5球目攻撃）＋ゲーム（ダブルス）
11. ゲーム（個人戦）
12. ゲーム（団体戦）
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更の可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅲ（卓球） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 三浦　敬太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅲ（卓球） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる卓球の基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べること。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
卓球

1. オリエンテーション
2. 基礎練習（打ち方、姿勢、ラケットの種類、グリップ）＋ゲーム（ルール説明を中心に）
3. 基礎練習（ラリー）
4. 基礎練習（サービス）＋ゲーム形式練習（ダブルス）
5. 基礎練習（フォアハンド打法）＋フォアハンドラリー
6. 基礎練習（バックハンド打法）＋ゲーム形式練習（シングルス）
7. 基礎練習（スマッシュ）＋ゲーム（ダブルス）
8. 基礎練習（ドライブ打法）＋ゲーム（ダブルス）
9. 基礎練習（カット）＋ゲーム（ダブルス）
11. ゲーム
12. ゲーム
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更の可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅲ（卓球） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅲ（卓球） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がる卓球の基礎技術(skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムである。より高いレベルのウエルネスライフを構築し、生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニケーション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べること。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]
卓球

1. オリエンテーション
2. 基礎練習（打ち方、姿勢、ラケットの種類、グリップ）＋ゲーム（ルール説明を中心に）
3. 基礎練習（ラリー）
4. 基礎練習（サービス）＋ゲーム形式練習（ダブルス）
5. 基礎練習（フォアハンド打法）＋フォアハンドラリー
6. 基礎練習（バックハンド打法）＋ゲーム形式練習（シングルス）
7. 基礎練習（スマッシュ）＋ゲーム（ダブルス）
8. 基礎練習（ドライブ打法）＋ゲーム（ダブルス）
9. 基礎練習（ツッツキ）＋ゲーム（ダブルス）
10. 基礎練習（カット）＋ゲーム（ダブルス）
11. ゲーム（個人戦）
12. ゲーム（団体戦）
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更の可能性があります。

| 科目名 | スポーツ実技Ⅲ（卓球） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大松　敬子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能(50%)、受講態度(50%)

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポートの提出はmanabaに入れてください。
メールでは受付しませんので注意してください。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅳ（テニス） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

［アクティブラーニング授業］

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

［ 到達目標 ］
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるテニスの基礎的技術（skill)やルール・マナーなどを身につける

［ 授業概要 ］
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニーケション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

［ 準備学修（授業前後の主体的な学修）］
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

［ 授業計画 ］
本年度・開講予定種目

【テニス】
担当教員：大崎健太

1. オリエンテーション、テニスの用具やコートの説明
2. テニスのルールや基礎技術の説明
3. 基礎技術①フォアハンドストローク
4. 基礎技術②バックハンドストローク
5. 基礎技術③ボレー
6. 基礎運動④サーブ
7. 基礎運動⑤ダブルスの戦術理解
8. 基礎運動⑥シングルスの戦術理解
9. 基礎運動⑦ゲーム形式練習
10. 試合の進め方、ルールの説明
11. ダブルスの試合
12. シングルスの試合
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅳ（テニス） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

授業内で知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：技能、受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：技能、受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：技能、受講態度

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅳ（テニス） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 住本　純 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるテニスの基礎的技術（skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニーケション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修）]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション、テニスの用具やコートの説明
2. テニスのルールや基礎技術の説明
3. 基礎技術①フォアハンドストローク
4. 基礎技術②バックハンドストローク
5. 基礎技術③ボレー
6. 基礎運動④サーブ
7. 基礎運動⑤ダブルスの戦術理解
8. 基礎運動⑥シングルスの戦術理解
9. 基礎運動⑦ゲーム形式練習
10. 試合の進め方、ルールの説明
11. ダブルスの試合
12. シングルスの試合
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅳ（テニス） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 住本　純 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

授業内で知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：技能、受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：技能、受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：技能、受講態度

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅳ（テニス） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

［アクティブラーニング授業］

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

［ 到達目標 ］
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるテニスの基礎的技術（skill)やルール・マナーなどを身につける

［ 授業概要 ］
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニーケション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

［ 準備学修（授業前後の主体的な学修）］
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

［ 授業計画 ］
本年度・開講予定種目

【テニス】
担当教員：大崎健太

1. オリエンテーション、テニスの用具やコートの説明
2. テニスのルールや基礎技術の説明
3. 基礎技術①フォアハンドストローク
4. 基礎技術②バックハンドストローク
5. 基礎技術③ボレー
6. 基礎運動④サーブ
7. 基礎運動⑤ダブルスの戦術理解
8. 基礎運動⑥シングルスの戦術理解
9. 基礎運動⑦ゲーム形式練習
10. 試合の進め方、ルールの説明
11. ダブルスの試合
12. シングルスの試合
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅳ（テニス） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

授業内で知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：技能、受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：技能、受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：技能、受講態度

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅳ（テニス） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
プレイを通して仲間とのコミュニケーションを図りながら、生涯スポーツに繋がるテニスの基礎的技術（skill)やルール・マナーなどを身につける

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。より高いレベルのウエルネスライフを構築し生き甲斐を模索すると同時に、仲間とのコミュニーケション能力を高めていく。使用する用具は大学のものを活用する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修）]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食をしっかり食べる。
また、受講種目に関連するスポーツ種目についてメディアを通して、情報を得ること。

[ 授業計画 ]

1. オリエンテーション、テニスの用具やコートの説明
2. テニスのルールや基礎技術の説明
3. 基礎技術①フォアハンドストローク
4. 基礎技術②バックハンドストローク
5. 基礎技術③ボレー
6. 基礎運動④サーブ
7. 基礎運動⑤ダブルスの戦術理解
8. 基礎運動⑥シングルスの戦術理解
9. 基礎運動⑦ゲーム形式練習
10. 試合の進め方、ルールの説明
11. ダブルスの試合
12. シングルスの試合
13. まとめ

＊コロナ禍等の社会的状況により、変更する可能性があります

| 科目名 | スポーツ実技Ⅳ（テニス） | 前期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯スポーツの構築 | | | |
| 担当者 | 大崎　健太 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

授業内で知らせします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：技能、受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：技能、受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：技能、受講態度

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツ実技Ⅴ（学外） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 水泳 | | | |
| 担当者 | 住本　純、重福　京子、小島　理永 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
技能に応じて安全にスポーツを楽しむ。
生涯スポーツの一つとして、水泳を習得する。

[ 授業概要 ]
スポーツ実技選択は、基礎トレーニングを修得した人に、更にスポーツを愛好し生涯スポーツへと発展させるためのプログラムを準備している。実技は、技術レベルや経験の有無に関係なくレベルに合った指導がなされるので誰でもが受講可能である。

開講種目は水泳を行う。
技能に応じて安全にスポーツを楽しむ。

受講定員15人名の人数に満たない場合は不開講とする。1～4回生の基礎トレーニング修了者で、内科検診に異常の無い人

2022年9月14日、20日、21日
場所:神戸市立ポートアイランドスポーツセンター
　　ポーアイキャンパスD304

下記説明会にて詳細を説明するので、申し込み登録を行った者に限る。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
毎日規則正しい生活を送り、深くて十分な睡眠を取り、早寝早起き、朝食を摂る。
日常的によく体を動かしたり、意図的に運動を実施しておくことが望ましい。

[ 授業計画 ]
1. 概要説明
2. グループ分け
3. 基礎技術　浮く
4. 基礎技術　姿勢（仰向き）
5. 基礎技術　姿勢とキック①
6. 基礎技術　姿勢とキック②
7. 基礎技術　キックと呼吸方法
8. 基礎技術　腕の動作
9. 基礎技術　腕の動作と呼吸方法
10. クロール25m
11. 平泳ぎ25m
12. クロール・平泳ぎ25m
13. まとめ

【履修希望者への説明会】
希望者は必ず下記の日時のzoomに参加すること
・5月13日（金）12:20～　説明会

ミーティングID: 839 340 9480
パスコード: 20220513

| 科目名 | スポーツ実技Ⅴ（学外） | 後期 | 実技 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 水泳 | | | |
| 担当者 | 住本　純、重福　京子、小島　理永 | | | |

[ 成績評価方法 ]
技能（50%）、受講態度（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業内等で連絡します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 関　和俊 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 授業で出されたテーマに関する課題、演習等（軽運動を含む）。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
生涯にわたる生きがいやライフスタイルの構築にむけ、その基盤となる健康や体力に関する基礎的知識を習得することで、個々人が日常生活において健康科学に基づいたに対処および行動ができる。

[ 授業概要 ]
科学技術の発達によって日常生活の身体的負担は軽減する一方で、運動不足病と総称されるように運動不足が危険因子（リスクファクター）となる疾病は数多い。このように身体活動が健康に及ぼす影響は多大である。健康を支える要因の解明としては、疫学、心理学、情報科学、社会学等の分野で検証が行われている。そこで本講義では、多角的な視点を通して生涯を通した健康、運動、スポーツの捉え方について考えを深めていくことを目的とする。また、運動の重要性および健康づくりについて理解し習慣化して実践できるよう、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃から健康に関する記事や映像などから情報を得るようにしておくこと。また、運動、スポーツやについて興味関心を抱き、積極的に実施すること。

[ 授業計画 ]
1. 健康とQOL
2. ヘルスリテラシー
3. 人口の動向と少子・超高齢化社会（ロコモ度テスト）
4. 心と健康、ストレス
5. 運動・休養と健康
6. 栄養と健康
7. 生活習慣病と運動
8. 体力の測定と評価
9. トレーニング、フィットネスとは
10. 救命救急法（一次救命・応急処置法・RICE・テーピング）
11. 飲酒、喫煙、感染症について
12. 妊娠と出産 （女性のからだ、高齢出産、避妊、母子衛生）
13. まとめ

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 関　和俊 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験・課題レポート(50%)、授業態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし　プリント配布(manaba利用)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 授業で出されたテーマに関する課題、演習等（軽運動を含む）。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
生涯にわたる生きがいやライフスタイルの構築にむけ、その基盤となる健康や体力に関する基礎的知識を習得することで、個々人が日常生活において健康科学に基づいたに対処および行動ができる。

[ 授業概要 ]
科学技術の発達によって日常生活の身体的負担は軽減する一方で、運動不足病と総称されるように運動不足が危険因子（リスクファクター）となる疾病は数多い。このように身体活動が健康に及ぼす影響は多大である。健康を支える要因の解明としては、疫学、心理学、情報科学、社会学等の分野で検証が行われている。そこで本講義では、多角的な視点を通して生涯を通した健康、運動、スポーツの捉え方について考えを深めていくことを目的とする。また、運動の重要性および健康づくりについて理解し習慣化して実践できるよう、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃から健康に関する記事や映像などから情報を得るようにしておくこと。また、運動、スポーツやについて興味関心を抱き、積極的に実施すること。

[ 授業計画 ]
1. 健康とQOL
2. ヘルスリテラシー
3. 人口の動向と少子・超高齢化社会（ロコモ度テスト）
4. 心と健康、ストレス
5. 運動・休養と健康
6. 栄養と健康
7. 生活習慣病と運動
8. 体力の測定と評価
9. トレーニング、フィットネスとは
10. 救命救急法（一次救命・応急処置法・RICE・テーピング）
11. 飲酒、喫煙、感染症について
12. 妊娠と出産 （女性のからだ、高齢出産、避妊、母子衛生）
13. まとめ

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験・課題レポート(50%)、授業態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし　プリント配布(manaba利用)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 授業で出されたテーマに関する課題、演習等（軽運動を含む）。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
生涯にわたる生きがいやライフスタイルの構築にむけ、その基盤となる健康や体力に関する基礎的知識を習得することで、個々人が日常生活において健康科学に基づいたに対処および行動ができる。

[ 授業概要 ]
科学技術の発達によって日常生活の身体的負担は軽減する一方で、運動不足病と総称されるように運動不足が危険因子（リスクファクター）となる疾病は数多い。このように身体活動が健康に及ぼす影響は多大である。健康を支える要因の解明としては、疫学、心理学、情報科学、社会学等の分野で検証が行われている。そこで本講義では、多角的な視点を通して生涯を通した健康、運動、スポーツの捉え方について考えを深めていくことを目的とする。また、運動の重要性および健康づくりについて理解し習慣化して実践できるよう、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃から健康に関する記事や映像などから情報を得るようにしておくこと。また、運動、スポーツやについて興味関心を抱き、積極的に実施すること。

[ 授業計画 ]
1. 健康とQOL
2. ヘルスリテラシー
3. 人口の動向と少子・超高齢化社会（ロコモ度テスト）
4. 心と健康、ストレス
5. 運動・休養と健康
6. 栄養と健康
7. 生活習慣病と運動
8. 体力の測定と評価
9. トレーニング、フィットネスとは
10. 救命救急法（一次救命・応急処置法・RICE・テーピング）
11. 飲酒、喫煙、感染症について
12. 妊娠と出産 （女性のからだ、高齢出産、避妊、母子衛生）
13. まとめ

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験・課題レポート(50%)、授業態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし　プリント配布(manaba利用)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 授業で出されたテーマに関する課題、演習等（軽運動を含む）。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
生涯にわたる生きがいやライフスタイルの構築にむけ、その基盤となる健康や体力に関する基礎的知識を習得することで、個々人が日常生活において健康科学に基づいたに対処および行動ができる。

[ 授業概要 ]
科学技術の発達によって日常生活の身体的負担は軽減する一方で、運動不足病と総称されるように運動不足が危険因子（リスクファクター）となる疾病は数多い。このように身体活動が健康に及ぼす影響は多大である。健康を支える要因の解明としては、疫学、心理学、情報科学、社会学等の分野で検証が行われている。そこで本講義では、多角的な視点を通して生涯を通した健康、運動、スポーツの捉え方について考えを深めていくことを目的とする。また、運動の重要性および健康づくりについて理解し習慣化して実践できるよう、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃から健康に関する記事や映像などから情報を得るようにしておくこと。また、運動、スポーツやについて興味関心を抱き、積極的に実施すること。

[ 授業計画 ]
1. 健康とQOL
2. ヘルスリテラシー
3. 人口の動向と少子・超高齢化社会（ロコモ度テスト）
4. 心と健康、ストレス
5. 運動・休養と健康
6. 栄養と健康
7. 生活習慣病と運動
8. 体力の測定と評価
9. トレーニング、フィットネスとは
10. 救命救急法（一次救命・応急処置法・RICE・テーピング）
11. 飲酒、喫煙、感染症について
12. 妊娠と出産 （女性のからだ、高齢出産、避妊、母子衛生）
13. まとめ

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験・課題レポート(50%)、授業態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし　プリント配布(manaba利用)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 授業で出されたテーマに関する課題、演習等（軽運動を含む）。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
生涯にわたる生きがいやライフスタイルの構築にむけ、その基盤となる健康や体力に関する基礎的知識を習得することで、個々人が日常生活において健康科学に基づいたに対処および行動ができる。

[ 授業概要 ]
科学技術の発達によって日常生活の身体的負担は軽減する一方で、運動不足病と総称されるように運動不足が危険因子（リスクファクター）となる疾病は数多い。このように身体活動が健康に及ぼす影響は多大である。健康を支える要因の解明としては、疫学、心理学、情報科学、社会学等の分野で検証が行われている。そこで本講義では、多角的な視点を通して生涯を通した健康、運動、スポーツの捉え方について考えを深めていくことを目的とする。また、運動の重要性および健康づくりについて理解し習慣化して実践できるよう、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃から健康に関する記事や映像などから情報を得るようにしておくこと。また、運動、スポーツやについて興味関心を抱き、積極的に実施すること。

[ 授業計画 ]
1. 健康とQOL
2. ヘルスリテラシー
3. 人口の動向と少子・超高齢化社会（ロコモ度テスト）
4. 心と健康、ストレス
5. 運動・休養と健康
6. 栄養と健康
7. 生活習慣病と運動
8. 体力の測定と評価
9. トレーニング、フィットネスとは
10. 救命救急法（一次救命・応急処置法・RICE・テーピング）
11. 飲酒、喫煙、感染症について
12. 妊娠と出産 （女性のからだ、高齢出産、避妊、母子衛生）
13. まとめ

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験・課題レポート(50%)、授業態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし　プリント配布(manaba利用)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 授業で出されたテーマに関する課題、演習等（軽運動を含む）。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
生涯にわたる生きがいやライフスタイルの構築にむけ、その基盤となる健康や体力に関する基礎的知識を習得することで、個々人が日常生活において健康科学に基づいたに対処および行動ができる。

[ 授業概要 ]
科学技術の発達によって日常生活の身体的負担は軽減する一方で、運動不足病と総称されるように運動不足が危険因子（リスクファクター）となる疾病は数多い。このように身体活動が健康に及ぼす影響は多大である。健康を支える要因の解明としては、疫学、心理学、情報科学、社会学等の分野で検証が行われている。そこで本講義では、多角的な視点を通して生涯を通した健康、運動、スポーツの捉え方について考えを深めていくことを目的とする。また、運動の重要性および健康づくりについて理解し習慣化して実践できるよう、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃から健康に関する記事や映像などから情報を得るようにしておくこと。また、運動、スポーツやについて興味関心を抱き、積極的に実施すること。

[ 授業計画 ]
1. 健康とQOL
2. ヘルスリテラシー
3. 人口の動向と少子・超高齢化社会（ロコモ度テスト）
4. 心と健康、ストレス
5. 運動・休養と健康
6. 栄養と健康
7. 生活習慣病と運動
8. 体力の測定と評価
9. トレーニング、フィットネスとは
10. 救命救急法（一次救命・応急処置法・RICE・テーピング）
11. 飲酒、喫煙、感染症について
12. 妊娠と出産 （女性のからだ、高齢出産、避妊、母子衛生）
13. まとめ

| 科目名 | スポーツと健康の科学 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 理論と実践を通じた生涯にわたる健康・運動に関する教養 | | | |
| 担当者 | 西山　清子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験・課題レポート(50%)、授業態度(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業等で説明・解説します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし　プリント配布(manaba利用)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 地域学習 | 前期～後期 | 実習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 大西　雅裕、来海　素存 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
学生自身が主体性、社会性、人間力を育て、大きく成長していく「イニシエーション」の過程として位置づける生涯学習のプロセスであり、学習によって自覚的に育った学生たちが、将来主体性のある“市民”として、それぞれの生きる地域社会の核として貢献できることを目標とする。

[ 授業概要 ]
大学での講義、演習を中心とはせず、学生自らの興味、関心に基づいて様々な地域社会で催されている行事、活動に社会貢献活動の一環として主体的に参加する。
履修期間は通年（1年）として、次年度へのポイントを持越すことはできない。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
日頃から学生一人一人の興味関心を常に社会に向け、様々な情報を収集すること。また各種の出来事について積極的で主体的な学修態度を涵養するよう、普段から意識して生活すること。

[ 授業計画 ]
地域学習は、最初に行う事前授業を受講し、その後は、学生がそれぞれの目的に沿って、地域社会の行事、活動などに参加することを学習内容とする。
1. 学習は地域社会の行事、活動（学校、施設等を含む）に9回以上参加した上で、最終講義日にまとめのレポートを提出する。
2. 主催者への参加申込は原則として本人が行うが、申し込み後の取止めは出来ない。
万が一、参加キャンセルをする場合は、必ず代替え者を立てる事。
3. 回数の数え方は、原則1日単位とし、時間の長短は行事によって異なる。
4. 履修登録した学生に「履修カード」と「活動記録」を発行する。その際担当教員も決定する。
5. 参加の確認は、履修登録をした学生に発行する「履修カード」と「活動記録」に、参加した行事、活動の責任者等の押印をもらうこと。
6.「活動記録」冊子に毎回活動を記録し、各行事の担当者に提出し、確認を受ける。
最終授業等において、活動実績の発表を行い、到達目標に対する自己評価を行う。
7. 最終レポートは、最初に登録した学部の担当教員に提出する。
8. 学生の参加は、大学の授業時間外の時間帯、日程で行うことを原則とする。
9. 基本的に毎月ごと「地域学習の時間」を設けて、それぞれの現状の確認、行事の案内等を行うので、必ず受講すること。日程等は、その都度、A館1階の地域連携推進事務室にて掲示するので、各自で確認すること。

| 科目名 | 地域学習 | 前期～後期 | 実習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 大西　雅裕、来海　素存 | | | |

[ 成績評価方法 ]
活動、行事への参加確認（85%）と最終レポート。活動報告等（15%）による評価とする。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：活動、行事への参加確認と最終レポート。活動報告等で評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：活動、行事への参加確認と最終レポート。活動報告等で評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：活動、行事への参加確認と最終レポート。活動報告等で評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：活動、行事への参加確認と最終レポート。活動報告等で評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：活動、行事への参加確認と最終レポート。活動報告等で評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：活動、行事への参加確認と最終レポート。活動報告等で評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：活動、行事への参加確認と最終レポート。活動報告等で評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：活動、行事への参加確認と最終レポート。活動報告等で評価する。

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
必要な場合は、適宜紹介する。

| 科目名 | 中国語Ⅰ（速習） | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎、孫　輝 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の基礎的な語彙と文法について理解し、習得する。
3.中国語の簡単な会話文を聞いて理解し、自分で使うことができる。

[ 授業概要 ]
中国語を初めて学ぶ人向けに、週2回のリレー形式の授業で中国語の発音から初級半ばまでを学ぶ。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属の音声教材を聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1. 発音1①　声調　単母音
2. 発音1②　複母音
3. 発音2①　声母表　無気音と有気音
4. 発音2②　そり舌音　消えるoとe　同じiでも違う音
5. 発音3①　鼻音（-n,-ng）を伴う母音
6. 発音3②　またしても消えるe
7. 発音4①　声調変化　軽声
8. 発音4②　声調組み合わせ　r化
9. 発音のまとめ／第1課①　人称代詞　“是”shi —「…は～です」の言い方
10. 第1課②　“是”shiの否定は“不是”bushi　副詞はVの前におく
11. 第2課①　指示代詞 —中国語の「こそあど」
12. 第2課②　ma疑問文　反復疑問文
13. 第3課①　形容詞述語文　おかざりのhen
14. 第3課②　形容詞の否定は“不”buを使う　形容詞述語文を疑問文にする
15. 第4課①　“的”deは日本語の「の」
15. 第4課②　“的”deの後の名詞は省略できる　“的”deが省略される条件
17. 第1課～第4課のまとめ
18. 第5課①　前置詞“在”zai —「～デ」　“是…的”shi…de構文
29. 第5課②　いくつかの疑問詞　疑問詞疑問文の作り方
20. 第6課①　数の数え方　年月日、曜日の言い方
21. 第6課②　ji —「いくつ」と数をたずねる疑問数詞　ne「～は？」
22. 第7課①　モノを数える —数詞＋量詞＋名詞
23. 第7課②　“有”you —「もつ」動詞　“ニ”erとliang
24. 第8課①　再び“有”you —「ある／いる」動詞
25. 第8課②　もうひとつの「ある／いる」動詞 —“在”zai
26. 第5課～第8課のまとめ

26回の授業のうち、13回を孫輝が、13回を杉山志郎が担当する。

| 科目名 | 中国語Ⅰ（速習） | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎、孫　輝 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表25%、試験75%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manaba。もしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業中の発表や課題、授業中実施のテスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:授業中の発表や課題、授業中実施のテスト

[ 教科書（ISBN） ]
『中国語　入門ルール66』 著者名:相原茂、玄宜青　出版社:朝日出版社 （978-4-255-45330-9）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ（速習） | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 中国語を始めよう | | | |
| 担当者 | 柴田　清継、東條　智恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の基礎的な語彙と文法について理解し、習得する。
3.中国語の簡単な会話文を聞いて理解し、自分で使うことができる。

[ 授業概要 ]
中国語を初めて学ぶ人向けに、週2回のリレー形式の授業で中国語の発音から初級半ばまでを学ぶ。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属の音声教材を聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]

1.中国語とは？、簡体字について
2.ピンインについて、声調
3.単母音、複合母音
4.子音
5.鼻母音
6.軽声、声調の変化、日常の挨拶
7.第一課　ポイント
8.第一課　スキット、チャレンジ
9.第二課　ポイント
10.第二課　スキット、チャレンジ
11.第一、二課のまとめ
12.第一回筆記試験（ピンイン～第一、二課）、第三課　ポイント
13.第三課　スキット、チャレンジ
14.第四課　ポイント
15.第四課　スキット、チャレンジ
16.第三、四課のまとめ
17.第五課　ポイント
18.第五課　スキット、チャレンジ
19.第二回筆記試験（第三、四、五課）、第六課　ポイント
20.第六課　スキット、チャレンジ
21.第五、六課のまとめ
22.第七課　ポイント
23.第七課　スキット、チャレンジ
24.第八課　ポイント
25.第八課　スキット、チャレンジ
26第三回筆記試験（第六、七、八課）、及び全体のまとめ

26回の授業のうち、13回を柴田清継が、13回を東條智恵が担当する。

| 科目名 | 中国語Ⅰ（速習） | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 中国語を始めよう | | | |
| 担当者 | 柴田　清継、東條　智恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表25%、試験75%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manaba。もしくは授業終了後教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『中国語ポイント55』 著者名：本間史・孟広学　出版社：白水社 （978-4-560
-06917
-2
）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙200語程度を使うことができる。
4.中国語の入門段階の文法（動詞述語、形容詞述語文、存在文の肯定形・否定形・各種疑問文など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
　ーから中国語を始める人向けに、中国語について詳しく解説し、豊富な練習によって中国語習得の確かな基礎を固めるための授業である。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。
英語以外の外国語を学ぶことで、外国語観をより豊かにし、世界の多様性を理解することにもつながる。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.発音1 声調・母音
2.発音2 子音、発音3 複母音・鼻音　第4課 軽声・声調変化・アール化
3.第1課① 私は学生です。
4.第1課②「私／あなた」・「～は～です」・「～ですか」
5.第2課① これは中日辞典ですか。
6.第2課②「これ／あれ」・「～の」・「～も」「～はすべて」
7.第3課① なにを勉強しているの。
8.第3課②「どうする」「どんなだ」「どれ／誰／何」
9.第4課① 神戸は夏が暑いですか。
10.第4課②「彼女は成績がいい」「～ですか、それとも」「～より／～ほど」
11.第5課① 烏龍茶はありますか。
12.第5課②「ここ／あそこ」「～がある／～にある」「～は？」数の数え方
13.第1課～第5課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙200語程度を使うことができる。
4.中国語の入門段階の文法（動詞述語、形容詞述語文、存在文の肯定形・否定形・各種疑問文など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
　一から中国語を始める人向けに、中国語について詳しく解説し、豊富な練習によって中国語習得の確かな基礎を固めるための授業である。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。
英語以外の外国語を学ぶことで、外国語観をより豊かにし、世界の多様性を理解することにもつながる。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.発音1 声調・母音
2.発音2 子音、発音3 複母音・鼻音　第4課 軽声・声調変化・アール化
3.第1課① 私は学生です。
4.第1課②「私／あなた」・「～は～です」・「～ですか」
5.第2課① これは中日辞典ですか。
6.第2課②「これ／あれ」・「～の」・「～も」「～はすべて」
7.第3課① なにを勉強しているの。
8.第3課②「どうする」「どんなだ」「どれ／誰／何」
9.第4課① 神戸は夏が暑いですか。
10.第4課②「彼女は成績がいい」「～ですか、それとも」「～より／～ほど」
11.第5課① 烏龍茶はありますか。
12.第5課②「ここ／あそこ」「～がある／～にある」「～は？」数の数え方
13.第1課～第5課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.　中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙200語程度を使うことができる。
4.中国語の入門段階の文法（動詞述語、形容詞述語文、存在文の肯定形・否定形・各種疑問文など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
　一から中国語を始める人向けに、中国語について詳しく解説し、豊富な練習によって中国語習得の確かな基礎を固めるための授業である。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し。アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。
　英語以外の外国語を学ぶことで、外国語観をより豊かにし、世界の多様性を理解することにもつながる。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]

1．発音1課　声調・母音
2．発音2　子音、発音3　複母音・鼻音　第4課　軽声・声調変化・アール化
3．第1課①　私は学生です。
4．第1課②　「私／あなた」・「～は～です」・「～ですか」
5．第2課①　これは中日辞典ですか。
6．第2課②「これ／あれ」・「～の」・「～も」「～はすべて」
7．第3課①　なにを勉強しているの。
8．第3課②「どうする」「どんなだ」「どれ／誰／何」
9．第4課①　神戸は夏が暑いですか。
10．第4課②　「彼女は成績がいい」「～ですか、それとも」「～より／～ほど」
11．第5課①　烏龍茶はありますか。
12．第5課②　「ここ／あそこ」「～がある／～にある」「～は？」数の数え方
13．第1～第5課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：manaba。もしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂　初級中国語課本』 2010　著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版
（978-4-87220-135-2 C3087）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

S03402 [ CH1-017 ]

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙200語程度を使うことができる。
4.中国語の入門段階の文法（動詞述語、形容詞述語文、存在文の肯定形・否定形・各種疑問文など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
　一から中国語を始める人向けに、中国語について詳しく解説し、豊富な練習によって中国語習得の確かな基礎を固めるための授業である。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。
　英語以外の外国語を学ぶことで、外国語観をより豊かにし、世界の多様性を理解することにもつながる。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
授業計画
1.発音1 声調・母音
2.発音2 子音、発音3 複母音・鼻音　第4課 軽声・声調変化・アール化
3. 第1課① 私は学生です。
4. 第1課②「私／あなた」・「～は～です」・「～ですか」
5. 第2課① これは中日辞典ですか。
6. 第2課②「これ／あれ」・「～の」・「～も」「～はすべて」
7. 第3課① なにを勉強しているの。
8. 第3課②「どうする」「どんなだ」「どれ／誰／何」
9. 第4課① 神戸は夏が暑いですか。
10. 第4課②「彼女は成績がいい」「～ですか、それとも」「～より／～ほど」
11. 第5課① 烏龍茶はありますか。
12. 第5課②「ここ／あそこ」「～がある／～にある」「～は？」数の数え方
13. 第1課～第5課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manaba。もしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂　初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙200語程度を使うことができる。
4.中国語の入門段階の文法（動詞述語、形容詞述語文、存在文の肯定形・否定形・各種疑問文など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
一から中国語を始める人向けに、中国語について詳しく解説し、豊富な練習によって中国語習得の確かな基礎を固めるための授業である。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。
英語以外の外国語を学ぶことで、外国語観をより豊かにし、世界の多様性を理解することにもつながる。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]

1. 発音編1　声調・母音
2. 発音2　子音、発音3　複母音・鼻音　第4課　軽声・声調変化・アール化
3. 第1課①　私は学生です。
4. 第1課②　「私／あなた」・「あなた」・「～は～です」・「～ですか」
5. 第2課①　これは中日辞典ですか。
6. 第2課②　「これ／あれ」・「～の」・「～も」「～はすべて」
7. 第3課①　なにを勉強しているの。
8. 第3課②　「どうする」「どんなだ」「どれ／誰／何」
9. 第4課①　神戸は夏が暑いですか。
10. 第4課②　「彼女は成績がいい」「～ですか、それとも」「～より／～ほど」
11. 第5課①　烏龍茶はありますか。
12. 第5課②　「ここ／あそこ」「～がある／～にある」「～は？」数の数え方
13. 第1～第5課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manaba。もしくは授業終了後、教室にて受付。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂　初級中国語課本』 2010　著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版
（978-4-87220-135-2 C3087）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙200語程度を使うことができる。
4.中国語の入門段階の文法（動詞述語、形容詞述語文、存在文の肯定形・否定形・各種疑問文など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
　一から中国語を始める人向けに、中国語について詳しく解説し、豊富な練習によって中国語習得の確かな基礎を固めるための授業である。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。
英語以外の外国語を学ぶことで、外国語観をより豊かにし、世界の多様性を理解することにもつながる。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.発音1 声調・母音
2.発音2 子音、発音3 複母音・鼻音　第4課 軽声・声調変化・アール化
3.第1課① 私は学生です。
4.第1課②「私／あなた」・「～は～です」・「～ですか」
5.第2課① これは中日辞典ですか。
6.第2課②「これ／あれ」・「～の」・「～も」「～はすべて」
7.第3課① なにを勉強しているの。
8.第3課②「どうする」「どんなだ」「どれ／誰／何」
9.第4課① 神戸は夏が暑いですか。
10.第4課②「彼女は成績がいい」「～ですか、それとも」「～より／～ほど」
11.第5課① 烏龍茶はありますか。
12.第5課②「ここ／あそこ」「～がある／～にある」「～は？」数の数え方
13.第1課～第5課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙200語程度を使うことができる。
4.中国語の入門段階の文法（動詞述語、形容詞述語文、存在文の肯定形・否定形・各種疑問文など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
　一から中国語を始める人向けに、中国語について詳しく解説し、豊富な練習によって中国語習得の確かな基礎を固めるための授業である。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。
英語以外の外国語を学ぶことで、外国語観をより豊かにし、世界の多様性を理解することにもつながる。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.発音1 声調・母音
2.発音2 子音、発音3 複母音・鼻音　第4課 軽声・声調変化・アール化
3.第1課① 私は学生です。
4.第1課②「私／あなた」・「～は～です」・「～ですか」
5.第2課① これは中日辞典ですか。
6.第2課②「これ／あれ」・「～の」・「～も」「～はすべて」
7.第3課① なにを勉強しているの。
8.第3課②「どうする」「どんなだ」「どれ／誰／何」
9.第4課① 神戸は夏が暑いですか。
10.第4課②「彼女は成績がいい」「～ですか、それとも」「～より／～ほど」
11.第5課① 烏龍茶はありますか。
12.第5課②「ここ／あそこ」「～がある／～にある」「～は？」数の数え方
13.第1課～第5課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙200語程度を使うことができる。
4.中国語の入門段階の文法（動詞述語、形容詞述語文、存在文の肯定形・否定形・各種疑問文など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
　一から中国語を始める人向けに、中国語について詳しく解説し、豊富な練習によって中国語習得の確かな基礎を固めるための授業である。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。
英語以外の外国語を学ぶことで、外国語観をより豊かにし、世界の多様性を理解することにもつながる。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.発音1 声調・母音
2.発音2 子音、発音3 複母音・鼻音　第4課 軽声・声調変化・アール化
3.第1課① 私は学生です。
4.第1課②「私／あなた」・「～は～です」・「～ですか」
5.第2課① これは中日辞典ですか。
6.第2課②「これ／あれ」・「～の」・「～も」「～はすべて」
7.第3課① なにを勉強しているの。
8.第3課②「どうする」「どんなだ」「どれ／誰／何」
9.第4課① 神戸は夏が暑いですか。
10.第4課②「彼女は成績がいい」「～ですか、それとも」「～より／～ほど」
11.第5課① 烏龍茶はありますか。
12.第5課②「ここ／あそこ」「～がある／～にある」「～は？」数の数え方
13.第1課～第5課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙200語程度を使うことができる。
4.中国語の入門段階の文法（動詞述語、形容詞述語文、存在文の肯定形・否定形・各種疑問文など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
　一から中国語を始める人向けに、中国語について詳しく解説し、豊富な練習によって中国語習得の確かな基礎を固めるための授業である。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。
　英語以外の外国語を学ぶことで、外国語観をより豊かにし、世界の多様性を理解することにもつながる。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
授業計画
1.発音1 声調・母音
2.発音2 子音、発音3 複母音・鼻音　第4課 軽声・声調変化・アール化
3. 第1課① 私は学生です。
4. 第1課②「私／あなた」・「～は～です」・「～ですか」
5. 第2課① これは中日辞典ですか。
6. 第2課②「これ／あれ」・「～の」・「～も」「～はすべて」
7. 第3課① なにを勉強しているの。
8. 第3課②「どうする」「どんなだ」「どれ／誰／何」
9. 第4課① 神戸は夏が暑いですか。
10. 第4課②「彼女は成績がいい」「～ですか、それとも」「～より／～ほど」
11. 第5課① 烏龍茶はありますか。
12. 第5課②「ここ／あそこ」「～がある／～にある」「～は？」数の数え方
13. 第1課～第5課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－1 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manaba。もしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂　初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙500語程度を使うことができる。
4.中国語の初級段階の文法（助動詞、前置詞、連動文、二重目的語文、完了相、進行相、持続相、変化の“了”など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
半年学んだ中国語の初歩を忘れないように復習しつつ、初級中国語の半ばまでを学ぶ。授業で一層の練習を積み、中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.『新訂初級中国語課本』第1－5課の復習
2.第6課① 今年は何年ですか。
3.第6課② 西暦年、時刻の言い方
4.第7課① 買い物に行きたい。
5.第7課②「～して～する」「～したい」「～と／～から」、練習問題
6.第8課① いいですか。
7.第8課②「この～／あの～」「ちょっと～する」「～に～する」、練習問題
8.第9課① 郵便局はどこにありますか。
9.第9課②「～にある／～で」「～した／～になった」「～から／～まで」、練習問題
10.第10課① 何をしているのですか。
11.第10課②「～している」「～できる」「～しましょう／～でしょう」
12.第10課③ 練習問題
13.第6課～第10課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙500語程度を使うことができる。
4.中国語の初級段階の文法（助動詞、前置詞、連動文、二重目的語文、完了相、進行相、持続相、変化の“了”など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
半年学んだ中国語の初歩を忘れないように復習しつつ、初級中国語の半ばまでを学ぶ。授業で一層の練習を積み、中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.『新訂初級中国語課本』第１－５課の復習
2.第６課① 今年は何年ですか。
3.第６課② 西暦年、時刻の言い方
4.第７課① 買い物に行きたい。
5.第７課②「～して～する」「～したい」「～と／～から」、練習問題
6.第８課① いいですか。
7.第８課②「この～／あの～」「ちょっと～する」「～に～する」、練習問題
8.第９課① 郵便局はどこにありますか。
9.第９課②「～にある／～で」「～した／～になった」「～から／～まで」、練習問題
10.第１０課① 何をしているのですか。
11.第１０課②「～している」「～できる」「～しましょう／～でしょう」
12.第１０課③ 練習問題
13.第６課～第１０課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙500語程度を使うことができる。
4.中国語の初級段階の文法（助動詞、前置詞、連動文、二重目的語文、完了相、進行相、持続相、変化の“了”など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
半年学んだ中国語の初歩を忘れないように復習しつつ、初級中国語の半ばまでを学ぶ。授業で一層の練習を積み、中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.『新訂初級中国語課本』第1－5課の復習
2.第6課① 今年は何年ですか。
3.第6課② 西暦年、時刻の言い方
4.第7課① 買い物に行きたい。
5.第7課②「～して～する」「～したい」「～と／～から」、練習問題
6.第8課① いいですか。
7.第8課②「この～／あの～」「ちょっと～する」「～に～する」、練習問題
8.第9課① 郵便局はどこにありますか。
9.第9課②「～にある／～で」「～した／～になった」「～から／～まで」、練習問題
10.第10課① 何をしているのですか。
11.第10課②「～している」「～できる」「～しましょう／～でしょう」
12.第10課③ 練習問題
13.第6課～第10課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙500語程度を使うことができる。
4.中国語の初級段階の文法（助動詞、前置詞、連動文、二重目的語文、完了相、進行相、持続相、変化の“了”など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
半年学んだ中国語の初歩を忘れないように復習しつつ、初級中国語の半ばまでを学ぶ。授業で一層の練習を積み、中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.『新訂初級中国語課本』第1－5課の復習
2.第6課① 今年は何年ですか。
3.第6課② 西暦年、時刻の言い方
4.第7課① 買い物に行きたい。
5.第7課②「～して～する」「～したい」「～と／～から」、練習問題
6.第8課① いいですか。
7.第8課②「この～／あの～」「ちょっと～する」「～に～する」、練習問題
8.第9課① 郵便局はどこにありますか。
9.第9課②「～にある／～で」「～した／～になった」「～から／～まで」、練習問題
10.第10課① 何をしているのですか。
11.第10課②「～している」「～できる」「～しましょう／～でしょう」
12.第10課③ 練習問題
13.第6課～第10課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙500程度を使うことができる。
4.中国語の初級段階の文法（助動詞、前置詞、連動文、二重目的語文、完了相、進行相、持続相、変化の“了”など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
半年学んだ中国語の初歩を忘れないように復習しつつ、初級中国語の半ばまでを学ぶ。授業で一層の練習を積み、中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2. 毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
授業計画
1.第6課① 今年は何年ですか。
2.第6課② 西暦年、時刻の言い方
3.第7課① 買い物に行きたい。
4.第7課②「～して～する」「～したい」「～と／～から」、練習問題
5.第8課① いいですか。
6.第8課②「この～／あの～」「ちょっと～する」「～に～する」、練習問題
7.第9課① 郵便局はどこにありますか。
8.第9課②「～にある／～で」「～した／～になった」「～から／～まで」、練習問題
9.
10. 第10課① 何をしているのですか。
11. 第10課②「～している」「～できる」「～しましょう／～でしょう」
12. 第10課③ 練習問題
13. 第6課～第10課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manaba。もしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂　初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2 ）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙500語程度を使うことができる。
4.中国語の初級段階の文法（助動詞、前置詞、連動文、二重目的語文、完了相、進行相、持続相、変化の“了”など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
半年学んだ中国語の初歩を忘れないように復習しつつ、初級中国語の半ばまでを学ぶ。授業で一層の練習を積み、中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.『新訂初級中国語課本』第１－５課の復習
2.第６課① 今年は何年ですか。
3.第６課② 西暦年、時刻の言い方
4.第７課① 買い物に行きたい。
5.第７課②「～して～する」「～したい」「～と／～から」、練習問題
6.第８課① いいですか。
7.第８課②「この～／あの～」「ちょっと～する」「～に～する」、練習問題
8.第９課① 郵便局はどこにありますか。
9.第９課②「～にある／～で」「～した／～になった」「～から／～まで」、練習問題
10.第１０課① 何をしているのですか。
11.第１０課②「～している」「～できる」「～しましょう／～でしょう」
12.第１０課③ 練習問題
13.第６課～第１０課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙500語程度を使うことができる。
4.中国語の初級段階の文法（助動詞、前置詞、連動文、二重目的語文、完了相、進行相、持続相、変化の“了”など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
半年学んだ中国語の初歩を忘れないように復習しつつ、初級中国語の半ばまでを学ぶ。授業で一層の練習を積み、中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.『新訂初級中国語課本』第1－5課の復習
2.第6課① 今年は何年ですか。
3.第6課② 西暦年、時刻の言い方
4.第7課① 買い物に行きたい。
5.第7課②「～して～する」「～したい」「～と／～から」、練習問題
6.第8課① いいですか。
7.第8課②「この～／あの～」「ちょっと～する」「～に～する」、練習問題
8.第9課① 郵便局はどこにありますか。
9.第9課②「～にある／～で」「～した／～になった」「～から／～まで」、練習問題
10.第10課① 何をしているのですか。
11.第10課②「～している」「～できる」「～しましょう／～でしょう」
12.第10課③ 練習問題
13.第6課～第10課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙500語程度を使うことができる。
4.中国語の初級段階の文法（助動詞、前置詞、連動文、二重目的語文、完了相、進行相、持続相、変化の“了”など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
半年学んだ中国語の初歩を忘れないように復習しつつ、初級中国語の半ばまでを学ぶ。授業で一層の練習を積み、中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.『新訂初級中国語課本』第1－5課の復習
2.第6課① 今年は何年ですか。
3.第6課② 西暦年、時刻の言い方
4.第7課① 買い物に行きたい。
5.第7課②「～して～する」「～したい」「～と／～から」、練習問題
6.第8課① いいですか。
7.第8課②「この～／あの～」「ちょっと～する」「～に～する」、練習問題
8.第9課① 郵便局はどこにありますか。
9.第9課②「～にある／～で」「～した／～になった」「～から／～まで」、練習問題
10.第10課① 何をしているのですか。
11.第10課②「～している」「～できる」「～しましょう／～でしょう」
12.第10課③ 練習問題
13.第6課～第10課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 東條　智恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の簡化字「簡体字」の字形を理解し、書くことができる。
3.中国語の基礎語彙500語程度を使うことができる。
4.中国語の初級段階の文法（助動詞、前置詞、連動文、二重目的語文、完了相、進行相、持続相、変化の“了”など）を理解し、文を組み立てることができる。
5.中国語のごく簡単な会話文を聞いて理解できる。

[ 授業概要 ]
半年学んだ中国語の初歩を忘れないように復習しつつ、初級中国語の半ばまでを学ぶ。授業で一層の練習を積み、中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属のCDを聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎課の新出語句と補充語句の発音を事前に練習しよう。毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1.『新訂初級中国語課本』第1－5課の復習
2.第6課① 今年は何年ですか。
3.第6課② 西暦年、時刻の言い方
4.第7課① 買い物に行きたい。
5.第7課②「～して～する」「～したい」「～と／～から」、練習問題
6.第8課① いいですか。
7.第8課②「この～／あの～」「ちょっと～する」「～に～する」、練習問題
8.第9課① 郵便局はどこにありますか。
9.第9課②「～にある／～で」「～した／～になった」「～から／～まで」、練習問題
10.第10課① 何をしているのですか。
11.第10課②「～している」「～できる」「～しましょう／～でしょう」
12.第10課③ 練習問題
13.第6課～第10課のまとめ

| 科目名 | 中国語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表や課題30%、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaもしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト（発音テスト・テキスト内容に基づくテスト）

[ 教科書（ISBN） ]
『新訂初級中国語課本』 著者名：王霜媚・柴田清継・平坂仁志・市成直子・陳建平　出版社：好文出版 （978-4-87220-135-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

S03429 [ CH1-018 ]

| 科目名 | 中国語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎、孫　輝 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の基礎的な語彙と文法について理解し、習得する。
3.中国語の簡単な会話文を聞いて理解し、自分で使うことができる。

[ 授業概要 ]
週2回のリレー形式の授業で中国語の発音から初級半ばまでを学ぶ。半年間学んだ中国語を忘れないよう練習し、中国語初級の完成を目指す。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属の音声教材を聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎回、予習復習合わせて4時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1. 第9課①　二つのzenme「どうして」 wei shenme ≒ zenme
2. 第9課②　“zheme”と“name”「こんな風に／あんな風に」
3. 第10課①　進行の表し方　三つの“在”zai
4. 第10課②　前置詞　助動詞Ⅰ —「ねばならない」助動詞群
5. 第11課①　連動文　使役の表し方 —jiaoとrang
6. 第11課②　兼語文　gei
7. 第12課①　“不”buと“没”mei —2つの否定のしかた　二重目的語を取る動詞
8. 第12課②　様態補語 —動詞（or形容詞）＋得＋様態補語
9. 第9課～第12課のまとめ／第13課①　助動詞Ⅱ —「できる」助動詞群　助動詞Ⅲ —「したい」助動詞群
10. 第13課②　“了”-le —実現「～タ」 jiと“多少”duoshao
11. 第14課①　中国語のアスペクト　-zhe —持続「～テイル／～テアル」
12. 第14課②　-guo —経験「～タコトガアル」
13. 第15課①　「実現」の“了1”leと語気助詞の“了2”le
14. 第15課②　「経験」のguoと「終結」のguo
15. 第16課①　自然現象の表し方 —動詞を先に　比較
16. 第16課②　「少シ」の種々相　kuai(yao)…le —「間もなく～する」
17. 第13課～第16課のまとめ
18. 第17課①　結果補語 —動作の結果どうなったかを示す成分
19. 第17課②　受け身の表し方
20. 第18課①　動詞の重ね型 —「ちょっと～してみる」
21. 第18課②　“一下”yixia　“把”ba構文
22. 第19課①　趨向補語
23. 第19課②　結果補語・趨向補語の可能形　“越来越…”yue lai yue…
24. 第20課①　疑問詞の呼応文型　複文の意味関係
25. 第20課②　［動詞＋目的語］構造の語
26. 第17課～第20課のまとめ

26回の授業のうち、13回を孫輝が、13回を杉山志郎が担当する。

※11月の第4日曜日に実施する中国語検定試験準4級を受験する方には奨励点5点を加算する。準4級を合格した場合はさらに奨励点5点を加算する（100点を超えた場合は100点に切り下げる）。

| 科目名 | 中国語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎、孫　輝 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表25%、授業中に実施するテスト75%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manaba。もしくは授業終了後、教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト

[ 教科書（ISBN） ]
『中国語　入門ルール66』 著者名：相原茂、玄宜青　出版社：朝日出版社 （978-4-255-45330-9）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 中国語を話そう | | | |
| 担当者 | 柴田　清継、東條　智恵 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語式ローマ字「ピンイン」のしくみを理解し、読むことができる。
2.中国語の基礎的な語彙と文法について理解し、習得する。
3.中国語の簡単な会話文を聞いて理解し、自分で使うことができる。

[ 授業概要 ]
週2回のリレー形式の授業で中国語の発音から初級半ばまでを学ぶ。半年間学んだ中国語を忘れないよう練習し、中国語初級の完成を目指す。中国語圏の文化や社会に関する様々な情報を中国語で理解し、アウトプットできるようになるための基礎語学力を身につける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
1.教科書付属の音声教材を聴いて、教科書本文を朗読する。
2.毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]

1.第九課　ポイント
2.第九課　スキット
3.第九課　チャレンジ
4.第十課　ポイント
5.第十課　スキット
6.第十課　チャレンジ
7.第十一課　ポイント
8.第十一課　スキット
9.第十一課　チャレンジ
10.第十二課　ポイント
11.第十二課　スキット
12.第十二課　チャレンジ
13第一回筆記試験（第九～十二課）
14.第十三課　ポイント
15.第十三課　スキット
16.第十三課　チャレンジ
17.第十四課　ポイント
18.第十四課　スキット
19.第十四課　チャレンジ
20.第十五課　ポイント
21.第十五課　スキット
22.第十五課　チャレンジ
23.第十六課　ポイント
24.第十六課　スキット
25.第十六課　チャレンジ
26第二回筆記試験（第十三～十六課）、及び全体のまとめ

26回の授業のうち、13回を柴田清継が、13回を東條智恵が担当する。

| 科目名 | 中国語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 中国語を話そう | | | |
| 担当者 | 柴田　清継、東條　智恵 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表25%、試験75%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manaba。もしくは授業終了後教室にて受付

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の発表や課題、授業中実施のテスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『中国語ポイント55』 著者名：本間史・孟広学　出版社：白水社 （978-4-560-06917-2）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 中国語Ⅲ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
初級中国語を学んだ者が、学んできた内容を自由に使いこなせること。

[ 授業概要 ]
　この科目では、語学の習得を通して、幅広い知識に基づいて、他者および異文化を理解することができるようになることを目指す。1年次に学んだ基礎的事項をマスターした学生を対象とする科目である。

　初級中国語で学習した単語や文法事項を復習しながら、日常の身近な話題をテーマに、自分の言葉で表現できる力を養う。

　様々なレベルの学生を対象とする:
1）初級中国語を習得した後、さらに学習を続けようと考える者。
2）中国からの帰国子女、神戸中華同文学校等の卒業生、高校で中国語を履修し、すでに一定レベルの学力を身につけている者。これらの学生は、事前に中国語Ⅰの単位を修得していなくても、この科目を履修することができる。Ⅲ－1とⅢ－2、双方の単位ををを修得すれば、1言語習得として認定する。
3）本学の長期・短期の留学プログラムに参加した者に対しては、そのレベルに合わせて個別の指導も行う。
　授業内容は学生のレベルに応じて設定するため、簡単なテストを行うこともある。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
予習・復習用に個人用の辞典を一冊用意すること。しっかり復習すること。

[ 授業計画 ]

1. 第一課　自己紹介の文章の講読、文法・表現
2. 第一課　文法・表現、練習問題
3. 第二課　家庭について述べた文章の講読、文法・表現
4. 第二課　文法・表現、練習問題
5. 第三課　インターネットについて述べた文章の講読、文法・表現
6. 第三課　文法・表現、練習問題
7. 第四課　デートについて述べた文章の講読、文法・表現
8. 第四課　文法・表現、練習問題
9. 第五課　温泉旅行について述べた文章の講読、文法・表現
10. 第五課　文法・表現、練習問題
11.第六課　趣味について述べた文章の講読、文法・表現
12.第六課　文法・表現
13.まとめ

| 科目名 | 中国語Ⅲ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[ 成績評価方法 ]
予習・復習（25%）、試験（75%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『2冊目の中国語《講読クラス》』（CD付）　著者名：劉穎、柴森、小澤正人　出版社：白水社
2021年　(978-4-560-06927-1)

[ 参考書（ISBN） ]
はじめての中国語学習辞典　著者名：相原茂　出版社：朝日出版社　(4-255-00113-8)

S03480 [ CH3-003 ]

| 科目名 | 中国語Ⅲ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
中国語の読む・書く能力をさらに強化する。中国語検定受検対策の学習を通して、学力を一層向上させる。

[ 授業概要 ]
第1～9回は、中国語検定過去問及び模試の解答と解説を行い、第10～15回は短い文章の読解と会話練習を行う。
本科目を履修することのできる者は、下記のとおりである。
1.Ⅲ－1の単位を修得した者。
2.会話Ⅰ、講読Ⅰの単位を修得した者。(Ⅲ－1の単位の修得如何は問わない。)
3.高校で中国語を履修し、一定のレベルに達している者、中国からの帰国子女、神戸中華同文学校等の卒業生など。一回生も可。ただし、教務課で「特別許可」の手続きが必要。
その他、本学の長期・短期の留学プログラムに参加した学生は、本科目において個別の継続学習指導をうけることもできる。
目標は、中国語検定4級・3級のレベルに到達すること。Ⅲ－1で学習した文法の知識を生かして、短い文章の読解力と、会話のリスニング力を向上させる。
11月の中国語検定は毎年11月の第4日曜日に開催される。受講生は11月の検定試験を受けること。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
予習・復習用に個人用の辞典を一冊用意すること。
しっかり復習するほか、予習も必要である。予習資料は事前に配付する。

[ 授業計画 ]
1. 中国語検定試験4級模試(リスニング)+解説
2. 中国語検定試験4級模試(筆記)+解説
3. 中国語検定試験4級(リスニング)+解説
4. 中国語検定試験4級(筆記)+解説
5. 中国語検定試験4級(リスニング)+解説
6. 中国語検定試験4級(筆記)+解説
7. 中国語検定試験4級(リスニング)+解説
8. 中国語検定試験4級(筆記)+解説
9. 中国語短文の講読と会話練習(1)
10. 中国語短文の講読と会話練習(2)
11. 中国語短文の講読と会話練習(3)
12. 中国語短文の講読と会話練習(4)
13. まとめ

| 科目名 | 中国語Ⅲ－２ | 後期 | 演習 | １ 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[ 成績評価方法 ]
予習・復習13%、13回目のまとめの試験37%、中国語検定試験の成績50%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
『はじめての中国語学習辞典 』
　著者名：相原茂　出版社：朝日出版社

| 科目名 | 中国語会話Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
中国語既習者を対象とし、初歩的な会話能力を定着させることを目的とする。目安としては中国語検定4級の文法的内容、リスニング力を活用して会話することを目標とする。

[ 授業概要 ]
初級中国語の既習者を対象に、中級中国語の文法および中国語の発音記号の定着、正しい発音の習得、リスニング能力の向上を目指す。
中国語の会話能力の向上を目的とする。初級程度の会話能力を確実にし、中級以上の会話に挑戦してほしい。
授業内では積極的に中国語での発音練習、会話にとりくんでもらう予定である。
授業の進度、および希望により教科書以外の教材も利用したい。
また、登録者の習熟度によって、授業内容は適宜変更する場合があるので注意のこと。
中国語既習者であれば、秋学期のみの履修も問題はありません。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
できれば毎日、5分でいいから、中国語の音声を聴くことと、発音練習。
次回授業内容の予習。詳しくは毎回授業時に指示します。

[ 授業計画 ]

1. 初級中国語の復習
2. 出会った時の挨拶と応じ方
3. 別れる時の挨拶
4. 気遣い・思いやりの表現と応じ方
5. 相手にかかわりのあることの尋ね方と答え方
6. 第三者への挨拶依頼と答え方
7. 自己紹介
8. 名前の尋ね方と答え方
9. 国籍や出身地の尋ね方と答え方
10. 年齢の尋ね方と答え方
11. 人を迎える時の表現
12. 長旅をしてきた人へのねぎらいの表現と応じ方
13. まとめ

| 科目名 | 中国語会話Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[ 成績評価方法 ]
予習・復習（40%）、試験（60%）から総合的に評価する

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
中級中国語　実践会話のクラス　著者名：依藤醇、小薗瑞恵、井田みずほ　著　出版社：白帝社 （978-4-86398-258-1 C3087）

[ 参考書（ISBN） ]
授業内で適宜紹介する
　著者名：0　出版社：0 （×）

| 科目名 | 中国語会話Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 孫　輝 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
中国語既習者を対象とし、初歩的な会話能力を定着させることを目的とする。目安としては中国語検定4級の文法的内容、リスニング力を活用して会話することを目標とする。

[ 授業概要 ]
身近な話題を取り上げながら、それに関連する表現を学んでいく。授業は話すことと聞くことを中心に進めていく。会話能力を伸ばすための練習を多く取り入れるので、中国語が聞き取れた時の喜びや、中国語で言いたいことが伝わった時の楽しさを味わってほしいと思う。そのほかに、映像教材などを使って、中国の街や文化遺産、また人々の生活や風習などについても紹介するので、言葉を学ぶことを通して、中国文化への理解を深めてもらいたい。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎回、予習復習合わせて4時間程度の準備学修が必要。復習では、まず授業で指定された宿題をした後、教科書付属のCDを繰り返し聞いて、続けて自分で教科書の本文と文法解説の例文を朗読する。次に本文の日本語訳を見ながらそれをさらに中国語に訳す練習をする。

[ 授業計画 ]
1. 第1課「あなたも留学生ですか」単語、文法、会話文、練習問題
2. 第2課「アルバイトする」単語、文法、会話文、練習問題
3. 作文、発表1
4. 第3課「レストランで」単語、文法、会話文、練習問題
5. 第4課「カラオケに行く」単語、文法、会話文、練習問題
6. 作文、発表2
7. 第5課「あなたは歌がうまい」単語、文法、会話文、練習問題
8. 第6課「家族写真」単語、文法、会話文、練習問題
9. 作文、発表3
10. 第7課「シャツを買う」単語、文法、会話文、練習問題
11. 作文、発表4
12. 前期の復習
13. まとめ

| 科目名 | 中国語会話Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 孫　輝 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表40%、第1課～第7課のテスト60%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『しゃべっていいとも　中国語2 ステップアップ編』 著者名:陳淑梅・劉光赤　出版社:朝日出版社 (978-4-255-45229-6)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 中国語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
中国語既習者を対象とし、会話能力を定着させることを目的とする。目安としては中国語検定4級から3級にかけての文法的内容、リスニング力を活用して実際にそれを運用できる会話能力を養う。

[ 授業概要 ]
初級中国語の既習者を対象に、中級中国語の文法および中国語の発音記号の定着、正しい発音の習得、リスニング能力の向上を目指す。
中国語の会話能力の向上を目的とする。初級程度の会話能力を確実にし、中級以上の会話に挑戦してほしい。
授業内では積極的に中国語での発音練習、会話にとりくんでもらう予定である。
授業の進度、および希望により教科書以外の教材も利用したい。
また、登録者の習熟度によって、授業内容は適宜変更する場合があるので注意のこと。
初回授業には初級中国語で使用した教科書を持参すること。
中国語既習者であれば、秋学期のみの履修も問題はありません。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
できれば毎日、5分でいいから、中国語の音声を聴くことと、発音練習。
次回授業内容の予習。詳しくは毎回授業時に指示します。

[ 授業計画 ]
1. 祝福の表現
2. 誕生日と干支の表現
3. 噂の表現と応じ方
4. 相槌の打ち方
5. 待ち合わせの表現
6. 仮定の表現
7. 注意喚起の表現
8. ほめる表現
9. 謙遜の表現と応じ方
10. 許可を求める表現
11. 値段の尋ね方と答え方
12. 値段の交渉
13. まとめ

| 科目名 | 中国語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 柴田　清継 | | | |

[ 成績評価方法 ]
予習・復習（40%）、試験（60%）から総合的に評価する

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
中級中国語　実践会話のクラス
　著者名：依藤醇、小薗瑞恵、井田みずほ　著　出版社：白帝社　（978-4-86398-258-1 C3087）

[ 参考書（ISBN） ]
授業内で適宜紹介する

| 科目名 | 中国語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 孫　輝 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
中国語既習者を対象とし、会話能力を定着させることを目的とする。目安としては中国語検定4級から3級にかけての文法的内容、リスニング力を活用して実際にそれを運用できる会話能力を養う。

[ 授業概要 ]
身近な話題を取り上げながら、それに関連する表現を学んでいく。授業は話すことと聞くことを中心に進めていく。会話能力を伸ばすための練習を多く取り入れるので、中国語が聞き取れた時の喜びや、中国語で言いたいことが伝わった時の楽しさを味わってほしいと思う。そのほかに、映像教材などを使って、中国の街や文化遺産、また人々の生活や風習などについても紹介するので、言葉を学ぶことを通して、中国文化への理解を深めてもらいたい。
後期からの受講も可能。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎回、予習復習合わせて4時間程度の準備学修が必要。復習では、まず授業で指定された宿題をした後、教科書付属のCDを繰り返し聞いて、続けて自分で教科書の本文と文法解説の例文を朗読する。次に本文の日本語訳を見ながらそれをさらに中国語に訳す練習をする。

[ 授業計画 ]
1. 第8課「誕生パーティー」単語、文法、会話文、練習問題
2. 第9課「DVDを見る」単語、文法、会話文、練習問題
3. 作文、発表1
4. 第10課「夏休み」単語、文法、会話文、練習問題
5. 第11課「学園祭」単語、文法、会話文、練習問題
6. 作文、発表2
7. 第12課「スキーをする」単語、文法、会話文、練習問題
8. 第13課「診察を受ける」単語、文法、会話文、練習問題
9. 作文、発表3
10. 第14課「帰国前」単語、文法、会話文、練習問題
11. 作文、発表4
12. 後期の復習
13. まとめ

| 科目名 | 中国語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 孫　輝 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表40%、第8課～第14課のテスト60%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『しゃべっていいとも　中国語2 ステップアップ編』 著者名:陳淑梅・劉光赤　出版社:朝日出版社 (978-4-255-45229-6)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 中国語講読 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語の発音、基礎的な語彙と文法を習得する。
2.中国語の文章を、自分で辞書を引きながら翻訳できる。
3.文脈を把握して、文章全体の中で適切な翻訳ができる。
中国語の文章の初級から初中級程度の読解力を身に付けることを目標とする。

[ 授業概要 ]
　ジョークによくあるパターンの一つとして、ジョークに登場するある言葉の常識的(一般的)な意味と、もう一つの意外な意味の落差に笑うというものがあります。
例:父「学校に行くのは好き？」子「学校に行くのは好き。帰るのはもっと好き。でも授業は嫌い。」
　この場合、お父さんの「学校に行く」は学校生活全般を指し、子供の「学校に行く」は登校のみを指しています。ジョークを読む目的の第一はもちろん笑って楽しむことですが、翻訳するということを考えると、「学校に行く」という訳語をもともとの中国語の言葉(上学)から大きく外れない範囲にとどめながら、日本語としてもジョークが成立するようにうまく選ぶ必要があります。
　このような楽しい工夫をしながら、中国語を読む練習をしましょう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
1.辞書を使って授業の準備をする。
2.毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1. ジョーク 01～04
2. 語彙と文法のまとめ 可能補語など
3. ジョーク 05～08
4. 語彙と文法のまとめ 反語など
5. ジョーク 09～12
6. 語彙と文法のまとめ 兼語文など
7. ジョーク 13～16
8. 語彙と文法のまとめ 処置式文など
9. ジョーク 17～20
10. 語彙と文法のまとめ 助動詞など
11. ジョーク 21～24
12. 語彙と文法のまとめ 使役など
13. まとめ

| 科目名 | 中国語講読 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表30%、授業中実施のテスト70%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業中の発表、授業中実施のテスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:授業中の発表、授業中実施のテスト

[ 教科書(ISBN) ]
『中国語ジョークボックス』 著者名:相原茂・郭雲輝　出版社:朝日出版社 (978-4-255-45150-3)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 中国語講読Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語の発音、基礎的な語彙と文法を習得する。
2.中国語の文章を、自分で辞書を引きながら翻訳できる。
3.文脈を把握して、文章全体の中で適切な翻訳ができる。
中国語の文章の初級から初中級程度の読解力を身に付けることを目標とする。

[ 授業概要 ]
まず最初に中国語Ⅰの教科書『初級中国語課本』の第11課から第14課の文法を学びます。
続いて『中国語ジョークボックス』の講読をします。この教科書では4つのジョークと一つのまとめがセットになっています。ジョークは受講生に順番に予習を担当してもらい授業中に翻訳を発表してもらいます。そして、その翻訳について皆で考えます。まとめは担当を決めずに皆で考え、ドリルをします。
外国語の初級レベルの学習での翻訳というとどうしても単語を機械的に置き換えるだけになりがちです。この科目はそのレベルから一歩進んで文脈の中で訳を考える練習をします。ジョークは話の辻褄を合わせないとまったく笑えなくなったりするので、訳をあれこれ考える練習には最適です。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
十分に予習した上で授業に望んでください。

[ 授業計画 ]
1.『初級中国語課本』第11課　経験“一点児”時点と時量
2.『初級中国語課本』第12課　助動詞“会”“可以”前置詞“給”動詞の重ね型
3.『初級中国語課本』第13課　連用修飾語　近い未来　助動詞“要”“応該”“不用”
4.『初級中国語課本』第14課　程度補語“一点児”と“有点児”「すこしもない」
5. ジョーク01～04
6. 語彙と文法まとめ　可能補語など
7. ジョーク05～08
8. 語彙と文法まとめ　反語など
9. ジョーク09～12
10. 語彙と文法まとめ　兼語文など
11. ジョーク13～16
12. 語彙と文法まとめ　処置式文など
13. ジョーク17～20
14. 語彙と文法まとめ　助動詞など
15. 総まとめ

| 科目名 | 中国語講読Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表(30%)、試験(70%)により評価します。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『中国語ジョークボックス』 著者名:相原茂・郭雲輝　出版社:朝日出版社 (978-4-255-45150-3)

[ 参考書(ISBN) ]
各社『中日辞典』、『中国語辞典』 著者名:×　出版社:×
好文出版『初級中国語課本』

| 科目名 | 中国語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語の発音、基礎的な語彙と文法を習得する。
2.中国語の文章を、自分で辞書を引きながら翻訳できる。
3.文脈を把握して、文章全体の中で適切な翻訳ができる。
中国語の文章の初中級から中級程度の読解力を身に付けることを目標とする。

[ 授業概要 ]
ジョークによくあるパターンの一つとして、ジョークに登場するある言葉の常識的(一般的)な意味と、もう一つの意外な意味の落差に笑うというものがあります。
例:父「学校に行くのは好き？」子「学校に行くのは好き。帰るのはもっと好き。でも授業は嫌い。」
この場合、お父さんの「学校に行く」は学校生活全般を指し、子供の「学校に行く」は登校のみを指しています。
ジョークを読む目的の第一はもちろん笑って楽しむことですが、翻訳するということを考えると、「学校に行く」という訳語をもともとの中国語の言葉(上学)から大きく外れない範囲にとどめながら、日本語としてもジョークが成立するようにうまく選ぶ必要があります。
このような楽しい工夫をしながら、中国語を読む練習をしましょう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
1.辞書を使って授業の準備をする。
2.毎回、予習復習合わせて2時間程度の準備学修が必要。

[ 授業計画 ]
1. ジョーク 25～28
2. 語彙と文法のまとめ 仮定条件など
3. ジョーク 29～32
4. 語彙と文法のまとめ 副詞など
5. ジョーク 33～36
6. 語彙と文法のまとめ 離合動詞など
7. ジョーク 37～40
8. 語彙と文法のまとめ 疑問詞の特殊用法など
9. ジョーク 41～44
10. 語彙と文法のまとめ 存現文など
11. ジョーク 45～48
12. 語彙と文法のまとめ 副詞など
13. まとめ

| 科目名 | 中国語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉山　志郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表30%、授業中実施のテスト70%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業中の発表、授業中実施のテスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:授業中の発表、授業中実施のテスト

[ 教科書(ISBN) ]
『中国語ジョークボックス』 著者名:相原茂・郭雲輝　出版社:朝日出版社 (978-4-255-45150-3)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 中国語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1.中国語の発音、基礎的な語彙と文法を習得する。
2.中国語の文章を、自分で辞書を引きながら翻訳できる。
3.文脈を把握して、文章全体の中で適切な翻訳ができる。
中国語の文章の初中級から中級程度の読解力を身に付けることを目標とする。

[ 授業概要 ]
『中国語ジョークボックス』の講読をします。この教科書では4つのジョークと一つのまとめがセットになっています。ジョークは受講生に順番に予習を担当してもらい授業中に翻訳を発表してもらいます。そして、その翻訳について皆で考えます。まとめは担当を決めずに皆で考え、ドリルをします。
外国語の初級レベルの学習での翻訳というとどうしても単語を機械的に置き換えるだけになりがちです。この科目はそのレベルから一歩進んで文脈の中で訳を考える練習をします。ジョークは話の辻褄を合わせないとまったく笑えなくなったりするので、訳をあれこれ考える練習には最適です。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
十分に予習した上で授業に望んでください。

[ 授業計画 ]
1. ジョーク21～24
2. 語彙と文法まとめ　使役など
3. ジョーク25～28
4. 語彙と文法まとめ　仮定条件など
5. ジョーク29～32
6. 語彙と文法まとめ　副詞など
7. ジョーク33～36
8. 語彙と文法まとめ　離合動詞など
9. ジョーク37～40
10. 語彙と文法まとめ　疑問詞の特殊用法など
11. ジョーク41～44
12. 語彙と文法まとめ　存現文など
13. ジョーク45～48
14. 語彙と文法まとめ　副詞など
15. 総まとめ

| 科目名 | 中国語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 平坂　仁志 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表(30%)、試験(70%)により評価します。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『中国語ジョークボックス』 著者名:相原茂・郭雲輝　出版社:朝日出版社 (978-4-255-45150-3)

[ 参考書(ISBN) ]
各社『中日辞典』、『中国語辞典』
好文出版『初級中国語課本』

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ(速習) | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉、崔　杉昌 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | ペア活動による会話練習 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
韓国語の文字や基本的な文法、文型を学習し、簡単な日常会話が駆使できる能力を習得する。

[ 授業概要 ]
授業は初心者を対象に韓国語の文字から始める。韓国語の文字であるハングルの読み方、書き方を覚え、基本的な文型や語彙を学習する。簡単な文章を中心によく使われる慣用的な表現をテキストやプリントを使って、繰り返し練習することで、初級韓国語の聞く、話す、読む能力を習得する。授業では、テキスト以外にも韓国に関する映画、歌、書物を教材に活用する。授業を通して、韓国文化への理解を促し、異文化への興味を深めるきっかけになることをねらう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。なお、言葉だけではなく、多様な韓国文化に対して常に関心を持つこと。

[ 授業計画 ]
1. 授業の紹介、ハングルとは、母音(担当　崔　杉昌、 以下崔)
2. 子音①(担当　權　珍嬉、 以下權)
3. 子音②(担当　崔)
4. 合成母音、子音③(担当　權)
5. パッチム、文字・発音の復習(担当　崔)
6. ハングル表記、自己紹介(担当　權)
7. 自己紹介の練習 (担当　崔)
8. 体言文、助詞 (担当　權)
9. 体言文の否定表現 (担当　崔)
10. 指示表現 (担当　權)
11. 文法、会話表現の復習 (担当　崔)
12. 所有表現 (担当　權)
13. まとめ (担当　崔)
14. 用言 (担当　權)
15. 位置名詞 (担当　崔)
16. 用言の活用 (担当　權)
17. 存在の表現 (担当　崔)
18. 動詞の否定形 (担当　權)
19. 漢数詞1 (担当　崔)
20. 動詞の否定形の演習 (担当　權)
21. 漢数詞2 (担当　崔)
22. 形容詞の丁寧表現 (担当　權)
23. 用言の丁寧表現 (担当　崔)
24. 用言の丁寧表現、不規則活用(担当　權)
25. 韓国文化の理解 (担当　崔)
26. まとめ (担当　權)

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ（速習） | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉、崔　杉昌 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト・課題　30%、試験（会話・筆記）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出した課題は後日添削して返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:プレゼンテーション、会話テスト

[ 教科書（ISBN） ]
パルん韓国語　著者名:鄭世桓　他 4人　出版社:朝日出版社 (978-4-255-55663-5 C1087)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
韓国・朝鮮語の文字や基礎的な文法・文型を学習し、自己紹介などの基礎会話ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
朝鮮語の文字の読み書きを基盤に、基礎的な文法を学ぶ。最終的には、現場などで意思表現ができるようにコミュニケーション能力を身につけるようにするため、各自の積極的参加が要求される。また、授業では、歌や映画等も題材に取り入れて、言語を習得しながら言葉の向こうに見えてくる異文化理解も含めた授業を目指す。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
予習・復習合わせて2時間程度すること。日頃から韓国に関連するメディア等の報道等に関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. 朝鮮語の概要
   基本母音と子音の紹介
2. 基本子音
3. 基本子音と合成母音
4. バッチム
5. 文字と発音の復習（童謡を謡う）
6. 私は日本人です
7. 自己紹介を練習する
8. 中間復習
9. 日本人ではありません
10. 約束があります
11. OOあります・ありますか？
12. 場所／位置を学ぶ
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、課題及び受講態度50%
筆記試験と課題、授業に積極的に参加し、様々な発表を評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業後、フィードバック

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語』初級Ⅰ　著者名:新大久保学院　李志瑛 著　出版社:DEKIRU出版 (978-4-87217-723-7)

[ 参考書(ISBN) ]
なし (×)

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 鄭　東憲 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
韓国・朝鮮語の文字や基礎的な文法・文型を学習し、自己紹介などの基礎会話ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
毎回、文法及びフリーズを習った後、その「応用会話」をグループで繰り返し訓練し発表する。現場などで意思表現ができるようにコミュニケーション能力を身につけるようにする。授業では、歌や映画等も題材に取り入れて、言語を習得しながら言葉の向こうに見えてくる異文化理解も含めた授業を目指す。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度、前回の内容を復習して理解することと次回の授業の内容を予習しておくこと。また、日頃から韓国に関連するメディア等の報道等に関心を持つこと。

[ 授業計画 ]
1. 韓国語について、授業の全般について説明
2. 母音と子音
3. 複合母音、濃音
4. 復習、＜歌で発音の練習＞
5. ～です。～ですか？自己紹介の表現
6. 小テスト及び復習
7. ～さんは～人ですか？:疑問形終結語尾(名詞＋ですか？)
8. ～ではありません:①名詞の否定形(～ではありません)
9. 復習及び名詞否定の疑問形
10. 小テスト及び＜ビデオで簡単な発音の練習＞
11. ～ありますか、いますか？～ありませんか、いませんか？
12. 指示代名詞
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 鄭　東憲 | | | |

[ 成績評価方法 ]
期末テスト(60%)、小テスト及び受講態度(40%)
期末テストや出席するだけで単位が取れることはない。即ち、授業中、何をするかがポイント。積極的に発音して、様々な発表に参加することが重要。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート・授業態度・小テスト・テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:レポート・授業態度・小テスト・テスト

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語』初級Ⅰ　著者名:新大久保学院　李志瑛 著　出版社:DEKIRU出版 (978-4-87217-723-7)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ゼロからはじめる韓国語 | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
韓国・朝鮮語の文字や基礎的な文法・文型を学習し、自己紹介などの基礎会話ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
　韓国・朝鮮語は、語順をはじめ漢字熟語や敬語表現など日本語と共通するところが多い言語であるため、日本語母語話者がもっともなじみやすい外国語の一つである。
　この授業は韓国・朝鮮語を初めて習う学生を対象として、まず韓国・朝鮮語の文字であるハングルの読み方や書き方を習得し、あいさつや自己紹介、簡単な会話表現ができるよう学習していきます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
　前回の学習内容(語彙、文法、表現など)を復習しておくこと。その時必ずCDの音声を聞きながら〈音読〉をくりかえし行うこと。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス
　　文字と発音－母音
2. 文字と発音－子音①
3. 文字と発音－子音②③
4. 文字と発音－パッチム
5. 文字と発音－合成母音
6. 文字と発音の復習
7. 挨拶表現のいろいろ
8. 韓国文化の理解〔映像〕
9. 第1課　私は日本人です。
10. 第2課　日本人ではありません。
11. 第3課　それは何ですか。
12. 第4課　約束があります。
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ゼロからはじめる韓国語 | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題30%、授業参加度20%、テスト50%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:課題、授業参加度、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:題、授業参加度、テスト

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語　初級Ⅰ』 著者名:新大久保語学院　著　出版社:DEKIRU出版 (978-4872177237
)

[ 参考書(ISBN) ]
日韓・韓日辞典

S03602 [ CH1-020 ]

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
韓国・朝鮮語の文字や基本的な文法・文型を学習し、自己紹介などの基礎会話ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
授業は初心者を対象に韓国語の文字から始める。韓国語の文字であるハングルの読み方、書き方を覚え、基本的な文型や語彙を学習する。簡単な文章を中心によく使われる慣用的な表現をテキストやプリントを使って、繰り返し練習することで、初級韓国語の聞く、話す、読むことができる能力を習得する。授業では、テキスト以外にも韓国に関する映画、歌、書物を教材に活用する。授業を通して韓国文化への理解を促し、異文化への興味を深めるきっかけになることをねらう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。なお、言葉だけではなく、韓国文化に対して常に関心を持って欲しい。

[ 授業計画 ]
1. 授業の紹介、自己紹介、ハングルとは
2. ハングルの説明、母音／会話表現①
3. 子音①／会話表現②
4. 子音②／会話表現③
5. パッチム／会話表現④
6. 合成母音、文字・発音の復習／ハングル表記
7. 1課　自己紹介
8. まとめ
9. 韓国文化の理解(映画鑑賞)
10. 2課　名詞の否定
11. 3課 「です/ではありません」の口語体、指示詞
12. 4課　存在表現
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト・課題30%、試験（会話・筆記）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：題、授業参加度、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：題、授業参加度、テスト

[ 教科書（ISBN） ]
『できる韓国語　初級Ⅰ』 著者名：李志映著　出版社：DEKIRU出版 （978-4-87217-723-7）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
韓国・朝鮮語の文字や基礎的な文法・文型を学習し、自己紹介などの基礎会話ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
朝鮮語の文字の読み書きを学ぶ。現場などで意思表現ができるようにコミュニケーション能力を身につけるため、各自、積極的授業参加が要求される。また、授業では、歌や映画等も題材に取り入れて、言語を習得しながら言葉の向こうに見えてくる異文化理解も含めた授業を目指す。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
予習・復習合わせて2時間程度すること。また、日頃から韓国に関連するメディア等の報道等に関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. 朝鮮語の概要
   基本母音と子音の紹介
2. 基本子音
3. 基本子音と合成母音
4. バッチム （童謡で発音練習）
5. 文字と発音の復習（童謡を謡う）
6. 私は日本人です
7. 自己紹介を練習する
8. 中間復習
9. 日本人ではありません
10. 約束があります
11. OOあります・ありますか？
12. 場所／位置を学ぶ
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、課題25%、受講態度25%
筆記試験及び課題や授業に積極的に参加し、発表等を評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業後、フィードバック

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語』初級Ⅰ　著者名:新大久保学院　李志瑛 著　出版社:DEKIRU出版 (978-4-87217-723-7)

[ 参考書(ISBN) ]
なし (×)

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | ペア活動によるコンバーセーション | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
韓国・朝鮮語の文字や基本的な文法・文型を学習し、自己紹介などの基礎会話ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
授業は初心者を対象に韓国語の文字から始める。韓国語の文字であるハングルの読み方、書き方を覚え、基本的な文型や語彙を学習する。簡単な文章を中心によく使われる慣用的な表現をテキストやプリントを使って、繰り返し練習することで、初級韓国語の聞く、話す、読むことができる能力を習得する。授業では、テキスト以外にも韓国に関する映画、歌、書物を教材に活用する。授業を通して韓国文化への理解を促し、異文化への興味を深めるきっかけになることをねらう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。なお、言葉だけではなく、韓国文化に対して常に関心を持って欲しい。

[ 授業計画 ]
1. 授業の紹介、自己紹介、ハングルとは
2. ハングルの説明、母音／会話表現①
3. 子音①／会話表現②
4. 子音②／会話表現③
5. パッチム／会話表現④
6. 合成母音、文字・発音の復習／ハングル表記
7. 1課　自己紹介
8. 韓国文化の理解(映画鑑賞)
9. 2課　名詞の否定
10. 3課　「です/ではありません」の口語体、指示詞
11. 4課　存在表現
12. 5課　存在表現
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト・課題30%、試験（会話・筆記）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出した課題は後日添削して返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：プレゼンテーション、会話テスト

[ 教科書（ISBN） ]
『できる韓国語　初級Ⅰ』 著者名：李志映著　出版社：DEKIRU出版 （978-4-87217-723-7）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
韓国・朝鮮語の文字や基礎的な文法・文型を学習し、自己紹介などの基礎会話ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
ハングル(朝鮮語)の読み書きを基盤に、簡単な会話ができるように学習していきます。基礎的文法と現場などで、自己意思が表現できるように訓練します。また、授業では、歌や映画等、言葉の向こうに見えてくる異文化理解も取り入れる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
予習・復習合わせて2時間程度すること。語彙、文法、表現などを復習しておくこと。また、CDを聞いて<音読>を練習すること。

[ 授業計画 ]

1. 朝鮮語の概要
   基本母音と子音の紹介
2. 基本子音
3. 基本子音と合成母音
4. バッチム （童謡で発音練習）
5. 文字と発音の復習(童謡を謡う)
6. 私は日本人です
7. 自己紹介を練習する
8. 中間復習
9. 日本人ではありません
10. 約束があります
11. OOあります・ありますか？
12. 場所／位置を学ぶ
13. まとめ

＊受講者の人数や理解度によって進度が変わることもあります。

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、課題25%、受講態度25%
試験後、解説によって達成度を確認する。授業に積極的に参加し、様々な発表を評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業後、フィードバック

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語　初級Ⅰ』 著者名:李志瑛　出版社:DEKIRU出版 (9.78487E+12)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ゼロからはじめる韓国語 | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
韓国・朝鮮語の文字や基本的な文法・文型を学習し、自己紹介などの基礎会話ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
韓国語（朝鮮語）は語順をはじめ漢字熟語や敬語表現など日本語と共通するところが多い言語であるため、日本人学習者がもっともなじみやすい外国語の一つである。この授業では以上のようなメリットを生かして、韓国語（朝鮮語）の文字と発音、簡単なあいさつや会話表現などの習得を目指す。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
前回の授業内容を復習するとき、単語の暗記とともに必ずCDの音声を聞きながら<音読>をくりかえし行うこと。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス
　文字と発音－母音
2. 文字と発音－子音①
3. 文字と発音－子音②③
4. 文字と発音－パッチム
5. 文字と発音－合成母音
6. 文字と発音の復習
7 韓国文化の理解〔映像〕
8. 第1課　私は日本人です。
9. 第2課　日本人ではありません。
10. 第3課　それは何ですか。
11. 韓国文化の理解〔映像〕
12. 第4課　約束があります。
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－1 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ゼロからはじめる韓国語 | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題30%、授業参加度20%、テスト50%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:課題、授業参加度、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:課題、授業参加度、テスト

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語　初級Ⅰ』 著者名:新大久保語学院　李志暎　出版社:出版社:アスク (978-4872177237
)

[ 参考書(ISBN) ]
韓日・日韓辞書

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 韓国語で声をかけよう！ | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
初級レベルの韓国・朝鮮語を読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、簡単な日常会話や作文ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
韓国語(朝鮮語)は語順をはじめ漢字熟語や敬語表現など日本語と共通するところが多い言語であるため、日本人学習者がもっともなじみやすい外国語の一つである。このようなメリットを生かして、授業ではより積極的に韓国語の会話を楽しむための表現力のアップを目指す。この授業は秋学期の続きとして行うものである。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内容を復習するとき、単語の暗記とともに必ずCDの音声を聞きながら<音読>をくりかえし行うこと。

[ 授業計画 ]
1. 第1課～第4課の復習
2. 第5課　〔本文と練習〕会社はどこにありますか。
3. 第6課　〔本文〕週末は何をしますか。
4. 第6課　基本文型練習及び応用練習
5. 韓国文化の理解(映画鑑賞)
6. 第7課　〔本文〕そんなに遠くありません。
7. 第7課　基本文型練習及び応用練習
8. 第8課　〔本文と練習〕いつ行きますか。
9. 第9課　〔本文〕釜山までどうやって行きますか。
10. 第9課　基本文型練習及び応用練習
11. 第10課　〔本文〕何時からですか。
12. 第10課　基本文型練習及び応用練習
13. まとめ
＊受講者の人数や理解度によって進度が変わることがあります。

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 韓国語で声をかけよう！ | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題30%、授業参加度20%、テスト50%、

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:課題、授業参加度、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:課題、授業参加度、テスト

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語　初級Ⅰ』 著者名:新大久保語学院　李志暎　出版社:出版社:アスク (978-4872177237
)

[ 参考書(ISBN) ]
韓日・日韓辞書

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
初級レベルの韓国・朝鮮語を読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、簡単な日常会話や作文ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
朝鮮語の基礎的文法及びフリーズを習った後、その「応用会話」を繰り返し訓練する。現場などで意思表現ができるようにコミュニケーション能力を身につけるようにする。授業では、歌や映画等も題材に取り入れて、言語を習得しながら言葉の向こうに見えてくる異文化理解も含めた授業を目指す。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
予習・復習合わせて2時間程度すること。日頃から韓国に関連するメディア等の報道等に関心を持つこと。韓国に行った時に実践的に活用できる様々な場面の会話を身につけるように努力すること。

[ 授業計画 ]
1. 後期概要・レベルチェック
2. 動詞を学ぶ（韓国の歌を学ぶ）
3. 動詞を使った日常会話の練習
4. 動詞の否定文
5. 数字の表現
6. 数字を使った日常会話
7. 中間復習（ドラマの表現）
8. 時間の表現
9. ～ます・ですの表現
10. ～ます・ですの表現の応用会話
11. 過去形
12. 過去形の会話練習
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、課題25%、受講態度25%
筆記試験と課題、そして授業に積極的に参加し、様々な発表を評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業後、フィードバック

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語』初級Ⅰ　著者名:新大久保学院　李志瑛 著　出版社:DEKIRU出版 (978-4-87217-723-7)

[ 参考書(ISBN) ]
なし (×)

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 鄭　東憲 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
初級レベルの韓国・朝鮮語を読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、簡単な日常会話や作文ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
毎回、文法及びフリーズを習った後、その「応用会話」を繰り返し訓練する。現場などで意思表現ができるようにコミュニケーション能力を身につけるようにする。授業では、歌や映画等も題材に取り入れて、言語を習得しながら言葉の向こうに見えてくる異文化理解も含めた授業を目指す。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度、前回の内容を復習して理解することと次回の授業の内容を予習しておくこと。また、日頃から韓国に関連するメディア等の報道等に関心を持つこと。

[ 授業計画 ]
1. ～はどこにありますか？
2. 位置の表現を習う。
3. 叙述形終結語尾
4. 小テスト及び歌で簡単な表現を訓練
5. 動詞の否定文の訓練
6. 形容詞の否定文
7. 数字
8. 月、日の言い方
9. ～です形のもう一つの表現
10. 復習
11. 固有数字
12. 総合復習
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 鄭　東憲 | | | |

[ 成績評価方法 ]
期末テスト(60%)、小テスト及び受講態度(40%)
期末テストや出席するだけで単位が取れることはない。即ち、授業中、何をするかがポイント。積極的に発音して、様々な発表に参加することが重要。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート、授業態度、小テスト、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:レポート、授業態度、小テスト、テスト

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語』初級Ⅰ　著者名:新大久保学院　李志瑛 著　出版社:DEKIRU出版 (978-4-87217-723-7)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 韓国語の会話を楽しもう！ | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
初級レベルの韓国・朝鮮語を読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、簡単な日常会話や作文ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
韓国語(朝鮮語)は語順をはじめ漢字熟語や敬語表現など日本語と共通するところが多い言語であるため、日本人学習者がもっともなじみやすい外国語の一つである。この授業では以上のようなメリットを生かして、韓国語(朝鮮語)の文字と発音、簡単なあいさつや会話表現などの習得を目指す。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内容を復習するとき、単語の暗記とともに必ずCDの音声を聞きながら<音読>をくりかえし行うこと。

[ 授業計画 ]
1. 第1課～第4課の復習
2. 第5課　〔本文と練習〕会社はどこにありますか。
3. 第6課　〔本文〕週末は何をしますか。
4. 第6課　基本文型練習及び応用練習
5. 韓国文化の理解(映画鑑賞)
6. 第7課　〔本文〕そんなに遠くありません。
7. 第7課　基本文型練習及び応用練習
8. 第8課　〔本文と練習〕いつ行きますか。
9. 第9課　〔本文〕釜山までどうやって行きますか。
10. 第9課　基本文型練習及び応用練習
11. 第10課　〔本文〕何時からですか。
12. 第10課　基本文型練習及び応用練習
13. まとめ
＊受講者の人数や理解度によって進度が変わることがあります。

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 韓国語の会話を楽しもう！ | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題30%、授業参加度20%、テスト50%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:課題、授業参加度、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:課題、授業参加度、テスト

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語　初級Ⅰ』 著者名:新大久保語学院　李志暎　出版社:出版社:アスク (978-4872177237
)

[ 参考書(ISBN) ]
韓日・日韓辞書

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
初級レベルの韓国・朝鮮語の読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、簡単な日常会話や作文ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
前期に学習したハングルを熟知し、基本的な文型や語彙を学習する。簡単な文章を中心によく使われる慣用的な表現をテキストやプリントを使って、繰り返し練習することで、韓国語の聞く、話す、読むことができる能力を習得する。授業では、テキスト以外にも韓国に関する映画、歌、書物を教材に活用する。授業を通して、韓国文化への理解を促し、異文化への興味を深めるきっかけになることをねらう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。なお、言葉だけではなく、韓国文化に対して常に関心を持って欲しい。

[ 授業計画 ]
1. 授業の紹介、基本文法の確かめ
2. 5課　存在表現・位置名詞
3. 6課　動詞、列挙の表現
4. 6課　動詞の否定
5. 韓国文化の理解
6. 7課　動詞、形容詞の否定
7. 8課　漢数字の表現
8. 9課　うち解けた丁寧①
9.. 9課　うち解けた丁寧②
10. 韓国文化の理解
11. 10課　固有数字①
12. 10課　固有数字②
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 崔　杉昌 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト・課題30%、試験（会話・筆記）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出した課題は後日添削して返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：課題、授業参加度、テスト

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：課題、授業参加度、テスト

[ 教科書（ISBN） ]
『できる韓国語　初級Ⅰ』 著者名：李志映著　出版社：DEKIRU出版 （978-4-87217-723-7）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
初級レベルの韓国・朝鮮語の読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、簡単な日常会話や作文ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
前期に学習したハングルを熟知し、基本的な文型や語彙を学習する。簡単な文章を中心によく使われる慣用的な表現をテキストやプリントを使って、繰り返し練習することで、韓国語の聞く、話す、読むことができる能力を習得する。授業では、テキスト以外にも韓国に関する映画、歌、書物を教材に活用する。授業を通して、韓国文化への理解を促し、異文化への興味を深めるきっかけになることをねらう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。なお、言葉だけではなく、韓国文化に対して常に関心を持って欲しい。

[ 授業計画 ]
1. 基本文法の確かめ、5課 存在表現
2. 5課 存在表現、6課　動詞、列挙の表現
3. 6課　動詞、列挙の表現、7課　動詞の否定
4. 7課　動詞、形容詞の否定
5. 8課　漢数字
6. 8課　漢数字
7. 課題物の発表
8. 9課　うち解けた丁寧
9. 9課　うち解けた丁寧
10. 10課　固有数字
11. 10課　固有数字
12. 課題物の発表、6～10課の復習
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト・課題30%、試験（会話・筆記）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出した課題は後日添削して返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：プレゼンテーション、会話テスト

[ 教科書（ISBN） ]
『できる韓国語　初級Ⅰ』 著者名：李志映著　出版社：DEKIRU出版 （978-4-87217-723-7）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
初級レベルの韓国・朝鮮語を読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、簡単な日常会話や作文ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
朝鮮語の基礎的文法及びフリーズを習った後、その「応用会話」をし訓練する。現場などで意思表現ができるようにコミュニケーション能力を身につけるようにする。授業では、歌や映画等も題材に取り入れて、言語を習得しながら言葉の向こうに見えてくる異文化理解も含めた授業を目指す。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
予習・復習合わせて2時間程度すること。実際、韓国に行った時に活用できる様々な場面の会話を身につけるように努力すること。

[ 授業計画 ]
1. 後期概要・レベルチェック
2. 動詞を学ぶ(韓国の歌を学ぶ)
3. 動詞を使った日常会話の練習
4. 動詞の否定文
5. 数字の表現
6. 数字を使った日常会話
7. 中間復習(ドラマの表現)
8. 時間の表現
9. ～ます・ですの表現
10. ～ます・ですの表現の応用会話
11. 過去形
12. 過去形の会話練習
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、課題25%、受講態度25%
筆記試験と課題、そして授業に積極的に参加し、様々な発表を評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業後、フィードバック

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語』初級Ⅰ　著者名:新大久保学院　李志瑛 著　出版社:DEKIRU出版 (978-4-87217-723-7)

[ 参考書(ISBN) ]
なし (×)

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
初級レベルの韓国・朝鮮語を読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、簡単な日常会話や作文ができることを目指す。

[ 授業概要 ]
　この授業は、朝鮮語Ⅰ－1を学習した学生を対象とする。、ハングルの「読み」、「書き」の能力をさらに高めていくとともに、簡単な日常会話に必要な基本的な語彙、文法、表現などを学習していく。授業では、歌やドラマ等も取り入れて、言葉の向こうに見えてくる異文化理解も行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
予習・復習合わせて2時間程度すること。語彙、文法、表現などを復習しておくこと。その時CDの音声を聞きながら〈音読〉をくりかえし行うこと。

[ 授業計画 ]
1. 後期概要・レベルチェック
2. 動詞を学ぶ(韓国の歌を学ぶ)
3. 動詞を使った日常会話の練習
4. 動詞の否定文
5. 数字の表現
6. 数字を使った日常会話
7. 中間復習(ドラマの表現)
8. 時間の表現
9. ～ます・ですの表現
10. ～ます・ですの表現の応用会話
11. 過去形
12. 過去形の会話練習
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、課題25%、受講態度25%
筆記試験及び課題や授業に積極的に参加し、発表等を評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業の後、返却

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

[ 教科書(ISBN) ]
『できる韓国語 初級Ⅰ』 著者名:李志瑛　出版社:DEKIRU出版 (9.78487E+12)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 朝鮮語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉、崔　杉昌 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
朝鮮語Ⅰで繰り返し練習して身につけた聞く、話す、読む力をより発展させ、多様な場面で応用することができる能力を習得する。

[ 授業概要 ]
授業は朝鮮語Ⅰを履修したレベルを対象にする。時制や敬語の表現などより高い難易度の表現を学習する。また、これらの表現を使って、グループ活動を中心に、基礎会話表現の幅を広げ、より多様な場面で応用できる能力を習得する。授業では、テキスト以外にも韓国に関する映画、歌、書物を教材に活用する。授業を通して、韓国文化への理解を促し、異文化への興味を深めるきっかけになることをねらう。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。なお、言葉だけではなく、多様な韓国文化に対して常に関心を持つこと。

[ 授業計画 ]
1. 基本文法の確かめ,用言の丁寧表現 （担当　權　珍嬉、以下權）
2. 固有数詞 （担当　崔　三昌、以下崔）
3. 用言の不規則活用 （担当　權）
4. 名詞文の丁寧表現 （担当　崔）
5. 用言の過去時制 （担当　權）
6. 進行表現 （担当　崔）
7. 過去形の演習 （担当　權）
8. 時間 （担当　崔）
9. 希望表現 （担当　權）
10. 時間の表現の演習 （担当　崔）
11. 希望表現の演習 （担当　權）
12. 出発と到着に使う助詞 （担当　崔）
13. まとめ （担当　權）
14. 好み表現 （担当　崔）
15. 意思表現 （担当　權）
16. 目的表現 （担当　崔）
17. 意思表現の演習 （担当　權）
18. 対象に使う助詞 （担当　崔）
19. 格式体敬語 （担当　權）
20. 敬語の表現 （担当　崔）
21. 命令表現 （担当　權）
22. 非格式体敬語の表現（担当　崔）
23. 意向を尋ねる表現 （担当　權）
24. 非格式体敬語表現の練習 （担当　崔）
25. 勧誘表現 （担当　權）
26. まとめ （担当　崔）

| 科目名 | 朝鮮語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉、崔　杉昌 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト・課題　30%、試験（会話・筆記）70%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出した課題は後日添削して返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:プレゼンテーション、会話テスト

[ 教科書（ISBN） ]
パルん韓国語　著者名:鄭世桓他4名　出版社:朝日出版社 （978-4-255-55663-5 C1087）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 朝鮮語Ⅲ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
韓国語の話す、聞く、読む、書く力をより発展させ、多様な場面で流暢に駆使できる能力を習得する。また韓国語のより高度な表現力を身につける。

[ 授業概要 ]
朝鮮語Ⅱを履修したレベル以上の者を対象とする。時制を多様に使い複合的な時間構成の文型や用言の不規則活用などより難易度の高い表現を学習する。これらの表現を使ってグループ活動による実用会話演習を繰り返し、より多様な場面で応用できる能力を習得する。また授業では、韓国に関する映画、歌、書物などを教材に活用することで韓国語を通して、韓国文化への理解を深めることをねらう。ハングル検定(6月、11月)を勧める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。なお、言葉だけではなく多方面での韓国文化に関して関心を常に持つこと。

[ 授業計画 ]
1. 授業の紹介、基本文法の確かめ
2. 理由を表す表現
3. 理由を表す表現の演習、用言の不規則活用①
4. 形容詞の連体形
5. 各時制の動詞の連体形
6. 逆接の表現、用言の不規則活用②
7. 行動の決定を表す表現
8. 課題発表
9. 推量を表す表現
10. 意思の表現
11. 逆接・前置きの表現
12. 意思、逆接・前置きの表現の演習
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅲ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題・プレゼンテーション（40%）、試験（会話、筆記）60%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出した課題は後日添削して返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：プレゼンテーション、会話テスト

[ 教科書（ISBN） ]
レジュメ・資料を配布

[ 参考書（ISBN） ]
プリント配布

| 科目名 | 朝鮮語Ⅲ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
韓国語の話す、聞く、読む、書く力をより機能的に発展させ、様々な場面で自分の考えや思いをより流暢にかつ適合的に表現する能力を習得する。

[ 授業概要 ]
朝鮮語Ⅲ-1を履修したレベル以上の者を対象とする。間接話法やパンマルなど、より実用性の高い表現や韓国語特有な慣用表現を学習する。これらの表現を使ってグループ活動による実用会話演習を繰り返し、より多様な場面で応用できる能力を習得する。また授業では、韓国に関する映画、歌、書物などを教材に活用することで韓国語を通して、韓国文化への理解を深めることをねらう。ハングル検定(6月、11月)を勧める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。なお、言葉だけではなく多方面での韓国文化に関して関心を常に持つこと。

[ 授業計画 ]
1. 授業の紹介、復習
2. 根拠や理由を表す表現
3. 推量を表す表現、「～し始める」の表現
4. 勧誘の表現
5. 願望の表現
6. 課題発表
7. 韓国文化の理解「最新ニュースを読もう」
8. 「時」を表す表現
9. 「時」を表す表現の演習
10. 間接話法の表現①
11. 間接話法の表現②
12. パンマル(くだけた言葉)
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語Ⅲ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題・プレゼンテーション（40%）、試験（会話、筆記）60%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出した課題は後日添削して返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：プレゼンテーション、会話テスト

[ 教科書（ISBN） ]
レジュメ、資料配布

[ 参考書（ISBN） ]
プリント配布

| 科目名 | 朝鮮語会話Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
聞く、話す力をより発展させ、旅行などの日常の場面において自分の考えをある程度表現できるようになることを目指す。

[ 授業概要 ]
　文法及びフリーズを習った後、「応用会話」をグループで繰り返し訓練し発表する。現場で意思表現ができるようにコミュニケーション能力を身につける。異文化理解も指す。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
　予習・復習合わせて2時間程度すること。日常的な様々な場面に活用する会話を身につけるように努力し、韓国関連の新聞記事やメデイアの報道に関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. レベル確認
2. 家族の表現
3. 数字と場所の表現を使った会話
4. 場所の表現
5. 買い物の表現
6. 趣味の会話
7. 韓国のドラマの表現
8. 勧誘の表現の応用会話
9. 韓国の歌の表現
10. 飲食店での会話
11. ショピングの時の会話
12. 旅の時の会話(空港等)
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語会話Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、課題25%、受講態度25%
試験後、解説によって達成度を確認する。授業に積極的に参加し、様々な発表を評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業後、返却。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

[ 教科書(ISBN) ]
無し(プリント等)　出版社:darakuwon (9788927730101)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 朝鮮語会話Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
聞く、話す力をより発展させ、旅行などの日常の場面において自分の考えをある程度表現できるようになることを目指す。

[ 授業概要 ]
授業は朝鮮語Ⅰを履修したレベル以上の者を対象にする。時制や敬語の表現などより高い難易度の表現を学習する。また、これらの表現を使って、グループ活動を中心に、基礎会話表現の幅を広げ、より多様な場面で応用できる能力を習得する。授業では、韓国に関する映画、歌、書物なども教材に活用することで、韓国文化への理解を促すことをねらう。
ハングル検定(6月、11月)を勧める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。なお、言葉だけではなく、韓国文化に対して常に関心を持って欲しい。

[ 授業計画 ]
1. 授業の紹介、基本文法の確かめ
2. 過去時制
3. 敬語・命令
4. 敬語の過去形
5. 希望の表現
6. 希望の表現の演習
7. 韓国文化の理解
8. 理由・原因の表現
9. 接続詞の演習
10. 可能・不可能の表現
11. 現在進行形
12. 文法、会話表現の復習、課題の発表
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語会話Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト・課題20%、プレゼンテーション20%、試験（会話、筆記）60%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出した課題は後日添削して返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：プレゼンテーション、会話テスト

[ 教科書（ISBN） ]
『できる韓国語　初級Ⅰ』 著者名：李志映著　出版社：DEKIRU出版 （978-4-87217-723-7）

[ 参考書（ISBN） ]
プリント配布

| 科目名 | 朝鮮語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
応用会話の演習などを通じて、さまざまな日常会話の場面に対応できるより豊かな表現力を身につける。

[ 授業概要 ]
　文法及びフリーズを習った後、「応用会話」をグループで繰り返し訓練し発表する。現場で意思表現ができるようにコミュニケーション能力を身につける。異文化理解も指す。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
予習・復習合わせて2時間程度すること。韓国に行った時に実践的に活用できる様々な場面（店、レストラン、ホテル等）の会話を身につけるように努力すること。

[ 授業計画 ]
1. レベル確認
2. 許可の表現
3. 勧誘の表現
4. ドラマの表現
5. ～しましょうの表現
6. 復習と映画の表現
7. 依頼の表現
8. 中間復習・歌の表現
9. 可能の表現
10. 不可能の表現
11. 現在進行形
12. 意思の表現
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、課題25%、受講態度25%
筆記試験と課題、そして授業に積極的に参加し、様々な発表を評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、スピーチ発表

[ 教科書(ISBN) ]
無し(プリント)　出版社:darakuwon　(978-4-87217-723-7)

[ 参考書(ISBN) ]
なし （×）

| 科目名 | 朝鮮語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
応用会話の演習などを通じて、様々な日常会話の場面に対応できるよう豊かな表現力を身につける。

[ 授業概要 ]
用言の連体形や不規則活用など高い難易度の学習を行う。これらの表現を使って、グループ活動を中心に、実用会話の演習を遂行し、より多様な場面で応用できる能力を習得する。授業では、韓国に関する映画、歌、書物なども教材に活用することで、韓国文化への理解を促すことをねらう。
ハングル検定(6月、11月)を勧める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。なお、言葉だけではなく、韓国文化に対して常に関心を持って欲しい。

[ 授業計画 ]
1. 授業の紹介、復習
2. 現在時制の連体形
3. 現在時制の連体形の応用演習
4. 過去時制の連体形
5. 未来時制の連体形
6. 韓国文化の理解
7. 用言の不規則活用1
8. 理由の接続表現
9. 用言の不規則活用2
10. 義務の表現
11. 用言の不規則活用3、原因の接続表現
12. 全体内容の復習、課題発表
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 權　珍嬉 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト・課題20%、プレゼンテーション20%、試験（会話、筆記）60%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
提出した課題は後日添削して返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：プレゼンテーション、会話テスト

[ 教科書（ISBN） ]
「できる韓国語初級Ⅱ」 著者名：李志映・金鎮姫　 出版社：DEKIRU出版 （978-4-87217-886-9）

[ 参考書（ISBN） ]
プリント配布 （なし
）

| 科目名 | 朝鮮語講読Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
基本的な文法や文型の学習を通じて、簡単な文章の「解読」、「作文」ができる能力を身につける。

[ 授業概要 ]
韓国語で書かれた詩、文学作品、新聞、映画、ドラマ等、様々な題材を使い、日本語に翻訳を試みる。また、日本語の詩や歌等を韓国語に翻訳を試みる。韓国語の習得を比較文化を通して高める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
予習・復習合わせて2時間程度行う。韓国関連の書籍、歌詞やメディア等の報道等に関心を持つこと。

[ 授業計画 ]

1. レベル確認
2. 皮 千得随筆
3 韓国の詩を学ぶ
4. 歌の表現
5. 法輪和尚の手紙の翻訳・朗読
6. 韓国の詩の翻訳
7. 法輪和尚の手紙・朗読
8. 李海印の詩の翻訳
9. 李海印の詩の翻訳・朗読
10. 歌と詩の翻訳
11. 李海印の詩の翻訳と朗読
12 韓国映画を翻訳
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語講読 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、課題25%、受講態度25%
筆記試験と課題、そして授業に積極的に参加し、様々な発表を評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業の後、返却

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、朗読発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、朗読発表

[ 教科書(ISBN) ]
無し(プリント配布)

[ 参考書(ISBN) ]
なし （×）

| 科目名 | 朝鮮語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
さまざまなテーマの文章を「解読」し、「作文」能力を身につける。韓国語で書かれた詩、文学作品、新聞等、様々な題材を使い、日本語に翻訳を試みる。また、日本語の詩や歌等を韓国語に翻訳を試みる。韓国語の習得を比較文化を通して高める。

[ 授業概要 ]
韓国の文学や新聞等、様々な文章の解読を試みる。日本の文学作品、童謡や最新の歌等を韓国語に翻訳する。日本と韓国の相互の比較文化を通して、韓国語習得を高める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
予習・復習合わせて2時間程度すること。韓国語の書籍や歌の歌詞を日本語に翻訳する練習を試みる。

[ 授業計画 ]
1. レベル確認
2. 星の王子様
3 童謡と詩の翻訳
4. 星の王子様
5. 星の王子様
6. 日本の昔話を韓国語に翻訳する。
7. 日本の歌を韓国語で翻訳を試みる
8. 日本と韓国の童謡と詩の翻訳
9. 韓国の新聞を翻訳する。
10. 最新の歌と詩の翻訳
11. 日本の新聞を韓国語に翻訳する。
12 韓国の新聞を読む。
13. まとめ

| 科目名 | 朝鮮語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 李　春子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験50%、課題25%、受講態度25%
筆記試験と課題、そして授業に積極的に参加し、様々な発表を評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業後、フィードバック

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、朗読発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:試験、課題、朗読発表

[ 教科書(ISBN) ]
未定

[ 参考書(ISBN) ]
なし （×）

| 科目名 | 哲学 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 哲学入門 （ものの見方と考え方） | | | |
| 担当者 | 栗山　はるな | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | ○ | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
現代に生きる私たちが抱える様々な問題に対する受講生自らの「考える力」を養ってもらうことを目的とする。個々の課題に対して考え方を整理して思考でき、表現できるようになることが目標。

[ 授業概要 ]
私たちの日常の生活は多くの「正しさ」「常識」「普通」に支えられていますが、一方で現代はそのような共通理解が揺らいでいる時代でもあります。私たちは「正しさ」についての考えを共有することができるのか、もし「正しさ」について考えられるとしたらそれをどう考えることができるのか。講義前半は哲学の特性やその歴史的経緯を踏まえて、主に近現代哲学に見られる認識、言語、歴史の「正しさ」についての考え方を紹介します。後半は西洋哲学と東洋思想との考え方の違いと日本近代の哲学について、具体的な歴史状況を踏まえながら紹介します。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各回の授業で与えられた資料について小レポートを完成させて次回授業までに提出すること。
上記を含め、復習を中心に2時間程度の学習をすること。

[ 授業計画 ]

1. ガイダンス
2. 「正しいこと」はあるか？
3. われわれは世界を認識できるか？
4. 歴史・文化とその解釈
5. ことばについて
6. 自分と社会について
7. 哲学で考えるということ
8. 戦争と哲学
9. 哲学史の中の日本の近代
10. 仏教思想と日本の哲学
11. 日本の哲学・倫理学①
12. 日本の哲学・倫理学②
13. まとめ

遠隔授業となった場合の受講方法はmanabaを見てください。

| 科目名 | 哲学 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 哲学入門 （ものの見方と考え方） | | | |
| 担当者 | 栗山 はるな | | | |

[ 成績評価方法 ]
最終レポート40%、毎回の小レポート60%.

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
プリントを配布する。

[ 参考書（ISBN） ]
授業中に紹介する。

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ（速習） | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司、J. 池田リツィウス | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
初級文法を理解し、簡単な日常会話ができることを目指します。

[ 授業概要 ]
このクラスは、ドイツ人と日本人の教員がペアを組んで、授業を進めます。 ドイツ語初級会話のマスターを目標に、各課で基礎的な文法事項を習得したうえで、様々な日常会話表現を学んでいきます。また、現代ドイツの社会や文化の特徴についても学習し、異文化理解を深めることも重要視します。積極的に授業に参加し、しっかりと土台を固めることが、その後のドイツ語学習に大きな意味を持ちます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
平素から予習・復習を心がけ、持続的に学習することが重要です。（各回、2時間程度）

[ 授業計画 ]
1. アルファベート、つづりと発音
2. あいさつ
3. 発音練習：国名、首都、人気の名前
4. 曜日・四季・月、数詞
5. 人称代名詞、動詞の現在人称変化（規則動詞）
6. sein、haben の現在人称変化、語順
7. 会話：自己紹介
8. 名詞の性・冠詞
9. 名詞の格変化
10. 疑問代名詞、並列の接続詞
11. 会話：職業は何ですか
12. ドイツ語圏アラカルト ドイツはどんな国？
13. 動詞の現在人称変化（不規則動詞）
14. 命令形
15. 人称代名詞の3格と4格
16. 3格と4格の語順、非人称の es
17. 会話：趣味は何？
18. 名詞の複数形
19. 冠詞類
20. kein と nicht の使い方
21. 否定疑問文の答え方
22. 会話：パン屋で買い物
23. ドイツ語圏アラカルト ユーロ
24. 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形
25. 会話：どう行けばいいですか
26. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ（速習） | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司、J. 池田リツィウス | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(60%)　授業内評価(40%)

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
アー・ツェット　楽しく学ぶドイツ語　著者名：小野寿美子、中川明博　出版社：朝日出版社　(9784255254203)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
簡単な日常会話ができることを目指します。

[ 授業概要 ]
この授業では、初めてドイツ語を学ぶ人を対象に、「発音・文法・会話」の基礎を学習していきます。またドイツ語圏の文化事情も紹介し、異文化理解を深めることも重要視します。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
語学の勉強は積み重ねが大切です。平素から予習・復習を心がけ、授業に臨んでください。（各回、2時間程度）

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション、アルファベート
2. 発音、あいさつ
3. 人称代名詞、動詞の現在人称変化
4. sein、haben の現在人称変化
5. 名詞の性・冠詞
6. 名詞の格変化
7. 並列の接続詞、動詞の現在人称変化（不規則動詞）
8. 命令形、人称代名詞の3格と4格、非人称のes
9. 名詞の複数形
10. 冠詞類
11. keinとnichtの使い方
12. 前置詞
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(60%)　授業内評価(40%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
アー・ツェット　楽しく学ぶドイツ語　著者名:小野寿美子、中川明博　出版社:朝日出版社　(9784255254203)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
簡単な日常会話ができるようになることを目指します。

[ 授業概要 ]
この授業では、はじめてドイツ語を学ぶ人を対象に、簡単な日常会話や、そこに出てくる発音・文法を学習します。使用するテキストは、このような目標に沿った、とてもやさしくてコンパクトなものです。別冊の単語帳には、テキストで使われているすべての単語の意味が書かれているので、手軽に予習や復習をすることができます。文法事項については、一見複雑に見える規則を効率よく習得できるように配慮するとともに、はじめてドイツ語を学ぶ人が陥りやすい誤りにとくに注意しながら進めていきます。またドイツ語圏の文化事情も紹介し、異文化理解を深めていきます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
語学の勉強は積み重ねが大切です。平素から予習・復習を心がけ、授業に臨んでください。(各回、予習復習合わせて2時間程度)

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション、アルファベート、発音、あいさつ
2. 人称代名詞、動詞の現在人称変化
3. 名詞の性・冠詞
4. sein、habenの現在人称変化
5. 名詞の格変化、命令形
6. 前置詞(1)
7. 非人称のes、動詞の現在人称変化(不規則動詞)
8. 名詞の複数形、
9. 人称代名詞の3格と4格
10. 冠詞類
11. keinとnichtの使い方、時刻の表現
12. 分離動詞、非分離動詞
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（60%）、授業中の評価（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『シーンで学ぶ　入門テキスト ドイツ語の天使』 著者名：浅見昇吾　ほか　出版社：朝日出版社 （978-4-255-25400-5）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 毛利　真実 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
簡単な日常会話ができることを目指します。

[ 授業概要 ]
この授業では、初めてドイツ語を学ぶ人を対象に、「発音・文法・会話」の基礎を学習していきます。またドイツ語圏の文化事情も紹介し、異文化理解を深めることも重要視します。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
授業のはじめに、前回学習した内容を復習し、理解を深めます。この授業においては、楽しく確実にドイツ語の実力を高めていくことを目標としていますので、わからないことがあるときは、どんなささいなことでも質問してください。

[ 授業計画 ]

1. あいさつ、発音、発音練習
2. お元気ですか？
3. 自己紹介をする
4. 食べ物、飲み物の注文
5. 代金を支払う
6. 命令文
7. 道案内をする
8. きょうだいはいますか？
9. メールを書く
10. 職業を尋ねる
11. 家族について紹介する
12. 場所を言う
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 毛利　真実 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（60%）・授業内評価（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
ドイツ語をはじめましょう（三訂版）　著者名：毛利真実　出版社：アルク出版社 （978-4-7574-3693-0）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 毛利　真実 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
簡単な日常会話ができることを目指します。

[ 授業概要 ]
この授業では、初めてドイツ語を学ぶ人を対象に、「発音・文法・会話」の基礎を学習していきます。またドイツ語圏の文化事情も紹介し、異文化理解を深めることも重要視します。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
授業のはじめに、前回学習した内容を復習し、理解を深めます。この授業においては、楽しく確実にドイツ語の実力を高めていくことを目標としていますので、わからないことがあるときは、どんなささいなことでも質問してください。

[ 授業計画 ]
1.アルファベットと発音
2.自己紹介
3.人を紹介する
4.専攻・言語・履修科目について話す
5.好きな（嫌いな）食べ物・飲み物・外国料理について話す
6.一日の食事について話す
7.趣味、したいこと・出来ることについて話す
8.メールを読んで返事を書く
9.家族について話す
10.職業の名称
11.所持品について尋ねる、答える
12.品物について感想を述べる、買い物をする
13.まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 毛利　真実 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（60%）・授業内評価（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
新・スツェーネン1　著者名：佐藤修子他　出版社：三修社 （978-4-384-12308-1）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
簡単な日常会話ができるようになることを目指します。

[ 授業概要 ]
この授業では、はじめてドイツ語を学ぶ人を対象に、簡単な日常会話や、そこに出てくる発音・文法を学習します。使用するテキストは、このような目標に沿った、とてもやさしくてコンパクトなものです。別冊の単語帳には、テキストで使われているすべての単語の意味が書かれているので、手軽に予習や復習をすることができます。文法事項については、一見複雑に見える規則を効率よく習得できるように配慮するとともに、はじめてドイツ語を学ぶ人が陥りやすい誤りにとくに注意しながら進めていきます。またドイツ語圏の文化事情も紹介し、異文化理解を深めtていきます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
語学の勉強は積み重ねが大切です。平素から予習・復習を心がけ、授業に臨んでください。（各回、予習復習合わせて2時間程度）

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション、アルファベート、 発音、あいさつ
2. 人称代名詞、動詞の現在人称変化
3. 名詞の性・冠詞
4. sein、habenの現在人称変化
5. 名詞の格変化、命令形
6. 前置詞(1)
7. 非人称のes、動詞の現在人称変化（不規則動詞）
8. 名詞の複数形、
9. 人称代名詞の3格と4格
10. 冠詞類
11. keinとnichtの使い方、時刻の表現
12. 分離動詞、非分離動詞
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（60%）、授業中の評価（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『シーンで学ぶ　入門テキスト ドイツ語の天使』 著者名：浅見昇吾　ほか　出版社：朝日出版社 （978-4-255-25400-5）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
簡単な日常会話ができることを目指します。

[ 授業概要 ]
この授業では、初めてドイツ語を学ぶ人を対象に、「発音・文法・会話」の基礎を学習していきます。またドイツ語圏の文化事情も紹介し、異文化理解を深めることも重要視します。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
語学の勉強は積み重ねが大切です。平素から予習・復習を心がけ、授業に臨んでください。（各回、2時間程度）

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション、アルファベート
2. 発音、あいさつ
3. 人称代名詞、動詞の現在人称変化
4. sein、haben の現在人称変化
5. 名詞の性・冠詞
6. 名詞の格変化、並列の接続詞
7. 動詞の現在人称変化（不規則動詞）
8. 命令形、人称代名詞の3格と4格、非人称のes
9. 名詞の複数形
10. 冠詞類
11. keinとnichtの使い方
12. 前置詞
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－1 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(60%)　授業内評価(40%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『アー・ツェット　楽しく学ぶドイツ語』 著者名:小野寿美子、中川明博　出版社:朝日出版社 (978-4-255-25420-3 C1084)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－2 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
総合的なドイツ語能力の基礎をつくります。

[ 授業概要 ]
前の学期に引き続き、ドイツ語の世界の更なる理解と興味を深めます。これまでに学習した知識の定着を図りながら、より多彩な日常会話表現を学んでいきます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
語学の勉強は積み重ねが大切です。平素から予習・復習を心がけ、授業に臨んでください。（各回、2時間程度）

[ 授業計画 ]
1. 話法の助動詞
2. 未来形
3. 従属の接続詞と副文、時刻の表現
4. 形容詞の格変化
5. 形容詞・副詞の比較
6. 分離動詞、非分離動詞
7. zu不定詞
8. 動詞の3基本形
9. 現在完了形（助動詞habenを使う動詞）
10. 現在完了形（助動詞seinを使う動詞）
11. 過去形
12. 再帰代名詞と再帰動詞
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－2 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(60%)　授業内評価(40%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
アー・ツェット　楽しく学ぶドイツ語　著者名:小野寿美子、中川明博　出版社:朝日出版社　(9784255254203)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
総合的なドイツ語能力の基礎をつくります。

[ 授業概要 ]
前期に引き続き、ドイツ語の世界の更なる理解と興味を深めます。これまでに学習した知識の定着を図りながら、より多彩な日常会話表現を学んでいきます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
語学の勉強は積み重ねが大切です。平素から予習・復習を心がけ、授業に臨んでください。（各回、2時間程度）

[ 授業計画 ]
1. 話法の助動詞
2. 未来形
3. 従属の接続詞と副文、時刻の表現
4. 形容詞の格変化
5. 形容詞・副詞の比較
6. 分離動詞、非分離動詞
7. zu不定詞
8. 動詞の3基本形
9. 現在完了形（助動詞habenを使う動詞）
10. 現在完了形（助動詞seinを使う動詞）
11. 過去形
12. 再帰代名詞と再帰動詞
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ｉ －２ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(60%)　授業内評価(40%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『アー・ツェット　楽しく学ぶドイツ語』 著者名:小野寿美子、中川明博　出版社:朝日出版社 (978-4-255-25420-3 C1080)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
総合的なドイツ語能力の基礎をつくります。

[ 授業概要 ]
前期に引き続いて、ドイツ語の世界への理解をさらに深めていきます。すでに学んだことの定着を図りながら、より多彩な表現を学んでいきます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
語学の勉強は積み重ねが大切です。平素から予習・復習を心がけ、授業に臨んでください。（各回、予習復習合わせて2時間程度）

[ 授業計画 ]
1. 話法の助動詞(1)
2. 前置詞(2)
3. zu不定詞(1)
4. 話法の助動詞(2)
5. zu不定詞(2)
6. 未来形
7. 再帰代名詞と再帰動詞
8. 並列の接続詞、従属の接続詞と副文
9. 動詞の3基本形
10. 過去形
11. 現在完了形
12. 形容詞の格変化、形容詞・副詞の比較
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（60%）、授業中の評価（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『シーンで学ぶ　入門テキスト ドイツ語の天使』 著者名：浅見昇吾　ほか　出版社：朝日出版社 （978-4-255-25400-5）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 毛利　真実 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
総合的なドイツ語能力の基礎をつくります。

[ 授業概要 ]
前の学期に引き続き、ドイツ語の世界の更なる理解と興味を深めます。これまでに学習した知識の定着を図りながら、より多彩な日常会話表現を学んでいきます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
授業のはじめに、前回学習した内容を復習し、理解を深めます。この授業においては、楽しく確実にドイツ語の実力を高めていくことを目標としていますので、わからないことがあるときは、どんなささいなことでも質問してください。

[ 授業計画 ]
1. ドイツ語Ⅰ－1の復習
2. 分離動詞：彼は君と一緒に外出しますか？
3. 非分離動詞：彼女は彼を今日訪問します
4. 動詞の三基本形
5. 過去人称変化
6. 現在完了形： 週末何をしましたか？
7. 形容詞の格変化
8. 形容詞の比較の表現： 母は私よりも小さい
9. 副詞の比較の表現： 彼はクラスの中で最も速く走る
10.動作受動と状態受動
11.ドイツのクリスマス
12. 非現実話法：もしも私にお金があったならば、世界旅行をするのだけれど
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 毛利　真実 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（60%）・授業内評価（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
ドイツ語をはじめましょう（三訂版）　著者名：毛利真実　出版社：アルク出版社 （978-4-7574-3693-0）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 毛利　真実 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
総合的なドイツ語能力の基礎をつくります。

[ 授業概要 ]
前の学期に引き続き、ドイツ語の世界の更なる理解と興味を深めます。これまでに学習した知識の定着を図りながら、より多彩な日常会話表現を学んでいきます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業のはじめに、前回学習した内容を復習し、理解を深めます。この授業においては、楽しく確実にドイツ語の実力を高めていくことを目標としていますので、わからないことがあるときは、どんなささいなことでも質問してください。

[ 授業計画 ]
1. ドイツ語Ⅰ－1の復習
2. 過去の出来事について話す
3. メールを読んで返事を書く
4. 住宅、部屋、家具と場所
5. 家賃と広さの言い方
6. 時刻、時間、1日の生活
7. 日付、誕生日、予定などのついて話す
8. 建物の場所を尋ねる、道案内をする
9. 交通手段や大学生活について話す
10.休暇の予定(いつ、誰と、どこで、何をするか)について話す
11.葉書を書く
12. 過去の体験や経験を話す
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 毛利　真実 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（60%）・授業内評価（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
新・スツェーネン 1

著者名：佐藤修子他　出版社：三修社　（978－4－384－12308－1）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
総合的なドイツ語能力の基礎をつくります。

[ 授業概要 ]
前期に引き続いて、ドイツ語の世界への理解をさらに深めていきます。すでに学んだことの定着を図りながら、より多彩な表現を学んでいきます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
語学の勉強は積み重ねが大切です。平素から予習・復習を心がけ、授業に臨んでください。（各回、予習復習合わせて2時間程度）

[ 授業計画 ]
1. 話法の助動詞(1)
2. 前置詞(2)
3. zu不定詞(1)
4. 話法の助動詞(2)
5. zu不定詞(2)
6. 未来形
7. 再帰代名詞と再帰動詞
8. 並列の接続詞、従属の接続詞と副文
9. 動詞の3基本形
10. 過去形
11. 現在完了形
12. 形容詞の格変化、形容詞・副詞の比較
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅰ－2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（60%）、授業中の評価（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『シーンで学ぶ　入門テキスト ドイツ語の天使』 著者名：浅見昇吾　ほか　出版社：朝日出版社 （978-4-255-25400-5）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | ドイツ語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司、J. 池田リツィウス | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
総合的なドイツ語能力の基礎をつくります。

[ 授業概要 ]
ドイツ語Ⅰ（速習）に引き続き、ドイツ語Ⅱ（速習）もドイツ人と日本人の教員が週一回ずつ連動して授業を進めます。これまで学習した知識の定着を図りながら、より多彩な日常会話表現を学んでいきます。学外には、ドイツ語検定試験の制度ありますから、これも一つの目標にすればいいと思います。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
平素から予習・復習を心がけ、持続的に学習することが重要である。（各回、2時間程度）

[ 授業計画 ]
1. 話法の助動詞
2. 未来形
3. 従属の接続詞、時刻の表現
4. 不定代名詞
5. 会話：ノイシュヴァンシュタイン城を見てみたい
6. ドイツ語圏アラカルト　ユネスコ世界遺産
7. Lesetext（ノイシュヴァンシュタイン城）
8. 形容詞の使い方
9. 形容詞の格変化
10　形容詞・副詞の比較
11. 会話：レストランでの料理の注文
12. Lesetext（ドイツ人が好む外国料理）
13. 分離動詞、非分離動詞
14. zu 不定詞
15. 会話：週末の予定は？
16. ドイツ語圏アラカルト　食べ物・飲み物・お菓子
17. Lesetext（伝統的な祭り）
18. 動詞の3基本形
19. 現在完了形
20. 会話：週末に何をしたの？
21. Lesetext（ニーナの週末）
22. 過去形
23. 再帰代名詞と再帰動詞
24. 会話：昨日はどこにいたの？
25. ドイツ語圏アラカルト ドイツの学校制度、お祭り
26. まとめ

| 科目名 | ドイツ語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 奥田　誠司、J. 池田リツィウス | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(60%)　授業内評価(40%)

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『アー・ツェット　楽しく学ぶドイツ語』　著者名：小野寿美子、中川明博　出版社：朝日出版社 (978-4-255-25420-3 C1084)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

S03070 [ CH2-007 ]

| 科目名 | ドイツ語会話 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. 池田リツィウス | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
基本的なドイツ語会話を習得します。また、コミュニケーションに役に立つスキルを身につけます。

[ 授業概要 ]
この授業では、会話と聞き取りに重点をおきます。基本的なドイツ語会話を学んだ上で、色々な場面における

会話を練習します。発音の練習などに加え、コミュニケーションがとれる方法を学びます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内容を復習し、語彙を学習することが重要です。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション、Lektion 1 ドイツ語圏の紹介、基本的な挨拶
2. Lektion 1 自己紹介,1簡単な疑問文を使った会話
3. Lektion 2 疑問代名詞を使った会話
4. Lektion 2 接続詞を使った会話、職業に関する表現
5. Lektion 3 命令形, 人称代名詞を使った会話
6. Lektion 3 非人称のes, 趣味の説明
7. Lektion 4 名詞の複数形や定冠詞類を使った会話
8. Lektion 4 不定冠詞類を使った会話、否定疑問文
9. Lektion 4 買い物に役立つ会話、数詞、家族について
10. Lektion 5 前置詞を使った表現、
11. Lektion 5 時を表す表現、前置詞と動詞
12. Lektion 5 道案内
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語会話 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. 池田リツィウス | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の課題あるいは小テスト(60%)、最終試験(40%)。小テストは添削して返却し、試験の解答例は学内ウェブで公表する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

授業で、またはイメール

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
アー・ツェット　楽しく学ぶドイツ語　著者名:小野寿美子、中川明博　出版社:朝日出版社　(9784255254203)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | ドイツ語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. 池田リツィウス | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
基本的なドイツ語会話を習得します。また、コミュニケーションに役に立つスキルを身につけます。

[ 授業概要 ]
この授業では、会話と聞き取りに重点をおきます。基本的なドイツ語会話を学んだ上で、色々な場面における会話を練習します。発音の練習などに加え、コミュニケーションがとれる方法を学びます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業内容を復習し、語彙を学習することが重要です。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. Lektion 6　助動詞を使った会話
2. Lektion 6　未来形 (werden)、主文と副文 (従属の接続詞)
3. Lektion 6　時間、天候、「～はどこにありますか」「～したい」
4. Lektion 7　形容詞の変化, 形容詞・副詞の比較級
5. Lektion 7　レストランでの会話
6. Lektion 8　分離動詞、非分離動詞
7. Lektion 8　zu不定詞, 予定を尋ねる表現
8. Lektion 8　動詞の3基本形
9. Lektion 9　現在完了形の作り方
10. Lektion 9　過去の出来事を尋ねる表現①(現在完了形
11. Lektion 10　過去形, 再帰動詞
12. Lektion 10 過去の出来事を尋ねる表現②(過去形)
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | J. 池田リツィウス | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の課題あるいは小テスト（60%）、最終試験（40%）。小テストは添削して返却し、試験の解答例は学内ウェブで公表する。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業で、またはイメール

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語（Deutsch A-Z）』 著者名：小野寿美子・中川明博　出版社：朝日出版社 （978-4-255-25420-3）

[ 参考書（ISBN） ]
辞書

| 科目名 | ドイツ語講読 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
やさしいドイツ語で書かれた文を、辞書をひきながら自分で読めるようになることを目指します。

[ 授業概要 ]
この授業では、ドイツ語の基本的な文法事項を確認しながら、やさしいドイツ語で書かれた文章を読む練習をします。使用するテキストは、やさしくて楽しい読み物、初級文法のまとめ、練習問題など、バランスの取れた内容です。また、テキストに出てくる単語や熟語については豊富な注が付いているので、手軽に予習や復習を行うことができます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
語学の勉強は積み重ねが大切です。それぞれの授業で、おぼえておくべきポイントを簡潔に示しますから、それを頭に入れた上で次の授業に臨んで下さい。(各回、予習復習合わせて2時間程度)

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション、System 1 "Ich lerne Deutsch" [不定詞、現在人称変化 I 、seinの現在人称変化、定動詞の位置](1)
2. System 1 "Ich lerne Deutsch" [不定詞、現在人称変化 I 、seinの現在人称変化、定動詞の位置](2)
3. System 2 "In Deutschland" [定冠詞derと名詞の格変化、複数形のタイプ、habenとwissenの現在人称変化](1)
4. System 2 "In Deutschland" [定冠詞derと名詞の格変化、複数形のタイプ、habenとwissenの現在人称変化](2)
5. System 3 "Ihr Freund" [定冠詞類、不定冠詞ein、所有代名詞、否定冠詞keinの用法、並列接続詞](1)
6. System 3 "Ihr Freund" [定冠詞類、不定冠詞ein、所有代名詞、否定冠詞keinの用法、並列接続詞]( 2)
7. System 4 "Sie schl?ft noch" [現在人称変化 II 、命令形、esの特殊な用法](1)
8. System 4 "Sie schl?ft noch" [現在人称変化 II 、命令形、esの特殊な用法](2)
9. System 5 "Sie geht in die Stadt" [人称代名詞の格変化、前置詞の格支配](1)
10. System 5 "Sie geht in die Stadt" [人称代名詞の格変化、前置詞の格支配](2)
11. System 6 "Immer freundlich l?cheln" [形容詞の格変化、形容詞の名詞化、従属接続詞](1)
12. System 6 "Immer freundlich l?cheln" [形容詞の格変化、形容詞の名詞化、従属接続詞](2)
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語講読 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（70%）、授業中の課題など（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『改訂版・ニューシステム１４』 著者名：西本美彦　ほか　出版社：同学社 （978-4-8102-0976-1）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

S03140 [ CH2-010 ]

| 科目名 | ドイツ語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
標準的な難易度のドイツ語で書かれた文を、辞書をひきながら自分で読めるようになることを目指します。

[ 授業概要 ]
この授業では、ドイツ語の基本的な文法事項を確認しながら、標準的なドイツ語で書かれた文章を読む練習をします。使用するテキストは、やさしくて楽しい読み物、初級文法のまとめ、練習問題など、バランスの取れた内容です。また、テキストに出てくる単語や熟語については豊富な注が付いているので、手軽に予習や復習を行うことができます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
語学の勉強は積み重ねが大切です。それぞれの授業で、おぼえておくべきポイントを簡潔に示しますから、それを頭に入れた上で次の授業に臨んで下さい。(各回、予習復習合わせて2時間程度)

[ 授業計画 ]
1. System 7 "Ein Brief" [動詞の3基本形、過去人称変化](1)
2. System 7 "Ein Brief" [動詞の3基本形、過去人称変化](2)
3. System 8 "Komplimente" [現在(過去)完了形、形容詞の比較変化](1)
4. System 8 "Komplimente" [現在(過去)完了形、形容詞の比較変化](2)
5. System 9 "Ein Schl?ssel" [話法の助動詞、未来形](1)
6. System 9 "Ein Schl?ssel" [話法の助動詞、未来形](2)
7. System 10 "Die Tochter" [分離動詞、非分離動詞](1)
8. System 10 "Die Tochter" [分離動詞、非分離動詞](2)
9. System 11 "Flohzirkus" [再帰代名詞、再帰動詞、zu不定詞](1)
10. System 11 "Flohzirkus" [再帰代名詞、再帰動詞、zu不定詞](2)
11. System 12 "Gl?cksmilch" [定関係代名詞・指示代名詞der、不定関係代名詞wer, was](1)
12. System 12 "Gl?cksmilch" [定関係代名詞・指示代名詞der、不定関係代名詞wer, was](2)
13. まとめ

| 科目名 | ドイツ語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　誠 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（70%）、授業中の課題など（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『改訂版・ニューシステム１４』 著者名：西本美彦　ほか　出版社：同学社 （978-4-8102-0976-1）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 日本語 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 専門分野における読む・書くための日本語 | | | |
| 担当者 | 安原　順子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
大学生に必要な専門分野の論文を読んだり、書いたりするための日本語力を高めることを目標とする。

[ 授業概要 ]
大学生に必要な読み・書きの日本語力を高めるために、留学生のための上級日本語の授業を行う。毎時間、異なるテーマで読解力、作文力の向上を目指した授業を行う。授業中では毎回課題を課すので、次回に提出すること。日本語教員の経験を有する教員が、その経験を活かして、留学生への日本語指導を行う。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各回、予習復習合わせて4時間程度を必要とする。次回の授業の予習をしておくこと。授業のテーマに関する新聞記事、テレビのニュースに関心を持つこと。

[ 授業計画 ]
1. 授業概要
2. 電子辞書
3. 大学秋入学
4. 英語力
5. 電子書籍
6. 夫婦別姓
7. 少子高齢化社会
8. エネルギー政策
9. 高齢者と介護
10. 日本人の食生活
11. 夜働く人々
12. 就職活動
13. まとめ

| 科目名 | 日本語 I | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 専門分野における読む・書くための日本語 | | | |
| 担当者 | 安原　順子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、毎回の課題(30%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
・レポートは添削し、毎回次週に返却する。
・添削内容については、解説を行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号／DP内容:日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。
成績評価方法:課題提出、授業参加

学科DP番号／DP内容:日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。
成績評価方法:課題提出、授業参加

学科DP番号／DP内容:日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。
成績評価方法:課題提出、授業参加

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:課題提出、授業参加

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:課題提出、授業参加

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:課題提出、授業参加

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:課題提出、授業参加

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:課題提出、授業参加

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:課題提出、授業参加

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:課題提出、授業参加

[ 教科書(ISBN) ]
授業中に指示する。 著者名:授業中に指示する。 出版社:授業中に指示する。 (授業中に指示する。)

[ 参考書(ISBN) ]
授業中に指示する。 著者名:授業中に指示する。 出版社:授業中に指示する。 (授業中に指示する。)

| 科目名 | 日本語Ⅱ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 専門分野における読み書きのための日本語 | | | |
| 担当者 | 安原　順子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
大学生に必要な専門分野の論文を読んだり、書いたりするための日本語力を高めることを目標とする。

[ 授業概要 ]
大学生に必要な読み・書きの日本語力を高めるために、留学生のための上級日本語の授業を行う。毎時間、異なるテーマで読解力、作文力の向上を目指した授業を行う。専門分野での口頭発表のためのレジュメ作成とレポート・論文作成を学ぶ。授業中には毎回課題を出すので、次回に提出すること。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
次回の授業の予習をしておくこと。授業のテーマに関する新聞記事、テレビのニュースに関心を持つこと。

[ 授業計画 ]
1．授業概要
2. 論文①
3. 論文②
4. 論文③
5. 論文④
6. レジュメ作成①
7. レジュメ作成②
8. レジュメ作成③
9. 学生Aの発表
10. 学生Bの発表
11. 学生Cの発表
12. 評価
13. まとめ

| 科目名 | 日本語Ⅱ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 専門分野における読み書きのための日本語 | | | |
| 担当者 | 安原　順子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の発表（40%）、受講態度（30%）、毎回の課題（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
・レポートは添削し、毎回次週に返却する。
・添削内容については、解説を行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

学科DP番号／DP内容：日文1-1／日本語・日本文学および日本文化に関する基礎的な知識・教養を、幅広く体系的に身に付けている。
成績評価方法：発表、受講態度、課題

学科DP番号／DP内容：日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。
成績評価方法：発表、受講態度、課題

学科DP番号／DP内容：日文3-2／伝統的な文化を理解したうえで、社会に広く関心を抱き、自立心を持って社会の多様な場面で、革新的で創造的な活動ができる。
成績評価方法：発表、受講態度、課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：発表、受講態度、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：発表、受講態度、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：発表、受講態度、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：発表、受講態度、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：発表、受講態度、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：発表、受講態度、課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：発表、受講態度、課題

[ 教科書（ISBN） ]
授業中に指示する。

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 日本語Ⅲ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡田　由紀子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
1. アクセント、イントネーション等に気を付けながら、より自然な日本語で話せるようになる。
2. 話すべき内容と構成を意識しながら、話題に応じた語彙や表現を使い、説明や描写ができる。
3. 相手との関係を損なうことなく、論理的で説得力のある意見を述べることができる。

[ 授業概要 ]
生活の日本語だけでなく、社会人として日本社会で通用する話し方、聞き方を学ぶ。説明・交渉など、社会生活において遭遇する場面を取り上げ、その場に応じたコミュニケーション能力を身につける。前期は、①アクセントやイントネーションの基礎練習、②ロールプレイ等で場面に応じた語彙や表現を確認、③実践会話で応用練習を行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習(語彙・表現・関連記事を読んでくるなど)合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 概略
2. 機能会話 (1)
3. 機能会話 (2)
4. 紹介 (1)
5. 紹介 (2)
6. 説明 (1)
7. 説明 (2)
8. インタビュー(1)
9. インタビュー (2)
10. 意見(1)
11. 意見(2)
12. ディスカッション
13. まとめ

| 科目名 | 日本語Ⅲ | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡田　由紀子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(20%)、授業内の課題(70%)、受講態度(10%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
・課題は後日添削して返却します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号／DP内容：日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。
成績評価方法：授業内の課題、受講態度、試験

学科DP番号／DP内容：日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。
成績評価方法：授業内の課題、受講態度、試験

学科DP番号／DP内容：日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。
成績評価方法：授業内の課題、受講態度、試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法：授業内の課題、受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業内の課題、受講態度、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業内の課題、受講態度、試験

[ 教科書(ISBN) ]
なし。別途プリント配布。

[ 参考書(ISBN) ]
伝わる日本語が身につく！
にほんご話し方トレーニング　中・上級レベル　著者名：中川千恵子・木原郁子・赤木浩文・篠原亜紀　出版社：ASK (9784872179446)
外国人のためのケーススタディーで学ぶビジネス日本語　中級　著者名：千駄ヶ谷日本語教育研究所　出版社：スリーエーネットワーク (9784883198535)

| 科目名 | 日本語Ⅳ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡田　由紀子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
1. アクセント、イントネーション等に気を付けながら、より自然な日本語で話せるようになる。
2. 話すべき内容と構成を意識しながら、話題に応じた語彙や表現を使い、説明や描写ができる。
3. 相手との関係を損なうことなく、論理的で説得力のある意見を述べることができる。

[ 授業概要 ]
生活の日本語だけでなく、社会人として日本社会で通用する話し方、聞き方を学ぶ。説明・交渉など、社会生活において遭遇する場面を取り上げ、その場に応じたコミュニケーション能力を身につける。後期は、ディスカッション・ディベートを中心に行い、実践力をつける。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習(語彙・表現・関連記事を読んでくるなど)合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 概略
2. 機能会話 (1)
3. 機能会話 (2)
4. 意見 (1)
5. 意見 (2)
6. インタビュー
7. ディスカッション(1)
8. ディスカッション(2)
9. ディベート(1)
10. ディベート(2)
11. プレゼンテーション(1)
12. プレゼンテーション (2)
13. まとめ

| 科目名 | 日本語Ⅳ | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡田　由紀子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験(20%)、授業内の課題(70%)、受講態度(10%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
・課題は後日添削して返却します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号／DP内容：日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。
成績評価方法：授業内の課題、受講態度、試験

学科DP番号／DP内容：日文2-3／内容や状況、相手、媒体などに応じて目的に適った日本語表現を選び、運用することができる。
成績評価方法：授業内の課題、受講態度、試験

学科DP番号／DP内容：日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。
成績評価方法：授業内の課題、受講態度、試験

学科DP番号／DP内容：日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。
成績評価方法：授業内の課題、受講態度、試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法：授業内の課題、受講態度

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業内の課題、受講態度、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業内の課題、受講態度、試験

[ 教科書(ISBN) ]
なし。別途プリント配布。

[ 参考書(ISBN) ]
伝わる日本語が身につく！
日本語話し方トレーニング　中・上級レベル　著者名：中川千恵子・木原郁子・赤木浩文・篠原亜紀　出版社：ASK（9784872179446）
外国人のためのケーススタディーで学ぶビジネス日本語　中級　著者名：千駄ヶ谷日本語教育研究所　出版社：スリーエーネットワーク（9784883198535）

| 科目名 | 日本国憲法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本国憲法 | | | |
| 担当者 | 七野　敏光 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
日本国憲法の基礎的理解

[ 授業概要 ]
一般に法令は、「法定速度を守れ」「税を納めよ」というような国の国民に対する命令である。これに反して、ただ憲法だけが「国は国民の言論の自由を侵してはならない」というように、国や公共機関に対する命令なのである。
17世紀の英国は、世界で初めて憲法という国家権力制限システムをつくりあげた。以来、多くの犠牲や辛苦をへて、それまで抵抗できなかった国家権力を制限する画期的なシステムは世界中に広がってきた。
憲法を学ぶことは、条文を暗記することではない。現実の中で、憲法の実態はいつも変化しているのであって、条文を知るだけなく、条文の働きを見る必要があるのである。
講義ではなるべく具体的に、現実の問題のなかで憲法を考えていきたい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
インターネットなどを駆使し、話題となっている法律問題（紛争や事件など）につき、リアルな情報を把握したうえで授業に参加してください。毎授業ごとの授業準備と復習に4時間程度の時間をかけてください。

[ 授業計画 ]
1. 憲法と国家
2. 人権、個人の尊重
3. 平等
4. 思想良心の自由・信教の自由
5. 表現の自由
6. 人身の自由
7. 経済活動の自由
8. 生存権
9. 教育と労働の権利
10. 国民主権と象徴天皇制
11. 国会・内閣・裁判所
12. 地方自治、平和主義
13. まとめ

| 科目名 | 日本国憲法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本国憲法 | | | |
| 担当者 | 七野　敏光 | | | |

[ 成績評価方法 ]
定期試験によって評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
試験実施後、解答を提示し説明します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:定期試験によって評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:定期試験によって評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:定期試験によって評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:定期試験によって評価する。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:定期試験によって評価する。

[ 教科書(ISBN) ]
『新時代の法学・憲法』　著者名:山田勉・笹田哲男編　出版社:建帛社 (ISBN　978-4-7679-4346-6)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 日本国憲法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本国憲法 | | | |
| 担当者 | 豊福　一 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
日本国憲法の基礎的理解

[ 授業概要 ]
日本国憲法の基礎的な内容を条文や判例、現実の社会問題に照らして解説します。
また、余剰時間が生じた場合、理解力の定着のため公務員試験等の過去問の検討も行います。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
教科書に目を通し,関連するニュースに注意しておくこと。

[ 授業計画 ]
※状況によっては遠隔授業

1. 国民主権と人権・個人の尊重
2. 法の下の平等
3. 精神の自由
4. 人身の自由
5. 経済活動の自由
6. 社会権
7. 参政権と義務
8. 立法権
9. 行政権
10. 司法権／地方自治
11. 平和主義
12. 象徴天皇制
13. まとめ

| 科目名 | 日本国憲法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本国憲法 | | | |
| 担当者 | 豊福　一 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験による評価を基本とする。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
試験については、対面授業の場合は講義時に、遠隔授業の場合はmanabaに提示し説明します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
「新時代の法学・憲法」
現代社会Ⅰと共通　著者名:山田勉他　出版社:建帛社　(978-4-7679-4346-6)

[ 参考書(ISBN) ]
特に指定しない。

| 科目名 | 日本国憲法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本国憲法 | | | |
| 担当者 | 豊福　一 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
日本国憲法の基礎的理解

[ 授業概要 ]
日本国憲法の基礎的な内容を条文や判例、現実の社会問題に照らして解説します。
また、余剰時間が生じた場合、理解力の定着のため公務員試験等の過去問の検討も行います。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
教科書に目を通し,関連するニュースに注意しておくこと。

[ 授業計画 ]
※状況によっては遠隔授業

1. 国民主権と人権・個人の尊重
2. 法の下の平等
3. 精神の自由
4. 人身の自由
5. 経済活動の自由
6. 社会権
7. 参政権と義務
8. 立法権
9. 行政権
10. 司法権／地方自治
11. 平和主義
12. 象徴天皇制
13. まとめ

| 科目名 | 日本国憲法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本国憲法 | | | |
| 担当者 | 豊福　一 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験による評価を基本とする。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
試験については、対面授業の場合は講義時に、遠隔授業の場合はmanabaに提示し説明します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
「新時代の法学・憲法」
現代社会Ⅰと共通　著者名:山田勉他　出版社:建帛社 (978-4-7679-4346-6)

[ 参考書(ISBN) ]
特に指定しない。

| 科目名 | 日本国憲法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本国憲法 | | | |
| 担当者 | 豊福　一 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
日本国憲法の基礎的理解

[ 授業概要 ]
日本国憲法の基礎的な内容を条文や判例、現実の社会問題に照らして解説します。
また、余剰時間が生じた場合、理解力の定着のため公務員試験等の過去問の検討も行います。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
教科書に目を通し,関連するニュースに注意しておくこと。

[ 授業計画 ]
※状況によっては遠隔授業

1. 国民主権と人権・個人の尊重
2. 法の下の平等
3. 精神の自由
4. 人身の自由
5. 経済活動の自由
6. 社会権
7. 参政権と義務
8. 立法権
9. 行政権
10. 司法権／地方自治
11. 平和主義
12. 象徴天皇制
13. まとめ

| 科目名 | 日本国憲法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本国憲法 | | | |
| 担当者 | 豊福　一 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験による評価を基本とする。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
試験については、対面授業の場合は講義時に、遠隔授業の場合はmanabaに提示し説明します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
「新時代の法学・憲法」
現代社会Ⅰと共通　著者名:山田勉他　出版社:建帛社　(978-4-7679-4346-6)

[ 参考書(ISBN) ]
特に指定しない。

| 科目名 | フランス語Ⅰ（速習） | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 楽しく、身につく、フランス語！ | | | |
| 担当者 | 松田　真里 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
フランス語を読む、書く、聞く、話すための基礎的な能力を身につけることを目指す。

[ 授業概要 ]
言葉は文化と共にあるもの。ファッションやコスメ、お菓子や料理、映画やアート、漫画アニメなど、豊富な映像コンテンツを用意し、皆さんの関心に合わせ、フランスへの興味を拡げ深めながら勉強します。フランス語の勉強を通して、皆さんの学生生活が、楽しく豊かなものになればと願っています。
フランス語の美しい響きに身を置きながら、まずはABC（アー・ベー・セー）の発音から始めましょう。フランス語の仕組みを理解しながら、無理なく基礎文法を習得し、一年間で日常会話が可能なレヴェルを目指します。この授業はフランス語検定4級を目指す人にもぴったりです。さらに勉強したい人には個別に対応することができます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
重要な事項については覚えるように指示しますので、それを中心に各自復習しておいてください。練習問題を宿題にすることもあります。動詞の活用やスキット文は声に出して音読するとよいです。 各回の授業について2時間程度の学習を心がけると、しっかりフランス語を習得することができるでしょう。

[ 授業計画 ]
1. アルファベット、あいさつ、自己紹介 /フランス語の基礎知識(1)国土・地名
2.「パリに着いた！（空港での会話）」/名詞の性・数/ 冠詞
3. 主語人称代名詞（私は、君は、彼は…）/発音の基本/フランス語の基礎知識(2)文化・社会
4.「ホテルにて（ホテルでの会話）」/形容詞・提示の表現
5. 動詞etre（～です）/ 国籍や職業の言い方
6.「アロー、アロー（郵便局での会話・電話のかけ方）」/形容詞・人称代名詞強勢形
7. 名詞の性と数、不定冠詞、定冠詞 /「ここに～があります」「これは～です」
8.「テラスでお茶を（カフェでの会話）」/否定文・指示形容詞
」9. 形容詞の性と数、形容詞と名詞の組み合わせ
10.「メトロに乗ろう」映画『アメリ』を楽しむ/ 疑問文
11. 動詞avoir（～を持っている）/家族の言い方
12.「名所をまわろう（パリ観光・道案内①）」/ノートルダム・エッフェル塔・凱旋門・シャンゼリゼ/ 疑問形容詞・近接未来
13. 第一群規則動詞：-er動詞 / 家族の言い方
14.「名所をまわろう（パリ観光・道案内②）」/サン・ジェルマン/素敵なカフェやお店/中性代名詞enとy
15. 否定文の作り方、指示形容詞（この、その…）
16. Qu'est-ce que c'est ? あれはなんですか？
「マルシェ（市場）と蚤の市を楽しむ」（お買い物の会話①）/命令形
17. 疑問文の作り方・応答の仕方
18.「フランスの美術館、コンサートへ行く」（チケットの買い方など）/
パリのさまざまな美術館/憧れのバレエ/近い未来と近い過去の表現
19. 動詞aller（行く）とvenir（来る）
20.「香水の国フランス」/ シャネル5番の物語/ aller, venir を使って
21. 前置詞と定冠詞の縮約・命令文
22.「体調の表現」（フランスのハーブ薬局を訪ねる）/avoir＋形容詞
23.「天気の表現」（フランスで傘をオーダーメイドする）/非人称構文
24. 所有形容詞（私の、君の、彼の…）
25.「フランス語でシャンソンを楽しむ」/発音の復習
26. 強勢形人称代名詞・疑問形容詞（どの～）、数詞 / 年齢や好きなものの聞き方
27.「フランスでおしゃれを楽しむ」（パリ・コレクション、コスメ、フランスの伝統色）
/ブティックでの会話

| 科目名 | フランス語Ⅰ（速習） | 前期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 楽しく、身につく、フランス語！ | | | |
| 担当者 | 松田　真里 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度・課題・小テスト（40パーセント）、確認テスト（60パーセント）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『ピエールとユゴー（三訂版）』2,500円＋税　著者名：小笠原洋子著　出版社：白水社　（978-4-560-06130-5）

[ 参考書（ISBN） ]
『ロベール・クレ仏和辞典』 著者名：西村牧夫編他　出版社：駿河台出版社　（978-4-411-02125）

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 廣岡　江梨子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
フランス語を読む、書く、聞く、話すための基礎的な能力を身につけることを目指す。

[ 授業概要 ]
　フランス語の発音と文法の基礎を学ぶとともに、フランスの文化にも触れます。
　フランス語習得の第一歩である発音は慣れが必要なので、毎回少しずつ規則を覚えながら繰り返し読むことにより、無理なく定着させていきます。文法としては、名詞や形容詞の扱い方、動詞の活用などを学び、フランス語の基本的な仕組みをしっかりと理解していきます。また、実際にフランス人と話す時に使えるフレーズを覚えて、簡単な会話ができるようにします。基礎を身に付けることが目的なので授業はゆっくり進めますが、みなさんの理解度に応じて応用にも挑戦できるようにします。
　言葉の背景にある文化を知ってもらうため、フランスの食べ物やファッション、映画、本などを紹介し、フランスでの生活についても折に触れて話していきたいと思います。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
　各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。重要な事項については覚えるように指示しますので、それを中心に各自復習しておいてください。練習問題を宿題にすることもあります。

[ 授業計画 ]
1. アルファベット、あいさつ、自己紹介／フランスの基礎知識(1)国土、地名
2. 主語人称代名詞(私は、君は、彼は…)／発音の基本／フランスの基礎知識(2)文化、社会
3. 動詞etre(～です)／国籍や職業の言い方
4. 名詞の性と数、不定冠詞、定冠詞／「ここに～があります」「これは～です」
5. 形容詞の性と数、形容詞と名詞の組み合わせ
6. 動詞avoir(～を持っている)／家族の言い方
7. 第一群規則動詞:-er動詞／「話す」、「住む」、「～が好き」…
8. 否定文の作り方、指示形容詞(この、その…)、疑問文の作り方、応答の仕方
9. 動詞aller(行く)とvenir(来る)、前置詞と定冠詞の縮約、命令文
10. 所有形容詞(私の、君の、彼の…)
11. 強勢形人称代名詞、疑問形容詞(どの～)、数詞／年齢や好きなものの聞き方、答え方
12. いろいろな動詞を使った文を読む、書く
13. まとめ

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 廣岡　江梨子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
受講態度（30%）、小テスト（30%）、確認テスト（40%）。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
口頭の小テストはその場で結果を伝え、正解するまで何度も挑戦できるようにします。記述の課題は結果とともにヒントを書き込んで返却し、それをもとに質問を受け付けます。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
ピエールとユゴー［三訂版］ 著者名：小笠原洋子著　出版社：白水社 （978-4-560-06130-5）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 語学嫌いなあなたにも、フランスへの誘い。 | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

［アクティブラーニング授業］

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 毎回、授業内容を自らの文章で文字化する授業シートの作成。 | 実務経験のある教員による授業 | |

［ 到達目標 ］
フランス語を読む、書く、聞く、話すための基礎的な能力を身につけることを目指す。

［ 授業概要 ］
語学の嫌いな人こそ受講してほしい(もちろん、好きなひとにもです)。この授業では、単に言葉を学ぶのではなく、フランス語を使いたくなるやる気の発掘にも力をいれています。ファッションと料理、そして多くの美術館。たち並ぶ歴史的な建物、通り過ぎるスタイリッシュなパリジャン達。そんな街パリへ行ってみませんか？そして、フランス語で、パリひいてはフランスを体験してみませんか？あなたがフランス語を話なそうとしているのが分かれば、気難しげだったパン屋の主人も、取り澄ましていたカフェのギャルソンも、表情を和らげ言ってくれるハズです「ボンジュール、マドマゼール」。授業では、実際に使えるフランス語の表現を学習し、コミュニケーションを実現させるツールとしてのフランス語の習得を目指します。それと共に、フランス文化を知ってもらう為の多くの映像コンテンツを用意し、多面的にフランスを紹介。語学の授業だから…と敬遠気味なあなたにも、きっと興味を抱かせるような授業を行います。フランス語はちょっと難しそう、でもフランス料理やパリ・コレのファッションには興味がある！と、そんな人に積極的に参加してほしい授業です。教員は言語学が専門なので、詳しい文法に興味がある方へも個別対応できます。

［ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ］
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度、授業において「ココだけは絶対」と言った部分に関して復習すること。また、授業で紹介したフランス文化に関して、興味がある部分は掘り下げて調べる努力を期待。

［ 授業計画 ］
1. フランス語とフランス文化について
2. フランス語の発音
3. 挨拶
4. ホテルのフロントにて1
5. ホテルのフロントにて2
6. カフェにて1
7. カフェにて2
8. 自己紹介1
9. 自己紹介2
10. 自己紹介3
11. ブティックにて1
12. 前期の復習
13. フランスの文化、大聖堂に関して

教科書として使うテキストはあります、使用法、価格等詳しくは初回授業にて指示します。

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 語学嫌いなあなたにも、フランスへの誘い。 | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業テキストへの書き込み（60%）、授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
12回目の授業にて授業テキストを回収、教員が添削、指導。13回目の授業冒頭に講評。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
あり、現在制作中。 著者名：出口優木　出版社：未定

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 語学嫌いなあなたにも、フランスへの誘い。 | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 毎回、授業内容を自らの文章で文字化する授業シートの作成。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
フランス語を読む、書く、聞く、話すための基礎的な能力を身につけることを目指す。

[ 授業概要 ]
語学の嫌いな人こそ受講してほしい(もちろん、好きなひとにもです)。この授業では、単に言葉を学ぶのではなく、フランス語を使いたくなるやる気の発掘にも力をいれています。ファッションと料理、そして多くの美術館。たち並ぶ歴史的な建物、通り過ぎるスタイリッシュなパリジャン達。そんな街パリへ行ってみませんか？そして、フランス語で、パリひいてはフランスを体験してみませんか？あなたがフランス語を話なそうとしているのが分かれば、気難しげだったパン屋の主人も、取り澄ましていたカフェのギャルソンも、表情を和らげ言ってくれるハズです「ボンジュール、マドマゼール」。授業では、実際に使えるフランス語の表現を学習し、コミュニケーションを実現させるツールとしてのフランス語の習得を目指します。それと共に、フランス文化を知ってもらう為の多くの映像コンテンツを用意し、多面的にフランスを紹介。語学の授業だから…と敬遠気味なあなたにも、きっと興味を抱かせるような授業を行います。フランス語はちょっと難しそう、でもフランス料理やパリ・コレのファッションには興味がある！と、そんな人に積極的に参加してほしい授業です。教員は言語学が専門なので、詳しい文法に興味がある方へも個別対応できます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度、授業において「ココだけは絶対」と言った部分に関して復習すること。また、授業で紹介したフランス文化に関して、興味がある部分は掘り下げて調べる努力を期待。

[ 授業計画 ]
1. フランス語とフランス文化について
2. フランス語の発音
3. 挨拶
4. ホテルのフロントにて1
5. ホテルのフロントにて2
6. カフェにて1
7. カフェにて2
8. 自己紹介1
9. 自己紹介2
10. 自己紹介3
11. ブティックにて1
12. 前期の復習
13. フランスの文化、大聖堂に関して

教科書として使うテキストはあります、使用法、価格等詳しくは初回授業にて指示します。

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 語学嫌いなあなたにも、フランスへの誘い。 | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業テキストへの書き込み（60%）、授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
12回目の授業にて授業テキストを回収、教員が添削、指導。13回目の授業冒頭に講評。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
あり、現在制作中。 著者名：出口優木　出版社：未定

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | P. エチエンヌ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
フランス語を読む、書く、聞く、話すための基礎的な能力を身につけることを目指す。

[ 授業概要 ]
「A vous de parker!」というテキストをつかって進んでいきます。なるべく全員が数回は話せるようにしますが、教師と学生の対話に、ほかの学生が入ってくるほどの積極性を期待しています。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業の復習して、次回の予習をしておくこと。

[ 授業計画 ]
Cours 1: Lecon 0 p 6 , 7, 8 Alphabet et prononciation
Cours 2: Lecon 1 gammaire p 10 dialogue p 11
Cours 3: Vocabulaire, exercices p 12, lecture p 13
Cours 4: Lecon 2, grammaire p 14, dialogue p 15
Cours 5: Vocabulaire, exercices p 16, lecture p 17
Cours 6: Lecon 3, grammaire p 18, dialogue p 19
Cours 7: Vocabulaire, exercices p 20,Lecture p 21
Cours 8: Revision p 22, 23
Cours 9: Lecon 4 p 24, dialogue p 25
Cours 10: Vocabulare, exercices p 26,lecture p 27
Cours 11:Lecon 5 p 28, grammaire p 28, dialogue p 29
Cours 12: Vocabulaire,exercices p 30, lecture p33
Cours 13: Lecon 6 p 32, dialogue p 33

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | P. エチエンヌ | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験、受講態度で総合的に評価します

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Paris-Bordeaux 著者名:藤田 裕二 著 出版社:㈱朝日出版社 (9784255352596
)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 楽しく、今日からフランス語！ | | | |
| 担当者 | 松田　真里 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
フランス語を読む、書く、聞く、話すための基礎的な能力を身につけることを目指す。

[ 授業概要 ]
シャネルやディオールはフランス人？マカロンやカヌレはフランス菓子？「フランス人は10着しか服を持たない」って本当？フランス料理のお食事の仕方は？フランスでのお買い物の仕方は？豊富な映像コンテンツを用意し、皆さんの関心に合わせ、フランスへの興味を拡げ深めながら勉強します。皆さんの学生生活が、フランス語の勉強を通して楽しく豊かなものになること間違いありません。
まずはABC(アー・ベー・セー)の発音からはじめ、フランス語の美しい響きに慣れていきましょう。一年間で、フランスを旅行する際に困らないレヴェルを目指します。フランス語の仕組みを理解しながら、無理なくきちんとフランス語を学びたい人にもお薦めの授業です。さらに勉強したい人に個別に対応することもできます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
重要な事項については覚えるように指示しますので、それを中心に各自復習しておいてください。練習問題を宿題にすることもあります。動詞の活用やスキット文は声に出して音読するとよいです。各回の授業について2時間程度の学習を心がけると、しっかりフランス語を習得することができるでしょう。

[ 授業計画 ]
1. アルファベット、あいさつ、自己紹介 /フランス語の基礎知識?国土・地名
2. 主語人称代名詞（私は、君は、彼は…）/発音の基本/フランス語の基礎知識?文化・社会
3. 動詞etre（～です）/ 国籍や職業の言い方
4. 名詞の性と数、不定冠詞、定冠詞 /「ここに～があります」「これは～です」「何？」を使った表現の練習
5. 形容詞の性と数、形容詞と名詞の組み合わせ
6. 動詞avoir（～を持っている）/家族の言い方
7. 第一群規則動詞：-er動詞 / 家族の言い方
8. 否定文の作り方、指示形容詞（この、その…）
9. 疑問文の作り方・応答の仕方
10. 動詞aller（行く）とvenir（来る）
11. 前置詞と定冠詞の縮約・命令文
12. 所有形容詞（私の、君の、彼の…）
13. 強勢形人称代名詞・疑問形容詞（どの～）、数詞 / 年齢や好きなものの聞き方

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 楽しく、今日からフランス語！ | | | |
| 担当者 | 松田　真里 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度・課題・小テスト（40パーセント）、確認テスト（60パーセント）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『ピエールとユゴー（三訂版）』 著者名：小笠原　洋子　出版社：白水社 （978-4-560-06130-5）
タルト・タタン（CD付） 著者名：藤田　裕二　出版社：駿河台出版社 （978-4-411-01120-6 C1085）

[ 参考書（ISBN） ]
『ロベール・クレ仏和辞典』 著者名：西村牧夫編他　出版社：駿河台出版社 （978-4-411-02125-0）

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 語学嫌いなあなたにも、フランスへの誘い。 | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 毎回、授業内容を自らの文章で文字化する授業シートの作成。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
フランス語を読む、書く、聞く、話すための基礎的な能力を身につけることを目指す。

[ 授業概要 ]
語学の嫌いな人こそ受講してほしい(もちろん、好きなひとにもです)。この授業では、単に言葉を学ぶのではなく、フランス語を使いたくなるやる気の発掘にも力をいれています。ファッションと料理、そして多くの美術館。たち並ぶ歴史的な建物、通り過ぎるスタイリッシュなパリジャン達。そんな街パリへ行ってみませんか？そして、フランス語で、パリひいてはフランスを体験してみませんか？あなたがフランス語を話なそうとしているのが分かれば、気難しげだったパン屋の主人も、取り澄ましていたカフェのギャルソンも、表情を和らげ言ってくれるハズです「ボンジュール、マドマゼール」。授業では、実際に使えるフランス語の表現を学習し、コミュニケーションを実現させるツールとしてのフランス語の習得を目指します。それと共に、フランス文化を知ってもらう為の多くの映像コンテンツを用意し、多面的にフランスを紹介。語学の授業だから…と敬遠気味なあなたにも、きっと興味を抱かせるような授業を行います。フランス語はちょっと難しそう、でもフランス料理やパリ・コレのファッションには興味がある！と、そんな人に積極的に参加してほしい授業です。教員は言語学が専門なので、詳しい文法に興味がある方へも個別対応できます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度、授業において「ココだけは絶対」と言った部分に関して復習すること。また、授業で紹介したフランス文化に関して、興味がある部分は掘り下げて調べる努力を期待。

[ 授業計画 ]
1. フランス語とフランス文化について
2. フランス語の発音
3. 挨拶
4. ホテルのフロントにて1
5. ホテルのフロントにて2
6. カフェにて1
7. カフェにて2
8. 自己紹介1
9. 自己紹介2
10. 自己紹介3
11. ブティックにて1
12. 前期の復習
13. フランスの文化、大聖堂に関して

教科書として使うテキストはあります、使用法、価格等詳しくは初回授業にて指示します。

| 科目名 | フランス語Ⅰ －1 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 語学嫌いなあなたにも、フランスへの誘い。 | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業テキストへの書き込み（60%）、授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
12回目の授業にて授業テキストを回収、教員が添削、指導。13回目の授業冒頭に講評。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
あり、現在制作中。 著者名：出口優木　出版社：未定

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 廣岡　江梨子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
現地のレストランやブティックなどで簡単なやり取りができるレベルを目指す。

[ 授業概要 ]
前期に引き続き、フランス語の発音と基礎文法を学び、フランスについての知識を身に付けます。
発音については、繰り返し読む練習をして無理なく定着させていきます。文法としては、いろいろな動詞の活用に加え、目的語人称代名詞などを学び、初等文法を完成させます。また、実際にフランス人と話す時に使えるフレーズを覚えて、簡単な会話ができるようにします。基礎を身に付けることが目的なので授業はゆっくり進めますが、みなさんの理解度に応じて応用にも挑戦できるようにします。
言葉の背景にある文化を知ってもらうため、フランスの食べ物やファッション、映画、本などを紹介し、フランスでの生活についても折に触れて話していきたいと思います。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。重要な事項については覚えるように指示しますので、それを中心に各自復習しておいてください。練習問題を宿題にすることもあります。

[ 授業計画 ]
1. フランス語Iの復習(1)名詞、形容詞
2. フランス語Iの復習(2)動詞
3. 部分冠詞、第2群規則動詞:-ir動詞
4. 動詞vouloir(～したい)とpouvoir(～できる)
5. 非人称構文／時刻の聞き方、答え方
6. 直接目的語人称代名詞(私を、君を、彼を…)
7. 間接目的語人称代名詞(私に、君に、彼に…)
8. 代名動詞 、いろいろな動詞の活用
9. 近接未来(～しようとしている)、近接過去(～したばかりだ)／注文の仕方
10. 中性代名詞、比較級と最上級
11. 時制について／会話の練習
12. 読解の練習
13. まとめ

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 廣岡　江梨子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
中間課題（40%）、期末課題（60%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題実施後、解答を提示し説明します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
ピエールとユゴー［三訂版］ 著者名：小笠原洋子著　出版社：白水社 （978-4-560-06130-5）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | フランスへの旅立ち | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 毎回、授業内容を自らの文章で文字化する授業シートの作成。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
現地のレストランやブティックなどで簡単なやり取りができるレベルを目指す。

[ 授業概要 ]
ヨーロッパ文化の中心フランス、ファッションとグルメの都であるパリを、フランス語を使って旅したくありませんか？後期の授業では、ボキャブラリーの充実を目指し、様々な場面、事態に対応できる力の養成をめざします。また、習うよりは慣れろと後回しにした文法に関しても、丸暗記という形ではなく、なぜフランス語ではそういう話し方をするのか？という疑問に答える形で明らかにすることで、一度、理解すれば他の表現へも応用可能な形で習得することをめざします。同時に、フランス文化への理解を高める為に、フランスの歴史、フランスの地方の特色、そしてフランス料理などの説明も交え、言葉を学ぶことは、文化を理解することであると体感してもらえる授業を目指します。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度、授業中に「ココだけは絶対」と言った事柄に関して復習。また、授業で紹介した文化に関して個人手的に掘り下げて調べること。

[ 授業計画 ]
1. 前期の復習
2. 発音の復習
3. ブティックにて2
4. ブティックにて3
5. ワイン・バーにて1
6. ワイン・バーにて2
7. メトロの駅で
8. ミュゼをめざして1
9. ミュゼをめざして2
10. レストランにて1
11. レストランにて2
12. 後期の復習とまとめ
13. フランス式のマナーに関して

授業テキストに関しては、初回の授業で指示します。

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | フランスへの旅立ち | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の内容をノートに書きとってもらった内容（60%）授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
12回目の授業にて授業テキストを回収、教員が添削・指導。13回目授業冒頭に講評。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
あり、現在制作中。 著者名：出口優木　出版社：未定

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | フランスへの旅立ち | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 毎回、授業内容を自らの文章で文字化する授業シートの作成。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
現地のレストランやブティックなどで簡単なやり取りができるレベルを目指す。

[ 授業概要 ]
ヨーロッパ文化の中心フランス、ファッションとグルメの都であるパリを、フランス語を使って旅したくありませんか？後期の授業では、ボキャブラリーの充実を目指し、様々な場面、事態に対応できる力の養成をめざします。また、習うよりは慣れろと後回しにした文法に関しても、丸暗記という形ではなく、なぜフランス語ではそういう話し方をするのか？という疑問に答える形で明らかにすることで、一度、理解すれば他の表現へも応用可能な形で習得することをめざします。同時に、フランス文化への理解を高める為に、フランスの歴史、フランスの地方の特色、そしてフランス料理などの説明も交え、言葉を学ぶことは、文化を理解することであると体感してもらえる授業を目指します。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度、授業中に「ココだけは絶対」と言った事柄に関して復習。また、授業で紹介した文化に関して個人手的に掘り下げて調べること。

[ 授業計画 ]
1. 前期の復習
2. 発音の復習
3. ブティックにて2
4. ブティックにて3
5. ワイン・バーにて1
6. ワイン・バーにて2
7. メトロの駅で
8. ミュゼをめざして1
9. ミュゼをめざして2
10. レストランにて1
11. レストランにて2
12. 後期の復習とまとめ
13. フランス式のマナーに関して

授業テキストに関しては、初回の授業で指示します。

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | フランスへの旅立ち | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の内容をノートに書きとってもらった内容（60%）授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
12回目の授業にて授業テキストを回収、教員が添削・指導。13回目授業冒頭に講評。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
あり、現在制作中。 著者名：出口優木　出版社：未定

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | P. エチエンヌ | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
現地のレストランやブティックなどで簡単なやり取りができるレベルを目指す。

[ 授業概要 ]
前期とおなじテキストをつかって進んでいきます。なるべく全員が数回は話せるようにしますが、教師と学生の対話に、ほかの学生が入ってくるほどの積極性を期待しています。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業の復習して、次回の予習をしておくこと。

[ 授業計画 ]
Cours 1: Lecon 7p 36, gammaire p 37
Cours 2: Vocabulaire exercices p 38 , lecture p 39
Cours 3:Revisions p40 , 41
Cours 4: Lecon 8 p 42, grammaire p42, dialogue p 43
Cours 5: Vocabulaire p44, lecture p 45
Cours 6: Grammaire p 46,dialogue p 47
Cours 7: Vocabulaire, exercices p48, lecture p 49
Cours 8: Lecon p 10, grammaire p 50, dialogue p 51
Cours 9: Vocabulaire p 52, lecture p 53
Cours 10: Revisoins p 54, 55
Cours 11: Lecon ,grammaire p 56, dialogue p 57
Cours 12: Vocabulaire ,exercices p 58, lecture p 59
Cours 13: Grammaire p 60,dialogue p 61

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | P. エチエンヌ | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験、受講態度で総合的に評価します

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
Paris-Bordeaux
パリ、ボルドー
￥2,500+税　著者名:藤田　裕二　著　出版社:㈱朝日出版社　(ISBN978-4-255-35259-6)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | フランスへの旅立ち | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 毎回、授業内容を自らの文章で文字化する授業シートの作成。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
現地のレストランやブティックなどで簡単なやり取りができるレベルを目指す。

[ 授業概要 ]
ヨーロッパ文化の中心フランス、ファッションとグルメの都であるパリを、フランス語を使って旅したくありませんか？後期の授業では、ボキャブラリーの充実を目指し、様々な場面、事態に対応できる力の養成をめざします。また、習うよりは慣れろと後回しにした文法に関しても、丸暗記という形ではなく、なぜフランス語ではそういう話し方をするのか？という疑問に答える形で明らかにすることで、一度、理解すれば他の表現へも応用可能な形で習得することをめざします。同時に、フランス文化への理解を高める為に、フランスの歴史、フランスの地方の特色、そしてフランス料理などの説明も交え、言葉を学ぶことは、文化を理解することであると体感してもらえる授業を目指します。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度、授業中に「ココだけは絶対」と言った事柄に関して復習。また、授業で紹介した文化に関して個人手的に掘り下げて調べること。

[ 授業計画 ]
1. 前期の復習
2. 発音の復習
3. ブティックにて2
4. ブティックにて3
5. ワイン・バーにて1
6. ワイン・バーにて2
7. メトロの駅で
8. ミュゼをめざして1
9. ミュゼをめざして2
10. レストランにて1
11. レストランにて2
12. 後期の復習とまとめ
13. フランス式のマナーに関して

授業テキストに関しては、初回の授業で指示します。

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | フランスへの旅立ち | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の内容をノートに書きとってもらった内容（60%）授業中の課題（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
12回目の授業にて授業テキストを回収、教員が添削・指導。13回目授業冒頭に講評。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
あり、現在制作中。 著者名：出口優木　出版社：未定

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 楽しく、今日からフランス語！ | | | |
| 担当者 | 松田　真里 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
現地のレストランやブティックなどで簡単なやり取りができるレヴェルを目指す。

[ 授業概要 ]
シャネルやディオールはフランス人？マカロンやカヌレはフランス菓子？「フランス人は10着しか服を持たない」って本当？フランス料理のお食事の仕方は？フランスでのお買い物の仕方は？豊富な映像コンテンツを用意し、皆さんの関心に合わせ、フランスへの興味を拡げ深めながら勉強します。皆さんの学生生活が、フランス語の勉強を通して楽しく豊かなものになること間違いありません。
後期は、前期に勉強した基礎文法の続きと、フランスについての知識をさらに身に付けます。一年間で、フランスを旅行する際に困らないレヴェルを目指します。フランス語の仕組みを理解しながら、楽しく、無理なくきちんとフランス語を学びたい人にもお薦めの授業です。さらに勉強したい人に個別に対応することもできます。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
重要な事項については覚えるように指示しますので、それを中心に各自復習しておいてください。無理のない範囲で、練習問題を宿題にすることもあります。動詞の活用やスキット文は声に出して音読するとよいです。各回の授業について2時間程度の学習を心がけると、しっかりフランス語を習得することができるでしょう。

[ 授業計画 ]
1. フランス語Iの復習（1）名詞・形容詞
2. フランス語Iの復習（2）動詞
3. 部分冠詞、第二群規則動詞：-ir動詞
4. 動詞vouloir（～したい）とpouvoir(～できる)
5. 非人称構文/時刻の聞き方、答え方
6. 直接目的語人称代名詞（私を、君を、彼を…）
7. 間接目的語人称代名詞（私に、君に、彼に…）
8. 代名動詞
9. いろいろな動詞の活用
10. 近接未来（～しようとしている）、近接過去（～したばかりだ）したばかりだ/注文の仕方
11. 中性代名詞
12. 比較級、最上級
13. 時制について/会話の練習

| 科目名 | フランス語Ⅰ －2 | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 楽しく、今日からフランス語！ | | | |
| 担当者 | 松田　真里 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度・課題・小テスト（40パーセント）、確認テスト（60パーセント）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
ピエールとユゴー（三訂版） 著者名：小笠原洋子　出版社：白水社 （978-4-560-06130-5）
タルト・タタン（CD付） 著者名：藤田裕二　出版社：駿河台出版社 （978-4-411-01120-6 C1085）

[ 参考書（ISBN） ]
『ロベール・クレ仏和辞典』 著者名：西村牧夫編他　出版社：駿河台出版社 （978-4-411-02125-0）

| 科目名 | フランス語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 楽しく、身につく、フランス語！ | | | |
| 担当者 | 松田　真里 | | | |

［アクティブラーニング授業］

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

［ 到達目標 ］
現地のレストランやブティックなどで簡単なやり取りができるレヴェルを目指す。

［ 授業概要 ］
言葉は文化と共にあるもの。ファッションやコスメ、お菓子や料理、映画やアート、漫画アニメなど、豊富な映像コンテンツを用意し、皆さんの関心に合わせ、フランスへの興味を拡げ深めながら勉強します。フランス語の勉強を通して、皆さんの学生生活が、楽しく豊かなものになればと願っています。
後期は、基礎文法の続きを無理なく学び、習ったフランス語を使った会話練習にも力を入れます。無理なく、楽しくフランス語の仕組みを理解し、実際に使えるフランス語を習得します。一年間で日常会話が可能なレヴェルを目指します。この授業はフランス語検定4級を目指す人にもぴったりです。さらに勉強したい人には個別に対応することができます。

［ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ］
重要な事項については覚えるように指示しますので、それを中心に各自復習しておいてください。練習問題を宿題にすることもあります。動詞の活用やスキット文は声に出して音読するとよいです。 各回の授業について2時間程度の学習を心がけると、しっかりフランス語を習得することができるでしょう。

［ 授業計画 ］
1. フランス語Ⅰの復習（1）名詞・形容詞
2.「フランス人とヴァカンス」/ エリック・ロメールの二つの映画から/発音復習
3. フランス語Ⅰの復習（2）動詞
4.「水を買う？」（フランス食料店、スーパー、朝市での会話）/部分冠詞
5. 部分冠詞、第二群規則動詞：-ir動詞
6.「アンティークを選ぶたのしみ」（フランスでの買い物②）/指示形容詞と数字復習/価格交渉
7. 動詞vouloir（～したい）とpouvoir(～できる)
8.「エスカルゴって何？」（レストランでの会話①）/疑問代名詞・疑問副詞
9. 非人称構文/時刻の聞き方、答え方
10.「フランスのチーズとワイン」（メニューの読み方、食事の楽しみ方）
11. 直接目的語人称代名詞（私を、君を、彼を…）
12.「モナ・リザに会う」（美術館を楽しむ）/過去分詞・複合過去
13. 間接目的語人称代名詞（私に、君に、彼に…）
14.「お買い物を楽しむ③」（ブティックでの会話）/比較級・最上級
15. 代名動詞
16.「セーヌ河は流れる」（パリの旅での会話①）/半過去形
17. いろいろな動詞の活用
18.「オペラ座を楽しむ」（パリの旅での会話②）/単純未来形
19. 近接未来（～しようとしている）、近接過去（～したばかりだ）/注文の仕方
20. フランスで食事を楽しむ②
21. 中性代名詞
22.「フランスの地方」（代名詞を使った会話）
23. 比較級、最上級
24.「フランスの民族衣装（あこがれのアルルの女性になってみる！）」/フランス更紗の物語/トワル・ド・ジュイとソレイアード/比較級、最上級復習
25. 時制について/会話の練習
26.「フランスのさまざまな行事について：クリスマス」
27. 読解の練習①「あなたのマドレーヌは？（プルースト現象）」記憶のお菓子と香り/複合過去と半過去の違い
28. まとめ

| 科目名 | フランス語Ⅱ（速習） | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 楽しく、身につく、フランス語！ | | | |
| 担当者 | 松田　真里 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度・課題・小テスト（40パーセント）、確認テスト（60パーセント）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『ピエールとユゴー（三訂版）』2,500円＋税　著者名：小笠原洋子著　出版社：白水社 （978-4-560-06130-5 ）

[ 参考書（ISBN） ]
『ロベール・クレ仏和辞典』西村牧夫編他　著者名：西村牧夫編他　出版社：駿河台出版社 （978-4-411-02125-0）

| 科目名 | フランス語会話Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
基本的なフレーズの運用能力を身につけ、自分の考えをある程度表現できることを目指す。

[ 授業概要 ]
　1年目に学んだことを復習しつつ、実際の生活の中で役立つ文法や表現を学び、学生が興味あるボキャブラリーを増やしていくことを目指します。フランスへの旅を全体の主なテーマとし、すぐ使える表現を厳選し、確実に話せるを目指します。パリを中心とした旅行ガイド、交通手段、道の尋ね方、美術館、買い物の会話まで、会話におけるフランス語運用能力とフランス文化についての知識を同時に身に付けます。繰り返し聞いて話す練習も行います。また、流行のファッション、音楽の紹介通じ、現在のフランスを知ってもらおうと思っています。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。毎回、学習した文法や表現を各自復習しておいてください。
テーマについての予習などを授業内で指示することもあります。

[ 授業計画 ]
1. 授業の方向性の説明　文法の確認
2. 挨拶1　母音の発音に関して
3. 挨拶2　子音の発音に関して
4. 人にものを頼む表現　リエゾンの話
5. カフェでの会話1　カルト(メニュー表)の見方
6. カフェでの会話2　ラテン諸国のカフェ文化の紹介
7. 物を買う表現　百貨店の日仏比較
8. ブティックでの会話1　パリコレの紹介
9. ブティックでの会話2　市場、専門店の紹介
10. バス、鉄道(地下鉄)での表現　フランスの交通事情
11. ホテルのロビーでの会話
12. 自己紹介をする　フランス語で自分のことを話す準備
13. まとめ

| 科目名 | フランス語会話Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[ 成績評価方法 ]
中間課題（40%）、期末課題（60%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題実施後、解答を提示し説明します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
プリント配布

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | フランス語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
基本的なフレーズの運用能力を身につけ、自分の考えをある程度表現できることを目指す。

[ 授業概要 ]
フランス語会話Ⅰで学んだことを基礎として、フランス語の会話の幅を広げることを授業の目的とします。大まかなガイドラインは示しますが、授業の内容は参加者の興味に寄り添う形で随時修正する予定です。目的を持ってフランス語を学習する参加態度を期待します。教員側からは、フランス各地の魅力を発見できるメディア・コンテンツを提供し、よりフランスへの興味が、そしてフランス語学習への意欲が、向上するような授業目指します。また、必要または要望に応じて、フランス語の文法の説明も加えます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度。毎回、学習した文法や表現を各自復習しておいてください。テーマについての予習などを授業内で指示することもあります。

[ 授業計画 ]
1. 授業の進め方の説明　文法の確認
2. 参加者の自己紹介　授業の方向性の決定
3. 自己紹介1　自分のこと（疑問代名詞） マルセイユ
4. 自己紹介2　家族のこと　（関係代名詞） ニース
5. 自己紹介3　趣味・仕事のこと （強調構文） アルル
6. レストランの会話1（指示代名詞）　ディジョン
7. レストランの会話2（受動態）　ナンシー
8. 病院での会話1（所有代名詞） ストラスブール
9. 病院での会話2　ランス
10. 買い物の会話あれこれ1　サン・マロ
11. 買い物あれこれ2　ボルドー
12. 買い物あれこれ3　カルカソンヌ
13. まとめ

| 科目名 | フランス語会話Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[ 成績評価方法 ]
中間課題（40%）、期末課題（60%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題実施後、解答を提示し説明します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
プリント配布

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | フランス語講読Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 簡単に読めるフランス語からはじめよう | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 毎回、授業内容を自らの文章で文字化する授業シートの作成。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
フランス語の基礎を固めつつ、文の仕組みを把握し、まとまった文章をできるようになる。

[ 授業概要 ]
フランス語のレシピが読めたら、最新フランス料理、地方の郷土料理、モロッコなど北アフリカの料理、もちろんフランス菓子と世界が広がります。この授業では、フランスらしいものを通して文化の違いを感じ、西洋文化への理解を深めるものにする予定です。多くの映像や資料を使って、フランス文化への関心を高め、継続的にフランスに係わってもらう為のスタートラインにしたいと願っています。手始めとして、文法事項が少なく読みやすいフランス語のレシピを中心に読みます。また、フランスでも大人気の日本のマンガ、それをフランス語で読み、翻訳から日仏の文化の違いを感じる試みを併せて行います。(授業で使う教材に関しては、初回の授業で指示します。)フランス料理・フランス菓子に興味のある方なら、きっと楽しめる授業であることを保障します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度、講読という授業形式上、前もってテキストに目を通しておき、出来る限り辞書を引き予め訳をつけて授業に臨むこと。また、興味ある文化的事柄に関して個人的に掘り下げて調べること。

[ 授業計画 ]
1. フランス語の世界の紹介
2. 参加者の文法レベルのチェックとおさらい
3. フランス語のレシピの読み方
4. フランスの郷土料理のレシピ1　ラタトゥイユetc
5. フランスの郷土菓子のレシピ1　クレーム・ブリュレetc
6. フランスの郷土料理のレシピ2　ブイヤベースetc
7. フランスの郷土菓子のレシピ2　タルト・タタンetc
8. フランス文化におけるワインの重要性について
9. フランスの郷土料理のレシピ3　キッシュ・ロレーヌetc
10. フランスの郷土菓子のレシピ3　フォンダン・ショコラetc
11. フランスの郷土料理のレシピ4　ブッフ・ブルギニョンetc
12. 前期レシピのおさらいとまとめ
13. ワインとフランス料理のマリアージュに関して

※ただし参加者の希望に応じて読む内容、順序は随時変更する。

| 科目名 | フランス語講読 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 簡単に読めるフランス語からはじめよう | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の内容をノートに書きとってもらった内容（70%）授業中の課題（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
12回目の授業において、授業ノートの提出をしてもらい、教員がチェックする。必要に応じて、そのノートに添削、指導をする。また13回目の授業冒頭に、講評を加える。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
あり、現在制作中。 著者名：出口優木　出版社：未定

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | フランス語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 翻訳からみる日仏文化の違い | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 毎回、授業内容を自らの文章で文字化する授業シートの作成。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
辞書を用いればフランス語で書かれた料理レシピ、絵本、、簡単な雑誌が読めるレベルを目指す。

[ 授業概要 ]
前期同様に、フランス語を学ぶことはフランス文化を学ぶことをモットーに授業を行う。
フランスの料理、ファッションなど興味が起き易い分野から入り、徐々にフランス文化、フランス語の世界へ導いていけるような授業を目指す。またフランスで大人気の日本のマンガを、フランス語の翻訳で読むことで日仏文化の違いを感じてもらいたい。教員の希望としては、この授業を通して、フランス文学やフランス哲学などに少しでも興味を抱いていただきたい。ただ、現実的には、「リサとガスパール」のような絵本でもいいから、フランス語の原文で読んでみたいと思ってもらえればいいと思う。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各回の授業について予習復習合わせて2時間程度、講読という授業形式上、前もってテキストに目を通しておき、出来る限り辞書を引き予め訳をつけて授業に臨むこと。また、興味ある文化的事柄に関して個人的に掘り下げて調べること。

[ 授業計画 ]
1. フランス語の世界の紹介
2. 最低限必要な文法の補講
3. フランス語の絵本の世界
4. フランス菓子のレシピ４　マカロンetc
5. 「リサとガスパール」etcを読んでみる
6. フランス料理のレシピ５　タジン、クスクスetc
7. フランスにおける日本のマンガ
8. フランス菓子のレシピ５　ガレット・デ・ロワ
9. フランス語でマンガを読んでみる
10. フランス料理のレシピ６　ポトフ
11. フランス菓子のレシピ６　カヌレ・ドゥ・ボルドー
12. 後期の復習とまとめ
13. フランスという国への招待～パリを巡る話～

＊読む対象、順番などは参加者の要望に応じて変更します。

| 科目名 | フランス語講読Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 翻訳からみる日仏文化の違い | | | |
| 担当者 | 出口　優木 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の内容をノートに書きとってもらった内容（70%）授業中の課題（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
12回目の授業にて授業ノートを回収、教員が添削・指導。また、13回目の授業時に講評。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
あり、現在制作中。 著者名：出口優木　出版社：未定

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 歴史Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本の歴史 （日本中世の「女性像」を考える） | | | |
| 担当者 | 梶木　良夫 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 図書館を活用し、興味をもったテーマの本を探し出し、知識を深める（ディープラーニング） | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
日本の歴史的特質を性差の視座からとらえ直した成果を学び、歴史のみかたをひろげる力を身につける。

[ 授業概要 ]
近年、日本社会史の分野では、社会的文化的性差（ジェンダー）に対する関心の高まりとも関連させて、豊かな成果が生みだされている。日本中世でも、諸階層の「家」の成立や生業の「場」の多様性、労働の具体像などに関心が注がれている。また、「女性」の地位や役割に関する議論も継続している。授業では、武士・貴族・庶民などの諸階層において、性差が人びとの生活や活動にどのような意味をもっていたかを、絵巻物などのビジュアル資料も使用して、具体的に紹介する。
なお、受講生が授業を聴いて考えたことを記述するショートレポートを課し、その内容から興味深い意見を次の授業で紹介し、受講者の理解を広げ深める機会を設ける。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
興味を持った授業テーマに関する研究文献を読み、授業で得た関心を自ら拡げるよう取り組むことを求めたい。

[ 授業計画 ]
1. 性差の視座で歴史を見直す －現代女性の課題と歴史をみる視点－
2.「女性史」という視角はなぜ必要か　－社会的性差の意味－
3. 描かれた性差　－絵画資料を読み取る試み－
4. 平安期の「女性」像（1）－文学作品を題材として－
5. 平安期の「女性」像（2）－戦国期との比較から－
6. 中世武家の「女性」像（1）－正妻の成立－
7. 中世武家の「女性」像（2）－正妻・後家－
8. 中世社会と性差（1）－「献身」という生き方 －
9. 中世社会と性差（2）　変わる労働
10. 描かれた「女性」像 － 現代作品が描く中世「女性」像 －
11. 庶民の女性像を考える －「狂言」にみる民衆の夫婦像－
12. 性差の視座を活かすために
13. まとめ

| 科目名 | 歴史Ⅰ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 日本の歴史 （日本中世の「女性像」を考える） | | | |
| 担当者 | 梶木　良夫 | | | |

[ 成績評価方法 ]
学期末レポート（60%）授業ごとのショートレポート（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
ショートレポートに書かれた疑問に対する回答などと学生の講義に対するコメントをまとめたプリントを配布し、履修者相互の理解を深める。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：学期末レポート・ショートレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：学期末レポート・ショートレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：学期末レポート・ショートレポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：学期末レポート・ショートレポート

[ 教科書（ISBN） ]
なし。プリントを配布する。

[ 参考書（ISBN） ]
なし。授業中に適宜、紹介する。

| 科目名 | 歴史Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 東アジアにおける農産業史 | | | |
| 担当者 | 牛根　靖裕 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | 授業内で紹介する歴史事象について、その要因と社会的な影響について考察し、ショートレポートに論述する。 | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
機械工業化する以前の、われわれが意識する伝統的な東アジアの文化がどのような社会と生産形態によって成り立っていたのか、その歴史的背景を理解する。

[ 授業概要 ]
近世東アジアの社会生活や伝統文化を成り立たせた農業史・産業史・経済史に関して、各時代や地方を代表する幾つかの農業・産業の歴史を通して概観します。
近年、欧米先進諸国の経済的低迷に対して、アジア経済、とりわけ中国経済の成長は著しいものか?あります。それらは全て近年に突然誕生したもの?はなく、長い生産活動の歴史的な発展によって産み出されたものです。いま東アジア各地の産業や社会か?と?のようにして成り立ったのかを意識しつつ、これまでの歴史的経緯を理解することによって、現代東アジアの諸相を考える糧としてもらいたい。
授業ではDVD等の視聴覚教材も利用しながら、歴史的な概要の理解を促しつつ、受講生にはその社会的な影響について考察してもらいます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎回授業後にコメントをまとめ、提出することで、授業内容の整理を自分なりに行なう。
授業では扱う時代・対象は多岐にわたるため、予備知識として、中学歴史、高校世界史の教科書、あるいはアジア史の概説書等を通読しておくことを求める。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス・イントロダクション
2. 食の社会史 -コメとイモ-
3. 食の社会史 -乳製品と小麦-
4. 食の社会史 -水-
5. 物流の社会史 -馬-
6. 物流の社会史 -運河・橋梁-
7. 物流の社会史 -海運-
8. 交易品の社会史 -書籍-
9. 交易品の社会史 -香辛料-
10. 交易品の社会史 -茶-
11. 手工業の社会史 -絹-
12. 手工業の社会史 -磁器-
13. 手工業の社会史 -ワタ-
授業の実施状況によっては変更することもあり得ます。

| 科目名 | 歴史Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 東アジアにおける農産業史 | | | |
| 担当者 | 牛根　靖裕 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業参加度（70%）　期末レポート（30%）
・授業参加度は、毎回授業時に課す「ショートレポート」によって採点します。ショートレポートには各回の授業における疑問・問題にたいする各自の考察を示してもらいます。
・授業への出席（参加）が授業実施回数の3分の2に満たない場合は、成績評価の対象としません。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
ショートレポートに書かれた内容について、重要なものについては次回授業において反応する予定です。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
授業担当者が作成したレジュメ・資料を配布する。

[ 参考書（ISBN） ]
中国食物史の研究　著者名：篠田統　出版社：八坂書房
中国日常食史の研究　著者名：中村広一　出版社：汲古書院
（9784762929892）
人とミルクの1万年　著者名：平田昌弘　出版社：岩波書店（9784005007905）
春耕のとき　著者名：大沢正昭・中林広一 編著　出版社：汲古書院（9784762965593）
東アシ?ア経済史の諸問題　著者名：松田孝一 編著　出版社：阿吽社

# 資　格　科　目

（授業科目名五十音順）

| 科目名 | 英語科指導法Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 国際教養学科用 | | | |
| 担当者 | 田中　章愛 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
英語指導法の一つであるIntake Readingを学ぶとともに、英語の教科用図書の活用方法を学習する。また、教材やICTの活用方法、英語による授業展開やALTとのティーム・ティーチングの方法についての理解を踏まえた5つの領域(「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」及び「書くこと」)の指導と領域統合型の言語活動の指導についての知識・技能を身に付ける。

[ 授業概要 ]
まず、学習指導要領に基づく5つの領域(「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」及び「書くこと」)の指導について英語科指導法Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を再度確認し、複数の領域を統合した言語活動について理解を深める。次に、生徒の間違った英文産出を減らすことができる、齋藤(2011)で提案されたIntake Readingという指導法を学び、加えて、英語の教科用図書(教科書)の活用方法について学習する。また、英語の音声、文字、語彙・表現の指導についても授業映像の視聴等を通して実践方法を学ぶ。さらに、プレゼンテーションソフトウェアや音声編集ソフトウェア等のICTを活用した視聴覚教材の導入を体験し、英語でのインタラクション、ALTとのティーム・ティーチングの方法についてもさらなる知識と技能を身に付ける。模擬授業では、これまで学習した指導法を踏まえた5つの領域の指導及び複数の領域を統合した言語活動(音声、文字、語彙・表現の指導も含む)を実施することで、これらの指導法について体験的に学習する。授業は、模擬授業と講義の両方を行うが、講義については内容が定着しているか小テストを実施する。

学校現場でで教諭を務めた経験のある教員が、その経験を活かして、特に英語学習が苦手な生徒への教授法を指導する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業についての予習・復習4時間程度。
模擬授業前には学習指導案・教材を準備しておくこと。(詳細は授業中に説明します。)講義の際には、ノートをとる準備をしておくこと。

[ 授業計画 ]

1. 学習指導要領と検定教科書、領域統合型の言語活動の指導
2. Intake Readingの事前指導と実践方法、教科書の活用
3. Intake Readingを取り入れた授業とワークショップ(授業担当教員による実演)、英語の音声、文字、語彙・表現に関する授業映像視聴
4. 教材研究とICTの活用、領域統合型の授業映像視聴
5. 教室英語、英語でのインタラクション、ティーム・ティーチング等の効果的な活用
6. 小テスト、模擬授業(1)の準備
7. 模擬授業(1)(全体を1/2に分けた第1グループ)
8. 模擬授業(1)(全体を1/2に分けた第2グループ)
9. 模擬授業(1)の振り返り、模擬授業(2)の準備
10. 模擬授業(2) (全体を1/2に分けた第1グループ)
11. 模擬授業(2)(全体を1/2に分けた第2グループ)
12. 模擬授業(2) の振り返り
13. まとめ

| 科目名 | 英語科指導法Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 国際教養学科用 | | | |
| 担当者 | 田中　章愛 | | | |

[ 成績評価方法 ]
模擬授業（20%）、小テスト（20%）、学習指導案（15%）、授業での取り組み（授業中の課題や発言など）（20%）、レポート（25%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
・指導案・模擬授業は授業内でフィートバックを行います。
・manaba での小テストやレポート課題は、manaba にてフィードバックを行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題、模擬授業

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：模擬授業

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：模擬授業、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：模擬授業、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：模擬授業、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：模擬授業、レポート課題、小テスト

[ 教科書（ISBN） ]
英語科教育実習ハンドブック 第4版　著者名：加藤茂夫/杉山敏/荒木美恵子　出版社：大修館書店 （978-4-4692-4644-5）
Beyond Boundaries – Insights into Culture and Communication　著者名：池ロセシリア・八代京子　出版社：金星堂 （978-4-7647-3989-5）

[ 参考書（ISBN） ]
『中学校学習指導要領解説　外国語編』 著者名：文部科学省　出版社：開隆堂 （978-4-304-05169-2）
『高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編』 著者名：文部科学省　出版社：開隆堂 （978-4-304-05178-4）

| 科目名 | 英語科指導法Ⅳ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　章愛 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
第二言語習得研究に基づき、小・中・高等学校を通した英語教育の在り方を理解する。個に応じた指導や異文化理解に関する指導について、さらなる知識と技能を身に付ける。また、英語教育に関して自ら研究を進められる能力を養う。

[ 授業概要 ]
第二言語習得研究に基づいた小・中・高等学校を通した英語教育の在り方について学習する。また、異文化理解に関する内容を授業に取り入れる方法や生徒の特性や習熟度に基づく指導方法についても理解を深める。さらに、学校文法だけでなく科学文法についても学習し、文法指導について理解するとともに、英語教育について自ら研究できる能力の基礎を築く。模擬授業では、5つの領域(「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」及び「書くこと」)の指導及び複数の領域を統合した言語活動(音声、文字、語彙・表現、文法の指導や異文化理解に関する指導も含む)を取り入れ、さらに具体的な生徒像も想定した上で授業計画を立てることで、英語の指導法について総括する。授業は、模擬授業と講義の両方を行うが、講義については内容が定着しているか小テストを実施する。

学校現場で教諭を務めた経験のある教員が、その経験を活かして、特に英語学習が苦手な生徒への教授法を指導する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業についての予習・復習4時間程度。
テキストの指定された箇所を予習し、模擬授業前には学習指導案・教材を準備しておくこと。(詳細は授業中に説明します。)講義の際には、ノートをとる準備をしておくこと。

[ 授業計画 ]

1. 第二言語習得と英語教育
2. SLA研究と小学校英語教育
3. 中学校英語教育・高校英語教育の今後
4. 自律した学習者を育てる方法(大学生、社会人の英語教育)、異文化理解に関する授業映像の視聴
5. 生徒の特性や習熟度に基づく指導方法とワークショップ(担当教員による実演)
6. 学校文法と生成文法、文法の指導方法、外国語教育学の研究方法
7. 小テスト、模擬授業(1)の準備
8. 模擬授業(1)(全体を1/2に分けた第1グループ)
9. 模擬授業(1)(全体を1/2に分けた第2グループ)
10. 模擬授業(1)の振り返り、模擬授業(2)の準備
11.模擬授業(2)(全体を1/2に分けた第1グループ)
12.模擬授業(2)(全体を1/2に分けた第2グループ)
13.模擬授業の振り返り、まとめ

| 科目名 | 英語科指導法Ⅳ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　章愛 | | | |

[ 成績評価方法 ]
模擬授業（20%）、小テスト（20%）、学習指導案（15%）、授業での取り組み（授業中の課題や発言など）（20%）、レポート（25%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

指導案・模擬授業は授業内でフィードバックを行います。

manabaでの小テストやレポート課題は、manabaにてフィードバックを行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：模擬授業、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：模擬授業

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：模擬授業、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：模擬授業、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：模擬授業、レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：模擬授業、レポート課題、小テスト

[ 教科書（ISBN） ]
英語科教育実習ハンドブック 第4版

＊　前期に引き続き使用　著者名：加藤茂夫/杉山敏/荒木美恵子　出版社：大修館書店　（978-4-4692-4644-5）
Beyond Boundaries - Insights into Culture and Communication

＊　前期に引き続き使用　著者名：池口セシリア・八代京子　出版社：金星堂　（978-4-7647-3989-5）

[ 参考書（ISBN） ]
『中学校学習指導要領解説　外国語編』 著者名：文部科学省　出版社：開隆堂　（978-4-304-05169-2）
『高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編』 著者名：文部科学省　出版社：開隆堂　（978-4-304-05178-4）
英語教師のための第二言語習得論入門　著者名：白井恭弘　　出版社：大修館書店　（978-4-469-24570-7　）

| 科目名 | 栄養教育実習 | 前期 | 実習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 実践力のある栄養教諭を目指して | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎、榎元　十三男 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
各学校での教育実習を通じて、教育の実際を学び、確実な栄養教育指導や授業などの教育実践ができる力を身につける。

[ 授業概要 ]
各学校での管理職をはじめ校務担当教員の講話、学級担任・教科担任・栄養担当教職員の指導を受けて、観察実習、授業実践、栄養指導などを行う。また、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。事後の指導では、教育課題への対応の仕方、実習後の課題の整理などを行う。その際、学校現場における校長、教頭、教諭（学級担任、教務主任等）の経験を生かして具体的な対応について指導助言する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
栄養教育指導法、栄養教育学習指導案の作成、人権・学級経営・生徒指導等の児童生徒の学習指導に必要な事項について、その概要を復習しておくこと。

[ 授業計画 ]
学校実習（1週間）
・管理職の講話、校務担当教職員の講話と指導
・実習校の学級担任・教科担任の指導と観察実習
・栄養担当職員の指導と指導案の作成及び実践授業
・栄養教育指導の実際
・大学教員、実習校教職員の指導等
・研究授業と反省
・実習のまとめ
事後指導（3単位時間）
・実習後の課題の整理等

| 科目名 | 栄養教育実習 | 前期 | 実習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 実践力のある栄養教諭を目指して | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎、榎元　十三男 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実習状況（40%）、実習校からの評価資料（40%）、実習記録等（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題については事後指導の中で意見交換ならびに解説をおこなう。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

学科DP番号／DP内容：管栄1-3／食べ物と健康についての知識と理解を基盤とした健康と食に関する知識と技能を有している。
成績評価方法：実習状況・実習校評価・実習記録評価

学科DP番号／DP内容：管栄2-3／健康増進や疾病予防、治療につながる栄養状態に応じた栄養マネジメントの実施能力を有している。
成績評価方法：実習状況・実習校評価・実習記録評価

学科DP番号／DP内容：管栄3-2／管理栄養士として他者と協調して行動でき、自らの考えを伝えることができる。
成績評価方法：実習状況・実習校評価・実習記録評価

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：実習状況・実習校評価・実習記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：実習状況・実習校評価・実習記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：実習状況・実習校評価・実習記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：実習状況・実習校評価・実習記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：実習状況・実習校評価・実習記録評価

[ 教科書（ISBN） ]
適宜プリント等を配布

[ 参考書（ISBN） ]
各自調達のこと

| 科目名 | 栄養教育実習指導 | 後期 | 講義 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 有意義な栄養教育実習のために | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎、谷山　優子、榎元　十三男 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
栄養教育実習に参加するに当たり、教育実習の目的・意義、授業の指導力、児童生徒との対応力等を学び、教育実習に必要な実践力を身につけ、有意義な教育実習ができる力をみにつける。

[ 授業概要 ]
教育実習の目的・意義、教育実習への心構え、授業の実際、学習指導案の書き方、実習校での活動、実習記録のとり方、教育課題への対応の仕方等を学ぶ。また、実習後の課題の整理などを行う。その際、学校現場における校長、教頭、教諭(学級担任、教務主任等)の経験を生かして具体的な対応について指導助言する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
栄養教育指導法、栄養教育学習指導案の作成、人権・学級経営・生徒指導等の児童生徒の学習指導に必要な事項について、その概要を復習しておくこと。

[ 授業計画 ]
(事前指導)
1. 教育実習の依頼について(宮本)
2. 前年度教育実習の様子・よさと留意点(宮本)
3. 教育実習の目的・意義・内容(宮本)
4. 教育実習の様子(宮本)
5. 教育実習の心得(宮本)
6. 課題教育「特別支援教育・人権教育」(谷山)
7. 生徒指導(谷山)
8. 指導案の書き方(谷山)
9. 学級経営(谷山)
10. 授業の実際(宮本)
11. 教育実習と教員採用試験(宮本)
12. 実習直前講話・実習ノート(榎元)
13. 教育実習の総まとめ(宮本)

(事後指導)
1. 実習後の情報交換会(宮本)
2. 課題の整理・最新教育課題(宮本)
3. まとめ・今後の資質能力の向上に向けて(宮本)

| 科目名 | 栄養教育実習指導 | 後期 | 講義 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 有意義な栄養教育実習のために | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎、谷山　優子、榎元　十三男 | | | |

[ 成績評価方法 ]
グループワーク[ディスカッション等取組姿勢](50%)
レポート課題[実習ノート含む](50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
課題やレポートについては、事前指導と事後指導の中で意見交換や解説をおこなう。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク・レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク・レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク・レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:グループワーク・レポート課題

[ 教科書(ISBN) ]
適宜プリント等を配布

[ 参考書(ISBN) ]
各自調達のこと

| 科目名 | 介護等体験 | 後期～2023年度 | 実習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 個人の尊厳や社会連帯の認識を深める | | | |
| 担当者 | 榎元　十三男、植戸　貴子、谷山　優子、佐々木　勝一、松井　順子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
義務教育に従事予定の教員志望者が、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上に努める。そのために、障がい者・高齢者との関わり方について体験を通して学ぶ。

[ 授業概要 ]
事前指導では、施設等の状況、介護等体験の意義、心構え、社会福祉、高齢者福祉等を学ぶ。また、実習では、特別支援学校・社会福祉施設等で、当該職員の指導を受けながら、障がい者・高齢者等との関わり方について、体験を通して学ぶ。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
人権教育、特別支援教育、社会福祉施設等について、予習・復習をすること。

[ 授業計画 ]
事前指導
・オリエンテーション（榎元、教職支援センター）
・社会福祉の動向と介護等体験の意義について（佐々木）
・特別支援教育の指導の実際について（谷山）
・障がい者施設等の状況について（植戸）
・高齢者福祉施設の介護について（松井）
・体験上の心構えについて（榎元）
・申請手続き説明会（教職支援センター）
（現場体験実習）
・福祉施設等での体験実習（5日間）
・特別支援学校での体験実習（2日間）
（事後指導）
・まとめと反省（教職支援センター）

| 科目名 | 介護等体験 | 後期～2023年度 | 実習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 個人の尊厳や社会連帯の認識を深める | | | |
| 担当者 | 榎元　十三男、植戸　貴子、谷山　優子、佐々木　勝一、松井　順子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実習体験記録（40%）、取組姿勢（40%）、レポート等（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポート等は添削後返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

学科DP番号／DP内容：日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。
成績評価方法：レポート課題

学科DP番号／DP内容：英米3-3／対話的な学びを通して、他者と協調・協働して学び合う姿勢を持っている。
成績評価方法：レポート課題

学科DP番号／DP内容：国際3-2-1／世界の多様性や他者の多様な価値観を理解し尊重できる素養を備えている。
成績評価方法：レポート課題

学科DP番号／DP内容：史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
成績評価方法：レポート課題

学科DP番号／DP内容：家政3-2／よりよい生活の実現に向けて、他者の多様な価値観を理解して尊重し、円満な人間関係を基盤に人々と協調・協働できる。
成績評価方法：レポート課題

学科DP番号／DP内容：管栄3-2／管理栄養士として他者と協調して行動でき、自らの考えを伝えることができる。
成績評価方法：レポート課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

[ 教科書（ISBN） ]
特別支援学校における介護等体験ガイドブック　新フィリア　著者名：全国特別支援学校長会　全国特別支援教育推進連盟　編著　出版社：ジアース教育新社　（978-4-86371-522-6）
第5版　よくわかる社会福祉施設　―教員免許志願者のためのガイドブック　著者名：増田　雅暢（執筆代表者）　出版社：全国社会福祉協議会　（978-4-7935-1277-3）

[ 参考書（ISBN） ]
特になし

| 科目名 | 介護等体験 | 後期～2023年度 | 実習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 個人の尊厳や社会連帯の認識を深める | | | |
| 担当者 | 榎元　十三男、植戸　貴子、谷山　優子、佐々木　勝一、松井　順子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
義務教育に従事予定の教員志望者が、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上に努める。そのために、障がい者・高齢者との関わり方について体験を通して学ぶ。

[ 授業概要 ]
事前指導では、施設等の状況、介護等体験の意義、心構え、社会福祉、高齢者福祉等を学ぶ。また、実習では、特別支援学校・社会福祉施設等で、当該職員の指導を受けながら、障がい者・高齢者等との関わり方について、体験を通して学ぶ。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
人権教育、特別支援教育、社会福祉施設等について、予習・復習をすること。

[ 授業計画 ]
事前指導
・オリエンテーション（榎元、教職支援センター）
・社会福祉の動向と介護等体験の意義について（佐々木）
・特別支援教育の指導の実際について（谷山）
・障がい者施設等の状況について（植戸）
・高齢者福祉施設の介護について（松井）
・体験上の心構えについて（榎元）
・申請手続き説明会（教職支援センター）
（現場体験実習）
・福祉施設等での体験実習（5日間）
・特別支援学校での体験実習（2日間）
（事後指導）
・まとめと反省（教職支援センター）

| 科目名 | 介護等体験 | 後期～2023年度 | 実習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 個人の尊厳や社会連帯の認識を深める | | | |
| 担当者 | 榎元　十三男、植戸　貴子、谷山　優子、佐々木　勝一、松井　順子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実習体験記録（40%）、取組姿勢（40%）、レポート等（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポート等は添削後返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

学科DP番号／DP内容：日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。
成績評価方法：レポート課題

学科DP番号／DP内容：英米3-3／対話的な学びを通して、他者と協調・協働して学び合う姿勢を持っている。
成績評価方法：レポート課題

学科DP番号／DP内容：国際3-2-1／世界の多様性や他者の多様な価値観を理解し尊重できる素養を備えている。
成績評価方法：レポート課題

学科DP番号／DP内容：史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
成績評価方法：レポート課題

学科DP番号／DP内容：家政3-2／よりよい生活の実現に向けて、他者の多様な価値観を理解して尊重し、円満な人間関係を基盤に人々と協調・協働できる。
成績評価方法：レポート課題

学科DP番号／DP内容：管栄3-2／管理栄養士として他者と協調して行動でき、自らの考えを伝えることができる。
成績評価方法：レポート課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題

[ 教科書（ISBN） ]
特別支援学校における介護等体験ガイドブック　新フィリア　著者名：全国特別支援学校長会　全国特別支援教育推進連盟　編著　出版社：ジアース教育新社　（978-4-86371-522-6）
第5版　よくわかる社会福祉施設　―教員免許志願者のためのガイドブック　著者名：増田　雅暢（執筆代表者）　出版社：全国社会福祉協議会　（978-4-7935-1277-3）

[ 参考書（ISBN） ]
特になし

| 科目名 | 学習指導と学校図書館 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
学校教育の中で学校図書館の果たす役割を知り、担任との連携を図りながら充実した学習活動の展開についてのさまざまな方法を理解する。

[ 授業概要 ]
司書教諭として、学校教育の中で学校図書館が果たす役割について学ぶ。特に、学習指導における学校図書館の活用について学ぶことが中心である。変化の激しいこれからの社会にあっては、児童・生徒が自ら目標を定め主体的に学ぶ方法を身につけさせることが大切である。そのためには、小・中・高等学校のそれぞれの学習活動を踏まえながら学級担任・教科担任と連携をとって、学校図書館を積極的・効果的に利用した学習活動の展開が重要となる。講義を中心に進める。「調べ学習」の工夫や改善へのプレゼンにより理解を深める。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
本講義の受講者は、学習ノートの作成に取り組んでもらう。初回に授業で説明するので、半期を通じて実践してほしい。（単位認定要件の一つである）。また、前回の授業内容を復習し理解しておくこと。

[ 授業計画 ]
1. 学習指導と学校図書館：演習Ⅰ「学習と学習指導」
2. 学習指導とは：「学習と学習指導」の違いを学ぶ
3. 教育課程と学校図書館
4. 学校司書による支援
5. 情報リテラシーの育成：演習Ⅱ「学び方の指導体系」の特色を学ぶ
6. 「調べ学習の5つの段階：プレゼンテーションⅠ「学習指導案を書こう」
7. 学校図書館を活用する授業（年間計画）
8. 調べ学習の指導と教師への支援（本時の授業）：WG
9. 学校図書館を活用した授業・4年：WG
10. 学習に関する情報サービス：「学習指導案〈略案〉」をプレゼンする
11. 学習の集積と継続：プレゼンテーションⅡ「図書委員会の活動」
12. 司書教諭による学習指導：WG
13. まとめ

| 科目名 | 学習指導と学校図書館 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
定期試験20%、授業内課題（プレゼン・レポートなど4回）20%、受講態度（積極的参加度）30%、ノート作成（学習ノート）30%で評価する。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
必要に応じて、全体に対しては授業時間内に、個別に対しては授業退出後やメール対応にて行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：プレゼン課題・グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による。

[ 教科書（ISBN） ]
「なし」 必要に応じてプリントによる講義資料を配布し、これを活用する。

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 学習指導と学校図書館 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
学校教育の中で学校図書館の果たす役割を知り、担任との連携を図りながら充実した学習活動の展開についてのさまざまな方法を理解する。

[ 授業概要 ]
司書教諭として、学校教育の中で学校図書館が果たす役割について学ぶ。特に、学習指導における学校図書館の活用について学ぶことが中心である。変化の激しいこれからの社会にあっては、児童・生徒が自ら目標を定め主体的に学ぶ方法を身につけさせることが大切である。そのためには、小・中・高等学校のそれぞれの学習活動を踏まえながら学級担任・教科担任と連携をとって、学校図書館を積極的・効果的に利用した学習活動の展開が重要となる。講義を中心に進める。「調べ学習」の工夫や改善へのプレゼンにより理解を深める。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
本講義の受講者は、学習ノートの作成に取り組んでもらう。初回に授業で説明するので、半期を通じて実践してほしい。（単位認定要件の一つである）。また、前回の授業内容を復習し理解しておくこと。

[ 授業計画 ]
1. 学習指導と学校図書館：演習Ⅰ「学習と学習指導」
2. 学習指導とは：「学習と学習指導」の違いを学ぶ
3. 教育課程と学校図書館
4. 学校司書による支援
5. 情報リテラシーの育成：演習Ⅱ「学び方の指導体系」の特色を学ぶ
6. 「調べ学習の5つの段階：プレゼンテーションⅠ「学習指導案を書こう」
7. 学校図書館を活用する授業（年間計画）
8. 調べ学習の指導と教師への支援（本時の授業）：WG
9. 学校図書館を活用した授業・4年：WG
10. 学習に関する情報サービス：「学習指導案〈略案〉」をプレゼンする
11. 学習の集積と継続：プレゼンテーションⅡ「図書委員会の活動」
12. 司書教諭による学習指導：WG
13. まとめ

| 科目名 | 学習指導と学校図書館 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
定期試験20%、授業内課題（プレゼン・レポートなど4回）20%、受講態度（積極的参加度）30%、ノート作成（学習ノート）30%で評価する。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
必要に応じて、全体に対しては授業時間内に、個別に対しては授業退出後やメール対応にて行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：プレゼン課題・グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による。

[ 教科書（ISBN） ]
「なし」 必要に応じてプリントによる講義資料を配布し、これを活用する。

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 学校経営と学校図書館 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
学校図書館の教育的意義や役割を知り、司書教諭としての学校図書館の経営についての基本的事項を理解する。

[ 授業概要 ]
学校図書館の教育的意義、役割を明らかにして、メディアセンター、学習センターとしての学校図書館のあり方について解説し、学校経営の一環としての学校図書館の全般的事項についての理解を図る。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
主体的な学習意欲を持ち、毎時の復習を経て授業に参加すること。大学図書館や公共図書館の利用と活用の習熟に努めること。学校図書館ボランティアの募集があれば、学びの場として参加することが望ましい。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション(司書教諭の仕事)・学校経営と学校図書館
2. 学校図書館の歴史
3. 学校図書館を支える法律
4. 学校図書館の評価と改善:プレゼンテーションⅠ「図書館を変える」
5. 学校図書館の課題と対策:「図書館を変える」をプレゼンする
6. 教育行政との関わり
7. 公共図書館の支援:プレゼンテーションⅡ「あなたの図書館を創造する」
8. 図書予算の確保
9. 図書委員会と学校図書館の環境づくり:「図書館の創造」をプレゼンする
10. 学校図書館の年間計画:プレゼンテーションⅢ「年間計画を構想する」
11. 司書教諭と学校司書、校内の協力体制と研修の持ち方
12. 図書ボランティアの協力:「図書館計画の構想」をプレゼンする
13. まとめ

| 科目名 | 学校経営と学校図書館 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
定期試験20%、授業内課題（プレゼン・レポートなど4回）50%、受講態度（積極的参加度）30%で評価する。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
必要に応じて、全体に対しては授業時間内に、個別に対しては授業退出後やメール対応にて行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッション・グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:プレゼン課題・グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:プレゼン課題・レポート課題

[ 教科書（ISBN） ]
「なし」 必要に応じてプリントによる講義資料を配布し、これを活用する。

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 学校経営と学校図書館 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
学校図書館の教育的意義や役割を知り、司書教諭としての学校図書館の経営についての基本的事項を理解する。

[ 授業概要 ]
学校図書館の教育的意義、役割を明らかにして、メディアセンター、学習センターとしての学校図書館のあり方について解説し、学校経営の一環としての学校図書館の全般的事項についての理解を図る。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
主体的な学習意欲を持ち、毎時の復習を経て授業に参加すること。大学図書館や公共図書館の利用と活用の習熟に努めること。学校図書館ボランティアの募集があれば、学びの場として参加することが望ましい。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション(司書教諭の仕事)・学校経営と学校図書館
2. 学校図書館の歴史
3. 学校図書館を支える法律
4. 学校図書館の評価と改善:プレゼンテーションⅠ「図書館を変える」
5. 学校図書館の課題と対策:「図書館を変える」をプレゼンする
6. 教育行政との関わり
7. 公共図書館の支援:プレゼンテーションⅡ「あなたの図書館を創造する」
8. 図書予算の確保
9. 図書委員会と学校図書館の環境づくり:「図書館の創造」をプレゼンする
10. 学校図書館の年間計画:プレゼンテーションⅢ「年間計画を構想する」
11. 司書教諭と学校司書、校内の協力体制と研修の持ち方
12. 図書ボランティアの協力:「図書館計画の構想」をプレゼンする
13. まとめ

| 科目名 | 学校経営と学校図書館 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
定期試験20%、授業内課題（プレゼン・レポートなど4回）50%、受講態度（積極的参加度）30%で評価する。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
必要に応じて、全体に対しては授業時間内に、個別に対しては授業退出後やメール対応にて行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッション・グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:プレゼン課題・グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:プレゼン課題・レポート課題

[ 教科書（ISBN） ]
「なし」 必要に応じてプリントによる講義資料を配布し、これを活用する。

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 学校図書館メディアの構成 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 鈴木　啓子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
学校図書館活動と学びを支える多様なメディアについて理解し、収集・構成・組織化・配置などの基本を身につけます。

[ 授業概要 ]
学校図書館メディアの意義と役割について学び、多様なメディアの種類と特性について理解します。それらを収集・構成・組織化・配置するための能力を修得します。各メディアに適した整理方法についても理解できるように、必要に応じて演習を行います。整理方法として、日本十進分類法などを利用して講義します。学校図書館勤務経験がある者が、その経験を活かして学校図書館メディアが利用される工夫や方法を教えます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
次回の授業範囲について講義資料を読み、専門用語などの意味を理解し、内容をまとめます。講義に関するテーマについての課題や演習、意見文、小論文を課します。
(各回、予習・復習合わせて4時間程度)

[ 授業計画 ]
1. 学校図書館メディアの意義と役割
2. 学校図書館におけるメディアの活用
3. 学校図書館メディアの種類と特性
4. 特別な教育的ニーズのある児童生徒と学校図書館メディア
5. 学校図書館メディアの構築と収集方針
6. 学校図書館メディアの選択と購入
7. 選書と「図書館の自由」
8. 学校図書館メディアの組織化(1) 目録(日本目録規則)、主題索引(日本十進分類法)
9. 学校図書館メディアの組織(2) 主題索引(分類、件名)
10.学校図書館メディアの組織化(3) コンピュータ目録とシステム
11.学校図書館メディアの整理と排架
12.学校図書館のレイアウトとサイン
13.学校図書館メディアの課題と展望

| 科目名 | 学校図書館メディアの構成 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 鈴木　啓子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
講義資料の要約（10%）、課題(4回)（40%）、演習問題(テスト含む)(3回)（30%）、小論文（20%）、復習の意見文も重視します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポート課題や意見文は、コメントをつけたり、意見をもとに話し合ったりします。
演習は、提出後に解説を行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート課題

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
学校図書館メディアの選びかた　著者名:高橋知尚　出版社:全国学校図書館協議会　(9784793322822)
発信する学校図書館ディスプレイ　使われる図書館の実践事例集　著者名:吉岡裕子・遊佐幸枝　出版社:少年写真新聞社　(9784879815262)
学校図書館の教育力を活かす:学校を変える可能性　著者名:塩見昇　出版社:日本図書館協会　(9784820416135)
学校司書・司書教諭・図書館担当者のための学校図書館スタートガイド（2015）　著者名:学校図書館スタートガイド編集委員会　出版社:少年写真新聞社　(9784879815231)
多様性と出会う学校図書館　一人ひとりの自立を支える合理的配慮へのアプローチ　著者名:野口武悟・成松一郎　出版社:読書工房　(9784902666359)

| 科目名 | 学校図書館メディアの構成 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 鈴木　啓子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
学校図書館活動と学びを支える多様なメディアについて理解し、収集・構成・組織化・配置などの基本を身につけます。

[ 授業概要 ]
学校図書館メディアの意義と役割について学び、多様なメディアの種類と特性について理解します。それらを収集・構成・組織化・配置するための能力を修得します。各メディアに適した整理方法についても理解できるように、必要に応じて演習を行います。整理方法として、日本十進分類法などを利用して講義します。学校図書館勤務経験がある者が、その経験を活かして学校図書館メディアが利用される工夫や方法を教えます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
次回の授業範囲について講義資料を読み、専門用語などの意味を理解し、内容をまとめます。講義に関するテーマについての課題や演習、意見文、小論文を課します。
(各回、予習・復習合わせて4時間程度)

[ 授業計画 ]
1. 学校図書館メディアの意義と役割
2. 学校図書館におけるメディアの活用
3. 学校図書館メディアの種類と特性
4. 特別な教育的ニーズのある児童生徒と学校図書館メディア
5. 学校図書館メディアの構築と収集方針
6. 学校図書館メディアの選択と購入
7. 選書と「図書館の自由」
8. 学校図書館メディアの組織化(1) 目録(日本目録規則)、主題索引(日本十進分類法)
9. 学校図書館メディアの組織(2) 主題索引(分類、件名)
10.学校図書館メディアの組織化(3) コンピュータ目録とシステム
11.学校図書館メディアの整理と排架
12.学校図書館のレイアウトとサイン
13.学校図書館メディアの課題と展望

| 科目名 | 学校図書館メディアの構成 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 鈴木　啓子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
講義資料の要約（10%）、課題(4回)（40%）、演習問題(テスト含む)(3回)（30%）、小論文（20%）、復習の意見文も重視します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポート課題や意見文は、コメントをつけたり、意見をもとに話し合ったりします。
演習は、提出後に解説を行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート課題

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
学校図書館メディアの選びかた　著者名:高橋知尚　出版社:全国学校図書館協議会　(9784793322822)
発信する学校図書館ディスプレイ　使われる図書館の実践事例集　著者名:吉岡裕子・遊佐幸枝　出版社:少年写真新聞社　(9784879815262)
学校図書館の教育力を活かす:学校を変える可能性　著者名:塩見昇　出版社:日本図書館協会　(9784820416135)
学校司書・司書教諭・図書館担当者のための学校図書館スタートガイド（2015）　著者名:学校図書館スタートガイド編集委員会　出版社:少年写真新聞社　(9784879815231)
多様性と出会う学校図書館　一人ひとりの自立を支える合理的配慮へのアプローチ　著者名:野口武悟・成松一郎　出版社:読書工房　(9784902666359)

| 科目名 | 家庭科指導法Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　陽子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
・中学校技術・家庭科(家庭分野)及び高等学校家庭科の実践事例によって優れた授業がもつ要素について理解している。
・模擬授業では目標に合わせた適切な教材選択・解釈や学習場面に応じた適切な指導方法の選択ができるとともに、効果的な発問や適切な指示を工夫して行うことができる。

[ 授業概要 ]
・「指導と評価の一体化」のための学習評価について概説し、「指導と評価の計画」を作成する。
・学習指導案を作成し、一人30分の模擬授業を行う。模擬授業においては「本時の目標」に対して生徒を理解に導く学習過程と指導方法を重視する。また、発問・説明・指示、板書、机間指導等を実践する上での課題をつかむ。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
・学習指導案の書き方は「家庭科指導法Ⅱ」の資料で復習しておく。
・「家庭科指導法Ⅱ」で実践した模擬授業の課題と反省を踏まえ、中学校家庭科の模擬授業計画および教材研究に取り組む。
・準備および復習には1時間程度を充てることが望ましい。

[ 授業計画 ]
第1回:「指導と評価の一体化」のための学習評価と家庭科
第2回:題材の評価規準・「指導と評価の計画」の作成
第3回:評価資料の作成
第4回:「指導と評価の計画」の発表
第5回:学習指導案の作成
第6回:板書計画・教具の作成
第7回:中学校家庭分野模擬授業の実施①: 「A家族・家庭生活」
第8回:中学校家庭分野模擬授業の実施②:「B衣食住の生活」
第9回:中学校家庭分野模擬授業の実施③:「C消費生活・環境」
第10回:高等学校家庭総合模擬授業の実施①:「A家族・家庭及び福祉」
第11回:高等学校家庭総合模擬授業の実施②:「B衣食住」
第12回:高等学校家庭総合模擬授業の実施③:「C消費生活・環境」
第13回:まとめ

| 科目名 | 家庭科指導法Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　陽子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト・課題（40%）、模擬授業（10%）、試験（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題や学習指導案は添削して返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

学科DP番号／DP内容：家政1-3／人文科学、社会科学、自然科学、情報処理等の基礎的な知識をもち、生活に関する問題解決のために活かすことができる。
成績評価方法：試験、課題

学科DP番号／DP内容：家政2-3／個人、家族、コミュニティ、福祉の視点から、より質の高い生活のありようを提案するためのコミュニケーション能力を持っている。
成績評価方法：試験、課題

学科DP番号／DP内容：家政3-1／社会変化に追随して受動的になりがちな生活の問題点を指摘し、個人や家族の価値を堅持し、主体的で創造的な生活の実現を目指す意欲や実践力がある。
成績評価方法：試験、課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『検定教科書　中学校技術・家庭科　家庭分野』 著者名：大竹美登利他　出版社：開隆堂出版 （978-4-304-08051-7）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　技術・家庭編』 著者名：文部科学省　出版社：教育図書 （978-4-304-02154-1）
『検定教科書　高等学校　家庭総合 自立・共生・創造』　著者名：牧野カツコ他　出版社：東京書籍 （978-4-487-18766-9）
『高等学校学習指導要領(平成30年告示） 解説　家庭編』　著者名：文部科学省　出版社：開隆堂 （978-4-304-04166-2）

[ 参考書（ISBN） ]
『家庭科教育　増補改訂版』 著者名：田部井恵美子他　出版社：学文社 （978-4-7620-2134-3）

| 科目名 | 家庭科指導法Ⅳ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　陽子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
・グループで家庭科の授業研究をすることができ、協働して行う研究や学習の意義を理解している。
・家庭科の課題を設定することができ、課題解決に向けた授業実践を計画することができる。
・実践活動を評価・改善することができる。

[ 授業概要 ]
・「家庭科の課題と実践」をテーマに研究活動を進める。
・課題解決に向けた授業実践の計画を立て、模擬授業を実践する。
・模擬授業は3チームに分かれ、実施と検証を行う。
・研究の成果は報告書にまとめ、発表によって互いに学ぶ。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
・・家庭科の授業作りの過程を「家庭科指導法Ⅰ～Ⅲ」での学習を振り返り、確認しておく。
・家庭科と家政学の専門領域との関係について確認し、言葉で説明できるようにしておく。
・各授業内容や模擬授業の計画・準備に関連して、授業前後に2～6時間程度の時間を充てることが求められる。

[ 授業計画 ]
第1回:研究課題の設定と研究計画の作成
第2回:課題の背景と課題解決の教育的意義
第3回:課題解決に向けた授業研究①:課題研究
第4回:課題解決に向けた授業研究②:教育内容・教材の選定と研究
第5回:課題解決に向けた授業研究③:学習指導計画の作成
第6回:課題解決に向けた授業研究④:評価の作成、ワークシート・教具等の作成
第7回:研究活動の中間報告:教材研究と授業計画
第8回:模擬授業の実施と検討①
第9回:模擬授業の実施と検討②
第10回:模擬授業の実施と検討③
第11回:模擬授業の実施と検討④
第12回:授業研究報告書の作成
第13回:研究発表

| 科目名 | 家庭科指導法Ⅳ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　陽子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
受講態度（40%）、研究内容（60%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題や学習指導案は添削して返却する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

学科DP番号／DP内容：家政1-3／人文科学、社会科学、自然科学、情報処理等の基礎的な知識をもち、生活に関する問題解決のために活かすことができる。
成績評価方法：課題

学科DP番号／DP内容：家政2-2／社会の問題を発見し、科学的な知識および専門的技能により解決に必要な情報を収集・整理・分析する能力を持っている。
成績評価方法：課題

学科DP番号／DP内容：家政3-1／社会変化に追随して受動的になりがちな生活の問題点を指摘し、個人や家族の価値を堅持し、主体的で創造的な生活の実現を目指す意欲や実践力がある。
成績評価方法：課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：課題

[ 教科書（ISBN） ]
『検定教科書　高等学校　家庭総合 自立・共生・創造』　著者名：牧野カツコ他　出版社：東京書籍 （978-4-487-18766-9）
『検定教科書　中学校技術・家庭科　家庭分野』 出版社：開隆堂出版 （978-4-304-08051-7）

[ 参考書（ISBN） ]
『家庭科教育　増補改訂版』 著者名：田部井恵美子他　出版社：学文社 （978-4-7620-2134-3）

| 科目名 | 教育課程論 | 前期 | | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育課程は学校力の最高傑作・カリマネの主役は教職員一人一人 | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
かつてないほどに「教育課程」が注目されている背景をさぐり、「教育課程」とは何かを具体的に整理する。教育課程の基準となる学習指導要領について、戦後の教育改革から現在に至る改訂の変遷を大まかにつかみ、未来の学校教育のあり方を考える。また、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、実際の学校現場における教育課程編成のプロセスを学び、教育課程の創造的編成の基礎を習得する。

[ 授業概要 ]
教育課程には、教育目標や年間学習指導計画、週時程表、生活時間帯など数多くの内容が含まれている。教育課程は、各学校が独自に編成すべきものであるが、公教育を担っている性格上、守るべき水準がある。しかし、それぞれの学校には、歴史的な経緯や地域性の違いだけでなく、学校規模や施設環境などの違いもある。何よりも、克服すべき課題が異なる。この課題を克服しようと努力していく過程で、各学校の特色ある教育活動は生まれてくる。
　学習指導要領の改訂の変遷を概観するとともに、今日的な教育課題としての新型コロナ対応やGIGAスクール構想の実現に向けた努力も学んでいく。そのうえで、各学校が行う教育課題の克服に向けた大きな計画が「教育課程」にあることを理解する。教育課程の実施状況に加えて、学校評価や学校運営協議会（コミュニティ・スクール構想）も幅広く学び、教育課程全般の基礎を理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
学習指導要領（平成29年告示）解説・総則編を中心に概要を調べておくことが望ましい。授業後は、本時の学習内容について、配付プリント等や学習指導要領解説・総則編等を参考に復習すること。

[ 授業計画 ]
1.「教育課程」が急速に注目され出した背景とは何か
2.「教育課程」の具体的な種類と内容、方法とは何か
3.「新型コロナ」対応で教育課程はどう変わったのか
4.「GIGAスクール構想」で教育課程はどう変わるのか
5.「学習指導要領の変遷」に学ぶ教育課程の意義とは何か
6.「教科書の変遷」が教育課程に与えた影響は何か
7.「特色ある教育活動」が生まれてくる根本要因は何か
8.「学校行事の変化」が教育課程に与えた影響は何か
9.「健全育成等の他の要因」が教育課程に与えた影響は何か
10.「教育課程実施状況調査」の現状における課題は何か
11.「新たな学校評価」のあり方と教育課程編成の関係は何か
12.「カリキュラム・マネジメント」が機能するかどうかの分岐点は何か
13. まとめ

| 科目名 | 教育課程論 | 前期 | | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育課程は学校力の最高傑作・カリマネの主役は教職員一人一人 | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
・1～12回　10分程度のミニレポート(60%)
・1～12回　授業中のグループワーク・スピーチ等(20%)
・13回目　まとめのレポート(20%)

欠席の場合には、個別に相談して、回復できるように努力します。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
・レポートや最終テストは、後日添削して返却します。
・質問や望ましい意見は、要約して次回の講義で紹介する。
・解決できていない学習上の問題点については、個別に対応する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号／DP内容:国際2-1／物事を複眼的・多面的に観察・理解しようとする思考力を備え、公正・批判的に判断できる基本的な力を持っている。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

学科DP番号／DP内容:国際3-2-3／グローバルな時代だからこそローカルの重要性を認識できる視点を備えている。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

学科DP番号／DP内容:史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

学科DP番号／DP内容:史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

学科DP番号／DP内容:家政2-1／社会全体の発展やグローバルな問題について、生活に基盤を置く地道な視点で考察することができる。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

学科DP番号／DP内容:家政3-2／よりよい生活の実現に向けて、他者の多様な価値観を理解して尊重し、円満な人間関係を基盤に人々と協調・協働できる。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

学科DP番号／DP内容:管栄2-1／健康、栄養、及び食に関する問題点を発見し、解決に必要な情報を科学的根拠(エビデンス)に基づき収集・整理・分析する能力を有している。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

学科DP番号／DP内容:管栄3-4／健康・栄養問題とそれらを取り巻く自然や社会、経済、文化的要因に興味を持ち、自ら学ぶ意欲を持っている。
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

[ 教科書(ISBN) ]
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総則編　□著者名:文部科学省　出版社:東洋館出版社

[ 参考書(ISBN) ]
『教育課程論』　著者名:柴田義松編著　出版社:学文社　(978-4-7620-1896-1　)

| 科目名 | 教育課程論 | 後期 | | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育課程は学校力の最高傑作・カリマネの主役は教職員一人一人 | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
かつてないほどに「教育課程」が注目されている背景をさぐり、「教育課程」とは何かを具体的に整理する。教育課程の基準となる学習指導要領について、戦後の教育改革から現在に至る改訂の変遷を大まかにつかみ、未来の学校教育のあり方を考える。また、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、実際の学校現場における教育課程編成のプロセスを学び、教育課程の創造的編成の基礎を習得する。

[ 授業概要 ]
教育課程には、教育目標や年間学習指導計画、週時程表、生活時間帯など数多くの内容が含まれている。教育課程は、各学校が独自に編成すべきものであるが、公教育を担っている性格上、守るべき水準がある。しかし、それぞれの学校には、歴史的な経緯や地域性の違いだけでなく、学校規模や施設環境などの違いもある。何よりも、克服すべき課題が異なる。この課題を克服しようと努力していく過程で、各学校の特色ある教育活動は生まれてくる。
　学習指導要領の改訂の変遷を概観するとともに、今日的な教育課題としての新型コロナ対応やGIGAスクール構想の実現に向けた努力も学んでいく。そのうえで、各学校が行う教育課題の克服に向けた大きな計画が「教育課程」にあることを理解する。教育課程の実施状況に加えて、学校評価や学校運営協議会（コミュニティ・スクール構想）も幅広く学び、教育課程全般の基礎を理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
学習指導要領（平成29年告示）解説・総則編を中心に概要を調べておくことが望ましい。授業後は、本時の学習内容について、配付プリント等や学習指導要領解説・総則編等を参考に復習すること。

[ 授業計画 ]
1.「教育課程」が急速に注目され出した背景とは何か
2.「教育課程」の具体的な種類と内容、方法とは何か
3.「新型コロナ」対応で教育課程はどう変わったのか
4.「GIGAスクール構想」で教育課程はどう変わるのか
5.「学習指導要領の変遷」に学ぶ教育課程の意義とは何か
6.「教科書の変遷」が教育課程に与えた影響は何か
7.「特色ある教育活動」が生まれてくる根本要因は何か
8.「学校行事の変化」が教育課程に与えた影響は何か
9.「健全育成等の他の要因」が教育課程に与えた影響は何か
10.「教育課程実施状況調査」の現状における課題は何か
11.「新たな学校評価」のあり方と教育課程編成の関係は何か
12.「カリキュラム・マネジメント」が機能するかどうかの分岐点は何か
13. まとめ

| 科目名 | 教育課程論 | 後期 | | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育課程は学校力の最高傑作・カリマネの主役は教職員一人一人 | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
・1～12回　10分程度のミニレポート(60%)
・1～12回　授業中のグループワーク・スピーチ等(20%)
・13回目　まとめのレポート(20%)

欠席の場合には、個別に相談して、回復できるように努力します。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
・レポートや最終テストは、後日添削して返却します。
・質問や望ましい意見は、要約して次回の講義で紹介する。
・解決できていない学習上の問題点については、個別に対応する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号／DP内容:日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

学科DP番号／DP内容:日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

学科DP番号／DP内容:英米2-3／日本語及び英語で書かれた文献から読み取った情報に基づき、自分の考えを論理的に組み立てて表現できる。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

学科DP番号／DP内容:英米3-3／対話的な学びを通して、他者と協調・協働して学び合う姿勢を持っている。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

学科DP番号／DP内容:国際2-1／物事を複眼的・多面的に観察・理解しようとする思考力を備え、公正・批判的に判断できる基本的な力を持っている。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

学科DP番号／DP内容:国際3-2-3／グローバルな時代だからこそローカルの重要性を認識できる視点を備えている。
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート課題・グループ討議

[ 教科書(ISBN) ]
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総則編　□著者名:文部科学省　出版社:東洋館出版社

[ 参考書(ISBN) ]
『教育課程論』　著者名:柴田義松編著　出版社:学文社　(978-4-7620-1896-1　)

| 科目名 | 教育原理 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育の概念・思想・歴史 | | | |
| 担当者 | 山内　紀幸 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1 教育概念や教師ー子ども関係について、基本的な知識を身に着けている。
2 西洋や日本の教育史や教育思想について、基礎的な事項を理解している。
3 授業論や学び論について、概念的に把握している。

[ 授業概要 ]
本授業では、教育を巡る様々な概念(教育、学習、子ども、教師、人間形成)について講義した後に、西洋の教育史、西洋の教育思想家の教育思想について理解させる。その後、日本の教育史を学ばせ、現代の教育問題や授業論や学び論について基本的な事項を習得させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
教育に関する理念や思想を学ぶために、毎回、指定テキストの論考の要約課題を出す。加えて、各回、授業の復習を行うこと。合わせて4時間程度を充てること。

[ 授業計画 ]
1.教育の基本理念――語源・目的・目標
2.教師と子どもの臨床哲学――信頼される教師
3.人間形成の理論①――エリオット先生の差別授業
4.人間形成の理論②――デーケンの悲嘆のプロセス
5.古代ギリシアの教育――スパルタとアテネ
6.西洋の子ども観――子ども期の発見・近代家族の成立
7.西洋教育思想①――ソクラテス・コメニウス・ロック・ルソー
8.西洋教育思想②――ペスタロッチ・ヘルバルト・フレーベル・ケイ・デューイ・モンテッソーリ・パーカスト
9.日本の子ども観――子宝思想の誕生
10.近代教育制度の成立――森有礼と元田永孚
11.戦後日本教育史――学習指導要領と教育問題
12.授業論――学びの楽しさを生み出す授業
13.学びの空間論――学びのスタイルと学習空間

| 科目名 | 教育原理 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育の概念・思想・歴史 | | | |
| 担当者 | 山内　紀幸 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業後の小テスト（70%）と課題提出（30%）。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
小テストについてはmanabaを通じて採点し、結果を閲覧できるようにする。
要約課題については、manabaから講評を行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：小テスト・感想

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：小テスト・ 課題・感想

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：小テスト・ 課題

[ 教科書（ISBN） ]
『ちょっと変わった校長式辞集：教育哲学者からのメッセージ』 □著者名：山内紀幸　出版社：一藝社　（978-4-86359-237-7）

[ 参考書（ISBN） ]
教育思想史　著者名：今井康雄（編）　出版社：有斐閣　（978-4-641-12384-7）

| 科目名 | 教育原理 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育の概念・思想・歴史 | | | |
| 担当者 | 山内　紀幸 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1 教育概念や教師ー子ども関係について、基本的な知識を身に着けている。
2 西洋や日本の教育史や教育思想について、基礎的な事項を理解している。
3 授業論や学び論について、概念的に把握している。

[ 授業概要 ]
本授業では、教育を巡る様々な概念(教育、学習、子ども、教師、人間形成)について講義した後に、西洋の教育史、西洋の教育思想家の教育思想について理解させる。その後、日本の教育史を学ばせ、現代の教育問題や授業論や学び論について基本的な事項を習得させる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
教育に関する理念や思想を学ぶために、毎回、指定テキストの論考の要約課題を出す。加えて、各回、授業の復習を行うこと。合わせて4時間程度を充てること。

[ 授業計画 ]
1.教育の基本理念――語源・目的・目標
2.教師と子どもの臨床哲学――信頼される教師
3.人間形成の理論①――エリオット先生の差別授業
4.人間形成の理論②――デーケンの悲嘆のプロセス
5.古代ギリシアの教育――スパルタとアテネ
6.西洋の子ども観――子ども期の発見・近代家族の成立
7.西洋教育思想①――ソクラテス・コメニウス・ロック・ルソー
8.西洋教育思想②――ペスタロッチ・ヘルバルト・フレーベル・ケイ・デューイ・モンテッソーリ・パーカスト
9.日本の子ども観――子宝思想の誕生
10.近代教育制度の成立――森有礼と元田永孚
11.戦後日本教育史――学習指導要領と教育問題
12.授業論――学びの楽しさを生み出す授業
13.学びの空間論――学びのスタイルと学習空間

| 科目名 | 教育原理 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育の概念・思想・歴史 | | | |
| 担当者 | 山内　紀幸 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業後の小テスト（70%）と課題提出（30%）。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
小テストについてはmanabaを通じて採点し、結果を閲覧できるようにする。
要約課題については、manabaから講評を行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：小テスト・感想

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：小テスト・ 課題・感想

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：小テスト・ 課題

[ 教科書（ISBN） ]
『ちょっと変わった校長式辞集：教育哲学者からのメッセージ』 著者名：山内紀幸　出版社：一藝社 （978-4-86359-237-7）

[ 参考書（ISBN） ]
教育思想史　著者名：今井康雄（編） 出版社：有斐閣 （978-4-641-12384-7）

| 科目名 | 教育実習A | 前期 | 実習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育実践力をつける | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎、榎元　十三男 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
各学校での教育実習を通じて、教育の実際を学び、確実な学級経営や授業などの教育実践ができる力を身につける。

[ 授業概要 ]
各学校での管理職をはじめ校務担当教員の講話、学級担任・教科担任の指導を受けて、観察実習、授業実践、研究授業などを行う。また、教科指導のほかに、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。事前・事後の指導では、教育実習の意義、実習記録の取り方、教育課題への対応の仕方、実習後の課題の整理などを行う。その際、学校現場における校長、教頭、教諭（学級担任、教務主任等）の経験を生かして具体的な対応について指導助言する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各教科指導法の概要・学習指導案の作成、人権・学級経営・生徒指導等の学校での学習指導に必要な事項について、その概要を復習しておくこと。

[ 授業計画 ]
学校実習（2週間）
・管理職の講話
・校務担当教職員の講話と指導
・校務処理の仕方について
・実習校の学級担任の指導、学級経営の実査
・教科担任の指導と観察実習
・学習指導案の作成と指導
・授業実践と指導
・大学教員の指導等
・研究授業と反省
・実習のまとめ
事後指導
・実習後の課題の整理等

| 科目名 | 教育実習A | 前期 | 実習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育実践力をつける | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎、榎元　十三男 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実習状況（40%）、実習校からの評価資料（40%）、実習記録等（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題やレポートについては、事後指導を中心に意見交換ならびに解説をおこなう。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：実習状況評価・実習校評価・記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：実習状況評価・実習校評価・記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：実習状況評価・実習校評価・記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：実習状況評価・実習校評価・記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：実習状況評価・実習校評価・記録評価

[ 教科書（ISBN） ]
適宜資料配布

[ 参考書（ISBN） ]
各自調達のこと

| 科目名 | 教育実習B | 前期 | 実習 | 4 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育実践力をつける | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎、榎元　十三男 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
各学校での教育実習を通じて、教育の実際を学び、確実な学級経営や授業などの教育実践ができる力を身につける。

[ 授業概要 ]
各学校での管理職をはじめ校務担当教員の講話、学級担任・教科担任の指導を受けて、観察実習、授業実践、研究授業などを行う。また、教科指導のほかに、生徒指導をはじめとする校務にも携わり、実践的な指導力の向上を図る。事前・事後の指導では、教育実習の意義、実習記録の取り方、教育課題への対応の仕方、実習後の課題の整理などを行う。その際、学校現場における校長、教頭、教諭（学級担任、教務主任等）の経験を生かして具体的な対応について指導助言する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各教科指導法の概要・学習指導案の作成、人権・学級経営・生徒指導等の学校での学習指導に必要な事項について、その概要を復習しておくこと。

[ 授業計画 ]
学校実習（3週間）
・管理職の講話
・校務担当教職員の講話と指導
・校務処理の仕方について
・実習校の学級担任の指導、学級経営の実際
・教科担任の指導と観察実習
・学習指導案の作成と指導
・授業実践と指導
・大学教員の指導等
・研究授業と反省
・実習のまとめ
事後指導
・実習後の課題の整理等

| 科目名 | 教育実習B | 前期 | 実習 | 4 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育実践力をつける | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎、榎元　十三男 | | | |

[ 成績評価方法 ]
実習状況（40%）、実習校からの評価資料（40%）、実習記録等（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題やレポートについては、事後指導を中心に意見交換ならびに解説をおこなう。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：実習状況評価・実習校評価・記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：実習状況評価・実習校評価・記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：実習状況評価・実習校評価・記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：実習状況評価・実習校評価・記録評価

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：実習状況評価・実習校評価・記録評価

[ 教科書（ISBN） ]
適宜資料配布

[ 参考書（ISBN） ]
各自調達のこと

| 科目名 | 教育実習指導 | 後期 | 講義 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 有意義な教育実習のために | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎、谷山　優子、榎元　十三男 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
教育実習を行うに当たり、教育実習の心構えや在り方、授業実践方法や教育課題について学び、教育実習が充実したものとなる力量を身につける。また、実習後の課題整理と教員に向けての心構えを整理する。

[ 授業概要 ]
事前指導では、先輩学生の教育実習経験から留意事項を学び、教育実習の意義・目的の理解、教育実習を受けるにあたっての心構え・記録の仕方などを学ぶ。また、授業、生徒指導、教育課題への対応の仕方を学び、教育実践や児童生徒への対応の基礎を学ぶ。事後指導では、実習後の課題の整理と、今後の資質向上を目指す。その際、学校現場における校長、教頭、教諭（学級担任、教務主任等）の経験を生かして具体的な対応について指導助言する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各教科指導法の概要・学習指導案の作成、人権教育・学級経営・生徒指導等の復習をしておくこと。

[ 授業計画 ]
(事前指導)
1. 教育実習の準備手続きの仕方（宮本、教職支援センター）
2. 前年度教育実習の様子・よさと留意点（宮本）
3. 教育実習の目的・意義・内容（宮本）
4. 教育実習の心得（宮本）
5. 学級経営の在り方（谷山）
6. 生徒指導の在り方（谷山）
7. 学習指導案の書き方（谷山）
8. 人権教育、特別支援教育の在り方（谷山）
9. 授業の実際（宮本）
10. 教員採用試験と教育実習（宮本）
11. 実習直前講話（榎元）
12. 実習ノートの記入（榎元）
13. 教育実習の事務的準備について（教職支援センター）

(事後指導)
1. 実習後の情報交換会(宮本)
2. 課題の整理、今後に向けて(宮本)
3. まとめ（教職支援センター運営委員）

| 科目名 | 教育実習指導 | 後期 | 講義 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 有意義な教育実習のために | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎、谷山　優子、榎元　十三男 | | | |

[ 成績評価方法 ]
グループワーク[取組姿勢・プレゼン含む](50%)、レポート課題(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
グループワークやレポートの課題については、事前・事後指導の中で意見交換や解説を行う。
質問等については、授業後の教室での対応やメール受付も行う。その他については、教職支援センターを通して、場所や日程等を調整して行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク・レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク・レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク・レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:グループワーク・レポート課題

[ 教科書(ISBN) ]
適宜プリント等を配布

[ 参考書(ISBN) ]
各自調達のこと

| 科目名 | 教育心理学 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 児童生徒の発達と学習 | | | |
| 担当者 | 久木山　健一 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
・教育活動の中での心理学の有効性の理解
・今自分が受けている教育の意義の理解
・過去自分が受けてきた教育の影響の理解
・学習活動を支えるさまざまな心理的要因の理解

[ 授業概要 ]
本授業では教育という現象を心理学的に理解できるようになることを目標として教育心理学のさまざまな理論を概観します。その際、単に理論を知識として学ぶだけでなく、過去から現在までに自分が体験してきた教育活動と関連づけて修得できることを目指します。学習過程、動機づけ、知能と学力、教室の仲間関係、教師と生徒の関係、教育評価などの基礎的な知識に加え、いじめ、不登校などの学校不適応への対応や、心身障害児への対応などの理解も目指します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
予習:授業で学ぶ予定のある内容について各自で事前に予習をしてください。
復習:授業で学んだことを参考に自分自身，自分の受けてきた教育，これから自分が行おうと考えている教育について考察をしてください。
各回、予習復習合わせて4時間程度が求められます。

[ 授業計画 ]
1 教育心理学とは(意義，他の学問とのかかわり，研究法など)
2 発達(基本的法則，発達の要因，ピアジェ，エリクソンなど)
3 学習(定義，条件づけ，行動分析，社会的学習，認知論など)
4 動機づけ(コンピテンス，種類，原因帰属，自己調整学習など)
5 知能・記憶・メタ認知(定義，知能テストの種類，記憶，メタ認知など)
6 教授学習過程(授業形態，授業構造，有意味受容学習と発見学習など)
7 教育評価(意義，通知表，評価の時期と方法，相対・絶対評価など)
8 教師(好まれる教師像，ビリーフ，リーダーシップ，ピグマリオン効果など)
9 仲間関係(遊びの発達，仲間関係の理解法，児童期・青年期の仲間関係など)
10 パーソナリティ(定義，類型論，特性論，性格検査の種類など)
11 学校における不適応(いじめ，非行，不登校，学級集団の荒れなど)
12 ストレスと健康(ストレス過程，学校ストレス，PTSD，摂食行動など)
13 発達障害と特別支援教育(種類，特別支援教育，ユニバーサルデザインなど)

| 科目名 | 教育心理学 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 児童生徒の発達と学習 | | | |
| 担当者 | 久木山　健一 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎回の小テストおよび授業の感想の提出，定期試験などによって行います。
小テストおよび授業の感想（3割），定期試験（7割）で成績評価します。
ただし，定期試験が実施できない場合は，小テストおよび授業の感想（7割），
最終レポート課題（3割）で成績評価を行います。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
フィードバックは問合せに応じて回答を解説します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
三訂版　ようこそ教育心理学の世界へ
　著者名：神藤貴昭・久木山健一　出版社：北樹出版　（9784779306228）

[ 参考書（ISBN） ]
適宜指摘する

| 科目名 | 教育心理学 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 児童生徒の発達と学習 | | | |
| 担当者 | 久木山　健一 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
・教育活動の中での心理学の有効性の理解
・今自分が受けている教育の意義の理解
・過去自分が受けてきた教育の影響の理解
・学習活動を支えるさまざまな心理的要因の理解

[ 授業概要 ]
本授業では教育という現象を心理学的に理解できるようになることを目標として教育心理学のさまざまな理論を概観します。その際、単に理論を知識として学ぶだけでなく、過去から現在までに自分が体験してきた教育活動と関連づけて修得できることを目指します。学習過程、動機づけ、知能と学力、教室の仲間関係、教師と生徒の関係、教育評価などの基礎的な知識に加え、いじめ、不登校などの学校不適応への対応や、心身障害児への対応などの理解も目指します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
予習:授業で学ぶ予定のある内容について各自で事前に予習をしてください。
復習:授業で学んだことを参考に自分自身，自分の受けてきた教育，これから自分が行おうと考えている教育について考察をしてください。
各回、予習復習合わせて4時間程度が求められます。

[ 授業計画 ]
1 教育心理学とは(意義，他の学問とのかかわり，研究法など)
2 発達(基本的法則，発達の要因，ピアジェ，エリクソンなど)
3 学習(定義，条件づけ，行動分析，社会的学習，認知論など)
4 動機づけ(コンピテンス，種類，原因帰属，自己調整学習など)
5 知能・記憶・メタ認知(定義，知能テストの種類，記憶，メタ認知など)
6 教授学習過程(授業形態，授業構造，有意味受容学習と発見学習など)
7 教育評価(意義，通知表，評価の時期と方法，相対・絶対評価など)
8 教師(好まれる教師像，ビリーフ，リーダーシップ，ピグマリオン効果など)
9 仲間関係(遊びの発達，仲間関係の理解法，児童期・青年期の仲間関係など)
10 パーソナリティ(定義，類型論，特性論，性格検査の種類など)
11 学校における不適応(いじめ，非行，不登校，学級集団の荒れなど)
12 ストレスと健康(ストレス過程，学校ストレス，PTSD，摂食行動など)
13 発達障害と特別支援教育(種類，特別支援教育，ユニバーサルデザインなど)

| 科目名 | 教育心理学 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 児童生徒の発達と学習 | | | |
| 担当者 | 久木山　健一 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎回の小テストおよび授業の感想の提出，定期試験などによって行います。
小テストおよび授業の感想（3割），定期試験（7割）で成績評価します。
ただし，定期試験が実施できない場合は，小テストおよび授業の感想（7割），
最終レポート課題（3割）で成績評価を行います。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
フィードバックは問合せに応じて回答を解説します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
三訂版　ようこそ教育心理学の世界へ
　著者名：神藤貴昭・久木山健一　出版社：北樹出版　（9784779306228）

[ 参考書（ISBN） ]
適宜指摘する

| 科目名 | 教育相談 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 谷山　優子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 1分間スピーチ | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
・学校における教育相談緒意義と課題を理解している。
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関す基礎知識を含む)を理解している。
・いじめ、不登校、虐待、非行、発達障害等、最近の教育課題への教育相談の進め方や組織的な取組みや連携の必要性を理解している。
・全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」を身につける。

[ 授業概要 ]
この授業では、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かして、今日的な課題への対応を指導する。学校現場では、いじめ、不登校、非行、学級崩壊といった教育課題にどう対処するかが重要になっている。児童生徒一人ひとりの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格を成長させる力が教員には求められている。
この授業では、学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談の意義や基本的な技法、教育相談の進め方などを事例からアクティブラーニングで主体的に学習し、身につけることをめざす。また、発達障害のある子供の理解や支援の方法、保護者や関係機関との望ましい連携のあり方(カウンセリングの基礎基本を含む)を身に付け、実践していくことをめざす。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
・事前に「教育相談」「カウンセリング」に関する書物を読む。
・教育課題についての概要を把握する。
・授業で出された課題について探究的に取り組むこと。
※各回、予習復習合わせて4時間程度おこなうこと

[ 授業計画 ]
1.教育相談の意義(個性の伸長と人格の成長)
2.教育相談の校内体制づくり、学級づくり(目標の立て方や進め方)
3.自己理解と好ましい人間関係(予防的・開発的教育相談)
4.教育相談に関わる心理学の基礎理論と技法(受容、傾聴、共感)
5.リフレーミング、ストレスマネジメントの指導
6.教育相談の進め方①(カウンセリングマインド)
7.教育相談の進め方②(いじめ、不登校、虐待、非行等)
8.教育相談の進め方③(進路や生き方)<学外フィールドワーク>
9.教育相談の進め方④(保護者との連携)
10.グループエンカウンター、アサーショントレーニングの実践
11.「ケース会議」のロールプレイ
12. スクールカウンセラー・関係諸機関との連携<学外特別講師>
13. まとめ

| 科目名 | 教育相談 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 谷山　優子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の課題（50%）、試験（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
コメント等のフィードバックを返します。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

学科DP番号／DP内容：国際3-2-1／世界の多様性や他者の多様な価値観を理解し尊重できる素養を備えている。
成績評価方法：授業等の課題、試験

学科DP番号／DP内容：史学3-3／演習や実習を通じて、他者を主導しつつ、共に課題の解決を図ろうとする対話力と協働性を有している。
成績評価方法：授業等の課題、試験

学科DP番号／DP内容：日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。
成績評価方法：授業等の課題、試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の課題、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：授業中の課題、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：授業中の課題、試験

[ 教科書（ISBN） ]
生徒指導提要　著者名：文部科学省　出版社：教育図書　（978-4-87730-274-0）

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 教育相談 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 谷山　優子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 1分間スピーチ | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
・学校における教育相談の意義と課題を理解している。
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解している。
・いじめ、不登校、虐待、非行、発達障害等、今日的な教育課題への教育相談の進め方や組織的な取組みや連携の必要性を理解している。
・全学共通のディプロマ・ポリシーに基づき、基礎・基本となる力の「知識・技能」、考える力としての「思考力・判断力・表現力等の能力」、そして、それらを活用するときの態度に現れる「主体性・多様性・協働性」を身につける。

[ 授業概要 ]
この授業では、学校現場における教員経験があるものが、その経験を活かして、今日的な課題への対応を指導する。学校現場では、いじめ、不登校、非行、学級崩壊といった教育課題にどう対処するかが重要になっている。児童生徒一人ひとりの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格を成長させる力が教員には求められている。
この授業では、学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談の意義や基本的な技法、教育相談の進め方などを事例からアクティブラーニングで主体的に学習し、身につけることをめざす。また、発達障害のある子供の理解や支援の方法、保護者や関係機関との望ましい連携のあり方(カウンセリングの基礎基本を含む)を身に付け、実践していくことをめざす。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
・事前に「教育相談」「カウンセリング」に関する書物を読む。
・教育課題についての概要を把握する。
・授業で出された課題について探究的に取り組むこと。
※各回、予習復習合わせて4時間程度おこなうこと

[ 授業計画 ]
1.教育相談の意義(個性の伸長と人格の成長)
2.教育相談の校内体制づくり、学級づくり(目標の立て方や進め方)
3.自己理解と好ましい人間関係(予防的・開発的教育相談)
4.教育相談に関わる心理学の基礎理論と技法(受容、傾聴、共感)
5.リフレ―ミング、ストレスマネジメントの指導
6.教育相談の進め方①(カウンセリングマインド)
7.教育相談の進め方②(いじめ、不登校、虐待、非行等)
8.教育相談の進め方③(進路や生き方)<学外フィールドワーク>
9.教育相談の進め方④(保護者との連携)
10.グループエンカウンター、アサーショントレーニングの実践
11.「ケース会議」のロールプレイ
12. スクールカウンセラー・関係諸機関との連携<学外特別講師>
13. まとめ

| 科目名 | 教育相談 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 谷山　優子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業等の課題、(50%),試験(50%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
コメント等のフィードバックを返します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号／DP内容:国際3-2-1／世界の多様性や他者の多様な価値観を理解し尊重できる素養を備えている。
成績評価方法:授業等の課題、試験

学科DP番号／DP内容:家政3-2／よりよい生活の実現に向けて、他者の多様な価値観を理解して尊重し、円満な人間関係を基盤に人々と協調・協働できる。
成績評価方法:授業等の課題、試験

学科DP番号／DP内容:管栄3-4／健康・栄養問題とそれらを取り巻く自然や社会、経済、文化的要因に興味を持ち、自ら学ぶ意欲を持っている。
成績評価方法:授業等の課題、試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:授業等の課題、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:授業等の課題、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:授業等の課題、試験

[ 教科書(ISBN) ]
生徒指導提要　著者名:文部科学省　出版社:教育図書　(978-4-87730-274-0)

[ 参考書(ISBN) ]
授業進度に応じて紹介

| 科目名 | 教育の制度と経営 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 長尾　悠里 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
教職に必要な教育制度・経営に関する基礎概念や基本的論点について説明することができる。
教育の制度・経営をめぐる基本学説を用いて、自身の被教育経験を相対化・客観視することができる。学び手の立場からのみならず、教え手の立場で、教育の制度と経営に関する事柄を論じることができる。

[ 授業概要 ]
いかにすぐれた教育の思想や実践も、現代社会においては「制度化」されることによって、はじめて広く実現される。そうして作られた学校制度は、教職員を含む実にさまざまな人々の知恵と工夫で動かされる＝「経営」されることによって、はじめて高い効果を発揮する。
本講義では複雑化する教育課題をふまえて、これからの教師そして国民全体に必要な、教育の制度や経営に関する知識の習得をめざすとともに、教育の思想や実践を効果的に実現できるような、教育制度・教育経営に向き合う力量の基礎を培う。とくに、学校と地域の連携や、安全と安心の学校づくりなど、現代的な課題にも焦点をあてる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業前学習:テキストの指定箇所を読み、重要概念・論点を予習する。(学習時間:2時間)
授業後学習:講義内容について、書籍や日常生活を通じて自分の考えを深め、小レポートの回答を洗練する。(学習時間:2時間)

[ 授業計画 ]
1. 教育の制度と経営の基礎(1) －教育法規の枠組－
2. 教育の制度と経営の基礎(2) －教育基本法－
3. 教育の制度と経営の基礎(3) －日本の学校体系－
4. 教育行政の組織と役割(1) －国家と教育制度・経営－
5. 教育行政の組織と役割(2) －教育委員会－
6. 教員を支える制度(1) －公立学校教員の立場－
7. 教員を支える制度(2) －教員の研修・評価－
8. 教員を支える制度(3) －教科書制度－
9. 組織としての学校(1) －学校経営の概念と実践－
10. 組織としての学校(2) －学校組織の構造－
11. 現代学校経営の課題(1) －開かれた学校づくり－
12. 現代学校経営の課題(2) －安全･安心の学校づくり－
13. 現代学校経営の課題(3) －格差社会と学校－

| 科目名 | 教育の制度と経営 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 長尾　悠里 | | | |

[ 成績評価方法 ]
講義各回に提出する小レポート60%、期末試験(または最終レポート)40%。
小レポートについて、講義中の説明に即して、教育の制度と経営に関する基本的論点を、どの程度、正確に理解できているか、また、講義で説明した事例などについて、自分なりの分析や考えを的確かつ論理的に表現することができているか等の観点から評価する。
期末試験(または最終レポート)について、講義中の説明をどの程度、理解できているか、また、それらを用いてどの程度、的確かつ論理的に、自分なりに教育の制度と経営をめぐる諸課題に対する見解を述べることができているか等の観点から評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
講義中に、各回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、応答する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:小レポート、試験(または最終レポート)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:小レポート、試験(または最終レポート)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:小レポート、試験(または最終レポート)

[ 教科書(ISBN) ]
よくわかる！教職エクササイズ　法規で学ぶ教育制度　著者名:古田薫・山下晃一 編著　出版社:ミネルヴァ書房　(9784623081820)

[ 参考書(ISBN) ]
現代教育の制度と行政〔改訂版〕 著者名:河野和清 編著　出版社:福村出版　(9784571101793)

| 科目名 | 教育の制度と経営 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 長尾　悠里 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
教職に必要な教育制度・経営に関する基礎概念や基本的論点について説明することができる。
教育の制度・経営をめぐる基本学説を用いて、自身の被教育経験を相対化・客観視することができる。学び手の立場からのみならず、教え手の立場で、教育の制度と経営に関する事柄を論じることができる。

[ 授業概要 ]
いかにすぐれた教育の思想や実践も、現代社会においては「制度化」されることによって、はじめて広く実現される。そうして作られた学校制度は、教職員を含む実にさまざまな人々の知恵と工夫で動かされる＝「経営」されることによって、はじめて高い効果を発揮する。
本講義では複雑化する教育課題をふまえて、これからの教師そして国民全体に必要な、教育の制度や経営に関する知識の習得をめざすとともに、教育の思想や実践を効果的に実現できるような、教育制度・教育経営に向き合う力量の基礎を培う。とくに、学校と地域の連携や、安全と安心の学校づくりなど、現代的な課題にも焦点をあてる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業前学習:テキストの指定箇所を読み、重要概念・論点を予習する。(学習時間:2時間)
授業後学習:講義内容について、書籍や日常生活を通じて自分の考えを深め、小レポートの回答を洗練する。(学習時間:2時間)

[ 授業計画 ]
1. 教育の制度と経営の基礎(1) －教育法規の枠組－
2. 教育の制度と経営の基礎(2) －教育基本法－
3. 教育の制度と経営の基礎(3) －日本の学校体系－
4. 教育行政の組織と役割(1) －国家と教育制度・経営－
5. 教育行政の組織と役割(2) －教育委員会－
6. 教員を支える制度(1) －公立学校教員の立場－
7. 教員を支える制度(2) －教員の研修・評価－
8. 教員を支える制度(3) －教科書制度－
9. 組織としての学校(1) －学校経営の概念と実践－
10. 組織としての学校(2) －学校組織の構造－
11. 現代学校経営の課題(1) －開かれた学校づくり－
12. 現代学校経営の課題(2) －安全･安心の学校づくり－
13. 現代学校経営の課題(3) －格差社会と学校－

| 科目名 | 教育の制度と経営 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 長尾　悠里 | | | |

[ 成績評価方法 ]
講義各回に提出する小レポート60%、期末試験(または最終レポート)40%。
小レポートについて、講義中の説明に即して、教育の制度と経営に関する基本的論点を、どの程度、正確に理解できているか、また、講義で説明した事例などについて、自分なりの分析や考えを的確かつ論理的に表現することができているか等の観点から評価する。
期末試験(または最終レポート)について、講義中の説明をどの程度、理解できているか、また、それらを用いてどの程度、的確かつ論理的に、自分なりに教育の制度と経営をめぐる諸課題に対する見解を述べることができているか等の観点から評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
講義中に、各回の小レポートの回答をいくつか取り上げ、応答する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:小レポート、試験(または最終レポート)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:小レポート、試験(または最終レポート)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:小レポート、試験(または最終レポート)

[ 教科書(ISBN) ]
よくわかる！教職エクササイズ　法規で学ぶ教育制度　著者名:古田薫・山下晃一 編著　出版社:ミネルヴァ書房　(9784623081820)

[ 参考書(ISBN) ]
現代教育の制度と行政〔改訂版〕 著者名:河野和清 編著　出版社:福村出版　(9784571101793)

| 科目名 | 教育の方法及び技術 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | ○ |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
基礎的な教育方法や技術を理解し、基礎的な教育におけるICTの活用能力を身につける。

[ 授業概要 ]
授業設計（インストラクショナルデザイン）に関わる基本的な考え方、授業場面での指導技術等を学びます。また、教育におけるICTを活用するための理論や事例を知り、実際に情報端末に触れながらICTを活用するための演習を行います。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
各回、予習復習合わせて4時間程度の主体的な学修を求めます。予習としては、事前に資料を配布する場合は、その資料の内容を大まかに理解しておいてください。復習としては、重要な内容に関して振り返り、自分の言葉で説明できるようにノートにまとめる等してください。

[ 授業計画 ]
1.これからの子どもたちに育みたい資質・能力
2.教師に求められる授業力
3.授業をつくるということ。授業づくりのプロセス
4.授業評価をデザインする・目標・指導・評価の一体化の意義
5.学習環境のデザイン・授業企画書の発表会
6.授業を支える指導技術・学びを引き出す指導技術
7.オリエンテーション・現代社会におけるICT活用の意義と理論の概要
8.教師のICT活用指導力及び情報活用能力育成の基礎的な指導法の概要
9.情報活用能力育成の理論と実践①（情報モラル、各教科等における指導事例）
10.情報活用能力育成の理論と実践②（プログラミング教育、STEAM教育等）
11.ICT活用による学習指導や校務の推進の理論と実践①（デジタル教材の作成と利用等）
12.ICT活用による学習指導や校務の推進の理論と実践②（遠隔授業、LMSによる学習履歴の活用、統合型校務支援システム等）
13.まとめ

| 科目名 | 教育の方法及び技術 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 黒田　昌克 | | | |

[ 成績評価方法 ]
各回の小レポート及び小テスト（40%）、最終課題（60%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
小レポートのフィードバックは適宜授業やmanabaにおいて行うことがあります。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：各回の小レポート及び小テスト、最終課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：各回の小レポート及び小テスト、最終課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：各回の小レポート及び小テスト、最終課題

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
教育の方法と技術　著者名：稲垣忠
　出版社：北大路書房 （978-4-7628-3060-0）

| 科目名 | 教職実践演習(栄養教諭) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 安田　敬子、林　浩子、榎元　十三男、竹市　仁美、宮本　晃郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
栄養教諭としての使命や職務内容の重要性を理解し、栄養教育に関する専門性を横断的に学び、具体的な実践演習の展開を通して、教育の現場に適応する知識とスキルを修得する。また、教員として最小限必要な資質能力を身に付ける。

[ 授業概要 ]
以下の項目について調査・分析、討議、ロールプレイ、フィールドワーク等の方法で演習中心の授業を展開し、実践的な指導力を養う。
①児童・生徒の理解及び栄養指導・栄養管理
②教職員との連携、調整の役割
③適切な学校給食運営と学校給食の現状について学内、地域への情報提供
④給食時間における食に関する指導、計画
⑤家庭、地域(地産、地消、食文化等)との連携、調整
⑥教員としての使命感や責任感、教育的愛情に関する事項
⑦社会性や対人関係能力に関する事項

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
管理栄養士関連科目及び教職課程科目を確実に習得しておくこと。

[ 授業計画 ]
1.オリエンテーション　これまでの学習の振り返りとこれからの学習の進め方(宮本)
2.教職の意義と教員のあり方(宮本)
3.学校現場の課題とその対応(学外講師(宮本))
4.個別栄養指導と栄養教諭とのかかわり(グループ討議・作成)(安田)
5.個別栄養指導と栄養教諭とのかかわり(ロールプレイによる発表)(安田)
6.各教科と「食」の関連内容の検討(安田)
7.学外演習(榎元、安田)
8.「食」に関する指導計画の検討・作成(グループ討議・作成)(林)
9.「食」に関する指導計画の作成・発表(模擬授業)(林)
10.地域との連携を通して地場産物、食文化等の調査①(調査、フィールドワーク、資料分析1)(竹市)
11地域との連携を通して地場産物、食文化等の調査②(資料分析2, 発表・討議)(竹市)
12.外部講師(教育委員会)による講演①(学外講師)他学科と合同
13.外部講師(栄養教諭)による講演②(学外講師(安田))

※林担当分は集中講義

| 科目名 | 教職実践演習(栄養教諭) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 安田　敬子、林　浩子、榎元　十三男、竹市　仁美、宮本　晃郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート(60%),ロールプレイ等授業中の取り組み態度(40%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
栄養教諭論ー理論と実際ー　著者名:金田雅代編著　出版社:建帛社 (978-4-7679-2116-7)

[ 参考書(ISBN) ]
栄養教諭のための学校栄養教育論　著者名:笠原賀子編著　出版社:医歯薬出版 (978-4263704950)

| 科目名 | 教職実践演習(中・高) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育実践力の養成 | | | |
| 担当者 | 鈴木　宏節、宮本　晃郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
将来、教員になる上で、自らにとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識やICTをはじめとする技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようにすることを目標とする。

[ 授業概要 ]
授業では、①教師としての使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人間関係能力に関する事項、③生徒の理解や学級経営等に関する事項、④教科の指導力に関する事項、といった課題目標を達成するために、ロールプレイ、フィールドワーク、事例研究等を多く取り入れ、ICT機器を使用しつつ実践的な指導力の養成を図る。可能な限り、少人数での授業展開をする。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて2時間程度。指定されたテーマに関して、自らが教壇に立つ姿勢で準備すること。課題やレポートについては、指示された内容を満たすとともに、創造性を発揮するよう工夫すること。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション(宮本)
2. 教職の意義や教員のあり方(宮本)
3. 学校現場の課題とその対応(宮本)
4. 社会人としての基本の習得と保護者や地域との連携(鈴木)
5. フィールドワーク、学校現場実務実習(自己の役割と協力)(鈴木)
6. フィールドワーク、学校現場実務実習(校務運営の再確認)(鈴木)
7. フィールドワーク、学校現場実務実習(学級集団の形成)(鈴木)
8. フィールドワーク、学校現場実務実習(学級担任の役割の再確認)(鈴木)
9. 教育の今日的課題の事例研究(ICT機器の運用)(鈴木)
10. 教育の今日的課題のグループ討議(鈴木)
11. 学習指導の基本(教材研究・学習指導案作成)(鈴木)
12. 模擬授業の実践と討議(社会・地歴に関する授業作りと指導力の向上)(鈴木)
13. まとめ

| 科目名 | 教職実践演習(中・高) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教育実践力の養成 | | | |
| 担当者 | 鈴木　宏節、宮本　晃郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
課題・レポート(40%)、授業への参加態度(30%)、グループ活動の状況・発表など(30%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
随時manabaを利用し、質疑応答などをおこなう。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:課題・レポート(40%)、授業への参加態度(30%)、グループ活動の状況・発表など(30%)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:課題・レポート(40%)、授業への参加態度(30%)、グループ活動の状況・発表など(30%)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:課題・レポート(40%)、授業への参加態度(30%)、グループ活動の状況・発表など(30%)

[ 教科書(ISBN) ]
これまで使用してきた教職に関する科目及び教科に関する科目のテキストを適宜使用する。(とくに指定せず)

[ 参考書(ISBN) ]
適宜紹介する。

| 科目名 | 教職実践演習(中・高) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 北山　円正、宮本　晃郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
心構え、授業実践力、生徒指導力をはじめ、教員としての職務に必要な内容を整理し、一人前の教員として独り立ちできる力を身につけ、教員として必要な知識・技能を習得する。

[ 授業概要 ]
学校見学や指導主事・教諭の講義等で、学校現場の実情を学び、実務に必要な心構えを学ぶ。また、指導計画・授業内容、生徒・保護者・社会への対応について、グループ学習・討論等によって充実を図り、その問題点について検討を加える。さらに授業を通じて、教員としての自己の課題を自覚するとともに、必要な知識・技能の定着を図る。おもに教科以外の活動について課題を与え、それについてグループで検討し、資料を作成して発表を行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
・各回、予習復習合わせて2時間程度
・国語科指導法の概要・人権教育・学級経営・生活指導等、生徒指導に必要な事項を中心に、これまで積み上げてきた学習を振り返りながら受講すること。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション(宮本)
2. 学校現場(中高にて)における実務実習(校務運営の再確認) (宮本)
3. 学校現場(中高にて)における実務実習(学級経営および学級担任の役割) (宮本)
4. 進路指導について・1(北山)
5. 進路指導について・2(北山)
6. 進路指導について・3(北山)
7. 遠足について・1(北山)
8. 遠足について・2(北山)
10. 体育祭・文化祭について・1(北山)
11. 体育祭・文化祭について・2(北山)
12. 体育祭・文化祭について・3(北山)
13. まとめ(北山)

| 科目名 | 教職実践演習(中・高) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 北山　円正、宮本　晃郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内容の理解度(30%)・教員としての問題意識(30%)およびレポートの内容(40%)によって評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
発表内容についてコメントし、提出物は添削する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:発表・質疑応答等・課題文を要約した文章、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:発表・質疑応答等・課題文を要約した文章、レポート

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:発表・質疑応答等・課題文を要約した文章、レポート

[ 教科書(ISBN) ]
適宜資料を配付する。

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教職実践演習(中・高) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 本田　隆裕、宮本　晃郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
　将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活を、より円滑に始められる様になる。

[ 授業概要 ]
(1)教員としての使命感や責任感、教育的愛情に関する事項。
(2)社会性や対人関係能力に関する事項。
(3)生徒理解や学級経営等に関する事項。
(4)教科の指導力に関する事項。
　以上の観点から、ロールプレイ、フィールドワーク、事例研究等を多く取り入れ、実践的な指導力の養成を図る。可能な限り、少人数のグループでの授業展開をする。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業についての予習・復習4時間程度。
各自の履修カルテを検討し、自分の現在、あるいは将来における課題を自覚し、その解決方法や方策を考え、実行する。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション(宮本)
2. 教職の意義や教員のあり方(宮本)
3. 学校現場の課題とその対応(宮本)
4. 成績管理と情報機器の活用、生徒情報の管理とその意義(本田)
5. 学級担任の仕事(本田)
6. 学級経営と情報機器の活用(本田)
7. 教育実習のまとめ(所感)(本田)
8. 教育実習のまとめ(今後の課題)(本田)
9. 事例研究1(生徒との信頼関係づくりと授業)(本田)
10. 事例研究2(高い専門性と授業)(本田)
11. 学校の危機管理(生徒対応)(本田)
12. 学校の危機管理(教育公務員の責任)(本田)
13. 教員の使命、学校文書の作成、学級通信・保護者への文書について議論(本田)

| 科目名 | 教職実践演習(中・高) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 本田　隆裕、宮本　晃郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
クラス討議への参加度・授業中の課題(60%)、期末レポート(40%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
レポートの採点結果を受け取ることができる日を設定し、授業中に案内します。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
これまでに使用して来た教職に関する科目及び教科に関する科目のテキストを適宜使用する。

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教職実践演習(中・高) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 吉岡　志津世、田中　章愛、宮本　晃郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
教師として必要な資質の形成に関して、以下の4項目について確認し、円滑に教職生活をスタートさせることができるようにすることを目標とする。
①教育に対する使命感や責任感をもち、生徒に対する豊かな愛情をもつことができるようになる。
②社会性や対人関係、コミュニケーションの能力を高めることができるようになる。
③生徒理解や学級経営等に関する必要な能力の基礎を身に付けることができるようになる。
④教科等の指導力の基礎を形成することができるようになる。

[ 授業概要 ]
到達目標達成のために、個々の課題をもとに、学校現場の視点を取り入れ、実践的な 知識や技能を身につけられるように互いの学びを重視したグループ協議を主体として、事例研究、役割演技(ロールプレイ)、模擬授業等を取り入れた授業を行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回の授業についての予習・復習2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション(宮本)
2. 教育実習を振り返り①自己評価(田中、以下12回まで同様)
Chapter 1 Facial Communication and Eye Contact
3. 教育実習の振り返り②今後の課題
Chapter 2 Gestures and Body Movement
4. 教職の意義や教員の使命(事例研究・グループ討論)
Chapter 3 Space and Distance
5. 学級経営について①(学級経営案作成・グループ討論)
Chapter 4 Time in Communication
6. 学級経営について②(が急通信作成・グループ討論)
Chapter 5 Gender and Communication Style
7. 社会人としての基本の習得と保護者や地域との連携(ロールプレイ)
Chapter 6 Culture and Communication Style
8. 教師としてのコミュニケーション能力の向上(ロールプレイ)
Chapter 7 Self-disclosure
9. 教育の今日的な課題①(事例研究)
Chapter 8 Self-assertiveness
10. 教育の今日的な課題②(事例研究・グループ討論)
Chapter 9 Active Listening
11. 模擬授業実践演習①(模擬授業と省察)
Chapter 10 Online Management
12. 模擬授業実践演習②(模擬授業と省察)
Chapter 11 Cultural Values
13. まとめ(プレゼン)(吉岡)

| 科目名 | 教職実践演習(中・高) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 吉岡　志津世、田中　章愛、宮本　晃郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の課題・発表 60%、小テスト20%、まとめ(プレゼントレポート)20%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
・テストはコメントを付けてを返却します。
・レポートはコメントをつけて返却します。
・発表は授業中にフィードバックします。
(manaba の小テストや課題は manabaにてフィードバック)

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:レポート・発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:レポート、ロールプレイ、発表

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート、テスト、発表、プレゼンテーション

[ 教科書(ISBN) ]
・これまでに使用して来た教職に関する科目及び教科に関する科目のテキストを適宜使用する。
・必要に応じて適宜資料を配布する。

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教職実践演習(中・高) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　陽子、大森　正子、宮本　晃郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
・①教員としての使命感、責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係力、③生徒理解や学級経営力、④教科の指導力、⑤表現力を身に付けている。
・生活を工夫し創造する資質・能力の育成を目指した家庭科の授業を実践するための課題を設定し、課題解決する過程で授業実践に必要な知識・技能、思考力、判断力、表現力等を身に付けている。
・ICTを活用した家庭科の授業ができる。

[ 授業概要 ]
教職課程で学んだ知識・技能、教育実習で体験した教科指導力や生徒指導力を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等をもって、学級や教科を担任しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を実践できる資質能力が身についていることを確認する。講義、演習、発表、ロールプレイングなどを取り入れた授業を行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
・今日の教育課題について新聞や雑誌等を読んで理解しておく。
・教養科目、学科専門科目、教職課程科目での履修を振り返り、各自の成果と課題を確認しておく。
・授業前後には各自の課題に取り組むために1時間程度を充てることが望ましい。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション(宮本)
2. 教職の意義と教員の役割(宮本)
3. 学校現場の課題とその対応(宮本)
4.教育実習の成果と課題(田中)
5. 生徒の主体性を引き出す教育①　グループ討議(田中)
6.生徒の主体性を引き出す教育②　新聞作り(1)(田中)
7.生徒の主体性を引き出す家庭科授業(田中)
8. 保護者への対応　　ロールプレイング(田中)
9. 教育現場における家庭科教育(外部講師、田中)
10. ICTを活用した家庭科授業について(大森)
11. ICTを活用した家庭科授業について(大森)
12. ICTを活用した家庭科授業(大森)
13. 私の教科指導の方針、学級経営の方針など　プレゼンテーション(田中)

| 科目名 | 教職実践演習(中・高) | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　陽子、大森　正子、宮本　晃郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
レポート(40%)、授業態度(30%)、プレゼンテーション(30%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
課題は提出後、必要に応じて添削し返却する。
授業内でもコメント等で改善を促す。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:課題

[ 教科書(ISBN) ]
必要に応じて資料プリントを配布する。 著者名:田中陽子

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 教職論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教職の在り方を追究する・教職への適性を考える | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
学校教育全般についての理解を深めるとともに、「教職とは何か」について、教職の意義や役割、資質能力、職務内容等を概観する。また、期待される教職像を探究し、教職の適性を考え、教職への基礎づくりを行う。

[ 授業概要 ]
変化する社会情勢と教育動向を概観し、「教育とは」「学校とは」「教育者とは」何かを考える。そして、教育関係法規や学習指導要領などをもとに公教育の重要性を理解し、教職に求められる資質・能力について考え、将来の教職像を明らかにしていく。また、最新の教育課題を事例研究で学び、現場の厳しさにも目を向けて、幅広い視野と強い責任感が求められることを意識したい。その際、現場経験（校長、教頭、教諭）と教育委員会事務局（教職員課・指導課）の経験も活かして、今日的課題への対応についてともに考えたい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
次回の授業までに、課題のキーワードを調べることと、そこから派生して自分自身が疑問に思うことや、さらに調べてみたいことを明らかにする。授業での配付資料を熟読して、次回の授業に臨むようにする。授業に関係するニュースにも関心をもって、情報交換できるようにする。「各回、予習復習合わせて2時間程度」

[ 授業計画 ]

1. 教育の目的と意義・役割　－人間にとっての教育・忘れられない魅力的な教師－
2. 学校教育と教職の意義等　－家庭教育との違い・学校の種類・教育関係法規－
3. 公教育を担う教職への道　－公務員と民間の違い・教育公務員・教員免許－
4. 教職の役割及び資質能力　－聖職者・労働者・専門職としての教職観の変遷－
5. 教員の資質能力の構造化　－新たな専門職的教職観・学習指導と生徒指導等－
6. これからの授業力の向上　－素材研究・教材研究・発問や板書・ICT活用－
7. これからの指導力の向上　－生徒指導・健康安全指導・特別支援教育の視点－
8. これからの教師力の向上　－行事・校務分掌・保護者対応・関係機関連携等－
9. 信頼される学校力の向上　－情報発信・地域連携・学校評価・教育課程編成－
10. 教育公務員としての教職　－教員採用・研修・教員としてのライフサイクル－
11. 教育新時代における教職　－新たな教育課題・幅広い知見と「チーム学校」－
12. 学び続ける教師への期待　－若手教員の輝きと苦悩・自分自身の適性と力点－
13. まとめ

| 科目名 | 教職論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教職の在り方を追究する・教職への適性を考える | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎時間のレポート課題（50%）・グループ討議や発表（30%）
まとめの試験（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
・レポートや最終テストは、後日添削して返却します。
・質問や望ましい意見は、要約して次回の講義で紹介する。
・解決できていない学習上の問題点については、個別に対応する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

学科DP番号／DP内容：日文2-1／獲得した「読む・書く・話す・聞く」力によって、自分の考えを適切にまとめ、論理的に表現し伝えることができる。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：日文3-1／自ら問題を発見し、それを解決するために必要な方策を主体的に構築することができる。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：英米2-3／日本語及び英語で書かれた文献から読み取った情報に基づき、自分の考えを論理的に組み立てて表現できる。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：英米3-3／対話的な学びを通して、他者と協調・協働して学び合う姿勢を持っている。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：国際2-1／物事を複眼的・多面的に観察・理解しようとする思考力を備え、公正・批判的に判断できる基本的な力を持っている。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：国際2-2／自らの主張や意見を口頭あるいは文書によって論理的・説得的に伝える力を持っている。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：史学3-1／演習形式の授業に積極的に取り組み、主体的に自己の課題を発見かつ解決できる能力を有している。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

[ 教科書（ISBN） ]
レジメ・資料を作成して配付する

[ 参考書（ISBN） ]
随時指示する。

| 科目名 | 教職論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教職の在り方を追究する・教職への適性を考える | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
学校教育全般についての理解を深めるとともに、「教職とは何か」について、教職の意義や役割、資質能力、職務内容等を概観する。また、期待される教職像を探究し、教職の適性を考え、教職への基礎づくりを行う。

[ 授業概要 ]
変化する社会情勢と教育動向を概観し、「教育とは」「学校とは」「教育者とは」何かを考える。そして、教育関係法規や学習指導要領などをもとに公教育の重要性を理解し、教職に求められる資質・能力について考え、将来の教職像を明らかにしていく。また、最新の教育課題を事例研究で学び、現場の厳しさにも目を向けて、幅広い視野と強い責任感が求められることを意識したい。その際、現場経験（校長、教頭、教諭）と教育委員会事務局（教職員課・指導課）の経験も活かして、今日的課題への対応についてともに考えたい。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
次回の授業までに、課題のキーワードを調べることと、そこから派生して自分自身が疑問に思うことや、さらに調べてみたいことを明らかにする。授業での配付資料を熟読して、次回の授業に臨むようにする。授業に関係するニュースにも関心をもって、情報交換できるようにする。「各回、予習復習合わせて2時間程度」

[ 授業計画 ]

1. 教育の目的と意義・役割　－人間にとっての教育・忘れられない魅力的な教師－
2. 学校教育と教職の意義等　－家庭教育との違い・学校の種類・教育関係法規－
3. 公教育を担う教職への道　－公務員と民間の違い・教育公務員・教員免許－
4. 教職の役割及び資質能力　－聖職者・労働者・専門職としての教職観の変遷－
5. 教員の資質能力の構造化　－新たな専門職的教職観・学習指導と生徒指導等－
6. これからの授業力の向上　－素材研究・教材研究・発問や板書・ICT活用－
7. これからの指導力の向上　－生徒指導・健康安全指導・特別支援教育の視点－
8. これからの教師力の向上　－行事・校務分掌・保護者対応・関係機関連携等－
9. 信頼される学校力の向上　－情報発信・地域連携・学校評価・教育課程編成－
10. 教育公務員としての教職　－教員採用・研修・教員としてのライフサイクル－
11. 教育新時代における教職　－新たな教育課題・幅広い知見と「チーム学校」－
12. 学び続ける教師への期待　－若手教員の輝きと苦悩・自分自身の適性と力点－
13. まとめ

| 科目名 | 教職論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 教職の在り方を追究する・教職への適性を考える | | | |
| 担当者 | 宮本　晃郎 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎時間のレポート課題（50%）・グループ討議や発表（30%）
まとめの試験（20%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
・レポートや最終テストは、後日添削して返却します。
・質問や望ましい意見は、要約して次回の講義で紹介する。
・解決できていない学習上の問題点については、個別に対応する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

学科DP番号／DP内容：国際2-1／物事を複眼的・多面的に観察・理解しようとする思考力を備え、公正・批判的に判断できる基本的な力を持っている。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：国際2-2／自らの主張や意見を口頭あるいは文書によって論理的・説得的に伝える力を持っている。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：家政2-1／社会全体の発展やグローバルな問題について、生活に基盤を置く地道な視点で考察することができる。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：家政3-1／社会変化に追随して受動的になりがちな生活の問題点を指摘し、個人や家族の価値を堅持し、主体的で創造的な生活の実現を目指す意欲や実践力がある。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：管栄1-1／社会・環境と健康についての知識と理解を基盤とした健康に関する知識を有している。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

学科DP番号／DP内容：管栄2-3／健康増進や疾病予防、治療につながる栄養状態に応じた栄養マネジメントの実施能力を有している。
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：レポート課題・グループ討議・まとめ試験

[ 教科書（ISBN） ]
レジメ・資料を作成して配付する

[ 参考書（ISBN） ]
随時指示する。

| 科目名 | 国語科指導法Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 中学校・高校国語科の授業づくり | | | |
| 担当者 | 堀江　祐爾 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | 教材研究 | グループワーク | |
| プレゼンテーション | 模擬授業 | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
学習指導要領が求める国語の授業が展開できるように、教材を研究し学習指導案を作成し、模擬授業の質を高める。中学校・高校の国語教科書教材を用いて、国語科授業づくりの基礎を身につけることをめざしている。それぞれが教材にふさわしい言語活動を考え、工夫する力を身につけて欲しい。

[ 授業概要 ]
中学校・高校国語教科書教材の教材研究をもとに、学習のめあてや言語活動を設定するという授業づくりの基本を押さえる。さらに、学習指導案(板書計画、評価方法などを含む)を作成し、模擬授業をおこないながら授業実践力を身につける。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、よく考えておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション　話すこと・聞くことの学習指導
2. 学習指導要領のポイント　国語科授業におけるICT活用
3. 物語教材(中学校)の教材研究
4. 物語教材(中学校)の模擬授業
5. 説明文教材(中学校)の教材研究
6. 説明文教材(中学校)の模擬授業
7. 古典教材(中学校)の教材研究
8. 古典教材(中学校)の模擬授業
9. 物語教材(高等学校)の教材研究
10. 物語教材(高等学校)の模擬授業
11. 書くことの学習指導(中学校・高等学校)
12. 文法などの学習指導について(中学校・高等学校)
13. まとめ、身につけた力のふり返り
※授業の展開の都合により順序や内容が変わることがある。

| 科目名 | 国語科指導法Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 中学校・高校国語科の授業づくり | | | |
| 担当者 | 堀江　祐爾 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎週の課題（20%）、発表内容（40%）、レポート（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
中学校学習指導要領解説国語編　著者名：文部科学省　出版社：東洋館出版社 （978-4491034706）
高等学校学習指導要領解説国語編
　著者名：文部科学省　出版社：東洋館出版社 （978-4491036403）

| 科目名 | 国語科指導法Ⅳ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 中学校・高等学校国語の授業づくり | | | |
| 担当者 | 堀江　祐爾 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | 教材研究 | グループワーク | |
| プレゼンテーション | 模擬授業 | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
学習指導要領が求める国語の授業が展開できるように、教材を研究し学習指導案を作成し、模擬授業の質を高める。中学校・高校の国語教科書教材を用いて、国語科授業づくりの基礎を身につけることをめざしている。

[ 授業概要 ]
国語教科書の教材研究をもとに、学習のめあてや言語活動を設定するという授業づくりの基本を押さえる。さらに、学習指導案(板書計画、評価方法などを含む)を作成し、模擬授業をおこないながら授業実践力を身につける。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
毎回の授業内容を復習して理解を確かなものにするとともに、教材をよく読み込んでどのような授業づくりをおこなうか、よく考えておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション　国語科に関する調査
2. 学習指導要領が求める授業づくり
3. 随筆教材(中学校)の教材研究
4. 随筆教材(中学校)の模擬授業
5. 物語文教材(中学校)の教材研究
6. 物語文教材(中学校)の模擬授業①
7. 物語文教材(中学校)の模擬授業②
8. 論説文教材(高等学校)の教材研究
9. 論説文教材(高等学校)の模擬授業①
10. 論説文教材(高等学校)の模擬授業②
11. 古典教材(中学校・高等学校)の教材研究
12. 古典教材(中学校)の模擬授業①
13. 評価のあり方　身につけた力のふり返り
※受講者の要望によって中学校と高等学校の割合を柔軟に変更する予定。

| 科目名 | 国語科指導法Ⅳ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 中学校・高等学校国語の授業づくり | | | |
| 担当者 | 堀江　祐爾 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎週の課題（20%）、発表内容（40%）、レポート（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題・レポートについては印刷配布、またはmanabaやインターネットなどを通してフィードバックする。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
中学校学習指導要領解説国語編　著者名：文部科学省　出版社：東洋館出版社 （978-4491034706）
高等学校学習指導要領解説国語編　著者名：文部科学省
　出版社：教育出版 （978-4491036403）

| 科目名 | 児童サービス論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 小前　恭則 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
①子どもの発達段階を理解し、子どもの本の特性を理解し、子どもと本を結びつける技術の基礎を習得する。
②さまざまな児童サービスを通じ、すべての子どもたちに読書の喜びを伝えるために必要な考え方と方法を理解し、説明できる。
③絵本の読み聞かせを実演し、本の紹介を書くことができる。

[ 授業概要 ]
児童サービスは、公共図書館におけるサービスの大きな柱となっています。授業では、①子どもを知る、②子どもの本を知る、③子どもと本を結びつける、を中心に児童サービス論を学びます。教科書のほか、重点項目は、【NOTE】として、最も基礎となるべき点をお伝えします。必ず、絵本・児童文学を1冊ずつ目を通しておいてください。書評に挑戦、絵本の読み聞かせ実習も予定しています。公共図書館実務経験のある教員が、その経験を活かして児童サービスの実際を講義します。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
実際に児童コーナーを利用し、児童書や絵本に親しむこと。
ﾚｼﾞｭﾒをもとに授業内容を確認し、教科書で理解を深めること。
各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
1.児童サービスの意義　児童サービスとは何か、児童サービスの歴史
2.子どもの生活と読書（1）　児童観の変遷、子どもの権利条約
3.子どもの生活と読書（2）　発達段階と読書、児童資料の類型
4.児童資料の種類と特色　－絵本、幼年文学、創作児童文学－
5.児童資料の種類と特色　－昔話、ノンフィクション、レファレンス、逐次刊行物、YA文学－
6.児童コレクションの形成と管理　書評基礎論、蔵書構成
7.児童サービスの諸活動　資料提供・情報サービス・フロアワークなど
8.子どもと本をつなぐ方法（1）　読み聞かせ・ストーリーテリング
9.子どもと本をつなぐ方法（2）　ブックトーク・アニマシオン
10.子どもと本をつなぐ工夫、乳幼児サービス
11.ヤングアダルトサービス、特別支援の必要な子どもたちへのサービス
12.学校・学校図書館との連携、子どもの読書活動の推進、児童サービスの運営
13.（演習）絵本の読み聞かせ

| 科目名 | 児童サービス論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 小前　恭則 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業への取り組み(コメントペーパー)(30%)、演習・課題(30%)、レポート(40%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
コメントペーパーをもとにフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『児童サービス論』新訂版(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ－6)　2020年　著者名:堀川照代　出版社:日本図書館協会　(978-4-8204-1909-9
)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 児童サービス論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 小前　恭則 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
①子どもの発達段階を理解し、子どもの本の特性を理解し、子どもと本を結びつける技術の基礎を習得する。
②さまざまな児童サービスを通じ、すべての子どもたちに読書の喜びを伝えるために必要な考え方と方法を理解し、説明できる。
③絵本の読み聞かせを実演し、本の紹介を書くことができる。

[ 授業概要 ]
児童サービスは、公共図書館におけるサービスの大きな柱となっています。授業では、①子どもを知る、②子どもの本を知る、③子どもと本を結びつける、を中心に児童サービス論を学びます。教科書のほか、重点項目は、【NOTE】として、最も基礎となるべき点をお伝えします。必ず、絵本・児童文学を1冊ずつ目を通しておいてください。書評に挑戦、絵本の読み聞かせ実習も予定しています。公共図書館実務経験のある教員が、その経験を活かして児童サービスの実際を講義します。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
実際に児童コーナーを利用し、児童書や絵本に親しむこと。
ﾚｼﾞｭﾒをもとに授業内容を確認し、教科書で理解を深めること。
各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
1.児童サービスの意義　児童サービスとは何か、児童サービスの歴史
2.子どもの生活と読書（1）　児童観の変遷、子どもの権利条約
3.子どもの生活と読書（2）　発達段階と読書、児童資料の類型
4.児童資料の種類と特色　－絵本、幼年文学、創作児童文学－
5.児童資料の種類と特色　－昔話、ノンフィクション、レファレンス、逐次刊行物、YA文学－
6.児童コレクションの形成と管理　書評基礎論、蔵書構成
7.児童サービスの諸活動　資料提供・情報サービス・フロアワークなど
8.子どもと本をつなぐ方法（1）　読み聞かせ・ストーリーテリング
9.子どもと本をつなぐ方法（2）　ブックトーク・アニマシオン
10.子どもと本をつなぐ工夫、乳幼児サービス
11.ヤングアダルトサービス、特別支援の必要な子どもたちへのサービス
12.学校・学校図書館との連携、子どもの読書活動の推進、児童サービスの運営
13.（演習）絵本の読み聞かせ

| 科目名 | 児童サービス論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 小前　恭則 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業への取り組み(コメントペーパー)(30%)、演習・課題(30%)、レポート(40%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
コメントペーパーをもとにフィードバックする。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『児童サービス論』新訂版(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ－6)　2020年　著者名:堀川照代　出版社:日本図書館協会　(978-4-8204-1909-9
)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 社会科指導法Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中阪　守 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
中学校学習指導要領「社会科」〔歴史的分野〕の目標や内容についての理解に基づいて、教材編成や授業の実践力を身につける。

[ 授業概要 ]
中学校学習指導要領の[歴史的分野]の目標や内容を踏まえ、歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解する。その中で日本の文化と伝統の特色を考え、現在の歴史認識に基づき国民としての自覚を育てる。小学校の歴史学習を踏まえ、歴史上の人物や文化遺産に対する理解を深めつつ、歴史に見られる国際関係や文化交流についても考え、国際協調の精神を養う。以上の事柄への実践的指導法の基礎を培うこと目指した講座運営を行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
・『中学校学習指導要領』『学習指導要領解説　社会編』を読む。
・教育実習に行く自治体の採択教科書の出版社や内容の情報を得る。
・自治体の教育委員会の「教育振興基本計画」その他の発行物を調べる。
※高校へ実習に行く人は、教科書が改訂、科目が変わるので母校から情報を得ておく。

[ 授業計画 ]
※ICTの活用について扱ってください
1. [歴史的分野]の全体の構成の把握（含む小学校。高等学校の学習内容）
2. 教材編成の実際Ⅰ（A 歴史との対話「私たちと歴史」）
3. 教材編成の実際Ⅱ（A 歴史との対話「身近な地域の歴史」）
4.「身近な地域の歴史」の発表
5. 教材編成の実際Ⅲ（B「近世までの日本とアジア」―古代までの日本）
6. 教材編成の実際Ⅳ（B「近世までの日本とアジア」―中世の日本）
　授業研究Ⅰ（模擬授業）ICTの活用
7.教材研究の実際Ⅳ(B「近世までの日本とアジア」－近世の日本①
8.教材研究の実際Ⅳ(B「近世までの日本とアジア」－近世の日本②
9. 教材編成の実際Ⅵ（C「近現代の日本と世界」―近代の日本と世界）
　授業研究Ⅲ（模擬授業）ICTの活用
10. 教材編成の実際Ⅶ（C「近現代の日本と世界」―現代の日本と世界）
　授業研究Ⅳ（模擬授業）ICTの活用
11. 教材編成の実際…各時代のまとめ
12. フィールドワーク
13. 後期試験

※受講生の要望と受講者数を勘案して、講義内容を変更する場合がある。

| 科目名 | 社会科指導法Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中阪　守 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内作業、活動（30%） 提出課題の評価（30%） 授業内試験（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:毎授業での「振り返りシート」
レポート
後期試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:毎授業での「振り返りシート」
レポート
後期試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:毎授業での「振り返りシート」
レポート
後期試験

[ 教科書（ISBN） ]
中学校学習指導要領解説（社会科編）』-H29.7月-　　著者名:文部科学省　出版社:東洋館出版社 （978-4536590051）
『文部科学省告示『中学校学習指導要領』　著者名:文部科学省　出版社:東山書房 （978-482781461）
学校を改革する　著者名:佐藤　学　　出版社:岩波ブックレットNo. 842

[ 参考書（ISBN） ]
適宜、プリント資料配布 （
なし
）
中学校での歴史教科書があれば持参する

| 科目名 | 社会科指導法Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中阪　守 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
　中学校学習指導要領「社会科」〔地理的分野〕の目標や内容についての理解に基づいて、教材編成や授業についての実践力を身につける。

[ 授業概要 ]
　講義
　中学校学習指導要領の［地理的分野］の目標や内容を踏まえ、日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立ち、我が国の国土の地域的特色を考察、理解し、地理的な見方や考え方の基礎を培い、国土に対する認識を養う。又、日本や世界の地域の環境条件や人間生活を考察し地域的な特色をとらえる。実際に生徒への指導展開の中では、調査や資料の適切な選択と活用ができる能力や資質を養うことも肝要である。これらから実践的指導法の基礎を培うことを主眼において講座運営を行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
・『中学校学習指導要領』『学習指導要領解説　社会編』を読む。
・教育実習に行く自治体の採択教科書の出版社や内容の情報を得る。
・自治体の教育委員会の「教育振興基本計画」その他の発行物を調べる。
※高校へ実習に行く人は、教科書が改訂、科目が変わるので母校から情報を得ておく。

[ 授業計画 ]
1. 中学校社会科の目標
2. 教材編成の実際Ⅰ(A 世界と日本の地域構成)
3. 教材編成の実際Ⅱ(B 世界の様々な地域　(1)世界各地の人々の生活と環境)
4. 教材編成の実際Ⅲ(B 世界の様々な地域　(2)世界の諸地域)ICTの活用
5. 教材編成の実際Ⅳ(C 日本の様々な地域　(1)地域調査の手法))6. 教材編成の実際Ⅴ(C 日本の様々な地域　(2)日本の地域的特色と地域分布)
7. 教材編成の実際Ⅵ(C 日本の様々な地域　(3)日本の諸地域)ICTの活用
8. 教材編成の実際Ⅶ(C 日本の様々な地域　(4)地域の在り方)ICTの活用
9. 課題学習の展開、情報機器の活用、授業研究Ⅰ(模擬授業)　ICTの活用
10. 読図と作図、年間指導計画、授業研究Ⅱ(模擬授業)ICTの活用
11. 学習指導案の作成、授業研究Ⅲ(模擬授業)ICTの活用
12. 試験問題の作成と評価法、授業研究Ⅳ(模擬授業)ICTの活用
13. 前期試験

※受講生の要望と受講者数を勘案して、講義内容を変更することがある。

| 科目名 | 社会科指導法Ⅲ | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中阪　守 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内作業、活動(30%)　提出課題の評価(30%)　授業内試験(40%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:毎授業での「振り返りシート」
レポート
前期試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:毎授業での「振り返りシート」
レポート
前期試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:毎授業での「振り返りシート」
レポート
前期試験

[ 教科書(ISBN) ]
中学校学習指導要領」(平成29年告示)
※他の講義で購入していればそれでよし(共有)
　著者名:文部科学省　出版社:東山書房　(978-4827814613)
文部科学省告示『中学校学習指導要領解説(社会科編)』-H29.7月-　著者名:文部科学省　出版社:東洋館出版社　(978-4536590051)

[ 参考書(ISBN) ]
適宜、プリント資料配布
中学校、高等学校の時の地図帳があれば持参する
「学校を改革する」 著者名:佐藤　学　出版社:岩波ブックレットNo. 842

| 科目名 | 社会科指導法Ⅳ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中阪　守 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
　中学校学習指導要領「社会科」〔公民的分野〕の目標や内容の理解に基づいた教材編成や授業の実践力を身につける。

[ 授業概要 ]
　中学校学習指導要領の[公民的分野]の目標や内容を踏まえ、個人の尊厳と人権の尊重の意義を広い視野から認識させ、民主主義に対する理解を深めると共に国民主権を担う公民としての必要な基礎的教養を培い、民主政治の意義や国民の生活の向上と経済活動のかかわりおよび現代の社会生活について自ら考えようとする態度を育てる。具体的指導展開の中では、調査や資料の適切な選択と活用ができる能力や態度を養うことも肝要である。以上についての実践的指導法の基礎を培うことを主眼において講座運営を行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
・『中学校学習指導要領』『学習指導要領解説　社会編』を読む。
・教育実習に行く自治体の採択教科書の出版社や内容の情報を得る。
・自治体の教育委員会の「教育振興基本計画」その他の発行物を調べる。
※高校へ実習に行く人は、教科書が改訂、科目が変わるので母校から情報を得ておく。

[ 授業計画 ]
1. [公民的分野] の全体的構成の把握
2. 教材編成の実際Ⅰ(A「私たちと現代社会」(1)私たちが生きる現代社会と文化の特色)
3. 教材編成の実際Ⅱ(A「私たちと現代社会」(2)現代社会を捉える枠組み)
4. 教材編成の実際Ⅲ(B「私たちと経済」(1)市場の働きと経済)
5. 教材編成の実際Ⅳ(B「私たちと経済」(2)国民の生活と政府の役割)ICTの活用
6. 教材編成の実際Ⅴ(C「私たちと政治」(1)人間の尊重と日本国憲法の基本原則)
7. 教材編成の実際Ⅵ(C「私たちと政治」(2)民主政治と政治参加)ICTの活用
8. 教材編成の実際Ⅵ　(D「私たちと国際社会の諸課題」(1) 世界平和と人類の福祉の増大)　ICTの活用
9. 教材編成の実際Ⅶ　(D「私たちと国際社会の諸課題」(2) よりよい社会を目指して)
10. 課題学習の展開Ⅰ　授業研究Ⅰ(模擬授業)ICTの活用
11. 課題学習の展開Ⅱ　授業研究Ⅱ(模擬授業))ICTの活用
12. まとめ　授業研究Ⅲ(模擬授業)
13. 後期試験

※受講生の要望と受講生数を勘案して、講義内容を変更することがある。

| 科目名 | 社会科指導法Ⅳ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 中阪　守 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内作業、活動（30%） 提出課題の評価（30%） 授業内試験（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:毎授業での「振り返りシート」
レポート
後期試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:毎授業での「振り返りシート」
レポート
後期試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:毎授業での「振り返りシート」
レポート
後期試験

[ 教科書（ISBN） ]
文部科学省告示『中学校学習指導要領』 著者名:文部科学省　出版社:東山書房 （978-4827814613）
文部科学省告示『中学校学習指導要領解説（社会科編）』-H29.7月-　　著者名:文部科学省　出版社:東洋館出版社 （978-4536590051）

[ 参考書（ISBN） ]
適宜、プリント資料配布 （
なし
）
中学校での公民、高校での政治経済の教科書があれば持参する
学校を改革する　著者名:佐藤　学　出版社:岩波ブックレットNo. 842

| 科目名 | 生涯学習概論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 深井　明比古 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
博物館学芸員・図書館司書等の生涯学習支援者としての視座を認識できるよう基礎を習得する。そのため生涯学習・社会教育に関する理論や歴史・内容を理解し、活動の現状を把握するとともに、生涯学習支援策の発想・企画力を養う。

[ 授業概要 ]
この授業では生涯学習の意義・歴史・施策の動向・内容・施設・支援者等について理解し、生涯学習支援の実践例に基づき、家庭教育・学校教育・社会教育との関係や現代的課題について学ぶ。
授業後半には「博物館・図書館の事業を考察する」と題して、生涯学習の視点で博物館・図書館等の社会教育施設の展示やイベント等事業の具体的な感心事項や課題を認識し、その在り方や企画・改善策についてレポートを作成する。また、これらを発表・評価によるコミュニケーションの向上と成果の共有を図る。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
生涯学習関連法規(社会教育法、図書館法、博物館法等)に目を通すこと。また授業開始前に生涯学習施設(博物館・図書館等)に出向き、充分な時間を費やし、展示や事業等の状況把握すること。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション、生涯学習・社会教育の意義
2. 生涯学習の歴史、必要性(ライフサイクルと生涯学習)
3. 生涯学習と家庭教育・学校教育
4. 生涯学習と社会教育、社会教育の意義
5. 生涯学習・社会教育の施策、内容、指導者
6. 生涯学習・社会教育施設(公民館・図書館・博物館等)
7. 生涯学習の実践と評価、まとめ
8. 生涯学習支援活動の現状と課題(展示、体験事業)
9. 生涯学習支援活動の現状と課題(学習支援事業、人材育成)
10. 生涯学習支援活動の現状と課題(交流事業)、「博物館・図書館の事業を考察する」レポート作成
11. 「博物館・図書館の事業を考察する」発表・評価①
12. 「博物館・図書館の事業を考察する」発表・評価②
13. 「博物館・図書館の事業を考察する」発表・評価③、講評及び生涯学習の深化と展望

| 科目名 | 生涯学習概論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 深井　明比古 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度・発言（20%）、試験（30%）、レポート作成と発表・評価（50%）により評価

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 生涯学習概論Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯学習の実践 | | | |
| 担当者 | 山内　紀幸 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1　生涯学習の概念を理解し、生涯学習の適切な活動を企画する
2　生涯学習に関わる魅力的な活動を実施する
3　人と関わる活動を通じて、リーダシップ、協調性、表現力を高める

[ 授業概要 ]
本授業では、生涯学習プログラム(市民講座)の企画・運営・評価を通じて、生涯学習運営の実践力の向上を目指す。アクティブ・ラーニングの要素を導入し、学生に反省的に生涯学習の知識・技能を習得させるとともに、汎用的スキルの獲得をねらいとしている。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
毎時の授業で指示します。

[ 授業計画 ]
1　生涯学習の理論――ミッションの説明
2　前半チーム活動①――顔合わせとシリーズテーマの検討
3　前半チーム活動②――シリーズテーマと講座内容の決定
4　前半チーム活動③――市民講座の企画書・チラシづくりと講座内容の工夫
5　市民講座(前半)開講①
6　市民講座(前半)開講②
7　市民講座(前半)開講③／後半チームの発表
8　後半チーム活動①――顔合わせとシリーズテーマの検討
9　後半チーム活動②――シリーズテーマと講座内容の決定
10　後半チーム活動③――市民講座の企画書・チラシづくりと講座内容の工夫
11　市民講座(後半)開講①
12　市民講座(後半)開講②
13　市民講座(後半)開講③／まとめ

| 科目名 | 生涯学習概論Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯学習の実践 | | | |
| 担当者 | 山内　紀幸 | | | |

[ 成績評価方法 ]
活動状況（20%）と市民講座でのパフォーマンス（教員評価＆学生評価）（40%×2）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
フィードバックは適宜manabaを通じて行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：manabaのチャット内容

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：企画書内容、プレゼンに対する学生による評価

[ 教科書（ISBN） ]
なし。適宜資料を配付します。

[ 参考書（ISBN） ]
生涯学習概論［第2次改訂版］　著者名：佐藤晴雄
出版社：学陽書房
（N978-4-313-61144-3）

| 科目名 | 生涯学習概論Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯学習の実践 | | | |
| 担当者 | 山内　紀幸 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
1　生涯学習の概念を理解し、生涯学習の適切な活動を企画する
2　生涯学習に関わる魅力的な活動を実施する
3　人と関わる活動を通じて、リーダシップ、協調性、表現力を高める

[ 授業概要 ]
本授業では、生涯学習プログラム(市民講座)の企画・運営・評価を通じて、生涯学習運営の実践力の向上を目指す。アクティブ・ラーニングの要素を導入し、学生に反省的に生涯学習の知識・技能を習得させるとともに、汎用的スキルの獲得をねらいとしている。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各回、予習復習合わせて4時間程度。
毎時の授業で指示します。

[ 授業計画 ]
1　生涯学習の理論――ミッションの説明
2　前半チーム活動①――顔合わせとシリーズテーマの検討
3　前半チーム活動②――シリーズテーマと講座内容の決定
4　前半チーム活動③――市民講座の企画書・チラシづくりと講座内容の工夫
5　市民講座(前半)開講①
6　市民講座(前半)開講②
7　市民講座(前半)開講③／後半チームの発表
8　後半チーム活動①――顔合わせとシリーズテーマの検討
9　後半チーム活動②――シリーズテーマと講座内容の決定
10　後半チーム活動③――市民講座の企画書・チラシづくりと講座内容の工夫
11　市民講座(後半)開講①
12　市民講座(後半)開講②
13　市民講座(後半)開講③／まとめ

| 科目名 | 生涯学習概論Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 生涯学習の実践 | | | |
| 担当者 | 山内　紀幸 | | | |

[ 成績評価方法 ]
活動状況（20%）と市民講座でのパフォーマンス（教員評価＆学生評価）（40%×2）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
フィードバックは適宜manabaを通じて行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：manabaのチャット内容

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：企画書内容、プレゼンに対する学生による評価

[ 教科書（ISBN） ]
なし。適宜資料を配付します。

[ 参考書（ISBN） ]
生涯学習概論［第2次改訂版］　著者名：佐藤晴雄
出版社：学陽書房
（N978-4-313-61144-3）

| 科目名 | 情報サービス演習 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館における情報サービスの実践的習得 | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
参考図書に関する基本的な知識を習得し、司書として円滑で的確なレファレンスサービスを行う実践能力を身につける。

[ 授業概要 ]
授業では、主に参考図書を用いてレファレンス質問への回答処理の実習を行い、情報源の利用について実践的な能力の習得をめざす。より真正性の高い事例を用いて、各自が問題解決のために主体的・対話的に取り組めるように、PBLやピア・ラーニングなどのアクティブ・ラーニングの視点を取り入れて、深い学びができる授業構成とする。司書の経験を有する教員が現場での具体例に則して指導する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
「図書館サービス概論」「情報サービス論」の概要を事前に修得していることが望ましい。
授業で得た知識をもとに、次回の授業までに大学図書館で参考図書を確認し、それぞれの凡例を読んだり、実際に使用してみること。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　図書館における情報サービスの意義
2. 図書館におけるレファレンスコレクションの構築と整備
3. レファレンスプロセスについて:受付から評価まで
4. レファレンスインタビューについて
5. レファレンスインタビュー演習
6. 言語・文字の探し方と演習/事物・事象の探し方と演習
7. 歴史・日時の探し方と演習/地理・地名の探し方と演習
8. 人物・人名の探し方と演習
9. 演習問題解答解説及びフィードバック
10. 学校の児童生徒及び教職員への情報サービスの提供と探究的な学習の支援
11. 総合問題演習(ピア・ラーニング)
12. 総合問題演習(ロールプレイング)
13. 発信型情報サービスの構築(レファレンスPOP作成)

| 科目名 | 情報サービス演習 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館における情報サービスの実践的習得 | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[ 成績評価方法 ]
演習課題(質問回答など)と成果物の提出85%、授業への取り組み度等15%により総合的に評価する。課題に対するフィードバックを当該回の授業内で行う。
演習型授業であるため、出席は必須である。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:演習課題、成果物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:演習課題、成果物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:演習課題、成果物

[ 教科書(ISBN) ]
レファレンスブックス　選びかた・使いかた　三訂版 2016年　著者名:長澤雅男・石黒祐子共著　出版社:日本図書館協会 (9784820416142)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 情報サービス演習 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館における情報サービスの実践的習得 | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
参考図書に関する基本的な知識を習得し、司書として円滑で的確なレファレンスサービスを行う実践能力を身につける。

[ 授業概要 ]
授業では、主に参考図書を用いてレファレンス質問への回答処理の実習を行い、情報源の利用について実践的な能力の習得をめざす。より真正性の高い事例を用いて、各自が問題解決のために主体的・対話的に取り組めるように、PBLやピア・ラーニングなどのアクティブ・ラーニングの視点を取り入れて、深い学びができ得る授業構成とする。司書の経験を有する教員が現場での具体例に則して指導する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
「図書館サービス概論」「情報サービス論」の概要を事前に修得していることが望ましい。
授業で得た知識をもとに、次回の授業までに大学図書館で参考図書を確認し、それぞれの凡例を読んだり、実際に使用してみること。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　図書館における情報サービスの意義
2. 図書館におけるレファレンスコレクションの構築と整備
3. レファレンスプロセスについて:受付から評価まで
4. レファレンスインタビューについて
5. レファレンスインタビュー演習
6. 言語・文字の探し方と演習/事物・事象の探し方と演習
7. 歴史・日時の探し方と演習/地理・地名の探し方と演習
8. 人物・人名の探し方と演習
9. 演習問題解答解説及びフィードバック
10. 学校の児童生徒及び教職員への情報サービスの提供と探究的な学習の支援
11. 総合問題演習(ピア・ラーニング)
12. 総合問題演習(ロールプレイング)
13. 発信型情報サービスの構築(レファレンスPOP作成)

| 科目名 | 情報サービス演習 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館における情報サービスの実践的習得 | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[ 成績評価方法 ]
演習課題(質問回答など)と成果物の提出85%、授業への取り組み度等15%により総合的に評価する。課題に対するフィードバックを当該回の授業内で行う。
演習型授業であるため、出席は必須である。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:演習課題、成果物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:演習課題、成果物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:演習課題、成果物

[ 教科書(ISBN) ]
レファレンスブックス　選びかた・使いかた　三訂版 2016年　著者名:長澤雅男・石黒祐子共著　出版社:日本図書館協会 (9784820416142)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 情報サービス演習 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
参考図書に関する基本的な知識を習得し、司書として円滑で的確なレファレンスサービスを行う実践能力を身につける。

[ 授業概要 ]
授業では、主に参考図書を用いてレファレンス質問への回答処理の実習を行い、情報源の利用について実践的な能力の習得をめざす。より真正性の高い事例を用いて、各自が問題解決のために主体的・対話的に取り組めるように、PBLやピア・ラーニングなどのアクティブ・ラーニングの視点を取り入れて、深い学びができる授業構成とする。司書の経験を有する教員が現場での具体例に則して指導する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
「図書館サービス概論」「情報サービス論」の概要を事前に修得していることが望ましい。
授業で得た知識をもとに、次回の授業までに大学図書館で参考図書を確認し、それぞれの凡例を読んだり、実際に使用したりしてみること。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　図書館における情報サービスの意義
2. 図書館におけるレファレンスコレクションの構築と整備
3. レファレンス・プロセスについて：受付から評価まで
4. レファレンス・インタビュー：質問受付と内容確認、分析
5. レファレンス演習：探索手順と回答、事後処理
6. 言語・文字の探し方と演習/事物・事象の探し方と演習
7. 歴史・日時の探し方と演習/地理・地名の探し方と演習
8. 人物・企業・団体の探し方と演習
9. 図書・叢書・逐次刊行物の探し方と演習
10. 演習問題解答解説及びフィードバック
11. 総合問題演習(ピア・ラーニング)
12. 総合問題演習(ロールプレイング)
13. 発信型情報サービスの構築

| 科目名 | 情報サービス演習 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト・演習課題70%、授業中の取り組み等30%により総合的に評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manabaで、小テスト、演習レポートの提出を行います。
小テストの評価、レポートの添削・講評は、manabaで行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
なし(適宜レジメ・資料を作成し配布する)

[ 参考書(ISBN) ]
参考文献は授業レジュメなどで指示する

| 科目名 | 情報サービス演習Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館における情報サービスの実践的習得 | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
情報検索概念と選択すべきデータベース等の内容を把握し、各種データベースの検索演習を通じて、専門職たる司書としての情報検索の技術の基礎を身につける。

[ 授業概要 ]
授業では、主にデジタル情報資源を用いてレファレンス質問への回答処理の実習を行い、情報源の利用について実践的な能力の習得をめざす。より真正性の高い事例を用いて、各自が問題解決のために主体的・対話的に取り組めるように、PBLやピア・ラーニングなどのアクティブ・ラーニングの視点を取り入れて、深い学びができ得る授業構成とする。司書の経験を有する教員が現場での具体例に則して指導する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
開講までに、前期「情報サービス演習Ⅰ」の総復習をしておくことが望ましい。
授業で得た知識をもとに、次回の授業までにPCなどで各種検索エンジンやデータベースを確認し、実際に使用してみること。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　図書館における情報サービスの意義
2. 検索戦略の構築方法及び検索エンジンの使い方と課題
3. ウェブページ・ウェブサイトの検索方法
4. ウェブページ・ウェブサイトの検索演習
5. 図書情報の検索方法と演習
6. 雑誌記事・学術情報の検索方法と演習
7. 新聞記事・ニュース・一般的な情報の検索方法と演習
8. 言葉・事柄の検索方法と演習
9. 法律・統計・特許・企業・団体等の検索方法と演習
10. 演習問題解答解説及びフィードバック
11. 学校の児童生徒及び教職員への情報サービスの提供と探究的な学習の支援
12. 総合問題演習(ピアラーニング)
13. 発信型情報サービスの構築(パスファインダー・リンク集等作成)

| 科目名 | 情報サービス演習Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館における情報サービスの実践的習得 | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[ 成績評価方法 ]
演習課題(質問回答など)と成果物の提出85%、授業への取り組み度等15%により総合的に評価する。課題に対するフィードバックを当該回の授業内で行う。
演習型授業であるため、出席は必須である。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:演習課題、成果物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:演習課題、成果物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:演習課題、成果物

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
『改訂 情報サービス演習 (現代図書館情報学シリーズ7)』 著者名:原田智子　出版社:樹村房 (978-4883672677)
『デジタル情報資源の検索』増訂第5版　著者名:高鍬裕樹　出版社:京都図書館情報学研究会 (978-4820413226)

| 科目名 | 情報サービス演習Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館における情報サービスの実践的習得 | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
情報検索概念と選択すべきデータベース等の内容を把握し、各種データベースの検索演習を通じて、専門職たる司書としての情報検索の技術の基礎を身につける。

[ 授業概要 ]
授業では、主にデジタル情報資源を用いてレファレンス質問への回答処理の実習を行い、情報源の利用について実践的な能力の習得をめざす。より真正性の高い事例を用いて、各自が問題解決のために主体的・対話的に取り組めるように、PBLやピア・ラーニングなどのアクティブ・ラーニングの視点を取り入れて、深い学びができ得る授業構成とする。司書の経験を有する教員が現場での具体例に則して指導する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
開講までに、前期「情報サービス演習Ⅰ」の総復習をしておくことが望ましい。
授業で得た知識をもとに、次回の授業までにPCなどで各種検索エンジンやデータベースを確認し、実際に使用してみること。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　図書館における情報サービスの意義
2. 検索戦略の構築方法及び検索エンジンの使い方と課題
3. ウェブページ・ウェブサイトの検索方法
4. ウェブページ・ウェブサイトの検索演習
5. 図書情報の検索方法と演習
6. 雑誌記事・学術情報の検索方法と演習
7. 新聞記事・ニュース・一般的な情報の検索方法と演習
8. 言葉・事柄の検索方法と演習
9. 法律・統計・特許・企業・団体等の検索方法と演習
10. 演習問題解答解説及びフィードバック
11. 学校の児童生徒及び教職員への情報サービスの提供と探究的な学習の支援
12. 総合問題演習(ピアラーニング)
13. 発信型情報サービスの構築(パスファインダー・リンク集等作成)

| 科目名 | 情報サービス演習Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館における情報サービスの実践的習得 | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[ 成績評価方法 ]
演習課題(質問回答など)と成果物の提出85%、授業への取り組み度等15%により総合的に評価する。課題に対するフィードバックを当該回の授業内で行う。
演習型授業であるため、出席は必須である。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:演習課題、成果物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:演習課題、成果物

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:演習課題、成果物

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
『改訂 情報サービス演習 (現代図書館情報学シリーズ7)』 著者名:原田智子　出版社:樹村房 (978-4883672677)
『デジタル情報資源の検索』増訂第5版　著者名:高鍬裕樹　出版社:京都図書館情報学研究会 (978-4820413226)

| 科目名 | 情報サービス演習Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
情報検索概念と選択すべきデータベース等の内容を把握し、各種データベースの検索演習を通じて、専門職たる司書としての情報検索の技術の基礎を身につける。

[ 授業概要 ]
授業では、主にデジタル情報資源を用いてレファレンス質問への回答処理の実習を行い、情報源の利用について実践的な能力の習得をめざす。より真正性の高い事例を用いて、各自が問題解決のために主体的・対話的に取り組めるように、PBLやピア・ラーニングなどのアクティブ・ラーニングの視点を取り入れて、深い学びができ得る授業構成とする。司書の経験を有する教員が現場での具体例に則して指導する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
開講までに、前期「情報サービス演習Ⅰ」の総復習をしておくことが望ましい。
授業で得た知識をもとに、次回の授業までにPCなどで各種検索エンジンやデータベースを確認し、実際に使用してみること。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
1. イントロダクション　図書館における情報サービスの意義
2. 検索戦略の構築方法及び検索エンジンの使い方と課題
3. ウェブページ・ウェブサイトの検索方法
4. ウェブページ・ウェブサイトの検索演習
5. 図書情報の検索方法と演習
6. 雑誌記事・学術情報の検索方法と演習
7. 新聞記事・ニュース・一般的な情報の検索方法と演習
8. 言葉・事柄の検索方法と演習
9. 法律・統計・特許・企業・団体等の検索方法と演習
10. 演習問題解答解説及びフィードバック
11. 学校の児童生徒及び教職員への情報サービスの提供と探究的な学習の支援
12. 総合問題演習(ピアラーニング)
13. 発信型情報サービスの構築(パスファインダー・リンク集等作成)

| 科目名 | 情報サービス演習Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[ 成績評価方法 ]
小テスト・演習課題70%、出席、授業中の取り組み等30%により総合的に評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manabaで、小テスト、演習レポートの提出を行います。
小テストの評価、レポートの添削・講評は、manabaで行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
レジュメ・資料を作成し配布する

[ 参考書(ISBN) ]
参考文献は授業レジュメなどで指示する

| 科目名 | 情報サービス論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
図書館における情報サービスについての概要を把握し、「情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ」に向けて基本的な理論を身につける。

[ 授業概要 ]
図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書(レファレンスブック)・各種データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等(パスファインダー・機関リポジトリ等)の新しいサービス等について理解する。
なお、本科目で習得する基本的な理論・知識は、公共図書館のみならず、学校図書館等においても適用、応用可能なものである。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
普段から図書館を利用し、そのサービスについて理解するよう努めておくこと。
予習は必要ないが、授業で学習したことをよく復習しておくこと。
図書館で実際にサービスを利用してみるのもよい。

[ 授業計画 ]
第1回　情報社会と図書館の情報サービス
第2回　図書館における情報サービスの意義と種類
第3回　図書館における資料提供サービスと情報提供サービス
第4回　図書館におけるレファレンスサービスの理論
第5回　図書館におけるレファレンスサービスの実際
第6回　図書館における情報検索サービスの基礎
第7回　各種情報資源の特質と利用法(1)情報メディア・文献を探す・(2)論文・記事を探す
第8回　各種情報資源の特質と利用法(3)事項・事実を探す①百科事典、辞書、地理・地名、歴史など
第9回　発信型情報サービス
第10回　情報サービスにかかわる知的財産権
第11回　図書館利用教育と情報リテラシー
第12回　情報サービスの管理
第13回　ネットワーク社会と図書館サービス・期末試験

| 科目名 | 情報サービス論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎授業の復習テスト、課題・レポートなど（40%）、期末試験（60%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
授業中に適宜提示する。

| 科目名 | 情報サービス論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
図書館における情報サービスについての概要を把握し、「情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ」に向けて基本的な理論を身につける。

[ 授業概要 ]
図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書(レファレンスブック)・各種データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等(パスファインダー・機関リポジトリ等)の新しいサービス等について理解する。
なお、本科目で習得する基本的な理論・知識は、公共図書館のみならず、学校図書館等においても適用、応用可能なものである。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
普段から図書館を利用し、そのサービスについて理解するよう努めておくこと。
予習は必要ないが、授業で学習したことをよく復習しておくこと。
図書館で実際にサービスを利用してみるのもよい。

[ 授業計画 ]
第1回　情報社会と図書館の情報サービス
第2回　図書館における情報サービスの意義と種類
第3回　図書館における資料提供サービスと情報提供サービス
第4回　図書館におけるレファレンスサービスの理論
第5回　図書館におけるレファレンスサービスの実際
第6回　図書館における情報検索サービスの基礎
第7回　各種情報資源の特質と利用法(1)情報メディア・文献を探す・(2)論文・記事を探す
第8回　各種情報資源の特質と利用法(3)事項・事実を探す①百科事典、辞書、地理・地名、歴史など
第9回　発信型情報サービス
第10回　情報サービスにかかわる知的財産権
第11回　図書館利用教育と情報リテラシー
第12回　情報サービスの管理
第13回　ネットワーク社会と図書館サービス・期末試験

| 科目名 | 情報サービス論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 橋本　あかり | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎授業の復習テスト、課題・レポートなど（40%）、期末試験（60%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
授業中に適宜提示する。

| 科目名 | 情報資源組織演習 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報資源組織化の意義をふまえて目録作成に取り組もう | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 演習 | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
図書館の情報資源を組織するために、『日本目録規則』(NCR)にしたがって目録作成する基本を身につける。

[ 授業概要 ]
多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。
「情報資源組織論」で学んだ目録の基礎理論に基づき、その理解を深めるとともに、実際に目録作成をおこなう演習科目である。数多くの演習問題を通して、資料組織の実務的な知識と技術を習得する。具体的には、『日本目録規則』(NCR)にしたがって、多様な情報源からのデータ採取、目録規則の適用、目録書誌データの記述の演習をおこなう。より実践的な能力を身につけるため、機械可読目録(MARC)の作成演習もおこなう。積み重ねの演習となるため、出席は必須である。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の学習内容が理解できていないと、次に進めないので、必ず復習をしてから、次回の授業に望むこと。各回、予習復習合わせて 2 時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 目録とは何か。目録の意義、種類、機能などについて
2. 書誌情報ネットワークと図書館目録
3.「日本目録規則」(NCR)についての解説
4. 和書に関する書誌記述の作成①タイトルと責任表示に関する事項(1)
5. 和書に関する書誌記述の作成②タイトルと責任表示に関する事項(2)
6. 和書に関する書誌記述の作成③版表示、出版に関する事項
7. 和書に関する書誌記述の作成④形態・注記に関する事項
8. 洋書に関する書誌記述の作成
9. 単行書に関する総合演習問題
10. 書誌階層構造の考え方
11. 書誌階層に関する演習
12. 継続資料の目録作成
13. 目録法に関する総合演習

| 科目名 | 情報資源組織演習 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報資源組織化の意義をふまえて目録作成に取り組もう | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の演習課題(100%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
演習課題は解答の解説をおこなう。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:演習課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:演習課題

[ 教科書(ISBN) ]
『目録法キイノート』 著者名:宮沢厚雄　出版社:樹村房 (9784883672608)

[ 参考書(ISBN) ]
『情報資源組織法』(第3版) 著者名:志保田務・高鷲忠美　編著
志保田務・前川和子・家禰淳一　改訂
出版社:第一法規 (9784474072558)

| 科目名 | 情報資源組織演習 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報資源組織化の意義をふまえて目録作成に取り組もう | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 演習 | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
図書館の情報資源を組織するために、『日本目録規則』(NCR)にしたがって目録作成する基本を身につける。

[ 授業概要 ]
多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。
「情報資源組織論」で学んだ目録の基礎理論に基づき、その理解を深めるとともに、実際に目録作成をおこなう演習科目である。数多くの演習問題を通して、資料組織の実務的な知識と技術を習得する。具体的には、『日本目録規則』(NCR)にしたがって、多様な情報源からのデータ採取、目録規則の適用、目録書誌データの記述の演習をおこなう。より実践的な能力を身につけるため、機械可読目録(MARC)の作成演習もおこなう。積み重ねの演習となるため、出席は必須である。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の学習内容が理解できていないと、次に進めないので、必ず復習をしてから、次回の授業に望むこと。各回、予習復習合わせて 2 時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 目録とは何か。目録の意義、種類、機能などについて
2. 書誌情報ネットワークと図書館目録
3.「日本目録規則」(NCR)についての解説
4. 和書に関する書誌記述の作成①タイトルと責任表示に関する事項(1)
5. 和書に関する書誌記述の作成②タイトルと責任表示に関する事項(2)
6. 和書に関する書誌記述の作成③版表示、出版に関する事項
7. 和書に関する書誌記述の作成④形態・注記に関する事項
8. 洋書に関する書誌記述の作成
9. 単行書に関する総合演習問題
10. 書誌階層構造の考え方
11. 書誌階層に関する演習
12. 継続資料の目録作成
13. 目録法に関する総合演習

| 科目名 | 情報資源組織演習 I | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報資源組織化の意義をふまえて目録作成に取り組もう | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の演習課題(100%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
演習課題は解答の解説をおこなう。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:演習課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:演習課題

[ 教科書(ISBN) ]
『目録法キイノート』 著者名:宮沢厚雄　出版社:樹村房 (9784883672608)

[ 参考書(ISBN) ]
『情報資源組織法』(第3版) 著者名:志保田務・高鷲忠美　編著
志保田務・前川和子・家禰淳一　改訂
出版社:第一法規 (9784474072558)

| 科目名 | 情報資源組織演習Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報資源組織化の意義をふまえて分類付与に取り組もう | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 演習 | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
図書館の情報資源を組織するために、『日本十進分類法』(NDC)を用いて、図書館情報資源を分類する基本を身につける。

[ 授業概要 ]
多様な情報資源に関する主題分析、分類作業、統制語彙の適用等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。
「情報資源組織論」で学んだ分類の基礎理論に基づき、その理解を深めるとともに、実際に分類・件名付与をおこなう演習科目である。数多くの演習問題を通して、資料組織の実務的な知識と技術を習得する。具体的には、『日本十進分類法』(NDC)、『基本件名標目表』(BSH)にしたがって、的確かつ効率的な検索を可能にする分類と件名を付与する演習をおこなう。積み重ねの演習となるため、出席は必須である。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の学習内容が理解できていないと、次に進めないので、必ず復習をしてから、次回の授業に望むこと。各回、予習復習合わせて 2 時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 図書の分類と知識の分類
2. 分類法の歴史、種類、分類記号等について
3.『日本十進分類法』(NDC)についての解説
4. 主題分析 分類規程
5. NDCを使っての分類付与演習①
6. NDCを使っての分類付与演習②
7. NDCを使っての分類付与演習③
8. NDCの一般補助表を使っての分類付与演習①形式区分
9. NDCの一般補助表を使っての分類付与演習②地理区分・海洋区分
10. NDCの一般補助表を使っての分類付与演習③言語区分・言語共通区分
11. NDCの固有補助表
12. 分類法に関する総合演習問題
13.『基本件名標目表』(BSH)を使っての件名付与演習

| 科目名 | 情報資源組織演習Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報資源組織化の意義をふまえて分類付与に取り組もう | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の演習課題(100%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
演習課題は解答の解説をおこなう。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:演習課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:演習課題

[ 教科書(ISBN) ]
『分類法キイノート』第3版補訂　著者名:宮沢厚雄　出版社:樹村房 (9784883673438)

[ 参考書(ISBN) ]
『情報資源組織法』(第3版) 著者名:志保田務・高鷲忠美　編著
志保田務・前川和子・家禰淳一　改訂
出版社:第一法規 (9784474072558)

S96090 [ CI3-011 ]

| 科目名 | 情報資源組織演習Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報資源組織化の意義をふまえて分類付与に取り組もう | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | 演習 | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
図書館の情報資源を組織するために、『日本十進分類法』(NDC)を用いて、図書館情報資源を分類する基本を身につける。

[ 授業概要 ]
多様な情報資源に関する主題分析、分類作業、統制語彙の適用等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。
「情報資源組織論」で学んだ分類の基礎理論に基づき、その理解を深めるとともに、実際に分類・件名付与をおこなう演習科目である。数多くの演習問題を通して、資料組織の実務的な知識と技術を習得する。具体的には、『日本十進分類法』(NDC)、『基本件名標目表』(BSH)にしたがって、的確かつ効率的な検索を可能にする分類と件名を付与する演習をおこなう。積み重ねの演習となるため、出席は必須である。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の学習内容が理解できていないと、次に進めないので、必ず復習をしてから、次回の授業に望むこと。各回、予習復習合わせて 2 時間程度。

[ 授業計画 ]
1. 図書の分類と知識の分類
2. 分類法の歴史、種類、分類記号等について
3.『日本十進分類法』(NDC)についての解説
4. 主題分析 分類規程
5. NDCを使っての分類付与演習①
6. NDCを使っての分類付与演習②
7. NDCを使っての分類付与演習③
8. NDCの一般補助表を使っての分類付与演習①形式区分
9. NDCの一般補助表を使っての分類付与演習②地理区分・海洋区分
10. NDCの一般補助表を使っての分類付与演習③言語区分・言語共通区分
11. NDCの固有補助表
12. 分類法に関する総合演習問題
13.『基本件名標目表』(BSH)を使っての件名付与演習

| 科目名 | 情報資源組織演習Ⅱ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 情報資源組織化の意義をふまえて分類付与に取り組もう | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の演習課題(100%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
演習課題は解答の解説をおこなう。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:演習課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:演習課題

[ 教科書(ISBN) ]
『分類法キイノート』第3版補訂　著者名:宮沢厚雄　出版社:樹村房　(9784883673438)

[ 参考書(ISBN) ]
『情報資源組織法』(第3版)　著者名:志保田務・高鷲忠美　編著
志保田務・前川和子・家禰淳一　改訂
出版社:第一法規　(9784474072558)

S96091 [ CI3-011 ]

| 科目名 | 情報資源組織論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 國松　完二 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
図書館の情報資源を組織化するのに必要な理論と技術を学び、「情報資源組織演習」に必要な知識を修得する。

[ 授業概要 ]
印刷資料・非図書資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などを解説する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業は、主として専門用語をはじめとする概念を説明することが中心で、教科書を読むことにより全体の文脈のなかで理解することができる。次回の授業までに教科書を読み復習すること。

[ 授業計画 ]
1. 情報資源組織化の意義
2. 主題分析の意義と考え方
3. 主題分析(1)主題目録法および件名法の基礎
4. 主題分析(2)分類法の基礎／日本十進分類法
5. 排架法と図書記号
6. 書誌コントロールと標準化
7. 書誌情報の作成と流通
8. 書誌情報の提供
9. 情報資源組織化の理論(目録法)
10. 書誌記述法(1)　記述目録法の基礎
11. 書誌記述法(2)　記述目録作成の実際
12. 書誌記述法(3)　書誌的事項の記述／標目と排列
13. 電子メディアの組織化、まとめ

| 科目名 | 情報資源組織論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 國松　完二 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎授業の復習テスト、課題・レポートなど（70%）、期末修了レポート（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
情報資源組織論　三訂版　著者名:柴田正美　出版社:日本図書館協会 （978-4-8204-1915-0）

[ 参考書（ISBN） ]
情報資源組織法　2020年　本体価格1,900円　著者名:日本図書館研究会編集　出版社:日本図書館研究会 （978-4-930992-28-4）
情報資源組織法　第3版　2021年　定価2970円　　著者名:志保田務ほか著　出版社:第一法規 （978-4-474-07255-8）

| 科目名 | 情報資源組織論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 國松　完二 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
図書館の情報資源を組織化するのに必要な理論と技術を学び、「情報資源組織演習」に必要な知識を修得する。

[ 授業概要 ]
印刷資料・非図書資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などを解説する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業は、主として専門用語をはじめとする概念を説明することが中心で、教科書を読むことにより全体の文脈のなかで理解することができる。次回の授業までに教科書を読み復習すること。

[ 授業計画 ]
1. 情報資源組織化の意義
2. 主題分析の意義と考え方
3. 主題分析(1)主題目録法および件名法の基礎
4. 主題分析(2)分類法の基礎／日本十進分類法
5. 排架法と図書記号
6. 書誌コントロールと標準化
7. 書誌情報の作成と流通
8. 書誌情報の提供
9. 情報資源組織化の理論(目録法)
10. 書誌記述法(1)　記述目録法の基礎
11. 書誌記述法(2)　記述目録作成の実際
12. 書誌記述法(3)　書誌的事項の記述／標目と排列
13. 電子メディアの組織化、まとめ

| 科目名 | 情報資源組織論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 國松　完二 | | | |

[ 成績評価方法 ]
毎授業の復習テスト、課題・レポートなど（70%）、期末修了レポート（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
情報資源組織論　三訂版　著者名:柴田正美　出版社:日本図書館協会　(978-4-8204-1915-0)

[ 参考書（ISBN） ]
情報資源組織法　2020年　本体価格1,900円　著者名:日本図書館研究会編集　出版社:日本図書館研究会　(978-4-930992-28-4)
情報資源組織法　第3版　2021年　定価2970円　　著者名:志保田務ほか著　出版社:第一法規　(978-4-474-07255-8)

| 科目名 | 情報メディアの活用 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
学校図書館の司書教諭として求められる各種情報メディアに関する知識と、それらを活用する場合に要求されるスキルを取得するとともに、情報モラルや知的財産権についても理解する。

[ 授業概要 ]
学校教育に求められている各種情報メディアに関する知識とスキルについて解説するとともに、守らなければならない情報倫理について理解する。また、情報リテラシー教育に関して、学校教育現場における専門職である司書教諭として必要な基礎的な知識とスキルについても説明する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業内容の理解には、普段から図書館(学校図書館に限らない)を利用して、利用者としての視点でも考えることも大切である。また、授業中に説明した情報メディア等については、復習するとともに、図書館等で確認しておくこと。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス、情報メディアとは何か
2. 情報メディアの歴史
3. 新聞を活用する:プレゼンテーション Ⅰ「新聞を活用する」
4. 印刷メディア(新聞)の活用
5. 視聴覚メディアの活用
6. コンピュータの教育利用:「切り抜き新聞」をプレゼンする
7. 学校図書館でのメディア活用授業:プレゼンテーション Ⅱ「学校図書館だよりをつくろう」
8. 学習情報ニーズに応える情報探索・収集:WG
9. 学校図書館からの情報発信:「学校図書館だより」をプレゼンする
10. 情報の集約と編集:プレゼンテーション Ⅲ「文庫案内をつくる」
11. インクルーシブ教育と特別支援教育:WG
12. 情報メディアの利用と知的財産制度
13. まとめ

| 科目名 | 情報メディアの活用 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内課題、レポートなど50%、受講態度（積極的参加度）30%、期末試験20%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
必要に応じて、全体に対しては授業時間内に、個別に対しては授業退出後やメール対応にて行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法：グループワーク・ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：プレゼン課題・グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：プレゼン課題・ディスカッション

[ 教科書（ISBN） ]
なし（レジュメにより講義を行う）

[ 参考書（ISBN） ]
『第3訂版 情報メディアの活用』,2016, 定価2,800円（税別）
※その他については適宜指示する　著者名：山本順一・気谷陽子編　　出版社：一般財団法人　放送大学教育振興会　（978-4-595-31649-4　）

| 科目名 | 情報メディアの活用 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
学校図書館の司書教諭として求められる各種情報メディアに関する知識と、それらを活用する場合に要求されるスキルを取得するとともに、情報モラルや知的財産権についても理解する。

[ 授業概要 ]
学校教育に求められている各種情報メディアに関する知識とスキルについて解説するとともに、守らなければならない情報倫理について理解する。また、情報リテラシー教育に関して、学校教育現場における専門職である司書教諭として必要な基礎的な知識とスキルについても説明する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業内容の理解には、普段から図書館(学校図書館に限らない)を利用して、利用者としての視点でも考えることも大切である。また、授業中に説明した情報メディア等については、復習するとともに、図書館等で確認しておくこと。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス、情報メディアとは何か
2. 情報メディアの歴史
3. 新聞を活用する:プレゼンテーション Ⅰ「新聞を活用する」
4. 印刷メディア(新聞)の活用
5. 視聴覚メディアの活用
6. コンピュータの教育利用:「切り抜き新聞」をプレゼンする
7. 学校図書館でのメディア活用授業:プレゼンテーション Ⅱ「学校図書館だよりをつくろう」
8. 学習情報ニーズに応える情報探索・収集:WG
9. 学校図書館からの情報発信:「学校図書館だより」をプレゼンする
10. 情報の集約と編集:プレゼンテーション Ⅲ「文庫案内をつくる」
11. インクルーシブ教育と特別支援教育:WG
12. 情報メディアの利用と知的財産制度
13. まとめ

| 科目名 | 情報メディアの活用 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内課題、レポートなど50%、受講態度（積極的参加度）30%、期末試験20%

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
必要に応じて、全体に対しては授業時間内に、個別に対しては授業退出後やメール対応にて行う。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク・ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:プレゼン課題・グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:プレゼン課題・ディスカッション

[ 教科書（ISBN） ]
なし（レジュメにより講義を行う）

[ 参考書（ISBN） ]
『第3訂版 情報メディアの活用』,2016, 定価2,800円（税別）
※その他については適宜指示する　著者名:山本順一・気谷陽子編　　出版社:一般財団法人　放送大学教育振興会　（978-4-595-31649-4　）

| 科目名 | 生徒・進路指導論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ー児童生徒の自己指導能力を育てるー | | | |
| 担当者 | 榎元　十三男 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
・生徒指導の理論と方法を修得し、児童生徒の自尊感情の高め方や健全な発達について演習等を
　通して理解を深めていく。
・いじめの問題に関する認識を深め、未然防止や事前・事後指導等を適切に行う能力を高める。
・学校現場で起こっている不登校・非行等の問題行動や発達障害・児童虐待等についての実情を
　認識しつつ、児童生徒の支援の方策等について理解を深める。
・生き方の指導として、またキャリア教育としての進路指導の理論と方法について理解する。

[ 授業概要 ]
生徒指導は「教師と生徒の信頼関係と生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かす」ことができるよう、指導と援助を行うことにある。この目的を達成するためには、今を生き生きと生きることを目標とした生徒指導と未来から「こうありたい」と願う進路指導の両面から、一人一人の生徒理解を深める必要がある。この講義では、生徒指導の理論及び方法や学習指導、教育相談、進路指導の理論及び方法を学ぶ。発達障害等のある子どもの特性を踏まえつつも、障害のあるなしにかかわらず子どもが遭遇する具体的な問題行動事例をについてその指導方法や教員に求められる姿勢や態度についても理解を深める。特に、いじめの問題について適切に対処できる能力を高める。キャリア教育を生かした現代の進路指導の在り方についても積極的に考えていく。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業を復習し、関心を持った教育課題について、新聞、書籍等で調べるなど自分なりの課題意識をもって授業に臨むこと。
manabaで送付した授業資料を一読し、分からないキーワード等を整理して授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1.イントロダクション　ー生徒指導の意義・内容・領域・自己指導能力の育成等ー
2.生徒指導の理論及び方法　ー集団指導・個別指導ー
3.教育課程と生徒指導ー　教科指導等との関連ー
4.児童生徒の心理と児童生徒理解　ー児童生徒を理解するとは？ー
5.児童生徒の発達課題　ー発達とは？　その捉え方ー
6.発達障害についての理解・アセスメント
7.学校における生徒指導体制　ー組織的対応とは？さしすせそー
8.生徒指導における教育相談　ー意義・体制の構築・進め方等ー
9.生徒指導と法制度　ー校則・懲戒・体罰・ゼロトレランスー
10.問題行動ーいじめ・不登校の現状、構造、対応(ロールプレイ)等ー
11.生徒指導と進路指導の理論及び方法(学級担任・ホームルーム担任の指導)
12.キャリア教育を生かした現代の進路指導の在り方ー教職への道ー
13.生徒・進路指導のまとめ

| 科目名 | 生徒・進路指導論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ー児童生徒の自己指導能力を育てるー | | | |
| 担当者 | 榎元　十三男 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の課題(30 %)、レポート(20%)、試験(50%)
レポートは添削してmanabaにて返却する。
試験後は解答の開設を行う。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manabaを積極的に活用し、その都度コメント等でフィードバックを行う。
教職支援センター又は研究室にて個別指導も可

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号／DP内容:日文3-3／他者との協働を可能にする高い対話力と、自ら進んで動く主体的な行動力を身に付けている。
成績評価方法:試験、レポート課題

学科DP番号／DP内容:英米3-3／対話的な学びを通して、他者と協調・協働して学び合う姿勢を持っている。
成績評価方法:試験、レポート課題

学科DP番号／DP内容:国際3-2-1／世界の多様性や他者の多様な価値観を理解し尊重できる素養を備えている。
成績評価方法:試験、レポート課題

学科DP番号／DP内容:史学2-1／講義や演習を幅広く受講することにより、正確な知識と論理的な思考力を身につけ、様々な問題をその歴史的背景に照らして客観的に考察する能力を有している。
成績評価方法:試験、レポート課題

学科DP番号／DP内容:家政2-2／社会の問題を発見し、科学的な知識および専門的技能により解決に必要な情報を収集・整理・分析する能力を持っている。
成績評価方法:試験、レポート課題

学科DP番号／DP内容:管栄3-2／管理栄養士として他者と協調して行動でき、自らの考えを伝えることができる。
成績評価方法:試験、レポート課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

[ 教科書(ISBN) ]
生徒指導提要　著者名:文部科学省　出版社:教育図書 (978-4-87730-274-0　)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 生徒指導論(栄教・養教) | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 榎元　十三男 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
・生徒指導の理論と方法を修得し、児童生徒の自尊感情の高め方や健全な発達について演習等を通して理解を深めていく。
・いじめの問題に関する認識を深め、未然防止や事前・事後指導等を適切に行う能力を高める。
・学校現場で起こっている不登校・非行等の問題行動や発達障害・児童虐待等についての実情を認識しつつ、児童生徒の支援の方策等について理解を深める。
・栄養教諭・養護教諭の組織の一員としての役割を認識し、自分なりの行動化を考えることができる。

[ 授業概要 ]
生徒指導は「教師と生徒の信頼関係と生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに、生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かす」ことができるよう、指導と援助を行うことにある。この目的を達成するためには、今を生き生きと生きることを目標とした生徒指導を行い、一人一人の自己指導能力を高める必要がある。この講義では、生徒指導の理論及び方法や食についての学習指導、健康や教育相談の理論及び方法等を学ぶ。児童生徒が遭遇する具体的な問題行動事例やその支援の方策について、また教員に求められる姿勢や態度についても理解を深める。特に、いじめ・不登校の問題について担任と連携して適切に対処できる能力を高めていく。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業を復習し、関心を持った教育課題について、新聞、書籍等で調べるなど自分なりの課題意識を持って授業に臨むこと。
manabaで送付した授業資料を一読し、分からないキーワード等を整理して授業に臨むこと。

[ 授業計画 ]
1.イントロダクション　－生徒指導の意義・内容・領域自己s同能力の育成等－
2.生徒指導の理論及び方法　－集団指導・個別指導－
3.教育課程と生徒指導－　教科指導等との関連－
4.児童生徒の心理と児童生徒理解　－児童生徒を理解するとは？－
5.児童生徒の発達課題　－発達とは？　その捉え方－
6.発達障害についての理解・アセスメント
7.学校における生徒指導体制　－組織的対応とは？さしすせそ－
8.生徒指導における教育相談　－意義・体制の構築・進め方等－
9.生徒指導と法制度　－校則・懲戒・体罰・ゼロトレランス－
10.問題行動－いじめ・不登校の現状、構造、対応(ロールプレイ)等－
11.生徒指導における栄養教諭・養護教諭の役割とカウンセリングの基礎
12.生徒指導と学校安全危機管理－教職への道－
13.生徒指導のまとめ一生徒指導とは？児童生徒へどう関わっていくか？ー

| 科目名 | 生徒指導論(栄教・養教) | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 榎元　十三男 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の課題(30%)、レポート(20%)、試験(50%)
レポートは添削して返却する。
試験後は解答の解説を行う。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
manabaを積極的に活用し、その都度コメント等でフィードバックを行う。
研究室・教職支援センターにて個別指導も可。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

学科DP番号／DP内容:管栄1-3／食べ物と健康についての知識と理解を基盤とした健康と食に関する知識と技能を有している。
成績評価方法:試験・レポート課題

学科DP番号／DP内容:管栄2-1／健康、栄養、及び食に関する問題点を発見し、解決に必要な情報を科学的根拠(エビデンス)に基づき収集・整理・分析する能力を有している。
成績評価方法:試験・レポート課題

学科DP番号／DP内容:管栄2-3／健康増進や疾病予防、治療につながる栄養状態に応じた栄養マネジメントの実施能力を有している。
成績評価方法:試験・レポート課題

学科DP番号／DP内容:管栄3-2／管理栄養士として他者と協調して行動でき、自らの考えを伝えることができる。
成績評価方法:試験・レポート課題

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート課題

[ 教科書(ISBN) ]
生徒指導提要　著者名:文部科学省　　出版社:教育図書 (9784877302740)

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 総合的な学習の時間の指導法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 溝邊　和成 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
小・中学校学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標および内容をはじめ、教育課程上の位置付けや他教科等との関連をとらえるとともに、具体的な演習等を通して、初等中等教育における総合学習の指導のあり方について理解を深める。

[ 授業概要 ]
小・中学校学習指導要領に示された総合的な学習の時間の特徴に係るテーマについて、講義とともに演習形式(グループワークやプレゼンテーション、スキルアップワークなど)を取り入れ、理解の充実と具体的な指導力向上をめざす。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前時に行った「スキルアップワーク」の内容・方法を復習するとともに、本時における課題について概略を把握したり、分担箇所等の予習(発表準備等)を行ったりしてきている。

[ 授業計画 ]
第1回:本講義の特徴と授業計画の提示(講・演)～ラーニングストーリーの自覚～
　スキルアップワーク(自己紹介・他者紹介)「総合的な学習の時間と私」
第2回:「総合的な学習の時間」の成立とその変遷(講・演)～体験した授業から見る特徴～
　スキルアップワーク(発表、分類・関係付け)「出身校における取り組み」
第3回:「総合的な学習の時間」の成立とその変遷(講・演)～学習指導要領から見る特徴～
　グループワーク(ジグソー法の活用)「小中学校学習指導要領上に見られる特徴とその変化」
第4回:「総合的な学習の時間」の源流(講・演)～総合学習につながる実践(国内編)～
　スキルアップワーク(情報検索・編集)「国内に見られる総合学習」
第5回:「総合的な学習の時間」の源流(講・演)～総合学習につながる実践(外国編)～
　スキルアップワーク(編集・報告)「諸外国における総合学習」
第6回:「総合的な学習の時間」の事例探究(演)～総合的な学習の時間におけるテーマ～
　グループワーク(テーマ選択)「例:環境・福祉・キャリア・情報・経済・遺産等」
第7回:「総合的な学習の時間」の事例探究(演)～プレゼンテーションのためのスキルとその活用～
　グループワーク(ICT操作)「プレゼンテーションの準備(発表用資料作成、リハーサル等)」
第8回:「総合的な学習の時間」の事例探究(演)～発表形式と内容省察の観点～
　プレゼンテーション(ICT活用、サークル対話:リフレクション)「発表と省察」
第9回:「総合的な学習の時間」の実践上の課題とその対策(講・演)～カリキュラムマネジメント「年間指導計画・教科横断・探究プロセス」への工夫～
　グループワーク(共同作成モデル)「教科横断型、探究型」「年間指導計画」
第10回:「総合的な学習の時間」の実践上の課題とその対策(講・演)～教材開発の視点とそのアクセス～
　スキルアップワーク(ブレイン・ストーミング、KJ法)「教材開発・教材分析」
第11回:「総合的な学習の時間」の実践上の課題とその対策(講・演)～指導・評価スキルの内容と活用～
　スキルアップワーク(資料分析)「指導上の留意事項、評価」
第12回:「総合的な学習の時間」の学習指導案(講・演)～アクティブラーニングを支援する指導案の試み～
　スキルアップワーク(思考の可視化)「形式とその意図」
第13回:本講義のまとめ(講・演)～ラーニングストーリーの整理～
　スキルアップワーク(リフレクション)「自らの学びに対する成果と課題」

| 科目名 | 総合的な学習の時間の指導法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 溝邊　和成 | | | |

[ 成績評価方法 ]
出席レポート提出(15%)、課題(スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション)レポート・作品等提出(65%)、授業中の態度(20%)とともに、学生による自己評価も加味して、総合的に評価する。
(評価基準)
　出席レポート:講義中に学んだことを要約し、自分の意見を明確に述べている(A)(B)(C)
　課題(スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション)レポート・作品等:自分が調べてきたことや自分の考えをもとにしつつ、他者と協力して得られた工夫点、主張点などを明確かつ簡潔に表している(A)(B)(C)
　授業中の態度:自分の意見を持って主体的に参加するとともに他者との協力も積極的に行うことができている(A)(B)(C)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　著者名:文部科学省　出版社:東洋館出版社 (9784491034683)
中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　著者名:文部科学省　出版社:東山書房 (4827815615)

[ 参考書(ISBN) ]
小学校学習指導要領解説　総則編　著者名:文部科学省　出版社:東洋館出版社 (4491034613)
中学校学習指導要領解説　総則編　著者名:文部科学省　出版社:東山書房 (4827815593)

| 科目名 | 総合的な学習の時間の指導法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 溝邊　和成 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
小・中学校学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標および内容をはじめ、教育課程上の位置付けや他教科等との関連をとらえるとともに、具体的な演習等を通して、初等中等教育における総合学習の指導のあり方について理解を深める。

[ 授業概要 ]
小・中学校学習指導要領に示された総合的な学習の時間の特徴に係るテーマについて、講義とともに演習形式(グループワークやプレゼンテーション、スキルアップワークなど)を取り入れ、理解の充実と具体的な指導力向上をめざす。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前時に行った「スキルアップワーク」の内容・方法を復習するとともに、本時における課題について概略を把握したり、分担箇所等の予習(発表準備等)を行ったりしてきている。

[ 授業計画 ]
第1回:本講義の特徴と授業計画の提示(講・演)～ラーニングストーリーの自覚～
　スキルアップワーク(自己紹介・他者紹介)「総合的な学習の時間と私」
第2回:「総合的な学習の時間」の成立とその変遷(講・演)～体験した授業から見る特徴～
　スキルアップワーク(発表、分類・関係付け)「出身校における取り組み」
第3回:「総合的な学習の時間」の成立とその変遷(講・演)～学習指導要領から見る特徴～
　グループワーク(ジグソー法の活用)「小中学校学習指導要領上に見られる特徴とその変化」
第4回:「総合的な学習の時間」の源流(講・演)～総合学習につながる実践(国内編)～
　スキルアップワーク(情報検索・編集)「国内に見られる総合学習」
第5回:「総合的な学習の時間」の源流(講・演)～総合学習につながる実践(外国編)～
　スキルアップワーク(編集・報告)「諸外国における総合学習」
第6回:「総合的な学習の時間」の事例探究(演)～総合的な学習の時間におけるテーマ～
　グループワーク(テーマ選択)「例:環境・福祉・キャリア・情報・経済・遺産等」
第7回:「総合的な学習の時間」の事例探究(演)～プレゼンテーションのためのスキルとその活用～
　グループワーク(ICT操作)「プレゼンテーションの準備(発表用資料作成、リハーサル等)」
第8回:「総合的な学習の時間」の事例探究(演)～発表形式と内容省察の観点～
　プレゼンテーション(ICT活用、サークル対話:リフレクション)「発表と省察」
第9回:「総合的な学習の時間」の実践上の課題とその対策(講・演)～カリキュラムマネジメント「年間指導計画・教科横断・探究プロセス」への工夫～
　グループワーク(共同作成モデル)「教科横断型、探究型」「年間指導計画」
第10回:「総合的な学習の時間」の実践上の課題とその対策(講・演)～教材開発の視点とそのアクセス～
　スキルアップワーク(ブレイン・ストーミング、KJ法)「教材開発・教材分析」
第11回:「総合的な学習の時間」の実践上の課題とその対策(講・演)～指導・評価スキルの内容と活用～
　スキルアップワーク(資料分析)「指導上の留意事項、評価」
第12回:「総合的な学習の時間」の学習指導案(講・演)～アクティブラーニングを支援する指導案の試み～
　スキルアップワーク(思考の可視化)「形式とその意図」
第13回:本講義のまとめ(講・演)～ラーニングストーリーの整理～
　スキルアップワーク(リフレクション)「自らの学びに対する成果と課題」

| 科目名 | 総合的な学習の時間の指導法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 溝邊　和成 | | | |

[ 成績評価方法 ]
出席レポート提出(15%)、課題(スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション)レポート・作品等提出(65%)、授業中の態度(20%)とともに、学生による自己評価も加味して、総合的に評価する。
(評価基準)
出席レポート:講義中に学んだことを要約し、自分の意見を明確に述べている(A)(B)(C)
課題(スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション)レポート・作品等:自分が調べてきたことや自分の考えをもとにしつつ、他者と協力して得られた工夫点、主張点などを明確かつ簡潔に表している(A)(B)(C)
授業中の態度:自分の意見を持って主体的に参加するとともに他者との協力も積極的に行うことができている(A)(B)(C)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　著者名:文部科学省　出版社:東洋館出版社 (9784491034683)
中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　著者名:文部科学省　出版社:東山書房 (4827815615)

[ 参考書(ISBN) ]
小学校学習指導要領解説　総則編　著者名:文部科学省　出版社:東洋館出版社 (4491034613)
中学校学習指導要領解説　総則編　著者名:文部科学省　出版社:東山書房 (4827815593)

| 科目名 | 地理歴史科指導法Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 浜田　直也 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
地歴科教育の意義を理解し、教材研究の視点を身につけ、学習指導案が作成できる力を養い、授業構成に関する専門的な技能を高めさせる。さらに、模擬授業を通して、『学習指導要領』が目指す「生徒に歴史・地理の主題を設定させ、探求させる活動」を中心に据えた授業を工夫することを考察させる。
また、アクティブラーニングを導入した授業展開のスキルを習得させる。これらを踏まえて、次年度に控えた教員採用試験に臨む心構えをもたせる。

[ 授業概要 ]
〔後期〕においては、〔前期〕での講義内容を踏まえて、教育実習の意義や内容を確認し、実習に向かう意義づけを行う。そのうえで学習指導の中心ともいうべき授業の進め方、指導案作成、模擬授業を行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
教育実習にむかう自覚をもち、指導案の作成の土台になる教科書の単元内容の理解を深めておく。

[ 授業計画 ]
1. 教育実習の意義。教科指導と生徒理解。
2. 地理歴史科の教育実習に向けての動機付け。
3. 地理歴史科のアクティブラーニングを取り入れた学習指導案の作成①。
4. 地理歴史科のアクティブラーニングを取り入れた学習指導案の作成②。
5. 地理歴史科のモデル授業(ITCを応用した)の学習と模擬授業の指針の確認。
6. 模擬授業Ⅰ:高等学校地歴科・世界史・日本史・地理分野。
7. 模擬事業Ⅱ:高等学校地歴科・世界史・日本史・地理分野。
8. 模擬授業Ⅲ:高等学校地歴科・世界史・日本史・地理分野。
9. 模擬授業Ⅳ:高等学校地歴科・世界史・日本史・地理分野。
10. 模擬授業Ⅴ:高等学校地歴科・世界史・日本史・地理分野。
11. 模擬授業Ⅵ:高等学校地歴科・世界史・日本史・地理分野。
12. 模擬授業Ⅶ:高等学校地歴科・世界史・日本史・地理分野。
13. 模擬授業の学習指導案の確認と集団面接・個人面接の事例対策。

| 科目名 | 地理歴史科指導法Ⅱ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 浜田　直也 | | | |

[ 成績評価方法 ]
提出課題（学習指導案、レポート）（50%）、模擬授業（50%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
高等学校学習指導要領解説地理歴史編　著者名:文部科学省　出版社:教育出版 （978-4-316-30022-1）
高等学校時代に使用した、教科書及び地図帳・資料集等の副教材。

[ 参考書（ISBN） ]
なし。 適宜プリントを配布する。（なし。）

| 科目名 | 道徳教育の理論と指導法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　美紀子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
教育活動全体を通じて行われる道徳教育の意義を考え、道徳教育の内容を把握し、教育の現場における様々な状況を想定しながら、実践的な指導力が身につく。

[ 授業概要 ]
本講義では『学習指導要領』に明記される道徳教育の意義と目標、道徳教育の内容、道徳教育の実践を主要な柱として扱う。児童・生徒の発達段階に応じて、道徳心を培うために選択した資料を用いて学習指導案を考案・作成する。それに基づいて模擬授業を行い、実践的能力を養う。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
指定されたテキスト・資料をあらかじめ読んでおくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
第1回：オリエンテーション、道徳教育の意義
第2回：道徳教育の目標
第3回：道徳教育の内容①　A.自分自身に関すること、B.人とのかかわり
第4回：道徳教育の内容②　C.人とのかかわり(公平、公正、社会正義)、D.生命、自然、崇高なものとのかかわり
第5回：道徳の指導法について, 学習教材・資料の分析
第6回：学習指導案の考案・作成
第7回：学習指導案の例
第8回：研究授業鑑賞（DVD)、模擬授業の準備
第9回：道徳教材視聴（DVD)、模擬授業の準備
第10回：模擬授業① 中学1年
第11回：模擬授業② 中学2年
第12回：模擬授業③ 中学3年
第13回：総括および授業に関する反省と評価

| 科目名 | 道徳教育の理論と指導法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 田中　美紀子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
学習指導案と模擬授業（20%）、模擬授業観察シートの提出（12%）、筆記試験（68%）及び授業態度等を総合的に評価。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
模擬授業のコメントと試験の解答例は学内ウェブで公表する。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力

成績評価方法:模擬授業、筆記試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:模擬授業

[ 教科書（ISBN） ]
「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」 著者名:文部科学省　出版社:教育出版 （9784316300849
）

[ 参考書（ISBN） ]
小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編
　著者名:文部科学省　出版社:廣済堂あかつき （978-4908255359）

| 科目名 | 読書と豊かな人間性 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
児童、生徒が行う「読書活動」の意義を理解し、学校教育活動と学校図書館をつなぐ方法を学ぶ。また、学校現場での読書に関する知識と実践力を身につける。

[ 授業概要 ]
学校の教育課程に児童生徒の読書活動を適切に位置づけ、読書の生活化を図る方法や支援を考える。
学校図書館が「読書センター」としての役割を果たすために、読書指導を行う際の理念と方法について理解し、また児童生徒に、適書を、適時に、適切な方法で紹介できるために、子どもの発達段階を知り、多様な資料を学習し、児童生徒と本をつなぐ具体的な方法についての知識と技能の習得をワークショップ形式で学んでいく。そして、読書が子どもたちの豊かな人間性を育むのに、どれほど大切な要素となっているかの理解を深める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業内容の理解には公立図書館や大学図書館、書店を利用して、読み手としての視点で考えることが大切である。また、授業中に解説した読書指導等についてはその内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。積極的に授業参加し、課題解決できるように受講してほしい。

[ 授業計画 ]
1. 読書の意義と目的
2. 読書と心の教育(読書能力の発達)
3. 子どもの読書の実態と読書指導の課題
4. 豊かな心を育むための読書　－読書活動推進法を中心に－
　プレゼンテーションⅠ「社会活動(①Author Visit・②Book Start)」
5. 発達段階に応じた読書指導(漫画等の利用方法を含む):WG
6. 読書の発展的な指導　－①調べ学習・②考える読書－
　「社会活動(①Author Visit・②Book Start)」をプレゼンする
7. 児童生徒向け図書の種類と活用　－Webcat Plusの利用－
　プレゼンテーションⅡ「ビブリオバトル(知的書評合戦)」
8. 学習への支援　－多様な読書資料－:WG
9. 読書指導の方法①　選書・演習(絵本・昔話・寓話の読み聞かせとストーリーテリング)
　「ビブリオバトル(知的書評合戦)」をプレゼンする
10. 読書指導の方法②　選書・演習(児童書のブックトーク)
　プレゼンテーションⅢ「読書活動に挑戦(読み聞かせ・ビブリオバトル・ブックトーク)」
11. 家庭・地域・公共図書館との連携:WG
12. 読書指導の方法③　選書・演習(「本の帯」実践):「読書活動に挑戦(前半)」をプレゼンする
13. まとめ

| 科目名 | 読書と豊かな人間性 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内発表（15%） グループ学習の貢献度、積極性、学習の成果・工夫を評価します。
授業内課題・manaba小テスト（70%） manabaでの小テストの実施。学習の成果として課題リポートの完成度を評価します。
受講態度（15%） 発表や意見など積極的な授業参加を評価します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaで小テスト、課題レポートの提出を行います。
小テストの評価、レポートの添削は・講評はmanabaで行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし(適宜レジメ・資料を作成し配布する)

[ 参考書（ISBN） ]
授業中に指示する

| 科目名 | 読書と豊かな人間性 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
児童、生徒が行う「読書活動」の意義を理解し、学校教育活動と学校図書館をつなぐ方法を学ぶ。また、学校現場での読書に関する知識と実践力を身につける。

[ 授業概要 ]
学校の教育課程に児童生徒の読書活動を適切に位置づけ、読書の生活化を図る方法や支援を考える。
学校図書館が「読書センター」としての役割を果たすために、読書指導を行う際の理念と方法について理解し、また児童生徒に、適書を、適時に、適切な方法で紹介できるために、子どもの発達段階を知り、多様な資料を学習し、児童生徒と本をつなぐ具体的な方法についての知識と技能の習得をワークショップ形式で学んでいく。そして、読書が子どもたちの豊かな人間性を育むのに、どれほど大切な要素となっているかの理解を深める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業内容の理解には公立図書館や大学図書館、書店を利用して、読み手としての視点で考えることが大切である。また、授業中に解説した読書指導等についてはその内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。積極的に授業参加し、課題解決できるように受講してほしい。

[ 授業計画 ]
1. 読書の意義と目的
2. 読書と心の教育(読書能力の発達)
3. 子どもの読書の実態と読書指導の課題
4. 豊かな心を育むための読書　－読書活動推進法を中心に－
　プレゼンテーションⅠ「社会活動(①Author Visit・②Book Start)」
5. 発達段階に応じた読書指導(漫画等の利用方法を含む):WG
6. 読書の発展的な指導　－①調べ学習・②考える読書－
　「社会活動(①Author Visit・②Book Start)」をプレゼンする
7. 児童生徒向け図書の種類と活用　－Webcat Plusの利用－
　プレゼンテーションⅡ「ビブリオバトル(知的書評合戦)」
8. 学習への支援　－多様な読書資料－:WG
9. 読書指導の方法①　選書・演習(絵本・昔話・寓話の読み聞かせとストーリーテリング)
　「ビブリオバトル(知的書評合戦)」をプレゼンする
10. 読書指導の方法②　選書・演習(児童書のブックトーク)
　プレゼンテーションⅢ「読書活動に挑戦(読み聞かせ・ビブリオバトル・ブックトーク)」
11. 家庭・地域・公共図書館との連携:WG
12. 読書指導の方法③　選書・演習(「本の帯」実践):「読書活動に挑戦(前半)」をプレゼンする
13. まとめ

| 科目名 | 読書と豊かな人間性 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 織田　克巳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内課題、レポートなど50%、受講態度30%、期末試験20%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
必要に応じて、全体に対しては授業時間内に、個別に対しては授業退出後やメール対応にて行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:プレゼン課題・ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:プレゼン課題・グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:プレゼン課題・グループワーク

[ 教科書(ISBN) ]
なし(レジュメにより講義を行う。その他については適宜指示する)

[ 参考書(ISBN) ]
読書と豊かな人間性　出版社:全国学校図書館協議会 (9784793322457)

| 科目名 | 特別活動の指導法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 佐藤　浩樹 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
学校教育全体における特別活動の意義、目標および内容を理解する。
特別活動の指導のあり方について理解する。

[ 授業概要 ]
前半は、特別活動の意義、目標、内容、歴史、位置付け、心理学的基礎を踏まえた指導原理について事例を取り上げて解説する。後半は、特別活動における各活動の内容と指導、評価、家庭・地域・関係機関との連携ついて演習を取り入れて授業を行う。学級活動においては、話し合い活動や意思決定の重要性を取り上げ、学習指導案の作成・発表を行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
・まとめプリントを行い、学修内容を定着させる。

[ 授業計画 ]
第1回:特別活動とは何か①(意義、目的、内容)
第2回:特別活動とは何か②(歴史的変遷、教育課程における位置付け)
第3回:特別活動の心理学的基礎①(集団活動論)
第4回:特別活動の心理学的基礎②(リーダーシップ論)
第5回:部活動の指導と課題指導
第6回:生徒会活動の内容と指導
第7回:学級活動の内容と指導①(内容(1))
第8回:学級活動の内容と指導②(内容(2))、学級活動における話し合い活動
第9回:学級活動とキャリア教育(内容(3))、学級活動の学習指導案の作成
第10回:学校行事の内容とあり方
第11回:学校行事の指導と諸課題
第12回:中学校の特別活動の実際(外部講師)
第13回:学級活動の学習指導案の交流、、テスト

| 科目名 | 特別活動の指導法 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 佐藤　浩樹 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度30%、レポート10%、テスト60%。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『中学校学習指導要領解説　特別活動編』 著者名:文部科学省　出版社:東山書房 (4827815623)

[ 参考書(ISBN) ]
特別活動指導法　著者名:渡部 邦雄 ,緑川 哲夫 ,桑原 憲一　出版社:日本文教出版 (4536601007)

| 科目名 | 特別支援教育 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡村　章司 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。
2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。
3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。

[ 授業概要 ]
通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
事前学修として、文部科学省による特別支援教育に係わる文書を熟読すること。
（例　共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）概要）
各回、予習復習合わせて4時間程度

[ 授業計画 ]
第1回：特別支援教育の理念
第2回：学校における特別支援教育：教育課程
第3回：インクルーシブ教育システム
第4回：LDの特性理解
第5回：ADHDの特性理解
第6回：ASDの特性理解
第7回：個別の指導計画と個別の教育支援計画
第8回：特別な教育的ニーズに応じた指導
第9回：特別な教育的ニーズに応じた指導の実際
第10回：小学校等の校内支援体制
第11回：母国語や貧困、抑うつの問題等による多様な特別な教育的ニーズ
第12回：通常の学級における特別支援教育
第13回：保護者や関係機関との連携
試験

| 科目名 | 特別支援教育 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 岡村　章司 | | | |

[ 成績評価方法 ]
試験（70%）、講義・演習への取り組みの状況（30%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
試験を回収後、回答の解説を行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業での取り組み状況、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法:授業での取り組み状況

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業での取り組み状況、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:授業での取り組み状況、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:試験

[ 教科書（ISBN） ]
授業中に資料を配布します

[ 参考書（ISBN） ]
はじめての特別支援教育　著者名:柘植雅義・渡部匡隆他編著　出版社:有斐閣（9784641220386）
自閉症スペクトラムのある子どもの人間関係形成プログラム　著者名:渡部匡隆・岡村章司　出版社:学苑社（9784761407612）
応用行動分析入門ハンドブック　著者名:井上雅彦・三田地真実・岡村章司　出版社:金剛出版（9784772416931）

| 科目名 | 図書・図書館史 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 記録メディアの歴史及び図書館の歴史 | | | |
| 担当者 | 槻本　正行 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
記録メディアの特性、その変遷についての知識を習得する。また、記録を保存する施設から図書館への歴史的な展開、近代的図書館の理念がどのように実現されたのかを世界(中国、ヨーロッパ、アメリカ合衆国)の図書館の歴史を学ぶことで理解する。そして、日本の図書館の歴史的展開について理解する。

[ 授業概要 ]
人類はなぜ記録し、それを残すのか?その営為を担う施設として図書館がある。図書を中心に各種図書館情報資源およびメディアの形態、生産(印刷等含む)、流通等の歴史について解説する。そして、それらの記録を伝承し、利用に供する図書館の歴史について、世界及び日本における歴史的発展について解説する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業前学習:授業計画や授業時に予告した教科書の該当箇所、事前に提示する資料プリントを読む。(2時間程度)
授業後学習:教材を参考に自身で学習内容をまとめたり、自身で調べたりすることを通じて復習をする。(2時間程度)

[ 授業計画 ]
1.「図書・図書館史」の学習に向けて　書写メディアの始原と記録の保存　古代の図書館(的施設)
2. 紙の発明　活版印刷の発明
3. ヨーロッパの中世から近世　修道院、大学の図書館
4. 中国・日本における図書形態史　簡策から冊子体まで
5. ヨーロッパの図書館　近世の図書館、近代国家の成立と王立図書館
6. 新大陸アメリカの図書館　公共図書館の成立
7. 日本の図書館の歴史　1)寺院の蔵書、貴族の文庫、宮廷の文庫
　平安期の書物文化
8. 日本の図書館の歴史　2)武家の文庫、学校文庫
　江戸期の出版文化　木活字本と整版、出版文化のプレイヤーたち、貸本屋
9. 日本の図書館の歴史　3)江戸末期・明治へ　西洋の図書館の紹介と日本の図書館の黎明期
10. 日本の図書館の歴史　4)図書館令公布と明治期の図書館
11. 日本の図書館の歴史　4)明治から大正へ　大正デモクラシーと関東大震災
12. 日本の図書館の歴史　5)昭和戦前期　思想弾圧と図書館　植民地の図書館
13. 日本の図書館の歴史　6)占領下の図書館　図書館法の制定まで

| 科目名 | 図書・図書館史 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 記録メディアの歴史及び図書館の歴史 | | | |
| 担当者 | 槻本　正行 | | | |

[ 成績評価方法 ]
成績評価レポート（50%）、授業時のミニ レポート(20%)、小テスト（30%）によって評価します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業時のミニレポート・小テストについては、翌週に全体的なコメントと説明をします。
成績評価レポートについては、第13講目に講評をします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業でのミニレポ―ト、コメントシートを通じて評価します。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：ミニレポート、成績評価レポートにて評価します。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：成績評価レポートにて評価します。

[ 教科書（ISBN） ]
『図書・図書館史』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ；11）　著者名：小黒浩司編著　出版社：日本図書館協会 （978-4-8204-1218-2）

[ 参考書（ISBN） ]
授業時に適宜、指示します。

| 科目名 | 図書・図書館史 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 記録メディアの歴史及び図書館の歴史 | | | |
| 担当者 | 槻本　正行 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
記録メディアの特性、その変遷についての知識を習得する。また、記録を保存する施設から図書館への歴史的な展開、近代的図書館の理念がどのように実現されたのかを世界(中国、ヨーロッパ、アメリカ合衆国)の図書館の歴史を学ぶことで理解する。そして、日本の図書館の歴史的展開について理解する。

[ 授業概要 ]
人類はなぜ記録し、それを残すのか?その営為を担う施設として図書館がある。図書を中心に各種図書館情報資源およびメディアの形態、生産(印刷等含む)、流通等の歴史について解説する。そして、それらの記録を伝承し、利用に供する図書館の歴史について、世界及び日本における歴史的発展について解説する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業前学習:授業計画や授業時に予告した教科書の該当箇所、事前に提示する資料プリントを読む。(2時間程度)
授業後学習:教材を参考に自身で学習内容をまとめたり、自身で調べたりすることを通じて復習をする。(2時間程度)

[ 授業計画 ]
1.「図書・図書館史」の学習に向けて　書写メディアの始原と記録の保存　古代の図書館(的施設)
2. 紙の発明　活版印刷の発明
3. ヨーロッパの中世から近世　修道院、大学の図書館
4. 中国・日本における図書形態史　簡策から冊子体まで
5. ヨーロッパの図書館　近世の図書館、近代国家の成立と王立図書館
6. 新大陸アメリカの図書館　公共図書館の成立
7. 日本の図書館の歴史　1)寺院の蔵書、貴族の文庫、宮廷の文庫
　平安期の書物文化
8. 日本の図書館の歴史　2)武家の文庫、学校文庫
　江戸期の出版文化　木活字本と整版、出版文化のプレイヤーたち、貸本屋
9. 日本の図書館の歴史　3)江戸末期・明治へ　西洋の図書館の紹介と日本の図書館の黎明期
10. 日本の図書館の歴史　4)図書館令公布と明治期の図書館
11. 日本の図書館の歴史　4)明治から大正へ　大正デモクラシーと関東大震災
12. 日本の図書館の歴史　5)昭和戦前期　思想弾圧と図書館　植民地の図書館
13. 日本の図書館の歴史　6)占領下の図書館　図書館法の制定まで

| 科目名 | 図書・図書館史 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 記録メディアの歴史及び図書館の歴史 | | | |
| 担当者 | 槻本　正行 | | | |

[ 成績評価方法 ]
成績評価レポート（50%）、授業時のミニ レポート(20%)、小テスト（30%）によって評価します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業時のミニレポート・小テストについては、翌週に全体的なコメントと説明をします。
成績評価レポートについては、第13講目に講評をします。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業でのミニレポート、コメントシートを通じて評価します。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：ミニレポート、成績評価レポートにて評価します。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：成績評価レポートにて評価します。

[ 教科書（ISBN） ]
『図書・図書館史』（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ；11）　著者名：小黒浩司編著　出版社：日本図書館協会 （978-4-8204-1218-2）

[ 参考書（ISBN） ]
授業時に適宜、指示します。

| 科目名 | 図書館概論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館の社会的使命と役割について知る | | | |
| 担当者 | 松岡　美佳 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
現代の市民社会において図書館が果たすべき役割と、専門職としての司書の使命について理解する。図書館の起源、歴史、社会的使命・役割、理念など基本的知識を身につけるとともに、館種別(公立図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館、国立図書館)に設置目的、使命、利用者、ニーズ、サービスなどを具体的に把握する。

[ 授業概要 ]
身近な図書館の利用をスタート地点として、人間が生み出した図書館という組織について、その構成要素、機能、基本的な使命や社会的な役割などの基礎的な理解を図る。また、今の生涯学習社会、高度情報社会において、図書館の伝統的な機能と役割は変わりつつあることを確認し、これからの図書館が、幅広いネットワーク形成を基盤として、どのような新たな価値と役割をもちうるのかについても考えていく。講義においては、教員が司書としての実務経験にもとづき、具体的な図書館および利用の実態や課題もまじえて話し、興味・関心をもたせる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業で学んだことをよく理解した上で、大学図書館や地域の公共図書館を積極的に利用するとともに客観的に評価・観察し、学びの具体化を図ること。各回、予習復習合わせて4時間程度。

[ 授業計画 ]
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合、時事的な課題への言及などに対して順序や同一テーマの回数を変えることがある。
1. オリエンテーション、図書館とは(構成要素、機能、業務モデル)
2. 図書館の社会的意義と使命、社会的役割と歴史的変遷:文化、歴史の伝承、生涯学習
3. 図書館の理念　知的自由と図書館倫理
4. 図書館職員―役割、資格制度、資質、図書館の自由と図書館員の倫理
5. わが国における公立図書館の展開　法律・制度
6. 公立図書館の歴史と展開　欧米の図書館にみる
7. 公共図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
8. 学校図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
9. 大学図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
10. 専門図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
11. 国立図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
12. 図書館間の協力・連携と類縁機関・図書館関連団体とのネットワーク
13. 図書館の課題　総まとめと展望

| 科目名 | 図書館概論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館の社会的使命と役割について知る | | | |
| 担当者 | 松岡　美佳 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の課題（10%）、レポート（30%）、試験（60%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
後日、授業にて解説を行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の課題、レポート、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業中の課題、レポート、試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：授業中の課題、レポート、試験

[ 教科書（ISBN） ]
図書館情報学基礎資料（第3版） 著者名：今まど子・小山憲司 編著　出版社：樹村房 （9784883672424 ）

[ 参考書（ISBN） ]
図書館概論（5訂版）（JLA図書館情報学テキストシリーズ　Ⅲ-1） 著者名：塩見昇 編著　出版社：日本図書館協会 （9784820418139）

| 科目名 | 図書館概論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館の社会的使命と役割について知る | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
現代の市民社会において図書館が果たすべき役割と、専門職としての司書の使命について理解する。図書館の起源、歴史、社会的使命・役割、理念など基本的知識を身につけるとともに、館種別(公立図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館、国立図書館)に設置目的、使命、利用者、ニーズ、サービスなどを具体的に把握する。

[ 授業概要 ]
身近な図書館の利用をスタート地点として、人間が生み出した図書館という組織について、その構成要素、機能、基本的な使命や社会的な役割などの基礎的な理解を図る。また、今の生涯学習社会、高度情報社会において、図書館の伝統的な機能と役割は変わりつつあることを確認し、これからの図書館が、幅広いネットワーク形成を基盤として、どのような新たな価値と役割をもちうるのかについても考えていく。講義においては、教員が司書としての実務経験にもとづき、具体的な図書館および利用の実態や課題もまじえて話し、興味・関心をもたせる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業で学んだことをよく理解した上で、大学図書館や地域の公共図書館を積極的に利用するとともに客観的に評価・観察し、学びの具体化を図ること。

[ 授業計画 ]
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合、時事的な課題への言及などに対して順序や同一テーマの回数を変えることがある。
1. オリエンテーション、図書館とは(構成要素、機能、業務モデル)
2. 図書館の社会的意義と使命、社会的役割と歴史的変遷:文化、歴史の伝承、生涯学習
3. 図書館の理念　知的自由と図書館倫理
4. 図書館職員―役割、資格制度、資質、図書館の自由と図書館員の倫理
5. わが国における公立図書館の展開　法律・制度
6. 公立図書館の歴史と展開　欧米の図書館にみる
7. 公共図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
8. 学校図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
9. 大学図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
10. 専門図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
11. 国立図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
12. 図書館間の協力・連携と類縁機関・図書館関連団体とのネットワーク
13. 図書館の課題　総まとめと展望

| 科目名 | 図書館概論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館の社会的使命と役割について知る | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の課題・レポート・試験（100%）とで総合的に評価する。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
後日、授業にて解説を行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:授業中の課題・レポート・試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業中の課題・レポート・試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:授業中の課題・レポート・試験

[ 教科書（ISBN） ]
図書館情報学基礎資料（第3版） 著者名:今まど子・小山憲司 編著　出版社:樹村房 （9784883672424 ）

[ 参考書（ISBN） ]
図書館概論（5訂版）（JLA図書館情報学テキストシリーズ　Ⅲ-1） 著者名:塩見昇 編著　出版社:日本図書館協会 （9784820418139）

| 科目名 | 図書館概論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館の社会的使命と役割について知る | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
現代の市民社会において図書館が果たすべき役割と、専門職としての司書の使命について理解する。図書館の起源、歴史、社会的使命・役割、理念など基本的知識を身につけるとともに、館種別(公立図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館、国立図書館)に設置目的、使命、利用者、ニーズ、サービスなどを具体的に把握する。

[ 授業概要 ]
身近な図書館の利用をスタート地点として、人間が生み出した図書館という組織について、その構成要素、機能、基本的な使命や社会的な役割などの基礎的な理解を図る。また、今の生涯学習社会、高度情報社会において、図書館の伝統的な機能と役割は変わりつつあることを確認し、これからの図書館が、幅広いネットワーク形成を基盤として、どのような新たな価値と役割をもちうるのかについても考えていく。講義においては、教員が司書としての実務経験にもとづき、具体的な図書館および利用の実態や課題もまじえて話し、興味・関心をもたせる。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の授業で学んだことをよく理解した上で、大学図書館や地域の公共図書館を積極的に利用するとともに客観的に評価・観察し、学びの具体化を図ること。

[ 授業計画 ]
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合、時事的な課題への言及などに対して順序や同一テーマの回数を変えることがある。
1. オリエンテーション、図書館とは(構成要素、機能、業務モデル)
2. 図書館の社会的意義と使命、社会的役割と歴史的変遷:文化、歴史の伝承、生涯学習
3. 図書館の理念　知的自由と図書館倫理
4. 図書館職員―役割、資格制度、資質、図書館の自由と図書館員の倫理
5. わが国における公立図書館の展開　法律・制度
6. 公立図書館の歴史と展開　欧米の図書館にみる
7. 公共図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
8. 学校図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
9. 大学図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
10. 専門図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
11. 国立図書館の制度と機能、利用者ニーズへの対応
12. 図書館間の協力・連携と類縁機関・図書館関連団体とのネットワーク
13. 図書館の課題　総まとめと展望

| 科目名 | 図書館概論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館の社会的使命と役割について知る | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の課題・レポート・試験（100%）とで総合的に評価する。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
後日、授業にて解説を行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:授業中の課題・レポート・試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:授業中の課題・レポート・試験

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:授業中の課題・レポート・試験

[ 教科書（ISBN） ]
図書館情報学基礎資料（第3版） 著者名:今まど子・小山憲司 編著　出版社:樹村房 （9784883672424 ）

[ 参考書（ISBN） ]
図書館概論（5訂版）（JLA図書館情報学テキストシリーズ　Ⅲ-1） 著者名:塩見昇 編著　出版社:日本図書館協会 （9784820418139）

| 科目名 | 図書館基礎特論 | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 協働的な議論を通して図書館サービスを考える | | | |
| 担当者 | 新居　池津子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
本講では，図書館サービスの中でも，「生涯学習論」「図書館概論」「図書館情報技術論」「図書館制度・経営論」といった基礎科目で得た知識を踏まえ，高度情報社会における利用者の立場から，図書資料を閲覧する図書館という場所の機能，そして，そうした図書館の機能を生かして連携・協力を行う学校図書館に焦点を当てて，協働的な議論を通して図書館におけるサービスと関係づけながら理解を深めていく。
1. 図書館で提供されるサービスの意義を説明することができる。
2. 図書館で提供されるサービスの背景にある思想や理念と事例を結び付けて理解することができる。
3. 図書館サービスに対する理解を深め、実践において適切に対応することができるようにする。

[ 授業概要 ]
図書館には、その制度が歴史的・社会的に存在する意義としてのサービスと、社会や人びとから要請されるサービスの両側面がある。そこで、それらの背景にある思想や理念を知り、その意義について、協働的な議論(話し合い活動)を通して深く考え、受講者が自らの言葉で説明することができるようにする。それらの理解を踏まえ、公共図書館が館内で行うサービス、そして近年の児童サービスの中でも重視されるようになってきた学校図書館との連携・協力、そして、情報発信のあり方について、グループや個人で演習活動を行う。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
「図書館サービス概論」等で学んだ図書館サービスに関する学習内容を確認しておくこと。演習方式で進めるため、事前・事後の授業準備(事前・事後を含めて4時間程度)が必要となる。受講者は、テーマ(例: 春)／年齢層(例: 小学校低学年)を定めて児童書(絵本を含む)5冊を授業までに準備しておくこと。

[ 授業計画 ]
1. 図書館サービスを考える(オリエンテーション、演習の説明)
2. 利用者の権利と図書館サービス～図書館におけるゾーニング
3. Webサイトを利用したゾーニングや各スペース・コーナーの事例収集＜グループ演習活動＞
4. 児童サービス～児童の読書活動に対する支援
5. 児童書と児童サービスの実際
6. 公共図書館と学校図書館
7. ブックトークビブリオバトル【グループ演習課題; 相互評価】
8. 公共図書館による学校支援～ブックリストの提供【演習課題: ブックリストの作成】
9. 情報サービス～図書館による情報発信とWebページの活用
10. HP(ホームページ)の作成【演習課題】
11. 受講生が作成したHPのプレゼンテーション
12. 受講生が作成したHPページを通した協働的議論＜演習活動; 相互評価＞
13. 再び、図書館サービスを考える(全体のまとめと振り返り)

| 科目名 | 図書館基礎特論 | 後期 | 演習 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 協働的な議論を通して図書館サービスを考える | | | |
| 担当者 | 新居　池津子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中の演習課題と課題レポート提出(60%)、授業での演習報告・議論(話し合い活動)の参加(40%)で評価する。なお、課題レポートは、①HP、②学校支援向けのブックリストの2点、グループや個別に行う演習活動は、①ブックトークビブリオバトル、②ブックトークビブリオバトルの相互評価の2点を予定している。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業計画にも示した通り、協働的議論(話し合い活動)や相互評価、授業者の講評を通して、フィードバックを行う。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:演習・レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:演習・レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:演習・レポート課題

[ 教科書(ISBN) ]
教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。

[ 参考書(ISBN) ]
『講座・図書館情報学⑤ 図書館サービス概論: ひろがる図書館のサービス』 著者名:小黒浩司　出版社:ミネルヴァ書房 (978-4623083961)
『ライブラリー図書館情報学2 ＜第3版＞図書館概論』 著者名:大串夏身・常世田良　出版社:学文社 (978-4762024412)
『ライブラリー図書館情報学6 ＜第2版＞情報サービス論及び演習 』 著者名:中西裕・松本直樹・伊藤民雄　出版社:学文社 (978-4762028977)
『ライブラリー図書館情報学7 ＜第2版＞児童サービス論』 著者名:金沢みどり　出版社:学文社 (978-4762024702)

| 科目名 | 図書館サービス概論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 多様な図書館のサービスを知る | | | |
| 担当者 | 槻本　正行 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
図書館サービスは、図書館の機能を具体化し、実践する活動であり、利用者志向で行われるべきものである。このような図書館サービスについて、その意義、方法、特徴について学ぶとともにその具体的なサービスについて理解することを主たる目標とする。あわせて、各種サービスの提供には準備や仕組みが必要であること、サービスの提供は直接的、間接的に図書館員を介して行われることを意識できるようになる。

[ 授業概要 ]
図書館サービスの理念と意義を概説し、資料提供サービス、情報提供サービス、利用者別サービスに大別してその意義や技法について解説する。あわせて、できるだけ各種サービスについて具体的な実践例や教材の動画または写真を見ることで多様な図書館サービスに触れることができるようにする。
大学図書館等の勤務経験をふまえ、図書館サービスの様々な活動について具体的に解説する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の学習内容を復習して次の回の授業に臨むこと。事後学習として、まとめのプリントで復習し、授業時に提示する様々な図書館サービスの活動事例について各自で確認すること。(事前学習・事後学習あわせて毎講4時間程度)

[ 授業計画 ]
1. 図書館サービスの意義・理念ならびに種類
2. 資料提供サービス （1）
　閲覧、貸出、予約・リクエスト、フロアワーク
3. 資料提供サービス （2）
　読書案内、複写サービス、AV資料の提供サービス
4. 情報提供サービス （1）
　レファレンスサービス、カレントアウエアネスサービス
5. 情報提供サービス （2）
　情報検索サービス、集会活動、講演会・セミナー
6. 利用対象別サービス （1）
　児童サービス、ヤングアダルトサービス、成人へのサービス
7. 利用対象別サービス （2）
　利用に障害を持つ人々へのサービス
8. 利用対象別サービス （3）
　高齢者サービス、多文化サービス
9. 課題解決支援サービス
10. 図書館サービスと著作権
11. 図書館サービスの協力と連携
12. 図書館サービスの変遷 （1） 戦後から高度経済成長期
13. 図書館サービスの変遷 （2） 平成期　これからの図書館サービス展開にむけて

| 科目名 | 図書館サービス概論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 多様な図書館のサービスを知る | | | |
| 担当者 | 槻本　正行 | | | |

[ 成績評価方法 ]
期末試験（80%）と授業時のミニレポート・コメントなど授業参画度（20%）で評価します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
授業時のミニレポートについては翌週に解説と全体的な講評を行います。
期末試験については、全体講評をmanaba上で行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業時のコメントシートや、ミニレポート、期末試験を通じて評価します。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業時のコメントシートや、ミニレポート、期末試験を通じて評価します。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：授業時のコメントシートや、ミニレポート、期末試験を通じて評価します。

[ 教科書（ISBN） ]
『改訂　図書館サービス概論』2019年　著者名：高山正也、村上篤太郎編著　出版社：樹村房　(978-4-88367-294-3)

[ 参考書（ISBN） ]
『図書館サービス論』（JLA図書館情報学シリーズ　Ⅱ期3）2010年刊　著者名：小田光宏編　出版社：日本図書館協会　(978-4-8204-0917-5)

| 科目名 | 図書館サービス概論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 多様な図書館のサービスを知る | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
図書館サービスは、図書館の機能を具体化し、実践する活動であり、利用者志向で行われるべきものである。このような図書館サービスについて、その意義、方法、特徴について学ぶとともにその具体的なサービスについて理解することを主たる目標とする。あわせて、各種サービスの提供には準備や仕組みが必要であること、サービスの提供は直接的、間接的に図書館員を介して行われることを意識できるようになる。

[ 授業概要 ]
図書館サービスの理念と意義を概説し、資料提供サービス、情報提供サービス、利用者別サービスに大別してその意義や技法について解説する。あわせて、できるだけ各種サービスについて具体的な実践例や教材の動画または写真を見ることで多様な図書館サービスに触れることができるようにする。
大学図書館等の勤務経験をふまえ、図書館サービスの様々な活動について具体的に解説する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
前回の学習内容を復習して次の回の授業に臨むこと。事後学習として、まとめのプリントで復習し、授業時に提示する様々な図書館サービスの活動事例について各自で確認すること。(事前学習・事後学習あわせて毎講4時間程度)

[ 授業計画 ]
1. 図書館サービスの意義・理念ならびに種類
2. 資料提供サービス （1）
　閲覧、貸出、予約・リクエスト、フロアワーク
3. 資料提供サービス （2）
　読書案内、複写サービス、AV資料の提供サービス
4. 情報提供サービス （1）
　レファレンスサービス、カレントアウエアネスサービス
5. 情報提供サービス （2）
　情報検索サービス、集会活動、講演会・セミナー
6. 利用対象別サービス （1）
　児童サービス、ヤングアダルトサービス、成人へのサービス
7. 利用対象別サービス （2）
　利用に障害を持つ人々へのサービス
8. 利用対象別サービス （3）
　高齢者サービス、多文化サービス
9. 課題解決支援サービス
10. 図書館サービスと著作権
11. 図書館サービスの協力と連携
12. 図書館サービスの変遷 （1） 戦後から高度経済成長期
13. 図書館サービスの変遷 （2） 平成期　これからの図書館サービス展開にむけて

| 科目名 | 図書館サービス概論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 多様な図書館のサービスを知る | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内発表（15%） グループ学習の貢献度、積極性、学習の成果・工夫を評価します。
授業内課題とmanaba小テスト（70%） manaba小テストの実施と学習の成果として課題リポートの完成度を評価します。
受講態度（15%） 発表や意見など積極的な授業参加を評価します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaで、小テスト、課題レポートの提出を行います。
小テストの評価、レポートの添削・講評はmanabaで行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし(適宜レジメ・資料を作成し配布する)

[ 参考書（ISBN） ]
授業中に指示する

| 科目名 | 図書館サービス特論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 学校図書館を中心とした図書館サービスの様相 | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
①学校図書館における、学校司書の児童生徒及び教職員へのサービスの考え方を理解する。
②学校図書館における、学校司書の各種サービス活動について理解する。
③公共図書館と学校図書館の連携について、司書及び学校司書の視点で理解する。

[ 授業概要 ]
司書資格取得をめざして必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し理解を深める観点から、図書館サービスに関する科目のうち、「図書館サービス概論」における「5)図書館サービスの連携・協力 (図書館ネットワークの意義と形態)」や、「児童サービス論」における「8)学習支援としての児童サービス (図書館活用指導、レファレンスサービス)「9)学校、学校図書館の活動(公立図書館との相違点を含む)」「10)学校、家庭、地域との連携・協力」に光を当てる。主に学校図書館における学校司書の役割を「サービス」という観点で解説するが、「図書館法」には、公共図書館は学校図書館と緊密に連絡し、協力し、図書館資料の相互貸借を行うことなどが明記されていることから、司書資格取得を志す者として本科目を学ぶ意義がある。また、実際のところ、公共図書館の司書が学校図書館に出張勤務したり、配属される自治体もあるため、学校図書館サービスの理論、技能を司書が学んでおく必要性がある。また、本科目により公共図書館の児童サービスに役立つ基本的・実践的な知識、技能も習得できる。司書・学校司書の経験を有する教員が現場での具体例に則して指導する。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
新聞等メディアで学校の教育活動に関係するニュースに関心を持ち情報を入手する。学校図書館におけるサービスや学校支援を行っている自治体の公共図書館活動をWeb上で確認する。各回、予習復習合わせて 4 時間程度。

[ 授業計画 ]
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合、時事的な課題への言及などに対して順序や同一テーマの回数を変えることがある。
1. イントロダクション　学校教育と学校図書館
2. 学校図書館サービスの考え方と構造
3. 学校図書館の環境整備(利用案内, 配架・案内表示)
4. 学校図書館の環境整備(展示・掲示, 修理・製本)
5. 学校図書館の運営(年間運営計画, 基準・マニュアル類, 記録・統計, 会計・文書管理)
6. 学校図書館利用のガイダンス
7. 資料・情報の提供(利用案内, 貸出, 予約サービス, 資料紹介・案内, 資料相談, レファレンスサービス)
8. 児童生徒への読書支援(図書館行事, 読書推進活動, 図書リスト, 読書相談)
9. 児童生徒への学習支援(教科等の指導に関する支援, 特別活動の指導に関する支援)
10. 児童生徒への学習支援(情報活用能力の育成に関する支援)
11. 特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援
12. 教職員への支援(資料相談, 情報提供, 教材準備に関する支援, チームティーチング)
13. 広報・渉外活動(学校図書館便り, HPの活用, 学校行事等との連携)及びまとめ

| 科目名 | 図書館サービス特論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 学校図書館を中心とした図書館サービスの様相 | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
①授業への取り組み度・習得度(15%)
②指定したパフォーマンス課題に取り組む過程で、学校図書館サービスに関する実践的な習得がなされているかを、評価する。(35%)
③確認テストで、各種サービス(公共・学校図書館の連携を含む)の知識を正しく理解し、習得できているかを総括的に評価する。(50%)
以上を、総合的に評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
後日の授業中やmanabaなどで総評をおこなう。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:課題

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
「第三の場」としての学校図書館―多様な「学び」「文化」「つながり」の共創　著者名:久野和子　出版社:松籟社　(9784879843869)
学校図書館サービス論　著者名:小川三和子　出版社:青弓社　(9784787200662
)
学校図書館基本資料集　著者名:野口武悟/編　出版社:全国学校図書館協議会　(9784793300981)

| 科目名 | 図書館情報技術論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | コンピュータとネットワークが作り出す新しい図書館 | | | |
| 担当者 | 森下　淳也 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
情報機器やメディアで変わる図書館の新しいサービスのため、コンピュータとネットワーク、マルチメディアなどの基本的な事柄を理解する。

[ 授業概要 ]
コンピュータとネットワークの基本について学ぶとともに、情報メディアの利用法についても理解する。図書館では、さまざまな情報機器やメディアを利用してサービスを行っており、それらのサービスについても理解を深める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業内容の理解には、図書館利用者としての視点も必要である。図書館を利用して、図書館のサービスを理解するように努めておくこと。特に図書館のウェッブページhttp://lib.yg.kobe-wu.ac.jpを閲覧し、確認しておくこと。

[ 授業計画 ]
授業は以下の内容を予定している。但し、場合によっては、順序や内容に変更もあり得る。
1.コンピュータの構成要素と動作原理
2.コンピュータの情報の表現
3.マルチメディア
4.マルチメディアデータ処理
5.コンピュータネットワーク
6.World Wide Web
7.Webによる情報発信
8.情報検索　検索エンジンとデータベース
9.情報セキュリティと情報倫理
10.図書館における情報技術活用の現状
11.図書館とデータベース
12.電子図書館とデジタルアーカイブ
13.まとめ

| 科目名 | 図書館情報技術論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | コンピュータとネットワークが作り出す新しい図書館 | | | |
| 担当者 | 森下　淳也 | | | |

[ 成績評価方法 ]
テーマ毎に課せられる課題で評価する。課題を複数、用意する。単純な復習課題や創意を求められるもの等、様々である。ウエイトに応じた加点を行い、最終的な評価はその合計に従う。評価基準は、指示を間違えず対応でき、正しく理解されているとわかるものに加点する。原則、全ての課題を全て提出すること。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:レポート課題

[ 教科書(ISBN) ]
なし(レジュメにより講義を行う)

[ 参考書(ISBN) ]
なし(講義中に適宜紹介する)

| 科目名 | 図書館情報技術論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | コンピュータとネットワークが作り出す新しい図書館 | | | |
| 担当者 | 森下　淳也 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
情報機器やメディアで変わる図書館の新しいサービスのため、コンピュータとネットワーク、マルチメディアなどの基本的な事柄を理解する。

[ 授業概要 ]
コンピュータとネットワークの基本について学ぶとともに、情報メディアの利用法についても理解する。図書館では、さまざまな情報機器やメディアを利用してサービスを行っており、それらのサービスについても理解を深める。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業内容の理解には、図書館利用者としての視点も必要である。図書館を利用して、図書館のサービスを理解するように努めておくこと。特に図書館のウェッブページhttp://lib.yg.kobe-wu.ac.jpを閲覧し、確認しておくこと。

[ 授業計画 ]
授業は以下の内容を予定している。但し、場合によっては、順序や内容に変更もあり得る。
1.コンピュータの構成要素と動作原理
2.コンピュータの情報の表現
3.マルチメディア
4.マルチメディアデータ処理
5.コンピュータネットワーク
6.World Wide Web
7.Webによる情報発信
8.情報検索　検索エンジンとデータベース
9.情報セキュリティと情報倫理
10.図書館における情報技術活用の現状
11.図書館とデータベース
12.電子図書館とデジタルアーカイブ
13.まとめ

| 科目名 | 図書館情報技術論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | コンピュータとネットワークが作り出す新しい図書館 | | | |
| 担当者 | 森下　淳也 | | | |

[ 成績評価方法 ]
テーマ毎に課せられる課題で評価する。課題を複数、用意する。単純な復習課題や創意を求められるもの等、様々である。ウエイトに応じた加点を行い、最終的な評価はその合計に従う。評価基準は、指示を間違えず対応でき、正しく理解されているとわかるものに加点する。原則、全ての課題を全て提出すること。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:レポート課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:レポート課題

[ 教科書(ISBN) ]
なし(レジュメにより講義を行う)

[ 参考書(ISBN) ]
なし(講義中に適宜紹介する)

| 科目名 | 図書館情報資源概論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館業務に必要な図書館情報資源に関する知識 | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

[ 授業概要 ]
印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源を情報・資料・メディアととらえて図書館情報資源について解説を行い、図書館情報資源の生産(出版)と流通の実際を解説し、図書館コレクションとしての形成及び提供する理論(資料の選択・収集・評価)、方法について解説をする。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
予習に関してはシラバスの「授業計画」や授業中に予告した教科書の該当箇所を読んでくること。復習に関しては授業中に説明した図書館情報資源等を図書館(本学図書館、公共図書館など)で確認を行うこと。(各回、予習復習合わせて4時間程度行う)

[ 授業計画 ]
第1回 図書館情報資源とは
第2回 印刷資料
第3回 非印刷資料
第4回 電子資料
第5回 資料特論
第6回 出版流通システム
第7回 図書館の自由
第8回 蔵書論
第9回 収集と選択
第10回 蔵書管理・書庫管理
第11回 資料の組織化
第12回 情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源の課題
第13回 図書館情報資源のまとめ

| 科目名 | 図書館情報資源概論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館業務に必要な図書館情報資源に関する知識 | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内発表（15%） グループ学習の貢献度、積極性、学習の成果・工夫を評価します。
授業内課題・manaba小テスト（70%） manabaでの小テストの実施。学習の成果として課題リポートの完成度を評価します。
受講態度（15%） 発表や意見など積極的な授業参加を評価します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaで、小テスト、課題レポートの提出を行います。
小テストの評価、レポートの添削・講評はmanabaで行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし（適宜レジメ・資料を作成し配布する）

[ 参考書（ISBN） ]
参考文献は授業レジュメなどで指示する

| 科目名 | 図書館情報資源概論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館業務に必要な図書館情報資源に関する知識 | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

[ 授業概要 ]
印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源を情報・資料・メディアととらえて図書館情報資源について解説を行い、図書館情報資源の生産(出版)と流通の実際を解説し、図書館コレクションとしての形成及び提供する理論(資料の選択・収集・評価)、方法について解説をする。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
予習に関してはシラバスの「授業計画」や授業中に予告した教科書の該当箇所を読んでくること。復習に関しては授業中に説明した図書館情報資源等を図書館(本学図書館、公共図書館など)で確認を行うこと。

[ 授業計画 ]
第1回 図書館情報資源とは
第2回 印刷資料
第3回 非印刷資料
第4回 電子資料
第5回 資料特論
第6回 出版流通システム
第7回 図書館の自由
第8回 蔵書論
第9回 収集と選択
第10回 蔵書管理・書庫管理
第11回 資料の組織化
第12回 情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源の課題
第13回 図書館情報資源のまとめ

| 科目名 | 図書館情報資源概論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館業務に必要な図書館情報資源に関する知識 | | | |
| 担当者 | 杉岡　和弘 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業内発表（15%） グループ学習の貢献度、積極性、学習の成果・工夫を評価します。
授業内課題・manaba小テスト（70%） manabaでの小テストの実施。学習の成果として課題リポートの完成度を評価します。
受講態度（15%） 発表や意見など積極的な授業参加を評価します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
manabaで、小テスト、課題レポートの提出を行います。
小テストの評価、レポートの添削・講評はmanabaで行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
なし（適宜レジメ・資料を作成し配布する）

[ 参考書（ISBN） ]
参考文献は授業レジュメなどで指示する

| 科目名 | 図書館制度・経営論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館を支える制度基盤と社会的役割を果たすためのマネジメントとは | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
近代公共図書館の5原則をふまえて、公共機関である図書館を組織とみなして、経営・運営上の様々な問題について学び、下記の目標達成をめざす。
①図書館関連法規と、相互の関係性を理解する。
②図書館現場の運営制度を理解する。
③図書館制度・経営上の現代的な課題について、当事者の視点で主体的に思考し(自己との対話)、私見を持つことができる。
④グループディスカッションにおける意見交換(他者との対話)において、異なった意見を知り、自らの思考をより深めることができる。

[ 授業概要 ]
図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、人材(専門職としての図書館職員)や施設・設備等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説し、様々なサービスと、それを円滑に行う運営体制をみていく。
図書館関連法規や、組織運営上の経済・経営用語など、ややもすると暗記中心になりがちな本科目を、オーセンティックな実例に則して、問題解決型学習(PBL)といったディープ・アクティブラーニングの視点での学びをめざす。現代の図書館が抱える制度・経営上の時事的な問題を、その都度トピックとして紹介し、各自および集団で問題解決の方途を探ってもらう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各種関連法規が、どのような形で図書館と結びついているのか、リアルな図書館に足を運び観察すると同時に、web上などでのバーチャルな図書館の様子にもアンテナを張って吸収してほしい。各回、予習復習合わせて 4 時間程度。

[ 授業計画 ]
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合、時事的な課題への言及などに対して順序や同一テーマの回数を変えることがある。
1. イントロダクション　図書館法の理解(1):目的と意義
2. 図書館法の理解(2):図書館法逐条解説
3. 図書館法の理解(3):図書館法逐条解説
4. 図書館関連法規の理解(1):日本国憲法、教育基本法、社会教育法
5. 図書館関連法規の理解(2):地方自治体と条例
6. 他館種の図書館に関する法律
7. 図書館サービス関連法規の理解
8. 図書館政策(国、地方自治体)
9. 公共機関・施設の経営方法と図書館経営
10. 図書館の組織・職員体制:司書の専門性とは
11. 図書館の施設・設備
12. 図書館のサービス計画と予算　図書館業務と評価
13. 今後の図書館制度の展望

| 科目名 | 図書館制度・経営論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館を支える制度基盤と社会的役割を果たすためのマネジメントとは | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
①各課題で、授業全体を通して、知識・技能を正しく理解し、習得できているかを総括的に評価する。(50%)
②パフォーマンス課題で、図書館制度・経営上の現代的な課題について探究し、論理的に考究できているかを評価する。(50%)
以上を、総合的に評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
課題・レポートは、後日の授業中やmanabaなどで総評をおこなう。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッション

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッション・課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『図書館制度・経営論　第2版』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望5)　著者名:手嶋孝典 編著　出版社:学文社　(9784762027017)

[ 参考書(ISBN) ]
『つながる図書館: コミュニティの核をめざす試み』(ちくま新書)、2014年　著者名:猪谷千香　出版社:筑摩書房　(978-4480067562)

| 科目名 | 図書館制度・経営論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館を支える制度基盤と社会的役割を果たすためのマネジメントとは | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
近代公共図書館の5原則をふまえて、公共機関である図書館を組織とみなして、経営・運営上の様々な問題について学び、下記の目標達成をめざす。
①図書館関連法規と、相互の関係性を理解する。
②図書館現場の運営制度を理解する。
③図書館制度・経営上の現代的な課題について、当事者の視点で主体的に思考し(自己との対話)、私見を持つことができる。
④グループディスカッションにおける意見交換(他者との対話)において、異なった意見を知り、自らの思考をより深めることができる。

[ 授業概要 ]
図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、人材(専門職としての図書館職員)や施設・設備等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説し、様々なサービスと、それを円滑に行う運営体制をみていく。
図書館関連法規や、組織運営上の経済・経営用語など、ややもすると暗記中心になりがちな本科目を、オーセンティックな実例に則して、問題解決型学習(PBL)といったディープ・アクティブラーニングの視点での学びをめざす。現代の図書館が抱える制度・経営上の時事的な問題を、その都度トピックとして紹介し、各自および集団で問題解決の方途を探ってもらう。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
各種関連法規が、どのような形で図書館と結びついているのか、リアルな図書館に足を運び観察すると同時に、web上などでのバーチャルな図書館の様子にもアンテナを張って吸収してほしい。各回、予習復習合わせて 4 時間程度。

[ 授業計画 ]
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合、時事的な課題への言及などに対して順序や同一テーマの回数を変えることがある。
1. イントロダクション　図書館法の理解(1):目的と意義
2. 図書館法の理解(2):図書館法逐条解説
3. 図書館法の理解(3):図書館法逐条解説
4. 図書館関連法規の理解(1):日本国憲法、教育基本法、社会教育法
5. 図書館関連法規の理解(2):地方自治体と条例
6. 他館種の図書館に関する法律
7. 図書館サービス関連法規の理解
8. 図書館政策(国、地方自治体)
9. 公共機関・施設の経営方法と図書館経営
10. 図書館の組織・職員体制:司書の専門性とは
11. 図書館の施設・設備
12. 図書館のサービス計画と予算　図書館業務と評価
13. 今後の図書館制度の展望

| 科目名 | 図書館制度・経営論 | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 図書館を支える制度基盤と社会的役割を果たすためのマネジメントとは | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
①各課題で、授業全体を通して、知識・技能を正しく理解し、習得できているかを総括的に評価する。(50%)
②パフォーマンス課題で、図書館制度・経営上の現代的な課題について探究し、論理的に考究できているかを評価する。(50%)
以上を、総合的に評価する。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
課題・レポートは、後日の授業中やmanabaなどで総評をおこなう。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッション・課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:ディスカッション・課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:課題

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書(ISBN) ]
『図書館制度・経営論　第2版』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望5)　著者名:手嶋孝典 編著　出版社:学文社　(9784762027017)

[ 参考書(ISBN) ]
『つながる図書館: コミュニティの核をめざす試み』(ちくま新書)、2014年　著者名:猪谷千香　出版社:筑摩書房　(978-4480067562)

| 科目名 | 図書館総合演習 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 司書としての学びの集大成：図書館を実践的に体験しよう | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
これまで講義で修得した理論や知識をもとに、実際に図書館業務を体験し、これまでの学習内容の確認と統合を図り、司書としての実践的な技能と知識が身につくことを目指す。

[ 授業概要 ]
必修の各科目で学んだ内容を掘り下げて学習し、理解を深める観点から、少人数を対象に、見学会・講演会等を組み合わせた総合的な演習を行う。
具体的には、実際に図書館現場で司書がおこなっている様々な職務を体験し、主体的な司書としての実践力を養う。本授業では、資料の選択、広報活動、読書促進のための書評・ビブリオバトル、POP作成、イベント企画などの演習をおこなう。最終的には総仕上げとして、実際の図書館現場において、資料配架、スペースづくり、資料の組織化、目録作成などを学ぶ実地研修を体験する。図書館での土曜日集中の実地研修への参加が必須なので注意すること。

少人数での演習授業のため、多数の受講希望がある場合、人数を制限することがある。
演習においては、教員が司書としての実務経験にもとづく具体的な知識と技術を生かしてより実践的な指導をする。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
受講生は、地元の地域の図書館を想起するとともに、公共図書館や本学図書館に足を運んで、多様な図書館サービスの実際を興味と関心をもってしっかりと確認しておくこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。

[ 授業計画 ]
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合、covid-19の国内感染状況などに影響を受けて、順序や同一テーマの回数を変えることがある。
1. オリエンテーション
2. 書評の作成（おすすめの本のリスト作成）
3. 書評の作成（良い書評とは）（書評の書き方）（様々な書評を読もう）
4. 書評の作成（書評を書く）　書評本のPOP作成
5. ビブリオバトル（知的書評合戦）について
6. アカデミックビブリオバトルの開催準備
7. アカデミックビブリオバトルの開催
8. イベント企画に向けたリサーチ
9. イベント企画構築
10. イベント企画プレゼンテーション
11. 外部図書館見学・実地研修（講義、図書装備、書架整理、返架）
12. 外部図書館見学・実地研修（講義、図書装備、書架整理、返架）
13. 外部図書館見学・実地研修（テーマ展示）　　まとめ

| 科目名 | 図書館総合演習 | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 司書としての学びの集大成：図書館を実践的に体験しよう | | | |
| 担当者 | 坂下　直子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
発表（30%）
課題（40%）
グループワークへの参加を含む受講態度（30%）
以上を、総合的に評価する。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
課題は、後日の授業内もしくはmanabaで総評をおこなう。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法：発表・課題・グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する（協働する）能力・姿勢
成績評価方法：発表・課題・グループワーク

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：計画力・実行力／課題の解決に向けた計画を立て、それを実行する能力
成績評価方法：発表・課題・グループワーク

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 博物館情報・メディア論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 福田　和浩 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
博物館における情報やメディアの意義や課題について理解すると共に、博物館情報や情報発信の活用についての基礎的能力についても身に付けることを目標とする。

[ 授業概要 ]
現役の学芸員である教員が、現場の視点から博物館の情報に関わる新しい取り組みを紹介しながら、博物館情報とメディアの意義や役割、活用方法を考えていく。
特に、博物館に関わるデジタル情報機器・ソフトウェアの発展、資料の情報化、情報メディアによる発信や連携など、博物館の様々な活動にとって情報化が不可欠になっている現状を、様々な博物館の実践から知り、今後の課題を考える。
そして、博物館の現代的課題に向き合い、解決するためのビジョンを共有し、実践的な検討を行う。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
教科書の該当ページを読んで予習をしておくこと。また新聞やインターネット等、博物館・美術館などが発信する多様な形態の情報に注意し、実際に博物館を訪れた際は、来館者や地域に向けた取り組みや情報発信について検討・考察する視点で見学すること。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス
2. 情報とメディアの基礎（1）情報の意義やメディアと博物館の歴史
3. 情報とメディアの基礎（2）博物館で扱う情報、ドキュメンテーションとデータベース化
4. 情報とメディアの基礎（3）博物館と知的財産
5. 博物館活動の情報化（1）調査研究：デジタル情報の特性、撮影と計測
6. 博物館活動の情報化（2）展示：マルチメディアコンテンツの活用
7. 博物館活動の情報化（3）教育普及：デジタルアーカイブの活用
8. 学外研修
9. 学外研修　※博物館の現場を見学し、博物館活動を情報化する実践を知る。見学先は特色ある博物館や史跡とし、開講時に日程等を示す。
10. 博物館における情報発信（1）映像メディアの役割と活用
11. 博物館における情報発信（2）ウェブサイトと広報、SNS
12. ICT社会の中の博物館（1）社会教育施設との連携を知る
13. ICT社会の中の博物館（2）地域連携としての博物館の役割、まとめ

| 科目名 | 博物館情報・メディア論 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 福田　和浩 | | | |

[ 成績評価方法 ]
各授業の課題とワークショップ（60%）、課題レポート（40%）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
各授業の課題やワークショップについては、翌週の授業の中で講評を加えることがある。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:上記、成績評価方法による

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:上記、成績評価方法による

[ 教科書（ISBN） ]
『新時代の博物館学』ほか適宜プリントを配布する。 著者名:全国大学博物館学講座協議会西日本部会編　出版社:芙蓉書房出版 (9784829505519)

[ 参考書（ISBN） ]
なし

# 全学共通教養科目Ⅱ

（授業科目名五十音順）

| 科目名 | 健康・生活支援指導論実習 | 後期 | 講義 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 賀屋　光晴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
(1)スポーツに関する幅広い知識と技術が習得できる。
(2)健康づくりと運動との関係に関する知識を身につけることができる。
(3)状況や対象に合わせた行動をとることができる。
(4)状況に応じて適切にコミュニケーションをとることができる。
(5)自分たちの考えを周囲に伝えることができる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実践を通してスポーツの楽しさを体感するとともに、運動習慣を身につけるための基礎を身につける。また、障害者スポーツなど様々なスポーツを体験することでスポーツの持つ奥深さや多様性を知る。さらに、身体表現(創作ダンス)の実践などにより、表現力を身につける。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業前後にウォーミングアップ、クールダウンを充分に行なう。
ストレッチを毎日5分程度行なう。
10分程度の運動・活発な身体活動を週3回程度行なう。
日々の運動を記録し、定期的に振り返りを行なう。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス、スポーツ実践(身体表現　創作)
2. スポーツ実践(身体表現　創作)
3. スポーツ実践(身体表現　創作)
4. スポーツ実践と評価法(身体表現の発表(実践)と評価)
5. スポーツ実践1 (バスケットボール、ショートテニス、トレーニング　など)
6. スポーツ実践1 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)
7. スポーツ実践1 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)
8. スポーツ実践2 (バスケットボール、ショートテニス、トレーニング　など)
9. スポーツ実践2 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)
10. スポーツ実践2 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)
11. 体力の測定と評価
12. 体力の測定と評価
13. スポーツ実践3 (バスケットボール、ショートテニス、トレーニング　など)
14. スポーツ実践3 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)
15. スポーツ実践3 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)、まとめ

| 科目名 | 健康・生活支援指導論実習 | 後期 | 講義 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 賀屋　光晴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
(1)授業に関連したレポートを実施する。
(2)参加態度(35%)、協調性(25%)、習熟度(20%)、レポート(20%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
必要に応じて個別に対応する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:参加態度等

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:参加態度等

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:参加態度等

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
新版　生活健康科学　著者名:小田切陽一、小山勝弘、石原逸子　共著　出版社:三共出版　(978-4-7827-0618-3)
運動処方の指針:運動負荷試験と運動プログラム(原書第8版)　著者名:編:アメリカスポーツ医学会、日本体力医学会　出版社:南江堂　(978-4-524-26216-8)
運動生理学　生理学の基礎から疾病予防まで(第2版)　著者名:小山勝弘、安藤大輔　編著　出版社:三共出版　(978-4-7827-0802-6)
健康・スポーツ科学講義　第2版　著者名:出村慎一監修　出版社:杏林書院　(978-4-7644-1125-8)

| 科目名 | 健康生活支援指導論実習 | 後期 | 講義 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 賀屋　光晴 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
(1)スポーツに関する幅広い知識と技術が習得できる。
(2)健康づくりと運動との関係に関する知識を身につけることができる。
(3)状況や対象に合わせた行動をとることができる。
(4)状況に応じて適切にコミュニケーションをとることができる。
(5)自分たちの考えを周囲に伝えることができる。

[ 授業概要 ]
スポーツ実践を通してスポーツの楽しさを体感するとともに、運動習慣を身につけるための基礎を身につける。また、障害者スポーツなど様々なスポーツを体験することでスポーツの持つ奥深さや多様性を知る。さらに、身体表現(創作ダンス)の実践などにより、表現力を身につける。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業前後にウォーミングアップ、クールダウンを充分に行なう。
ストレッチを毎日5分程度行なう。
10分程度の運動・活発な身体活動を週3回程度行なう。
日々の運動を記録し、定期的に振り返りを行なう。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス、スポーツ実践(身体表現　創作)
2. スポーツ実践(身体表現　創作)
3. スポーツ実践(身体表現　創作)
4. スポーツ実践と評価法(身体表現の発表(実践)と評価)
5. スポーツ実践1 (バスケットボール、ショートテニス、トレーニング　など)
6. スポーツ実践1 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)
7. スポーツ実践1 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)
8. スポーツ実践2 (バスケットボール、ショートテニス、トレーニング　など)
9. スポーツ実践2 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)
10. スポーツ実践2 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)
11. 体力の測定と評価
12. 体力の測定と評価
13. スポーツ実践3 (バスケットボール、ショートテニス、トレーニング　など)
14. スポーツ実践3 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)
15. スポーツ実践3 (バスケットボール、ショートテニス、障害者スポーツ)、まとめ

| 科目名 | 健康生活支援指導論実習 | 後期 | 講義 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 賀屋　光晴 | | | |

[ 成績評価方法 ]
(1)授業に関連したレポートを実施する。
(2)参加態度(35%)、協調性(25%)、習熟度(20%)、レポート(20%)

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
必要に応じて個別に対応する。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:責任感／社会や組織の一員としての自覚を持ち、その規範やルールに従って行動し、その発展に貢献する能力・姿勢
成績評価方法:参加態度等

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:参加態度等

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法:参加態度等

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
新版　生活健康科学　著者名:小田切陽一、小山勝弘、石原逸子　共著　出版社:三共出版　(978-4-7827-0618-3)
運動処方の指針:運動負荷試験と運動プログラム(原書第8版)　著者名:編:アメリカスポーツ医学会、日本体力医学会　出版社:南江堂　(978-4-524-26216-8)
運動生理学　生理学の基礎から疾病予防まで(第2版)　著者名:小山勝弘、安藤大輔　編著　出版社:三共出版　(978-4-7827-0802-6)
健康・スポーツ科学講義　第2版　著者名:出村慎一監修　出版社:杏林書院　(978-4-7644-1125-8)

| 科目名 | 健康づくり・生活支援ワークショップ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 片田　千尋、岡本　恵、石原　あや | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
(1)子育ての営みに関係する事柄が列記できる。
(2)文化について具体的に述べることができる。
(3)現代の子育ての特徴が説明できる。
(4)現代の子育ての問題、課題、解決のための対策について考えることができる。
(5)子育てについて、自分の考えを述べることができる。
(6)課題のグループワークに積極的に参加し、自分の意見を述べることができる。
(7)各ライフステージにおけるセクシュアリティの意味と課題について議論し、自己の考えを述べることができる。
(8)様々な健康レベルにおけるセクシュアリティの意味と課題について議論し、自己の考えを述べることができる。
(9)ピアサポート活動や当事者運動を通して、HIVに関する知識を獲得し、セクシュアルヘルスについて考えることができる。
(10)セクシュアルマイノリティの当事者運動や社会の動向を通し、LGBTQに関する知識を獲得し、課題を考えることができる。
(11)様々なライフステージや健康レベルにある人のセクシュアリティに関する支援について議論し、自己の考えを述べることができる。
(12)各テーマについてのグループワークに参加し、他者の意見を聞くことで、自己の考えとの違いを理解し、より深く思考することができる。

[ 授業概要 ]
この講義は、「子育てと文化」と「ヒューマンセクシュアリティと看護」の2つから成る。
(1)子育てと文化
子育てをめぐる社会状況・社会システムの変化、地域社会の変化等に伴う子ども観や育児観の変遷を追いながら、現代の子育ての問題や課題について考えていく。また子育て中の母親のドキュメンタリー映画を鑑賞する機会を設け、育児の実際について理解を深める。
(2)ヒューマンセクシュアリティと看護
本科目では、セクシュアリティに関する基本的な知識を獲得し、様々な環境や立場、価値観をもつ人におけるセクシュアリティの多様性や課題について考える。また、一般的にセクシュアルマイノリティとされる人へのピアサポートや当事者運動を実践している特別講師から、性の多様性、LGBTのおかれる現状、当事者運動などについて講義を受け、セクシュアリティを基本的人権として捉え、その意味や課題について考える。
上記の考えを通して、自己のセクシュアリティについて改めて考え、他者のセクシュアリティを尊重するための態度や支援について深く考える力を身につける。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
授業前:グループワークのテーマに関する事前学習【2時間】
授業後:深めたい点に関する追加学習【1時間】
全授業終了後:各自が関心を持った問題や課題を1つ取り上げ、まとめのレポートを作成する【4時間】

[ 授業計画 ]
1. 子育てと文化－授業ガイダンス(石原)
2. 子育ての実際(映画「ママをやめてもいいですか」鑑賞)(石原)
3. 子育ての実際(映画「ママをやめてもいいですか」鑑賞)
   グループワーク打ち合わせ(石原)
4. 現代の子育て事情(グループワーク)(石原)
5. 子育てにまつわる文化的慣習(グループワーク)(石原)
6. 母性愛神話・3歳児神話(グループワーク)(石原)
7. 海外の子育て(グループワーク)(石原)
8. 子育てについての悩み(グループワーク)(石原)
9. ヒューマンセクシュアリティと看護－授業ガイダンス(片田)
10. セクシュアルマイノリティ(講義)(特別講師・片田)
11. ジェンダーとセクシュアリティ(ディスカッション)(片田・岡本)
12. ライフステージとセクシュアリティ(ディスカッション)(片田・岡本)
13. セクシュアルヘルス(講義)(特別講師・片田)
14. 障がいとセクシュアリティ(ディスカッション)(片田・岡本)
15. まとめ　セクシュアリティの多様性の理解とその支援(プレゼンテーション)(片田)
16. まとめ　セクシュアリティに関する考えの統合

| 科目名 | 健康づくり・生活支援ワークショップ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 片田　千尋、岡本　恵、石原　あや | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業への参加度（事前学習レポート、講義の感想レポート、グループディスカッションに関するレポート 、プレゼンテーションへの参加度を重視）70%、最終レポート30%
なお、本授業では定期試験は行わない。提出物の期限を遵守しない場合は減点対象とする。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
グループワークについては各授業内で、講義の感想やレポートについては最終授業のまとめでフィードバックを行い、より深い思考につなげる。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：多様性理解／自分とは異なる社会的・文化的背景を持つ人々が存在し、多様な価値観が存在することを理解する能力・姿勢
成績評価方法：授業への参加度（事前学習レポート、講義の感想レポート、グループディスカッションに関するレポート 、プレゼンテーションへの参加度を重視）70%、最終レポート30%

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：授業への参加度（事前学習レポート、講義の感想レポート、グループディスカッションに関するレポート 、プレゼンテーションへの参加度を重視）70%、最終レポート30%

[ 教科書（ISBN） ]
適宜、各担当者が資料を配付する。

[ 参考書（ISBN） ]
随時紹介する。

| 科目名 | 地域コミュニティ入門 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ～新しいつながりと仕組みで構築する地域コミュニティ～ | | | |
| 担当者 | 飛田　敦子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL（課題解決型） | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
①地域コミュニティの抱える現代的課題の理解
②考える力の構築
③コミュニケーション能力（話す力・聴く力・調整する力）の向上

[ 授業概要 ]
少子高齢化、人口減少、税収減、非正規雇用の増加、格差の拡大など、現代社会は様々な課題を抱えています。行政や企業だけでは、それらの課題すべてを解決するのは難しい時代となってきました。そこで注目されているのが、NPOや地域コミュニティといった新たな機能です。高齢者、子ども、まちづくりなど、その分野は多岐にわたり、様々な事例が構築されています。また、それらの主体（地域コミュニティ、行政、企業など）がともに手を取り合って行動する「協働（きょうどう）」も、なくてはならない手法となってきました。

2020年春以降、新型コロナウイルスの影響で、対面して多様な人間関係を構築するのが難しい状況が続いています。リアルな交流の機会が激減する中で、高齢者の認知および身体機能の低下、産後うつを抱える親の増加など、自粛や孤立による新たな社会課題も浮かび上がってきています。しかし一方で、「感染症による命のリスク」と「孤立による命のリスク」のバランスに苦慮しながらも、少しでも現状を打破しようとする挑戦も各地で生まれています。地域コミュニティの役割を再考するためにも、これらコロナ禍における取組事例も授業内で多数紹介します。
また、様々な分野で活躍する実践者の方にもゲストスピーカーとしてご登壇いただき、現場での様々なチャレンジに触れながら、地域コミュニティの実態や役割、またその可能性について共に考えたいと思います。

※担当教員はNPOや地域コミュニティをフィールドにした仕事に従事しており、「実務経験のある教員」です。

① 学生、講師、ゲストスピーカーが皆で一緒に創る授業です。90分授業の前半を講義、後半をグループディスカッションやゲストスピーカーとの質疑応答等の参加型形式で行います。講義を聞いたり、板書したりするだけでなく、他人と議論することに重点を置き、「人と学び、人から学ぶ」授業を目指します。そのため、受身ではなく積極的な参加態度を求めます。
② ゲストスピーカーの関係で授業スケジュールや内容が変更する場合があります。

[ 準備学修（授業前後の主体的な学修） ]
ディスカッション課題は事前に発表します。授業時間外にも積極的に調べ、考え、学ぶ姿勢を奨励します。

[ 授業計画 ]
1.ガイダンス
2.なぜ今、地域コミュニティなのか？1　社会の変化
3.なぜ今、地域コミュニティなのか？2　家族の変化
4.地域コミュニティの現場～事例紹介①障害者と地域コミュニティ～
5.地域コミュニティの現場～事例紹介②外国人と地域コミュニティ～
6.地域コミュニティの現場～事例紹介③若者と地域コミュニティ～
7.地域コミュニティの現場～事例紹介④まちあそびと地域コミュニティ～
8.地域コミュニティの現場～事例紹介⑤地域組織と地域コミュニティ～
9.地域コミュニティの現場～事例紹介⑥中間支援と地域コミュニティ～
10.企業と地域コミュニティ
11.行政と地域コミュニティ
12.多様な主体による「協働」の可能性
13.グループワーク1～私たち大学生が地域コミュニティでできること～
14.グループワーク2～私たち大学生が地域コミュニティでできること～
15.発表・まとめ

| 科目名 | 地域コミュニティ入門 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | ～新しいつながりと仕組みで構築する地域コミュニティ～ | | | |
| 担当者 | 飛田　敦子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業ごとのコミュニケーションシート45%、中間ポート15%、期末試験40%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
原則、課題提出の翌週に抜粋してフィードバック

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:協働性／立場や意見の相違を乗り越えて、他者と協力して行動する(協働する)能力・姿勢
成績評価方法:授業ごとのコミュニケーションシート60%、ミニレポート20%、期末レポート20%

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:授業ごとのコミュニケーションシート60%、ミニレポート20%、期末レポート20%

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:論理的思考力／筋道に沿って物事を考え、結論を導く能力
成績評価方法:授業ごとのコミュニケーションシート60%、ミニレポート20%、期末レポート20%

[ 教科書(ISBN) ]
教科書なし。資料は都度パワーポイントのハンドアウトを配布します。

[ 参考書(ISBN) ]
『人口減少社会のデザイン』 著者名:広井良典　出版社:東洋経済新報社 (4480065016)
『つながりのコミュニティ～人と地域が「生きる」かたち～』 著者名:佐藤友美子・土井勉・平塚伸治著　出版社:岩波書店 (4000014048)
『ソーシャルデザイン実践ガイド』 著者名:覓裕介　出版社:英治出版 (4862761496)
『つながるカフェ～コミュニティの〈場〉をつくる方法～』 著者名:山納洋　出版社:学芸出版社 (4761513616)

| 科目名 | 地域連携インターンシップ Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 前田　光子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
①参加したプログラムの趣旨や参加者を理解し、その意義を第三者に説明できる。(知識・態度)
②地域連携に参画して、地域の問題点を挙げることができる。(知識)
③活動内容や目的、自身はどのように貢献できたかを、客観的に評価し、表現できる。(技能・態度)
④連携事業の多様なプログラムへの参画や自主活動を通して、新たに企画をたてる際の手順を学び、説明できる。(知識・技能)

[ 授業概要 ]
毎週定時に集合して行う座学ではなく、自主立案、実行、報告のインターンシップ科目です。
将来、安全で楽しい社会を築くことのできる人材となるために、地域や社会の多大な情報の中から自分の個性に合った事項を選択し、参加し、その活動を客観的に捉え、次へのステップのためにフィードバックをする、というPDCAサイクルを習得します。
この科目は、学外でのインターンシップを主とし、実践的教育から構成される授業科目です。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
初回(4月9日、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス)のガイダンス後は、事前に計画した事業参加申告書に基づき、普段は活動します。期末の活動報告会(7月9日を予定)で、全ての内容を報告し、討議します。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス
2. ポーアイ4大学連携事業への参加
3. 市民救命士講習の受講
4. 市民救命士講習救急インストラクター活動
5. ポーアイ・セーフティタウン・コミュニティ ボランティア活動
6. 減災SCOP活動
7. DMAT研修運営補助ボランティアへの参加
8.「禁煙キャンパス地区」を目指した禁煙支援活動への参加
9. リレー・フォー・ライフ・ジャパン神戸への参加
10. KOBEエイズフェスタへの参加
11. 公開講座(大学や各地域で開催される講演会)の聴講
12. その他、大学関連事業として認定する事業への参加
13. 学生からの提案事業(事前相談を要します)
14. 活動報告会
15. まとめ

| 科目名 | 地域連携インターンシップ Ⅰ | 前期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 前田　光子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
単位認定となる参加回数(チップ)の基本は10チップとします。
参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%) で評価します。

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
活動報告会でのプレゼンテーションで、フロアとの間で質疑応答を行い、コメントをもらいます。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法:参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法:参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%)

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 地域連携インターンシップⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 前田　光子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
①参加したプログラムの趣旨や参加者を理解し、その意義を第三者に説明できる。(知識・態度)
②地域連携に参画して、地域の問題点を挙げることができる。(知識)
③活動内容や目的、自身はどのように貢献できたかを、客観的に評価し、表現できる。(技能・態度)
④連携事業の多様なプログラムへの参画や自主活動を通して、新たに企画をたてる際の手順を学び、説明できる。(知識・技能)

[ 授業概要 ]
毎週定時に集合して行う座学ではなく、自主立案、実行、報告のインターンシップ科目です。
将来、安全で楽しい社会を築くことのできる人材となるために、地域や社会の多大な情報の中から自分の個性に合った事項を選択し、参加し、その活動を客観的に捉え、次へのステップのためにフィードバックをする、というPDCAサイクルを習得します。
この科目は、学外でのインターンシップを主とし、実践的教育から構成される授業科目です。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
初回(9月24日、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス)のガイダンス後は、事前に計画した事業参加申告書に基づき、普段は活動します。期末の活動報告会(1月7日を予定)で、全ての内容を報告し、討議します。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス
2. ポーアイ4大学連携事業への参加
3. 市民救命士講習の受講
4. 市民救命士講習救急インストラクター活動
5. ポーアイ・セーフティタウン・コミュニティ ボランティア活動
6. 減災SCOP活動
7. DMAT研修運営補助ボランティアへの参加
8.「禁煙キャンパス地区」を目指した禁煙支援活動への参加
9. 神戸マラソン等、地域ボランティアへの参加
10. 公開講座(大学や各地域で開催される講演会)の聴講
11. 阪神淡路大震災関連メモリアル行事への参加
12. その他、大学関連事業として認定する事業への参加
13. 学生からの提案事業(事前相談を要します)
14. 活動報告会
15. まとめ

| 科目名 | 地域連携インターンシップⅡ | 後期 | 演習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 前田　光子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
単位認定となる参加回数（チップ）の基本は10チップとします。
参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%) で評価します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
活動報告会でのプレゼンテーションで、フロアとの間で質疑応答を行い、コメントをもらいます。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法：参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%)

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：参加態度(50%)、事業貢献度(30%)、プレゼンテーション(20%)

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 人間関係作りワークショップ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 浜中　惠美子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
①コミュニケーションの理論やスキルを習得することができます。
②他者の気持ちを「受容」「共感」することを味わい、自分自身や他者への気づきを深めることができます。
③感情のコントロールについて理解し、他者からのフィードバックを受け入れ、冷静に対話をすることを学び、自己成長することができます。
④プレゼンテーションが求められる場面や初めて出会う人の前で、不安や緊張をコントロールし、自信を持ってパブリック・スピーキングができるよう習得します。
⑤これまで一過性の個人的体験であった自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新たな行動様式を身につけることができます。
⑥これからの人間関係づくりを肯定的にとらえ、可能性に満ちた学生生活のきっかけになることを目標とします。

[ 授業概要 ]
授業は、一方的に話を聞いたり、テキストや教材を読むだけではなく、4大学という異なった文化的背景を持つ受講生が、小グループで様々なアクティビティに取り組み、受講生同士が感じた事をリアルに交流し合うという双方向型の「体験」を通じた学びを重視します。
ワークショップ形式の授業を通じ、グループ内の刻々と変化する人間関係の中で他者の気持ちを「受容」「共感」し、自己理解や他者理解への気づきを深め、自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることを学びます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
日常においても、授業内容やソーシャルスキルを意識し行動化することを心がけてください。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション　・ワークショップとは・体験学習の理論・授業の考え方
2. 「対話」とコミュニケーション　・『他者』と関わる、『経験』することということの意味
3. 自分に見えない自分の姿に気づく
4. 出会いの試み　・自己理解や他者理解を深める
5. より良い人間関係を築くために
6. コミュニケーションの弊害とは　・「聴く力」「話す力(伝える)」「観る力」について
7. 心の枠組みを点検する　・厄介な人間関係のからくり
8. コミュニケーションと『感情』
9. オールタナティブな問題解決法
10. 相手を理解し自分の考えを伝える
11. 「Who am I ?」「私」とは　・私を表現する
12. 協力ゲーム　・集団意思決定の方法を知り、コミュニケーション特性に気づく
13. 「考える」ということ、私をデザインする
14. 『自分を語る』　・作品のフィードバック
15. 全体の分かち合い　・これからに向かって

| 科目名 | 人間関係作りワークショップ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 浜中　恵美子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
1.授業に取り組む姿勢70%(・授業参画態度40%　・課題、発表他30%)
2.課題レポート30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業開始時もしくは終了時にフィードバックを行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:1.授業に取り組む姿勢70%(・授業参画態度40%　・課題、発表他30%)
2.課題レポート30%

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:1.授業に取り組む姿勢70%(・授業参画態度40%　・課題、発表他30%)
2.課題レポート30%

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 人間関係づくりワークショップ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 浜中　惠美子 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
①コミュニケーションの理論やスキルを習得することができます。
②他者の気持ちを「受容」「共感」することを味わい、自分自身や他者への気づきを深めることができます。
③感情のコントロールについて理解し、他者からのフィードバックを受け入れ、冷静に対話をすることを学び、自己成長することができます。
④プレゼンテーションが求められる場面や初めて出会う人の前で、不安や緊張をコントロールし、自信を持ってパブリック・スピーキングができるよう習得します。
⑤これまで一過性の個人的体験であった自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新たな行動様式を身につけることができます。
⑥これからの人間関係づくりを肯定的にとらえ、可能性に満ちた学生生活のきっかけになることを目標とします。

[ 授業概要 ]
授業は、一方的に話を聞いたり、テキストや教材を読むだけではなく、4大学という異なった文化的背景を持つ受講生が、小グループで様々なアクティビティに取り組み、受講生同士が感じた事をリアルに交流し合うという双方向型の「体験」を通じた学びを重視します。
ワークショップ形式の授業を通じ、グループ内の刻々と変化する人間関係の中で他者の気持ちを「受容」「共感」し、自己理解や他者理解への気づきを深め、自己のコミュニケーションスタイルを見直し、新しい行動様式を身につけることを学びます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
日常においても、授業内容やソーシャルスキルを意識し行動化することを心がけてください。

[ 授業計画 ]
1. オリエンテーション　・ワークショップとは・体験学習の理論・授業の考え方
2. 「対話」とコミュニケーション　・『他者』と関わる、『経験』することということの意味
3. 自分に見えない自分の姿に気づく
4. 出会いの試み　・自己理解や他者理解を深める
5. より良い人間関係を築くために
6. コミュニケーションの弊害とは　・「聴く力」「話す力(伝える)」「観る力」について
7. 心の枠組みを点検する　・厄介な人間関係のからくり
8. コミュニケーションと『感情』
9. オールタナティブな問題解決法
10. 相手を理解し自分の考えを伝える
11. 「Who am I ?」「私」とは　・私を表現する
12. 協力ゲーム　・集団意思決定の方法を知り、コミュニケーション特性に気づく
13. 「考える」ということ、私をデザインする
14. 『自分を語る』　・作品のフィードバック
15. 全体の分かち合い　・これからに向かって

| 科目名 | 人間関係づくりワークショップ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 浜中　恵美子 | | | |

[ 成績評価方法 ]
1.授業に取り組む姿勢70%(・授業参画態度40%　・課題、発表他30%)
2.課題レポート30%

[ 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法 ]
授業開始時もしくは終了時にフィードバックを行います。

[ オフィスアワー(質問等の受付方法) ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP) ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:自己理解／自分自身の性格や価値観を理解する能力・姿勢
成績評価方法:1.授業に取り組む姿勢70%(・授業参画態度40%　・課題、発表他30%)
2.課題レポート30%

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_:表現力／自分の考えを適切な手段・方法で表現し、他者に伝えて、理解を得る能力・姿勢
成績評価方法:1.授業に取り組む姿勢70%(・授業参画態度40%　・課題、発表他30%)
2.課題レポート30%

[ 教科書(ISBN) ]
なし

[ 参考書(ISBN) ]
なし

| 科目名 | 防災・防犯指導論実習 | 後期 | 実習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 身近な犯罪・火災と自然災害から自分自身を守る | | | |
| 担当者 | 松下　眞 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | | グループワーク | |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
身近な犯罪被害からの防止対策の習得、自然災害の原因や結果を自分で考える基礎知識を身につけます

[ 授業概要 ]
防災・防犯に関わる専門家による講話と実習、及び自然災害の事象を様々な切り口からメディアが編集・映像化した記録等を教材として、見て・知り・考えることにより疑似体験的に防災・防犯を学びます。阪神・淡路大震災などの対応経験を有する教員が、さまざまな災害の特徴を踏まえて対処法を指導します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
災害・犯罪等に関連するニュースや社会事象への注意と関心を払い、履修授業の復習と疑問点の探求をおこないます。

[ 授業計画 ]
1. 防災・防犯指導論実習 概論(松下)
2. 地域の防災・防犯活動(松下・学外特別講師)
3. 警察の役割と防犯対策(松下・学外特別講師)
4. 消防署の役割と火災防止(松下・学外特別講師)
5. 巨大地震(松下)
6. 巨大津波(松下)
7. 地震と火山(松下)
8. 感染症1(歴史を変えた感染症)(松下)
9. 感染症2(新型コロナウイルスへの対応)(松下)
10. 長周期地震動(松下)
11. 住宅耐震(松下・学外特別講師)
12. 最近の豪雨災害と線状降水帯(松下)
13. 深層崩壊による土砂災害(松下)
14. 局地豪雨と堤防決壊(松下)
15. 複合災害(松下)

| 科目名 | 防災・防犯指導論実習 | 後期 | 実習 | 1 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | 身近な犯罪・火災と自然災害から自分自身を守る | | | |
| 担当者 | 松下　眞 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業中に作成するレポート（100%）で評価します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
レポート内容にはコメントを付けて返却し、次回以降に反映できるようにします。
多くの人に共通する作成上の問題を指摘し、レポート作成の改善を図ります。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：授業中に作成するレポート（100%）で評価します。

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：授業中に作成するレポート（100%）で評価します。

[ 教科書（ISBN） ]
レジメ・資料を作成し配布する。

[ 参考書（ISBN） ]
なし

| 科目名 | 防災・防犯入門 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 舩木　伸江 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | | 実習、フィールドワーク | ○ |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | |

[ 到達目標 ]
防犯や防災についての見識を備え、いざという時に行動できる。

[ 授業概要 ]
21世紀の課題の1つは安全で安心な社会の構築にあります。阪神・淡路大震災や東日本大震災で学んだ教訓は、日常的な取り組みと助け合いの精神の大切さです。この教訓は安全で安心な暮らしを守る防災と防犯対策にとっても重要なキーワードです。自分と愛する人を守るためには何が必要なのかについて、自分のこととして考えます。市民救命士の資格の取得や生活安全確保のための防犯対策など、各界の人々のお話を含めた授業展開をしてきます。

※本科目の履修に当たっては、神戸学院大学の開講判断はもちろん、神戸女子大学・神戸女子短期大学(以下、本学)の他大学キャンパスへの本学学生派遣に対する判断も加味されることから、履修中にコロナ感染症拡大となった際には、神戸学院大学が開講可能と判断しても、本学独自の判断により、状況によっては履修中止措置を取ることがあることを申し添えます。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
新聞等をよく読むなど最低2時間以上予習復習する。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンス　15回の講義の進め方、成績評価の仕方などを説明する
2. 防災入門①　1995年に神戸で発生した阪神・淡路大震災を事例に災害の被害と防災のあり方について学ぶ
3. 防災入門②　2011年に東北で発生した東日本大震災を事例に災害の被害と防災のあり方について学ぶ
4. 防災入門③　災害に備えるためには日ごろからどのようなことをしておけばいいのか、備えのあり方について学ぶ
5. 防災ワークショップ　防災教育教材を用いて災害の被害を追体験しながら、防災についてワークショップ形式で学ぶ
6. 神戸地方気象台　気象と災害　(学外特別講師)
7. 市民救命士講習Ⅰ　家族が倒れたり、町を歩いていて誰かが倒れていた際の応急手当の知識を学びます。正式な神戸市の市民救命士講習です。
8. 市民救命士講習Ⅱ　実際に倒れた人を救うために、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの取扱方法などの的確な応急処置法を学びます(この講習を修了することで神戸市消防局の修了証を取得できます)。(学外特別講師)
9. 兵庫県神戸水上警察署　身近に迫る犯罪の防止　(学外特別講師)
10. 兵庫県警本部　被害者支援の現状、取り組み　(学外特別講師)
11. 兵庫県神戸水上警察署　交通安全教育の参画　(学外特別講師)
12. 消費者教育　消費者犯罪について　(学外特別講師)
13. 災害と被災者①　災害にあうということは、その後の生活にどのような影響を与えるのか、実際の被災者の声から学ぶ
14. 災害と被災者②　災害にあうということは、その後の生活にどのような影響を与えるのか、実際の被災者の声から学ぶ(阪神・淡路大震災の直接経験者から話を聞きます)(学外特別講師)
15. 防災・防犯知識の活用　これまでの講義で学んだ防災・防犯の事例を生活に活かす方法を学ぶ

| 科目名 | 防災・防犯入門 | 前期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 舩木　伸江 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業態度・授業への積極的貢献度（40%）、レポート（60%、提出3回）

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
講義の感想やレポートについては最終授業でフィードバックを行い、より深い思考につなげる。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：授業態度・授業への積極的貢献度（40%）、レポート（60%、提出3回）

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：問題発見力／現状を分析して問題を明らかにし、その解決方法を見出せる能力
成績評価方法：授業態度・授業への積極的貢献度（40%）、レポート（60%、提出3回）

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
随時紹介する。

| 科目名 | 防災・防犯ワークショップ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 室﨑　友輔 | | | |

[アクティブラーニング授業]

| | | | |
|---|---|---|---|
| PBL(課題解決型) | ○ | 反転授業 | |
| ディスカッション・ディベート | ○ | グループワーク | ○ |
| プレゼンテーション | ○ | 実習、フィールドワーク | |
| その他 | | 実務経験のある教員による授業 | ○ |

[ 到達目標 ]
防災・防犯について自分の言葉で説明することができる。(知識)
日頃から防災・防犯に関するニュース等に関心を持つ。(態度・習慣)
防災・防犯における危機管理能力を身につける。(技能)

[ 授業概要 ]
生活を支える安全・安心は平素の備えが重要です。多発する災害事象は複雑多様化し顕在化しています。また、犯罪など身近な社会生活の安全をおびやかすリスクも凶悪化し多様化しています。この授業では現代社会に求められている安全・安心についての視野を広げ、防災・防犯のリーダーとなり得る人材の育成を目指します。

[ 準備学修(授業前後の主体的な学修) ]
日頃から防災・防犯に関係するニュース等に関心を持つこと。

[ 授業計画 ]
1. ガイダンスと防災ゲーム(なまずの学校)体験
2. 護身術(実技)(学部特別講師:警察)
3. 交通安全講話(学部特別講師:警察)
4. ワークショップ(防災Ⅰ)ダイレクトロード
5. 生活安全講話(学部特別講師:警察)
6. 気象と災害(学部特別講師:気象台)
7. ワークショップ(土砂災害・風水害Ⅰ)―気象庁ワークショップ
8. ワークショップ(土砂災害・風水害Ⅱ)―EVAG
9. 地震と津波
10. ワークショップ(防災Ⅱ)―クロスロード
11. ワークショップ(防災Ⅲ)―さすけなぶる
12. 災害への備え
13. 携帯被害・サイバー被害対策(学部特別講師:警察)
14. 防災・防犯の啓発Ⅰ―防災アニメの視聴(ORANGE、おたすけ犬ポチ)
15. 防災・防犯の啓発Ⅱ―防災ゲームの体験(シャッフル、たすカルテット)

| 科目名 | 防災・防犯ワークショップ | 後期 | 講義 | 2 単位 |
|---|---|---|---|---|
| サブタイトル | | | | |
| 担当者 | 室﨑　友輔 | | | |

[ 成績評価方法 ]
授業貢献度（30%）と、毎回の授業テーマ関連課題の小レポートによる授業理解度（70%）で評価します。

[ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ]
小レポート回収後、授業内で解説を行います。

[ オフィスアワー（質問等の受付方法） ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ メールアドレス ]
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[ この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー（DP） ]

[ この授業と関連する大学全体の教育目標 ]

教育目標が示す資質・能力等／資質・能力等の内容_：主体性／自分の意志・判断で行動する能力・姿勢
成績評価方法：授業貢献度（30%）と、毎回の授業テーマ関連課題の小レポートによる授業理解度（70%）

[ 教科書（ISBN） ]
なし

[ 参考書（ISBN） ]
なし